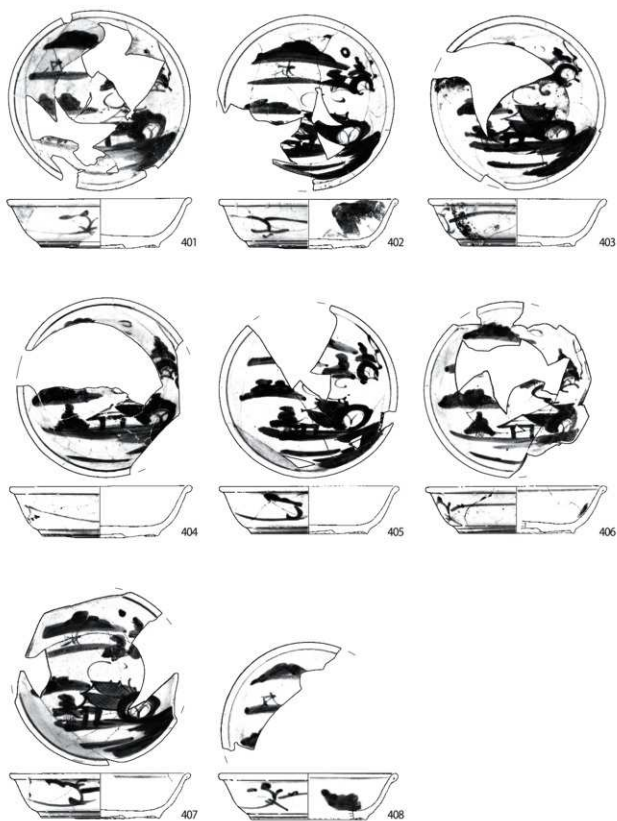


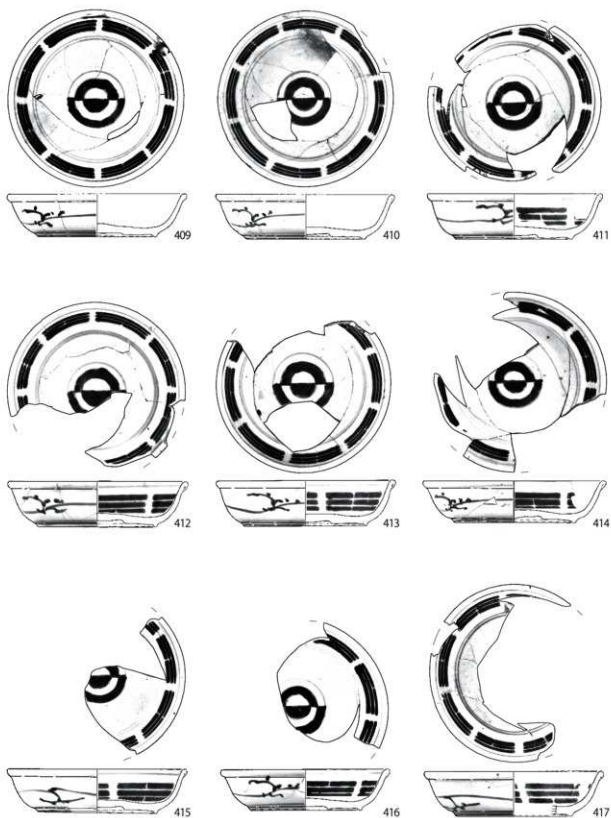
第152图 第51号土坑出土遗物(33)



第153图 第51号土坑出土器物(34)



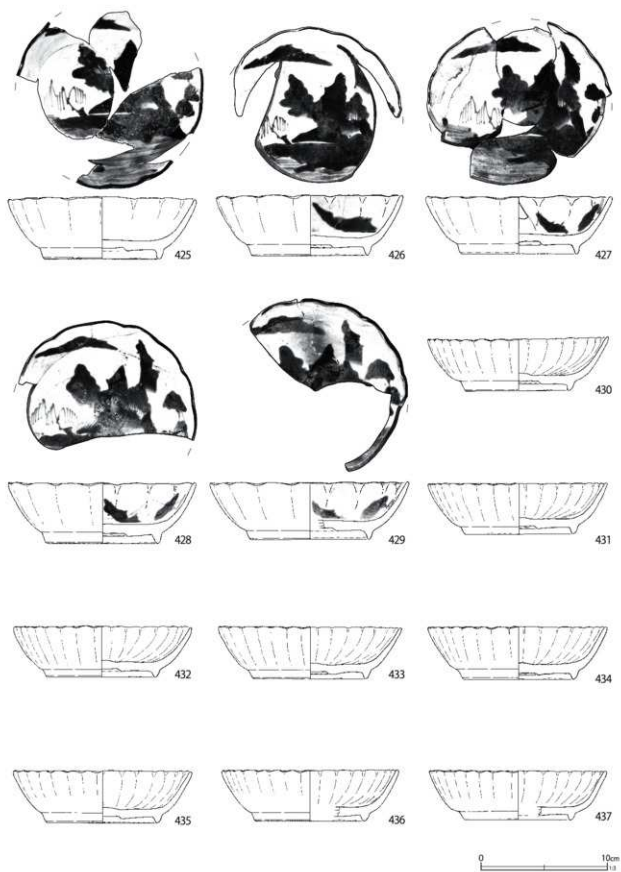
第154図 第51号土壙出土遺物(35)



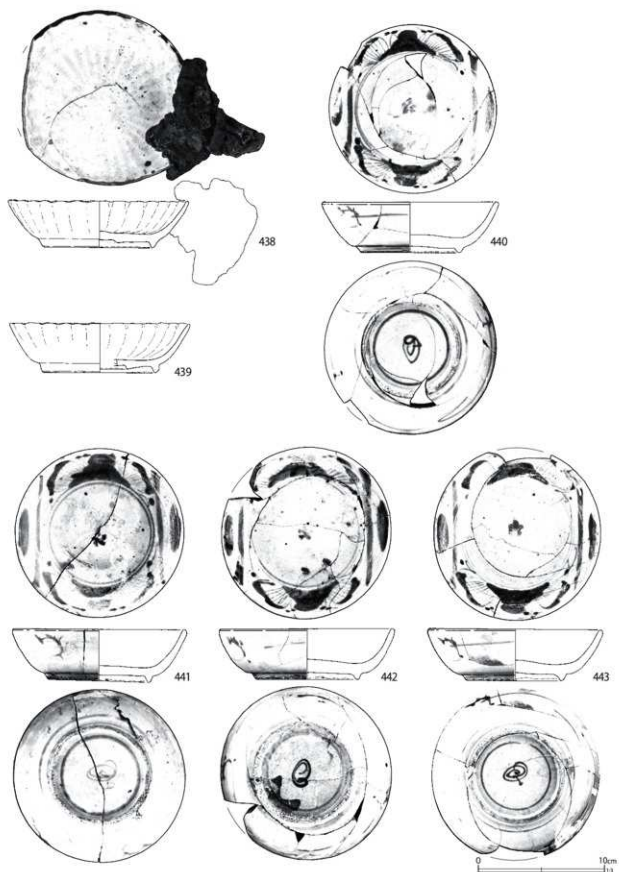
第155图 第51号土坑出土遗物(36)



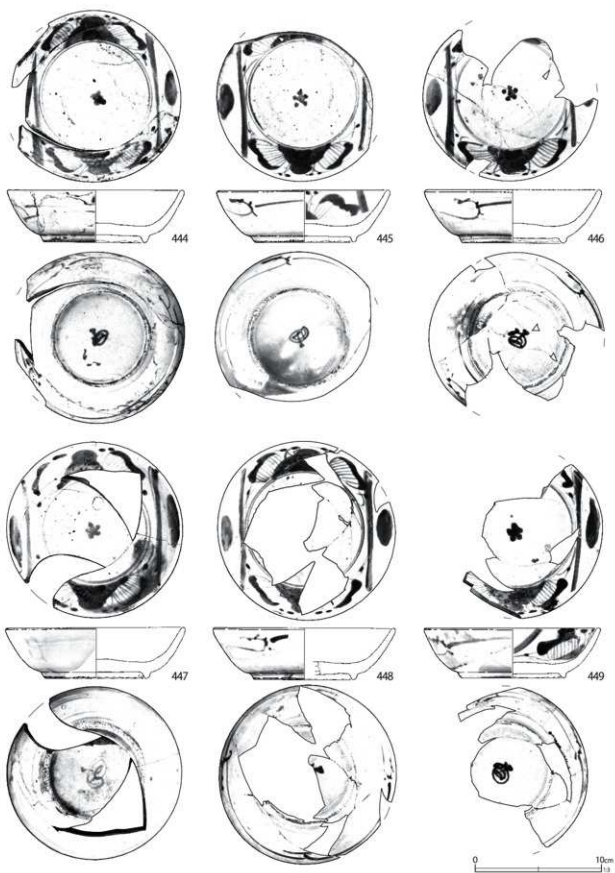
第156图 第51号土坑出土遗物(37)



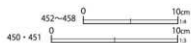
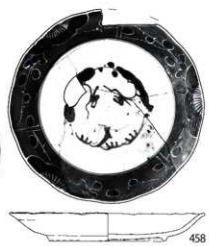
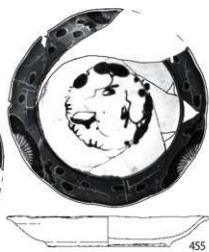
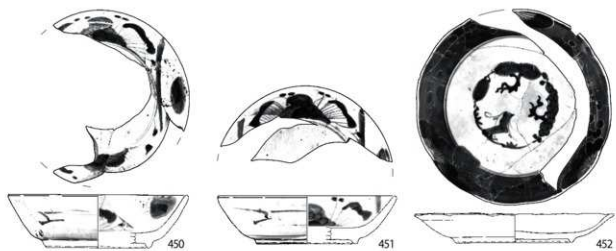
第157图 第51号土坑出土遗物(38)



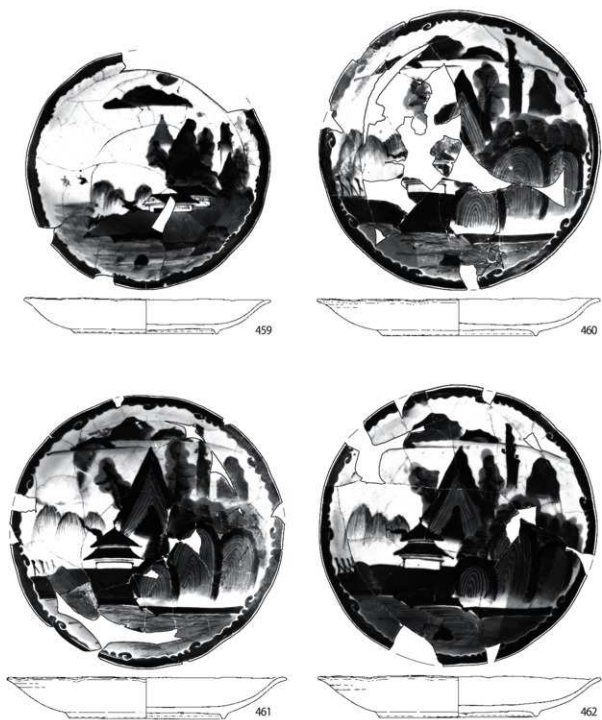
第158图 第51号土壙出土遺物(39)



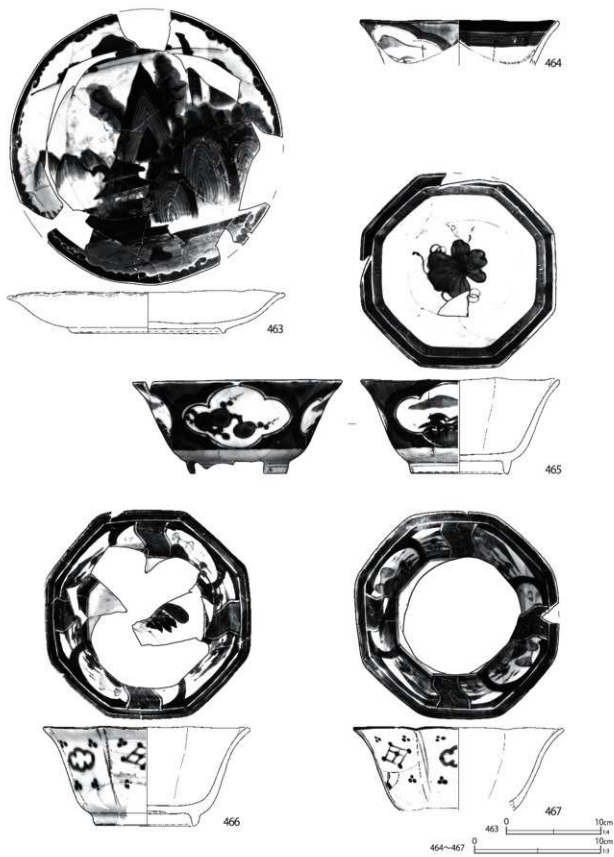
第159图 第51号土坑出土遗物(40)



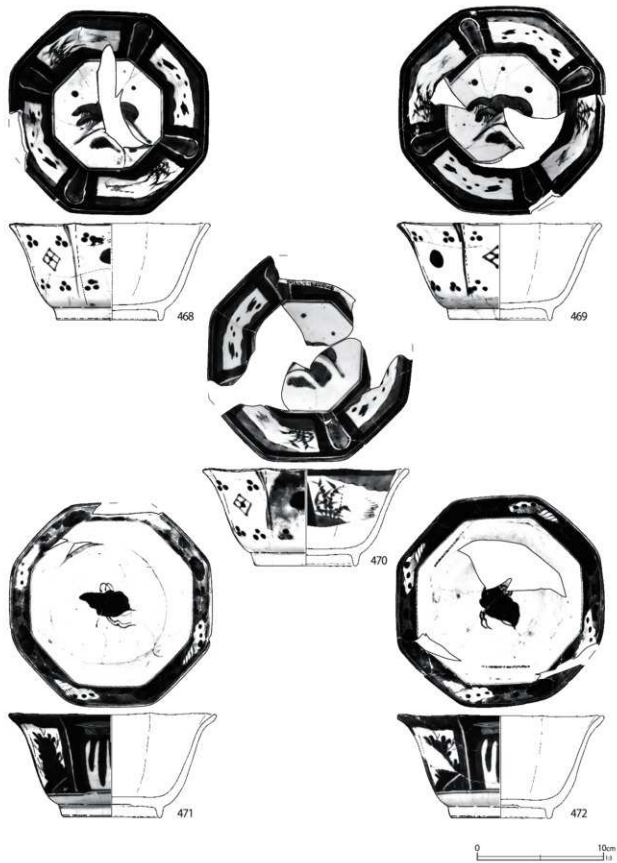
第160图 第51号土坑出土遗物(41)



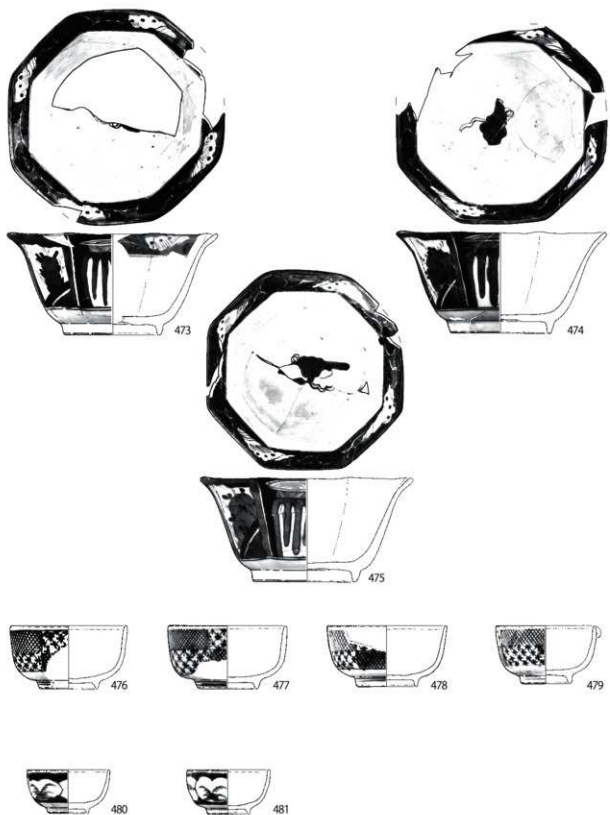
第161图 第51号土坑出土遗物(42)



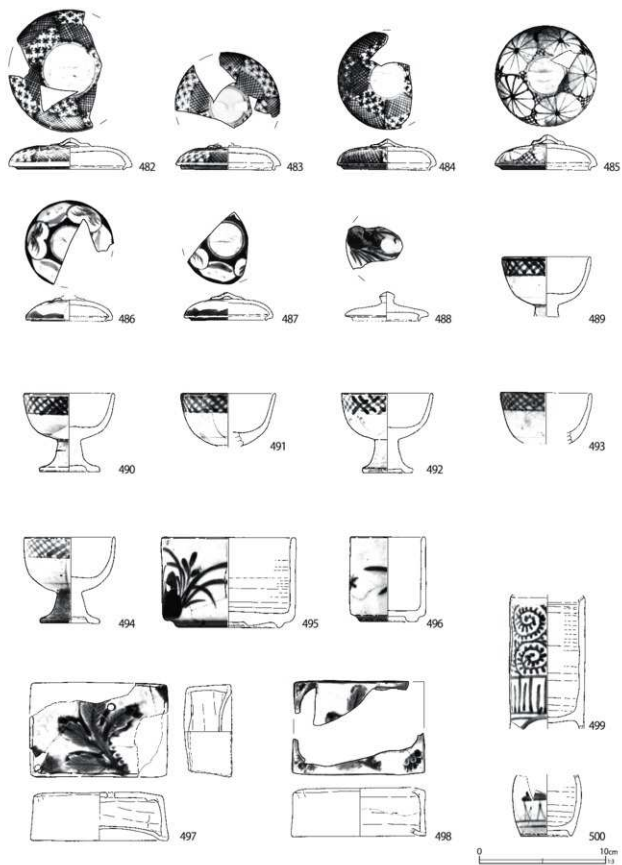
第162图 第51号土坑出土遗物(43)



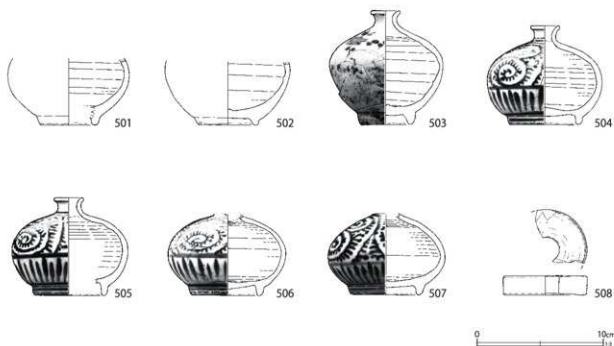
第163图 第51号土坑出土遗物(44)



第164図 第51号土壙出土遺物(45)



第 165 图 第 51 号土坑出土遗物 (46)



第166図 第51号土壙出土遺物(47)

第61表 第51号土壙出土遺物観察表(1)(第120~166図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	—	[2.3]	4.4	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付	
2	磁器	碗	—	[1.7]	3.2	—	15	普通	白	肥前系 外面灰軸 外面染付 円盤状製品転用 重さ24.7g	239-1
3	磁器	碗	(8.5)	4.3	3.2	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付	
4	磁器	碗	8.3	5.2	3.3	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	
5	磁器	碗	8.7	4.6	3.6	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熟(小丸碗)	
6	磁器	碗	(8.3)	4.7	3.4	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熟(小丸碗) SK54と接合	
7	磁器	碗	8.2	4.7	3.5	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	
8	磁器	碗	8.4	5.5	3.2	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熟(小丸碗)	108-1
9	磁器	碗	8.3	5.3	3.3	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	108-2
10	磁器	碗	8.1	5.2	3.4	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	
11	磁器	碗	(8.1)	5.3	3.4	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗) 142の碗破片が附着	108-3
12	磁器	碗	(8.3)	5.3	3.3	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熟(小丸碗) SK54と接合	108-4
13	磁器	碗	8.1	5.3	3.3	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	108-5
14	磁器	碗	8.2	5.4	3.8	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熟 土砂付着(小丸碗) SK54と接合	108-6
15	磁器	碗	8.1	5.3	3.3	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熟 土砂付着(小丸碗) SK54と接合	108-7
16	磁器	碗	8.0	5.4	3.6	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	108-8
17	磁器	碗	(8.3)	5.1	3.3	—	45	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗) SK54と接合	
18	磁器	碗	(8.4)	5.4	(3.7)	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熟 土砂付着(小丸碗) SK54と接合	
19	磁器	碗	(9.2)	5.6	(4.3)	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	
20	磁器	碗	7.9	5.4	(3.0)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	
21	磁器	碗	(9.0)	5.7	(3.8)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	
22	磁器	碗	—	[3.6]	(3.5)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熟(小丸碗)	
23	磁器	碗	—	[4.4]	(3.3)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熟(小丸碗)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
24	磁器	碗	8.6	5.5	(3.5)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱 一部土砂付着(小丸碗)	
25	磁器	碗	(8.2)	[3.3]	—	—	15	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(小丸碗)	
26	磁器	碗	7.2	4.9	3.0	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 被熱(小丸碗)	108-9
27	磁器	碗	6.9	4.7	2.9	—	60	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱(小丸碗) SK54と接合	108-10
28	磁器	碗	7.3	4.7	(2.4)	—	55	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(小丸碗)	
29	磁器	碗	(7.3)	4.6	2.9	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 少量煤付着(小丸碗)	108-11
30	磁器	碗	(7.4)	4.8	3.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(小丸碗) SK54と接合	108-12
31	磁器	碗	7.2	[4.4]	—	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 強く被熱(小丸碗) SK54と接合	108-13
32	磁器	碗	7.3	[4.1]	—	—	35	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 強く被熱(小丸碗)	
33	磁器	碗	7.8	[3.7]	—	—	35	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 強く被熱して土砂付着(小丸碗)	108-14
34	磁器	碗	7.3	[2.3]	—	—	20	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 弱く被熱(小丸碗)	
35	磁器	碗	(6.5)	[3.5]	—	—	35	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 強く被熱して変形(小丸碗)	108-15
36	磁器	碗	(8.3)	5.5	3.5	—	45	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 強く被熱(小丸碗) SK54と接合	109-1
37	磁器	碗	(8.1)	[3.8]	—	—	20	普通	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 強く被熱(小丸碗) SK54と接合	
38	磁器	碗	—	[3.3]	(3.4)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱して煤多く付着(小丸碗) SK54と接合	
39	磁器	碗	8.5	5.0	3.6	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱して歪む(小丸碗)	109-2
40	磁器	碗	7.9	5.6	3.2	—	75	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(小丸碗)	109-3
41	磁器	碗	8.2	5.5	3.4	—	65	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(小丸碗)	109-4
42	磁器	碗	6.6	5.3	3.1	—	85	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(筒形碗)	109-5
43	磁器	碗	6.4	5.2	3.6	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	109-6
44	磁器	碗	6.8	5.4	3.6	—	85	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(筒形碗)	109-7
45	磁器	碗	(6.6)	5.4	3.8	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(筒形碗) SK54と接合	
46	磁器	碗	6.7	5.2	3.7	—	65	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗)	109-8
47	磁器	碗	7.0	5.4	3.5	—	80	不良	灰	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	109-9
48	磁器	碗	7.1	5.8	3.5	—	80	不良	灰白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	109-10
49	磁器	碗	(7.4)	[5.3]	—	—	30	不良	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗)	109-11
50	磁器	碗	6.8	5.6	3.1	—	75	不良	灰白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱(筒形碗)	190-12
51	磁器	碗	6.8	5.6	3.2	—	70	不良	灰白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗)	109-13
52	磁器	碗	6.8	5.0	3.2	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱・煤付着(筒形碗) SK53と接合	109-14
53	磁器	碗	6.8	5.3	(3.6)	—	45	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	109-15
54	磁器	碗	6.9	5.5	(3.5)	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	110-1
55	磁器	碗	(6.9)	5.4	3.4	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	
56	磁器	碗	6.8	5.6	(3.4)	—	55	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱(筒形碗)	
57	磁器	碗	6.8	5.6	3.8	—	75	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	110-2
58	磁器	碗	6.7	5.4	3.6	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	
59	磁器	碗	7.2	5.5	(3.5)	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	110-3
60	磁器	碗	6.4	5.5	(3.5)	—	90	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	110-4
61	磁器	碗	7.0	5.7	3.6	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱(筒形碗) SK54と接合	110-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
62	磁器	碗	6.8	5.5	3.6	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	110-6
63	磁器	碗	(6.7)	5.5	3.6	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
64	磁器	碗	6.8	5.6	3.6	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
65	磁器	碗	6.5	5.3	3.3	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	110-7
66	磁器	碗	6.8	5.6	3.5	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	110-8
67	磁器	碗	6.7	5.7	(3.5)	—	65	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
68	磁器	碗	(7.0)	5.6	(3.7)	—	45	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
69	磁器	碗	(6.8)	[5.6]	—	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗)	
70	磁器	碗	(7.0)	5.7	(3.7)	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
71	磁器	碗	—	3.6	(3.3)	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (筒形碗)	
72	磁器	碗	(6.4)	5.6	3.5	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
73	磁器	碗	6.9	[4.6]	—	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
74	磁器	碗	(6.9)	[4.9]	—	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (筒形碗)	
75	磁器	碗	6.8	5.5	3.7	—	75	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 少量の煤付着 (筒形碗)	110-9
76	磁器	碗	6.8	5.6	(3.6)	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱・変形 (筒形碗) SK54 と接合	110-10
77	磁器	碗	6.9	5.5	3.4	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 (筒形碗)	110-11
78	磁器	碗	(6.8)	5.5	3.8	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱・変形 (筒形碗)	110-12
79	磁器	碗	6.9	5.7	3.8	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱・変形 (筒形碗)	
80	磁器	碗	6.7	5.4	(3.5)	—	60	普通	灰	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (筒形碗)	110-13
81	磁器	碗	6.7	[5.2]	—	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK52 と接合	110-14
82	磁器	碗	6.5	[4.6]	—	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗)	110-15
83	磁器	碗	—	[3.5]	(3.1)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
84	磁器	碗	6.8	5.7	(3.8)	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (筒形碗)	
85	磁器	碗	6.6	[4.6]	—	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗) SK54 と接合	
86	磁器	碗	(7.2)	5.4	(4.0)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (筒形碗)	
87	磁器	碗	11.9	6.5	6.7	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (広東碗)	
88	磁器	碗	11.3	6.6	6.3	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-1
89	磁器	碗	10.9	6.4	6.1	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (広東碗)	111-2
90	磁器	碗	11.1	6.5	5.8	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-3
91	磁器	碗	11.2	6.6	6.0	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (広東碗)	111-4
92	磁器	碗	11.2	6.5	6.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-5
93	磁器	碗	10.9	6.4	6.1	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-6
94	磁器	碗	11.0	6.5	6.1	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (広東碗)	111-7
95	磁器	碗	11.4	6.5	6.1	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱して内面に別の器を重ねていた跡 (径5.4～5.8 cm) あり (広東碗)	
96	磁器	碗	(11.1)	6.4	6.0	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱・煤少量付着 (広東碗)	
97	磁器	碗	11.1	6.4	6.0	—	85	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-8
98	磁器	碗	11.2	6.6	6.0	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-9
99	磁器	碗	11.5	6.3	5.9	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-10
100	磁器	碗	10.9	6.6	5.7	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-11
101	磁器	碗	11.0	6.4	6.0	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (広東碗) SK166 と接合	111-12
102	磁器	碗	11.0	6.5	5.8	—	65	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	111-13
103	磁器	碗	10.8	6.3	6.1	—	85	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (広東碗)	111-14
104	磁器	碗	11.3	[5.6]	—	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗) 一部変形	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
105	磁器	碗	10.8	6.6	5.8	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱（広東碗）	111-15
106	磁器	碗	(10.9)	6.5	(6.1)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗） SK54と接合	112-1
107	磁器	碗	(10.7)	6.4	(6.8)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	
108	磁器	碗	11.4	6.3	(5.7)	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（広東碗）	
109	磁器	碗	11.8	7.1	6.7	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	112-2
110	磁器	碗	11.8	7.0	6.6	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	112-3
111	磁器	碗	(10.8)	6.8	6.3	—	45	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	112-4
112	磁器	碗	11.1	6.5	6.2	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	112-5
113	磁器	碗	(10.7)	6.7	6.0	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗） SK54と接合	
114	磁器	碗	(10.9)	7.1	(6.3)	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して変形 （広東碗）	112-6
115	磁器	碗	11.3	6.5	6.3	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	112-7
116	磁器	碗	11.2	6.2	5.9	—	100	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（広東碗）	112-8
117	磁器	碗	11.0	6.1	5.5	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（広東碗）	112-9
118	磁器	碗	10.6	6.2	6.1	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 口縁部歪み（広東碗）	112-10
119	磁器	碗	10.8	6.0	5.4	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（広東碗）	112-11
120	磁器	碗	10.9	6.4	5.8	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	117-1
121	磁器	碗	(11.2)	6.1	6.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（広東碗）	117-1
122	磁器	碗	11.0	6.2	(5.6)	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	112-12
123	磁器	碗	(11.4)	6.1	6.1	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して変形 （広東碗）	112-13
124	磁器	碗	11.1	6.1	5.6	—	75	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗）	117-1
125	磁器	碗	11.1	6.1	(5.8)	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（広東碗） SK54と接合	112-14
126	磁器	碗	11.1	6.0	5.9	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（広東碗）	112-15
127	磁器	碗	(11.4)	5.9	5.9	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（広東碗）	117-1
128	磁器	碗	—	[5.1]	5.9	—	25	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（広東碗）	117-1
129	磁器	碗	10.8	5.8	(4.6)	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱（端反碗）	113-1
130	磁器	碗	10.6	5.8	4.3	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱（端反碗）	113-2
131	磁器	碗	10.5	5.8	4.5	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付（端反碗）	113-3
132	磁器	碗	10.6	5.8	4.5	—	85	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（端反碗）	113-4
133	磁器	碗	10.6	5.8	4.3	—	95	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱（端反碗）	113-5
134	磁器	碗	10.5	5.8	4.4	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱（端反碗）	113-6
135	磁器	碗	10.6	5.9	4.6	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（端反碗）	118-1
136	磁器	碗	10.3	5.9	4.6	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（端反碗）SK54と接合	118-1
137	磁器	碗	10.6	6.0	4.6	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（端反碗）SK54と接合	113-7
138	磁器	碗	10.6	5.8	4.5	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱（端反碗）SK54と接合	113-8
139	磁器	碗	(11.4)	6.1	4.5	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 少量の土砂付着 （端反碗）	113-9
140	磁器	碗	11.2	6.1	4.4	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（端反碗） SK54と接合	113-10
141	磁器	碗	11.4	6.1	4.5	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 土砂付着 （端反碗）SK54と接合	113-11
142	磁器	碗	11.8	5.9	4.4	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 土砂付着 （端反碗）	113-12
143	磁器	碗	11.2	6.2	(4.6)	—	45	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 土砂付着 （端反碗）SK54と接合	119-1
144	磁器	碗	11.1	6.0	(4.4)	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（端反碗） SK54と接合	119-1
145	磁器	碗	(11.6)	6.2	4.5	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 一部変形 （端反碗）SK53・54と接合	119-1
146	磁器	碗	11.5	6.0	4.4	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱（端反碗）	113-13
147	磁器	碗	(11.8)	[5.1]	—	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 土砂多く付着	113-14

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
148	磁器	碗	(11.4)	6.1	4.6	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱し変形 土砂付着(端反碗)	113-15
149	磁器	碗	9.5	5.1	3.8	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	114-1
150	磁器	碗	9.4	5.2	(3.7)	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱(端反碗)	114-2
151	磁器	碗	9.4	5.1	3.6	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	114-3
152	磁器	碗	9.6	5.0	3.7	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱(端反碗)	114-4
153	磁器	碗	9.5	5.4	(3.8)	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	114-5
154	磁器	碗	9.4	5.3	4.2	—	70	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱・一部赤変(端反碗)	114-5
155	磁器	碗	9.2	5.0	(3.7)	—	80	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱・口縁部歪み(端反碗)	114-6
156	磁器	碗	9.2	5.2	3.7	—	80	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱・口縁部の一部変形(端反碗) SK54と接合	114-7
157	磁器	碗	9.3	5.3	(3.5)	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	114-8
158	磁器	碗	9.5	5.1	3.4	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	114-9
159	磁器	碗	9.6	5.3	(4.0)	—	50	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	114-10
160	磁器	碗	—	[3.6]	—	—	5	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱して土塵材と着着(端反碗)	114-11
161	磁器	碗	9.8	5.2	(3.8)	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	114-12
162	磁器	碗	9.8	[4.7]	—	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	114-12
163	磁器	碗	9.9	5.1	(4.0)	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗) SK54と接合	114-13
164	磁器	碗	10.0	5.5	4.4	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	114-14
165	磁器	碗	9.5	5.6	(3.9)	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	114-15
166	磁器	碗	9.8	5.2	4.0	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	114-15
167	磁器	碗	10.1	5.2	4.0	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-1
168	磁器	碗	10.0	5.2	3.8	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱(端反碗)	115-2
169	磁器	碗	10.0	5.5	4.0	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-3
170	磁器	碗	9.9	5.3	4.0	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-4
171	磁器	碗	10.1	5.2	3.8	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱(端反碗)	115-5
172	磁器	碗	9.9	5.4	(3.8)	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱(端反碗)	115-6
173	磁器	碗	10.3	5.8	(4.0)	—	90	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱(端反碗)	115-7
174	磁器	碗	10.3	6.1	4.0	—	70	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱・一部変形(端反碗)	115-8
175	磁器	碗	(10.6)	5.8	3.8	—	50	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-9
176	磁器	碗	10.2	[5.3]	—	—	35	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗) SK54と接合	115-9
177	磁器	碗	(10.3)	[4.9]	—	—	25	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-9
178	磁器	碗	11.6	6.8	4.7	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗) SK54と接合	115-9
179	磁器	碗	(11.7)	[5.5]	—	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱・一部変形(端反碗)	115-10
180	磁器	碗	(11.6)	6.7	(4.9)	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗)	115-10
181	磁器	碗	11.1	6.3	4.6	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗) SK54と接合	115-11
182	磁器	碗	11.3	6.5	4.5	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	115-12
183	磁器	碗	11.3	6.3	4.4	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-13
184	磁器	碗	11.4	6.5	4.7	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-13
185	磁器	碗	9.4	[2.8]	—	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-14
186	磁器	碗	—	[3.4]	3.7	—	15	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱(端反碗)	115-14
187	磁器	碗	11.3	6.3	4.6	—	80	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	115-14
188	磁器	碗	10.9	6.0	4.5	—	100	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	115-15
189	磁器	碗	11.0	6.4	(4.4)	—	75	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	116-1
190	磁器	碗	11.0	6.1	(4.5)	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱(端反碗)	116-2
191	磁器	碗	11.0	6.0	4.5	—	75	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	121-1
192	磁器	碗	11.0	6.1	4.4	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱(端反碗)	116-3

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
193	磁器	碗	11.1	6.3	4.6	—	75	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 弱く被熱（端反碗）	116-4
194	磁器	碗	10.9	6.2	(4.4)	—	60	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱（端反碗）	116-5
195	磁器	碗	11.2	6.1	4.4	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱（端反碗）	121-1
196	磁器	碗	11.2	6.2	(4.4)	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱（端反碗）	121-1
197	磁器	碗 (11.1)	6.2	4.7	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱（端反碗）	121-1	
198	磁器	碗	10.9	6.2	4.4	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱（端反碗）	116-6
199	磁器	碗	8.6	7.1	4.4	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱（湯呑碗）	116-7
200	磁器	碗 (9.1)	7.2	4.6	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱（湯呑碗）	116-8	
201	磁器	碗 (9.3)	7.2	(4.6)	—	70	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱で大きく変形（湯呑碗）	116-9	
202	磁器	碗	8.4	6.8	4.5	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 強く被熱（湯呑碗）	116-10
203	磁器	蓋	5.1	2.6	(9.7)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	117-1
204	磁器	蓋 (5.1)	2.8	9.6	—	55	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	117-1	
205	磁器	蓋	5.1	3.0	(9.7)	—	60	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	116-11
206	磁器	蓋	5.2	2.7	(9.8)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱（広東碗の蓋）	117-1
207	磁器	蓋	5.1	2.8	(9.7)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	117-1
208	磁器	蓋	5.4	2.8	(9.7)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱（広東碗の蓋）	116-12
209	磁器	蓋 (4.9)	2.9	(9.8)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱（広東碗の蓋）	116-13	
210	磁器	蓋 — [2.1]	(9.9)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱（広東碗の蓋）	117-1		
211	磁器	蓋	5.2	2.8	9.7	—	95	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	116-14
212	磁器	蓋	4.7	2.9	9.7	—	90	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	116-15
213	磁器	蓋	4.9	2.8	9.7	—	100	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱（広東碗の蓋）	117-2
214	磁器	蓋	5.1	2.8	9.8	—	90	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	117-3
215	磁器	蓋	5.4	2.9	9.7	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱 別の磁器皿が着着（広東碗の蓋）	117-4
216	磁器	蓋	5.5	2.8	9.9	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱（広東碗の蓋）	117-5
217	磁器	蓋	5.9	2.8	(10.1)	—	60	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱（広東碗の蓋）	117-6
218	磁器	蓋	5.3	2.8	9.8	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱・土砂付着（広東碗の蓋）SK54と接合	117-7
219	磁器	蓋	5.6	3.1	10.1	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱・土砂付着（広東碗の蓋）SK54と接合	117-8
220	磁器	蓋	5.7	2.3	9.9	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱（広東碗の蓋）	117-9
221	磁器	蓋	5.7	2.4	(9.8)	—	55	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	117-10
222	磁器	蓋 (5.1)	2.4	(10.0)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）SK54と接合	117-10	
223	磁器	蓋 (5.4)	2.4	(9.9)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（広東碗の蓋）	118-2	
224	磁器	蓋	3.8	2.6	9.1	—	100	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）	118-2
225	磁器	蓋	3.8	2.5	9.0	—	85	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱（端反碗の蓋）	118-3
226	磁器	蓋	3.8	2.5	9.0	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）	118-4
227	磁器	蓋	3.8	2.6	9.2	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱（端反碗の蓋）	118-5
228	磁器	蓋	3.8	2.5	9.2	—	90	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）SK54と接合	118-6
229	磁器	蓋	3.8	2.4	9.2	—	65	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）	118-7
230	磁器	蓋	3.8	2.5	9.1	—	60	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）	118-8
231	磁器	蓋	3.8	2.7	(9.2)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）SK52と接合	118-9
232	磁器	蓋	3.8	2.6	(9.3)	—	40	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱（端反碗の蓋）	118-10
233	磁器	蓋 (3.7)	2.5	(9.0)	—	35	良好	白	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱（端反碗の蓋）	118-11	
234	磁器	蓋	4.2	2.5	10.0	—	100	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）	119-2
235	磁器	蓋	4.3	2.4	10.1	—	80	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱（端反碗の蓋）	119-3
236	磁器	蓋	4.3	2.5	10.0	—	75	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）	119-4
237	磁器	蓋	4.2	2.4	10.1	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）	119-5
238	磁器	蓋	4.2	2.4	10.2	—	70	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 被熱（端反碗の蓋）SK54と接合	119-6
239	磁器	蓋	4.3	2.4	(9.9)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施釉・染付 強く被熱（端反碗の蓋）	119-7

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
240	磁器	蓋	4.2	2.4	(10.2)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	119-8
241	磁器	蓋	4.1	2.3	10.0	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗の蓋)	119-9
242	磁器	蓋	3.4	2.6	8.6	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	119-10
243	磁器	蓋	3.2	2.3	(8.4)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	120-1
244	磁器	蓋	(3.3)	2.7	(8.6)	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 別の磁器片が溶着 (端反碗の蓋)	
245	磁器	蓋	—	[2.1]	8.6	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	120-2
246	磁器	蓋	3.5	2.7	8.2	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗の蓋)	120-3
247	磁器	蓋	3.4	2.5	8.0	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗の蓋) 266と溶着	120-4
248	磁器	蓋	3.4	2.7	8.2	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗の蓋)	120-5
249	磁器	蓋	(3.8)	2.5	8.5	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 土砂少量付着 (端反碗の蓋)	
250	磁器	蓋	3.4	2.4	(8.3)	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	120-6
251	磁器	蓋	3.2	2.6	8.5	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋) SK52と接合	120-7
252	磁器	蓋	3.0	2.7	8.5	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋) SK53と接合	120-8
253	磁器	蓋	2.9	2.7	8.5	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	120-9
254	磁器	蓋	3.1	2.7	8.6	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	120-10
255	磁器	蓋	3.1	2.5	8.5	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋) SK52と接合	120-11
256	磁器	蓋	3.0	2.4	8.5	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗の蓋)	120-12
257	磁器	蓋	2.9	2.6	(8.5)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗の蓋)	120-13
258	磁器	蓋	3.0	2.5	(8.6)	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	120-14
259	磁器	蓋	—	[2.0]	9.4	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋) SK52と接合	120-15
260	磁器	蓋	3.7	2.6	9.4	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	121-2
261	磁器	蓋	3.8	2.8	9.5	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	121-3
262	磁器	蓋	3.8	2.6	9.4	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	121-4
263	磁器	蓋	3.7	2.4	9.3	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	121-5
264	磁器	蓋	3.7	2.5	9.4	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	121-6
265	磁器	蓋	3.7	2.8	9.8	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	121-7
266	磁器	蓋	3.8	2.3	9.6	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗の蓋) 247と溶着	121-8
267	磁器	蓋	3.6	2.6	9.4	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	121-9
268	磁器	蓋	3.6	2.4	9.7	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	121-10
269	磁器	蓋	3.7	2.6	9.4	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	121-1
270	磁器	蓋	3.6	2.4	9.2	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	121-1
271	磁器	蓋	3.8	2.5	9.5	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	121-1
272	磁器	蓋	3.6	2.7	9.2	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	121-1
273	磁器	蓋	(3.7)	2.3	9.4	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	121-1
274	磁器	蓋	—	[1.6]	9.4	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋) SK54と接合	121-1
275	磁器	蓋	3.3	2.8	9.2	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	121-1
276	磁器	蓋	3.7	2.9	9.3	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 被熱 (端反碗の蓋)	122-1

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
277	磁器	蓋	3.5	2.7	9.6	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 弱く被熱 (環状碗の蓋)	122-2
278	磁器	蓋	(3.6)	2.9	(8.8)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 (環状碗の蓋)	
279	磁器	坏	7.0	3.2	2.5	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	122-3
280	磁器	坏	7.1	3.2	2.6	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 被熱 SK54 と接合	122-4
281	磁器	坏	7.2	3.9	2.4	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱 SK54 と接合	
282	磁器	坏	6.8	3.7	2.6	—	85	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱一部赤変	122-5
283	磁器	坏	6.9	3.7	2.5	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱一部赤変	122-6
284	磁器	坏	6.8	3.7	2.5	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	122-7
285	磁器	坏	6.7	3.6	2.8	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	122-8
286	磁器	坏	6.8	3.5	2.5	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱 一部赤変	122-9
287	磁器	坏	6.6	3.0	2.7	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	122-10
288	磁器	坏	(7.2)	3.8	2.7	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	
289	磁器	坏	7.3	3.4	2.5	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	
290	磁器	坏	7.1	3.7	2.4	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	122-11
291	磁器	坏	7.0	3.7	2.7	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	
292	磁器	坏	7.2	3.5	2.5	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	
293	磁器	坏	6.7	3.4	2.7	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱一部変形	
294	磁器	坏	6.8	3.3	2.6	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	
295	磁器	坏	7.8	3.4	(3.0)	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱 一部赤変	
296	磁器	坏	7.0	3.4	2.4	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
297	磁器	坏	(6.9)	3.3	(2.7)	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	
298	磁器	坏	(7.3)	3.4	2.4	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
299	磁器	坏	(7.0)	3.4	2.4	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	
300	磁器	坏	(7.0)	3.5	2.6	—	45	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
301	磁器	坏	(7.0)	3.5	2.7	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱 一部赤変	122-12
302	磁器	坏	(7.2)	3.1	(2.5)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
303	磁器	坏	(7.7)	3.4	2.9	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	
304	磁器	坏	(7.2)	3.5	2.6	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	
305	磁器	坏	(7.1)	3.4	2.6	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱 SK166 と接合	
306	磁器	坏	7.3	3.4	2.5	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
307	磁器	坏	(7.0)	[2.6]	—	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
308	磁器	坏	7.9	[2.7]	—	—	30	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱 口縁部若干変形	
309	磁器	坏	(6.9)	3.3	2.6	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
310	磁器	坏	(6.7)	3.3	2.5	—	45	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱して変形	
311	磁器	坏	(6.6)	[3.3]	—	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱して歪む	
312	磁器	坏	(7.7)	[4.5]	—	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱 SK53 と接合	
313	磁器	坏	—	[1.7]	—	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱して変形	122-13
314	磁器	猪口	7.8	6.0	6.4	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱口縁部に歪み	123-1
315	磁器	猪口	8.1	6.0	6.3	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熱	123-2
316	磁器	猪口	7.9	6.0	6.3	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱 一部黒化 土砂付着 SK54 と接合	123-3
317	磁器	猪口	7.4	6.0	6.5	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱口縁部に歪み	123-4
318	磁器	猪口	7.5	5.9	6.4	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱して一部変形	123-5
319	磁器	猪口	7.7	5.9	(6.3)	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱	123-6
320	磁器	猪口	7.7	5.6	5.7	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱	
321	磁器	猪口	7.8	5.9	6.2	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱	123-7
322	磁器	猪口	8.0	5.8	6.3	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱	123-8
323	磁器	猪口	7.7	5.9	6.1	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱	
324	磁器	猪口	7.6	6.0	5.9	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱	123-9
325	磁器	猪口	7.6	6.0	6.0	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱	123-10
326	磁器	猪口	8.0	6.0	6.1	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して白化	
327	磁器	猪口	(8.0)	6.0	5.7	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 SK54 と接合	123-11

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
328	磁器	猪口	7.7	6.0	6.1	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して白化 口縁部別の磁器混着	123-12
329	磁器	猪口	7.8	6.0	6.0	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して変形	123-13
330	磁器	猪口	7.5	5.9	(5.8)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱 SK54と接合	123-14
331	磁器	猪口	(7.5)	5.9	(6.0)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 SK54と接合	123-15
332	磁器	皿	10.0	2.6	6.0	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	124-1
333	磁器	皿	10.4	2.6	6.0	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	124-2
334	磁器	皿	10.2	2.5	5.8	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 被熱	124-3
335	磁器	皿	10.2	2.6	6.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	124-4
336	磁器	皿	10.3	2.6	5.8	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱	124-5
337	磁器	皿	(10.3)	2.6	6.0	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱 SK54と接合	124-6
338	磁器	皿	10.2	2.6	6.0	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 被熱	124-7
339	磁器	皿	10.3	2.7	6.0	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱 SK54と接合	124-8
340	磁器	皿	(10.3)	2.5	(6.2)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 被熱	124-9
341	磁器	皿	(9.9)	2.6	(6.0)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 被熱	
342	磁器	皿	10.2	2.3	5.4	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 被熱	125-1
343	磁器	皿	10.2	2.4	5.5	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 被熱	125-2
344	磁器	皿	(10.0)	2.3	5.6	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 被熱	125-3
345	磁器	皿	10.4	2.3	5.9	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 被熱	125-4
346	磁器	皿	(10.2)	2.5	5.8	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 弱く被熱	125-5
347	磁器	皿	9.6	2.4	5.4	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 弱く被熱	125-6
348	磁器	皿	(10.5)	2.3	5.9	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 被熱	125-7
349	磁器	皿	(10.1)	2.3	5.4	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 弱く被熱	125-8
350	磁器	皿	(10.0)	2.2	5.6	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 強く被熱	125-9
351	磁器	皿	—	[1.7]	5.9	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 被熱	
352	磁器	皿	(10.0)	2.3	(6.4)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 強く被熱	
353	磁器	皿	(9.7)	2.3	6.2	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 強く被熱 SK54と接合	
354	磁器	皿	—	[1.3]	(6.1)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 強く被熱	
355	磁器	皿	(10.0)	2.4	6.2	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 強く被熱	
356	磁器	皿	—	[1.2]	6.0	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 強く被熱 白化 SK54と接合	
357	磁器	皿	(9.5)	2.3	(5.9)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 被熱	
358	磁器	皿	(9.9)	2.1	(6.3)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 強く被熱 SK54と接合	
359	磁器	皿	(9.6)	2.2	(6.1)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 弱く被熱	
360	磁器	皿	(10.0)	2.3	6.1	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 被熱 SK54と接合	
361	磁器	皿	13.5	4.0	8.7	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱 SK53と接合	126-1
362	磁器	皿	(13.0)	4.3	(8.8)	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 弱く被熱	
363	磁器	皿	13.3	4.0	8.6	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱	126-2
364	磁器	皿	13.2	4.0	8.6	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱	126-3
365	磁器	皿	13.4	4.3	8.8	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 弱く被熱	126-4
366	磁器	皿	13.3	4.0	8.6	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱して変形 SK54と接合	126-5
367	磁器	皿	13.0	4.1	8.7	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱	126-6
368	磁器	皿	13.3	4.0	8.6	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱	126-7
369	磁器	皿	13.2	4.0	8.6	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熱	126-8
370	磁器	皿	13.7	4.0	8.5	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱 一部赤変・歪み SK54と接合	
371	磁器	皿	(13.3)	3.8	8.5	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熱	
372	磁器	皿	13.5	3.8	8.5	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱 一部灰を被る SK54と接合	
373	磁器	皿	13.4	4.1	8.5	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熱	
374	磁器	皿	13.5	3.9	8.8	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱して変形 SK54と接合	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
375	磁器	皿	13.0	4.2	8.5	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熟 SK54 と接合	
376	磁器	皿	13.4	4.0	8.6	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	126-9
377	磁器	皿	(13.3)	4.0	(9.2)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	
378	磁器	皿	—	[2.2]	(9.2)	—	10	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 蛇の目状高台 弱く被熟	
379	磁器	皿	14.3	3.8	9.0	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 SK54 と接合	
380	磁器	皿	14.3	4.0	9.0	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟して変形 SK53 と接合	
381	磁器	皿	14.2	3.7	9.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 鉄分塊付着 SK54 と接合	
382	磁器	皿	14.1	3.7	9.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟・一部土砂付着 SK54 と接合	
383	磁器	皿	(14.2)	3.9	9.2	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟し別個体と溶着	
384	磁器	皿	14.2	3.7	8.5	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟・内面に別個体が溶着 SK54 と接合	
385	磁器	皿	14.2	3.8	9.0	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 SK54 と接合	
386	磁器	皿	(14.2)	3.7	(9.0)	—	25	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 SK54 と接合	
387	磁器	皿	(14.3)	3.8	(9.2)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 SK54 と接合	
388	磁器	皿	(13.8)	3.7	(8.8)	—	15	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 SK54 と接合	
389	磁器	皿	14.2	3.8	9.3	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	127-1
390	磁器	皿	14.2	3.7	9.3	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	127-2
391	磁器	皿	14.2	3.9	9.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	127-3
392	磁器	皿	13.8	3.8	9.2	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	127-4
393	磁器	皿	13.9	4.0	9.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	127-5
394	磁器	皿	14.0	4.2	9.2	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	127-6
395	磁器	皿	14.1	3.8	9.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	
396	磁器	皿	14.0	3.8	8.9	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	127-7
397	磁器	皿	13.9	3.7	9.3	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	127-8
398	磁器	皿	13.9	3.7	9.6	—	100	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	127-9
399	磁器	皿	13.9	3.9	9.0	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	
400	磁器	皿	14.1	3.9	9.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 SK54 と接合	
401	磁器	皿	14.3	3.9	9.3	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	
402	磁器	皿	13.9	3.9	9.3	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 SK54 と接合	
403	磁器	皿	13.8	3.7	8.9	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 土砂付着	
404	磁器	皿	14.2	4.1	9.0	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸 蛇の目状高台 被熟	
405	磁器	皿	13.9	3.7	9.1	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟 SK53 と接合	
406	磁器	皿	13.9	3.7	9.0	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	
407	磁器	皿	14.0	3.5	9.3	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熟	
408	磁器	皿	(13.9)	3.7	(9.0)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸 蛇の目状高台 被熟	
409	磁器	皿	13.9	3.4	9.3	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	128-1
410	磁器	皿	13.8	3.5	9.3	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	128-2
411	磁器	皿	13.7	3.6	9.2	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	128-3
412	磁器	皿	14.0	3.6	9.3	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	128-4
413	磁器	皿	13.8	3.6	9.5	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	128-5
414	磁器	皿	14.2	3.3	9.4	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熟	128-6
415	磁器	皿	(13.9)	3.5	(9.2)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熟	128-7
416	磁器	皿	(13.1)	3.2	(8.8)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熟	128-8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
417	磁器	皿	13.9	3.5	9.0	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熱	
418	磁器	皿	14.6	4.9	9.4	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 焼継痕 焼継印(赤) 被熱 一部赤変	128-9
419	磁器	皿	(14.6)	5.0	(9.6)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 強く被熱 一部赤変 SK52と接合	
420	磁器	皿	14.9	4.7	9.1	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	129-1
421	磁器	皿	(15.0)	4.6	9.0	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 強く被熱 SK54と接合	129-2
422	磁器	皿	15.2	4.7	9.2	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 被熱 SK54と接合	129-3
423	磁器	皿	15.2	4.5	9.5	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	129-4
424	磁器	皿	15.0	4.8	(9.3)	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 強く被熱 SK54と接合	129-5
425	磁器	皿	14.8	4.9	9.1	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 被熱 SK54と接合	129-6
426	磁器	皿	(14.6)	4.8	9.0	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	129-7
427	磁器	皿	(14.5)	4.5	9.1	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 被熱 SK54と接合	129-8
428	磁器	皿	(14.7)	4.8	8.8	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	129-9
429	磁器	皿	(15.5)	4.5	(9.4)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 蛇の目状高台 強く被熱 SK54と接合	
430	磁器	皿	14.1	4.2	8.1	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	130-1
431	磁器	皿	14.0	4.0	8.5	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 被熱	130-2
432	磁器	皿	13.9	4.0	8.5	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	130-3
433	磁器	皿	14.4	4.1	8.8	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 被熱	130-4
434	磁器	皿	14.0	4.1	8.6	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 被熱 SK54と接合	130-5
435	磁器	皿	14.0	4.1	8.7	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	130-6
436	磁器	皿	13.9	4.0	8.6	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	130-7
437	磁器	皿	(13.9)	3.9	(8.3)	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 強く被熱	130-8
438	磁器	皿	14.0	3.7	8.5	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 強く被熱・土壁と思われる土塊が継着	130-9
439	磁器	皿	(14.0)	3.9	(8.8)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸 口紅 蛇の目状高台 被熱	
440	磁器	皿	13.7	4.0	7.7	—	85	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 一部白化	131-1
441	磁器	皿	13.5	4.1	7.9	—	100	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 一部白化	131-2
442	磁器	皿	13.6	4.0	8.0	—	90	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 一部白化	131-3
443	磁器	皿	13.5	4.1	7.5	—	80	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 一部白化	131-4
444	磁器	皿	13.7	4.2	7.9	—	80	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱・変形 SK54と接合	131-5
445	磁器	皿	13.4	4.1	7.8	—	65	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	131-6
446	磁器	皿	13.6	4.2	7.9	—	70	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 一部赤変	131-7
447	磁器	皿	13.8	4.0	7.9	—	75	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	131-8
448	磁器	皿	14.2	4.1	7.8	—	70	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	131-9
449	磁器	皿	(13.7)	3.9	(8.1)	—	50	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 SK166と接合	
450	磁器	皿	14.0	4.2	(8.0)	—	35	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	
451	磁器	皿	(13.9)	3.8	(7.8)	—	25	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱	
452	磁器	皿	20.9	3.0	12.2	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕4 被熱 一部黒化	132-1
453	磁器	皿	20.6	3.1	12.3	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕4 強く被熱 一部土砂付着 SK54と接合	132-2
454	磁器	皿	21.3	3.2	12.7	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕4 被熱 SK54と接合	132-3
455	磁器	皿	21.2	3.2	12.7	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕4 被熱 SK54と接合	132-4
456	磁器	皿	21.0	3.0	12.6	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕4 被熱 SK54と接合	132-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
457	磁器	皿	21.0	3.1	12.9	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕 4 被熱	132-6
458	磁器	皿	20.5	3.0	12.1	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 (一部外面に呉須が及ぶ) 高台内ハリ支痕 4 被熱	132-7
459	磁器	皿	25.8	3.7	15.0	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕 5 被熱	132-8
460	磁器	皿	29.5	3.9	16.3	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕 5 強く被熱 SK52 と接合	132-9
461	磁器	皿	29.0	4.4	16.4	—	85	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕 5 被熱	132-10
462	磁器	皿	29.6	4.4	16.6	—	85	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕 5 強く被熱 SK52 と接合	132-11
463	磁器	皿	29.1	4.6	16.0	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支痕 3 遺存被熱	132-12
464	磁器	鉢	(15.5)	[3.6]	—	—	10	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	
465	磁器	鉢	15.5	7.6	7.6	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	133-1
466	磁器	鉢	16.0	7.8	7.7	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熱	133-2
467	磁器	鉢	16.5	[6.6]	—	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	
468	磁器	鉢	15.5	7.7	8.2	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	133-3
469	磁器	鉢	15.8	7.6	8.0	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	133-4
470	磁器	鉢	16.0	7.6	8.0	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱	
471	磁器	鉢	16.4	8.2	7.7	—	85	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱 SK54 と接合	133-5
472	磁器	鉢	16.1	8.1	7.8	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱 SK54 と接合	133-6
473	磁器	鉢	16.4	8.0	(7.5)	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱 SK54 と接合	133-7
474	磁器	鉢	16.1	8.0	7.7	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱 SK54 と接合	133-8
475	磁器	鉢	16.4	8.2	8.0	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱 SK54 と接合	133-9
476	磁器	蓋物	9.1	5.0	(4.5)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱 SK54 と接合	134-1
477	磁器	蓋物	(9.2)	5.0	4.6	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
478	磁器	蓋物	(9.3)	4.8	4.6	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
479	磁器	蓋物	7.7	4.6	3.8	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱して一部土砂付着 SK54 と接合	134-2
480	磁器	合子	6.4	3.4	3.1	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	134-3
481	磁器	合子	6.5	3.5	3.2	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱 SK54 と接合	
482	磁器	蓋	—	2.5	8.3	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径 9.0 cm 被熱 SK54 と接合	
483	磁器	蓋	—	[1.9]	7.3	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径 8.3 cm 弱く被熱 (合子の蓋)	134-4
484	磁器	蓋	—	2.4	(6.7)	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径 7.8 cm 強く被熱・土砂付着 (合子の蓋) SK54 と接合	134-5
485	磁器	蓋	—	2.8	6.9	—	85	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径 8.0 cm 被熱 (合子の蓋)	134-6
486	磁器	蓋	—	[1.9]	(5.8)	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径 6.8 cm 被熱 (合子の蓋)	
487	磁器	蓋	—	2.2	(5.8)	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径 7.0 cm (合子の蓋)	
488	磁器	蓋	—	2.3	(5.1)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径 6.6 cm 被熱 SK54 と接合	
489	磁器	仏飯器	(6.8)	[4.7]	—	—	35	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
490	磁器	仏飯器	7.0	6.2	(4.7)	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	134-7
491	磁器	仏飯器	(7.3)	[4.2]	—	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱して変形	
492	磁器	仏飯器	7.1	6.3	(3.8)	—	85	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱して変形して一部白変	134-8
493	磁器	仏飯器	(7.1)	[4.1]	—	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱して口縁部少し歪む SK54 と接合	
494	磁器	仏飯器	7.0	6.8	4.6	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	134-9
495	磁器	香炉	16.3	7.1	7.9	—	70	良好	白	肥前系 内面上位～外面施軸 外面染付 被熱 SK54 と接合	134-10

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
496	磁器	灰落し	(5.8)	6.7	4.4	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸(口縁まで軸かかる) 外面染付被熱	134-11
497	磁器	水筒	—	3.8	—	—	75	普通	白	肥前系 板作成形 底部内外面布圧煎 外面施軸・施文・染付 被熱 長径(10.9) cm 短径7.5 cm	134-12
498	磁器	水筒	—	3.8	—	—	35	普通	白	肥前系 板作成形 底部内外面布圧煎 外面施軸・施文・染付 被熱 長径10.7 cm	
499	磁器	徳利	—	[10.6]	—	—	70	普通	白	肥前系 外面施軸・染付 強く被熱 胴径6.0 cm	134-13
500	磁器	徳利	—	[4.9]	4.0	—	25	普通	白	肥前系 外面施軸・染付 弱く被熱	
501	磁器	油壺	—	[5.3]	(4.4)	—	20	普通	灰白	肥前系 外面施軸 強く被熱	
502	磁器	油壺	—	[5.0]	4.4	—	25	普通	灰白	肥前系 外面施軸 弱く被熱	
503	磁器	油壺	2.2	9.0	4.0	—	90	普通	灰白	肥前系 外面施軸・染付 強く被熱 一部変形 SK54 と接合	134-14
504	磁器	油壺	2.1	7.8	5.4	—	80	普通	白	肥前系 外面施軸・染付 弱く被熱	134-15
505	磁器	油壺	2.2	7.7	5.5	—	60	普通	白	肥前系 外面施軸・染付 弱く被熱	135-1
506	磁器	油壺	—	[6.4]	5.4	—	70	普通	白	肥前系 外面施軸・染付 強く被熱 SK54 と接合	
507	磁器	油壺	—	[6.4]	(5.4)	—	70	普通	白	肥前系 外面施軸・染付 被熱 SK54 と接合	135-2
508	磁器	戸車	(6.4)	1.5	(6.4)	—	35	普通	白	肥前系 側面施軸	135-3

掲載資料を含めた破片数は14点(底部破片9点)で全て第51号土壌から出土している。遺構間接合は認められなかった。図示したのは9点で、個体数は10点と推定される。

第126・127図97～105は、外面に岩や草花文、内面口縁部に二重圏線、底面に岩波文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は11点(底部破片9点)で、全て第51号土壌から出土した。また、第52～54号土壌との遺構間接合も認められなかった。

第127図106～108は、同文の個体が認められず、各々1個体と考えられる。106は岩や山水文を染付するもので、第139図218の蓋が伴う。107は山水文、108は花文が染付されるものである。

109・110は、外面に草花文、内面口縁部に二重圏線、底面の圏線内に崩れた「壽」文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は3点(底部破片2点)に留まり、全て第51号土壌に帰属する。遺構間接合も認められなかった。図示したのは2点で、個体数も2個体である。

第127・128図111～115は、外面に木目状の雲文・吹き墨と鶴、内面口縁部に二重圏線、底面の圏線内に火焔宝珠文が染付される。非掲載資料

を含めた破片数は6点(底部破片5点)で、全て第51号土壌に帰属する。

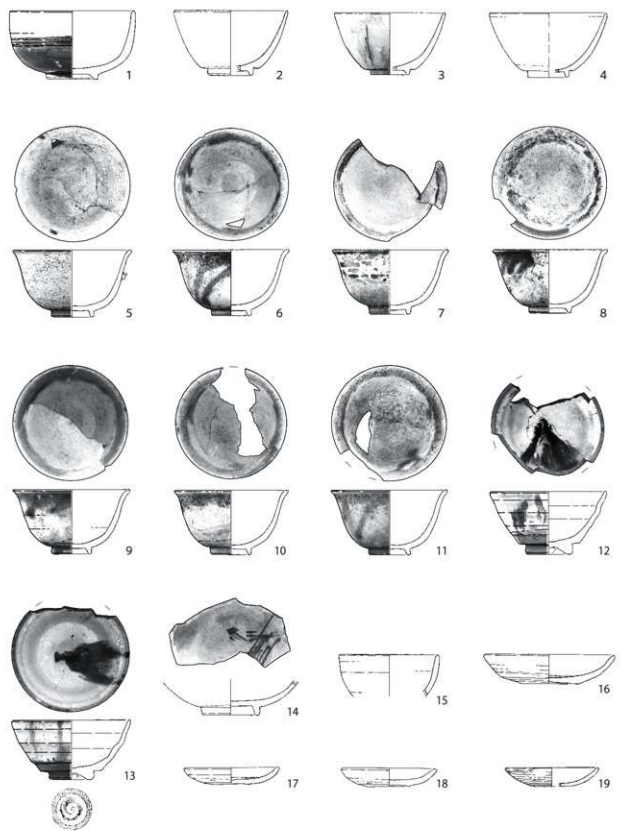
ただし第128図113は、第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは5点で、個体数も5個体である。強く被熱しており、歪んでいるものも見られる。

第128・129図116～128は、外面に菊花・唐草文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は15点(底部破片13点)で、全て第51号土壌に帰属する。ただし、第129図125は、第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは13点で、底部が遺存する資料を全て示した。個体数も13個体である。強く被熱しており、第129図123のように、大きく歪んでいるものも見られる。なお、後述する磁器蓋(第137～139図203～215)と組物である。

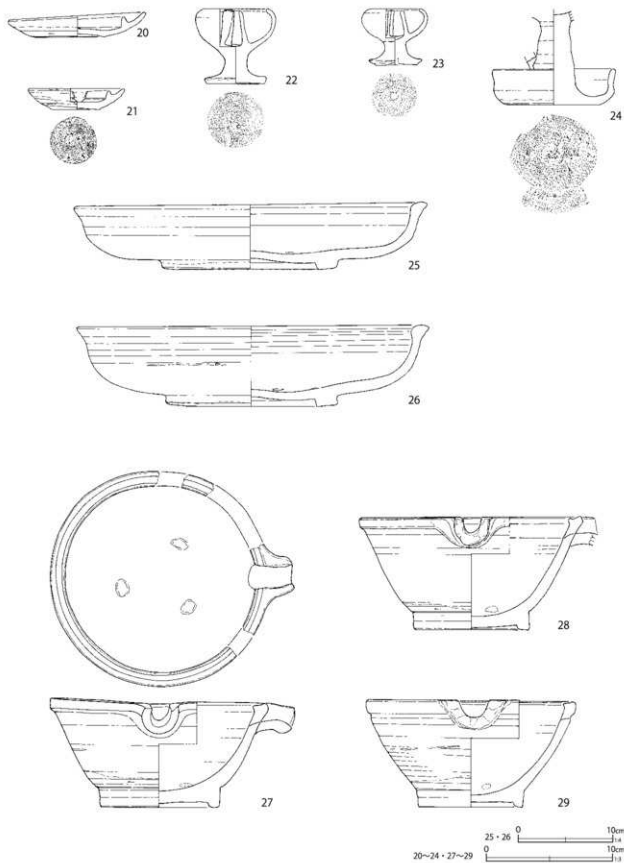
129～148は、肥前系磁器の端反碗である。

第129～131図129～138は、「福壽」の文字が染付される。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌から13点(底部破片10点)、第52号土壌から10点(底部破片3点)が出土しており、合計の破片数は23点である。

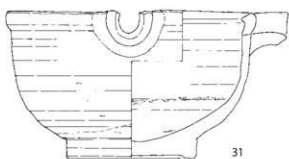
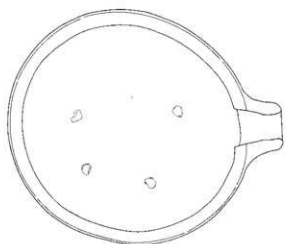
また、第54号土壌との遺構間接合も3点に認められたので、第51・52・54号土壌に分けて



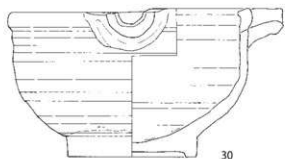
第167图 第51号土坑出土遗物(48)



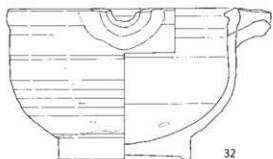
第168図 第51号土壙出土遺物(49)



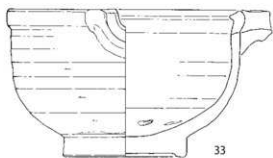
31



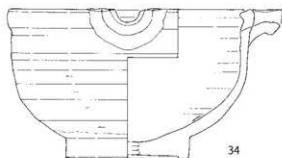
30



32



33



34



35



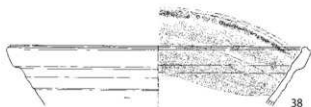
第169図 第51号土壙出土遺物(50)



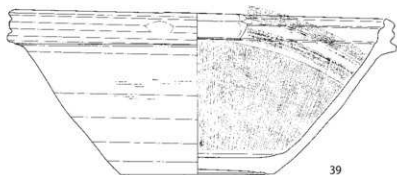
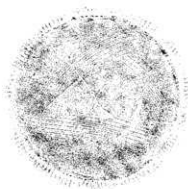
36



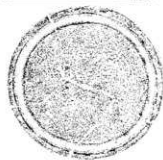
37



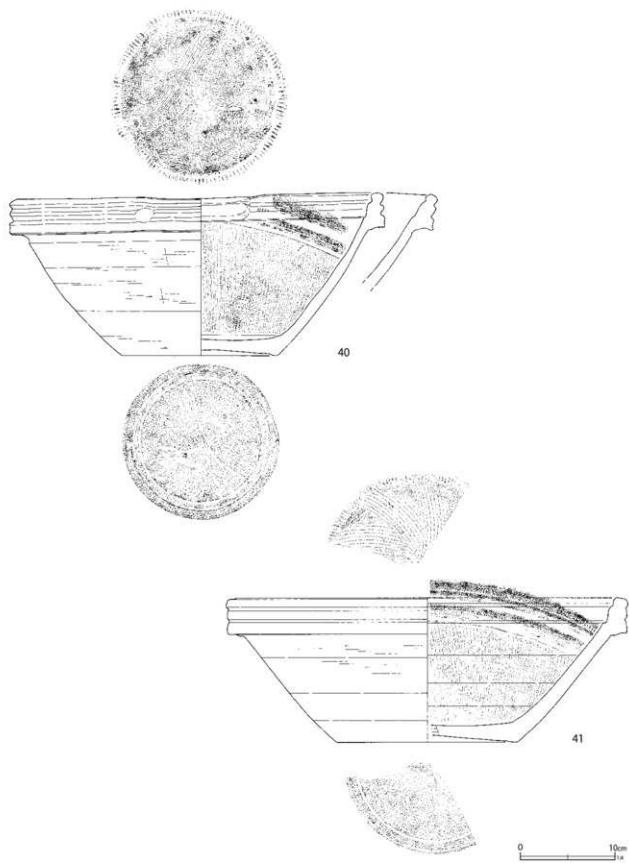
38



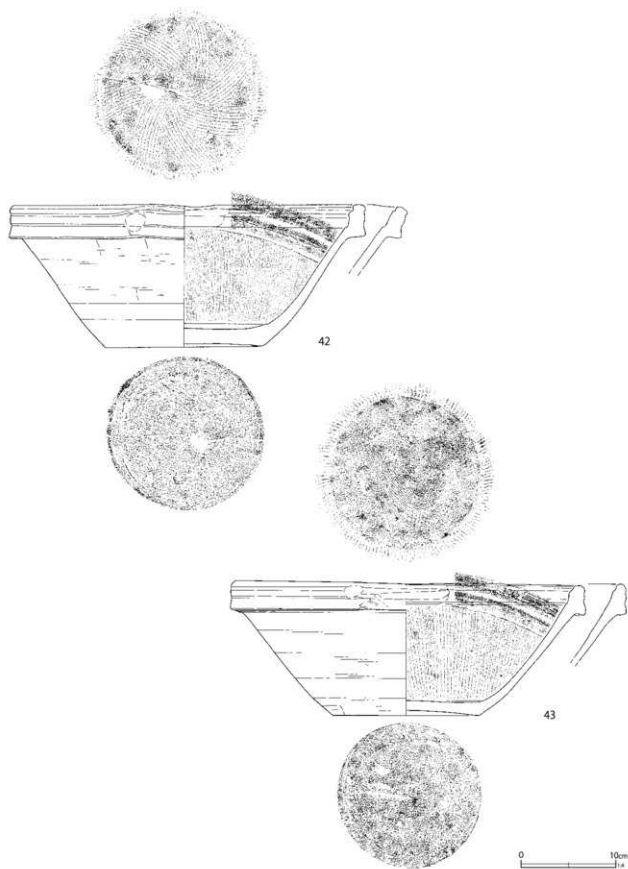
39



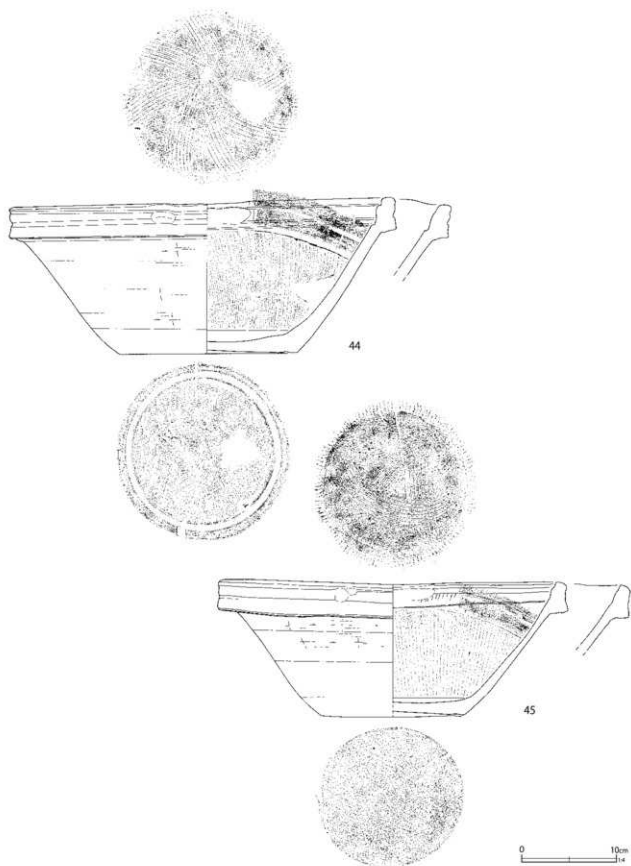
第170图 第51号土壙出土遺物(51)



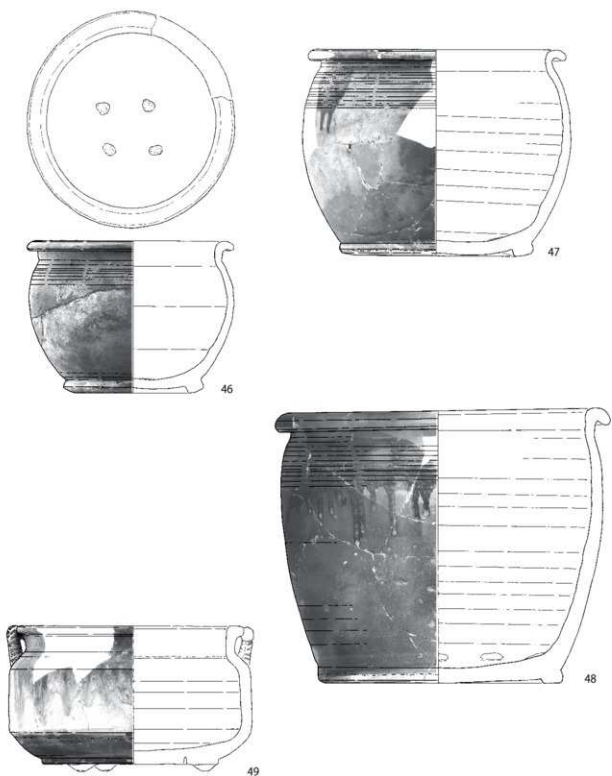
第171图 第51号土坑出土遗物(52)



第172圖 第51号土壙出土遺物(53)

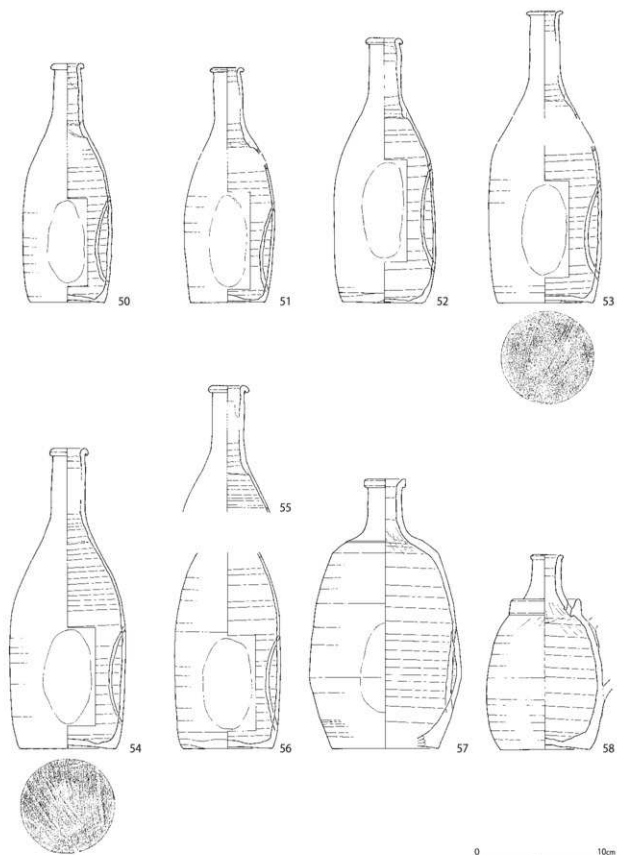


第173図 第51号土壙出土遺物(64)

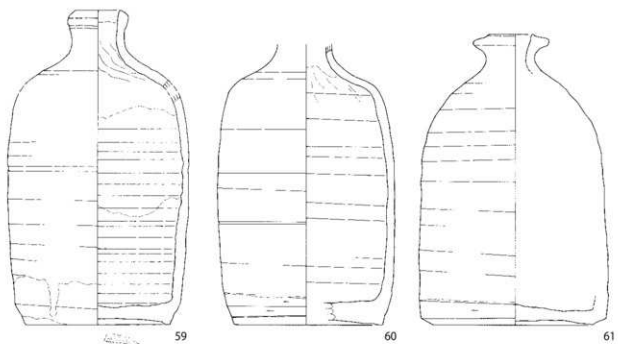


0 10cm

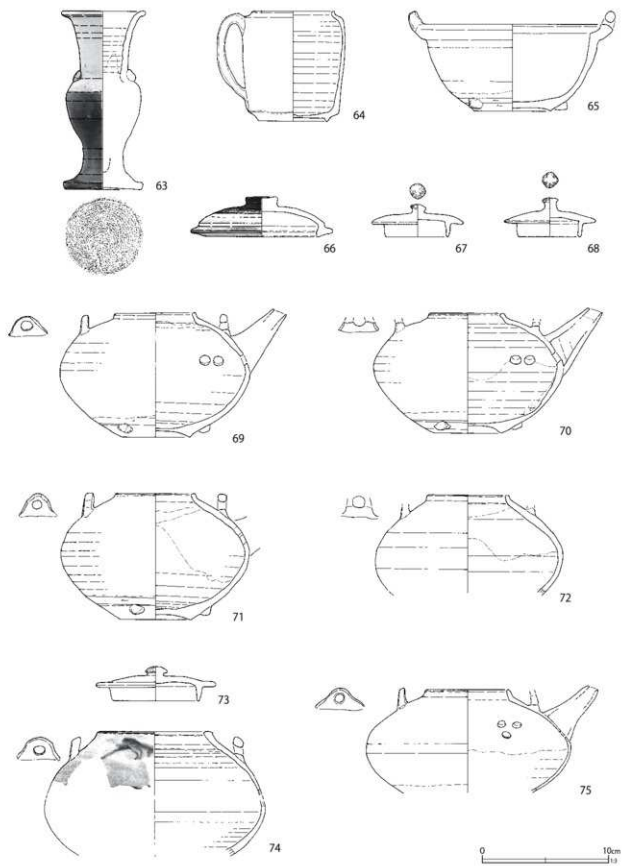
第174図 第51号土壙出土遺物(55)



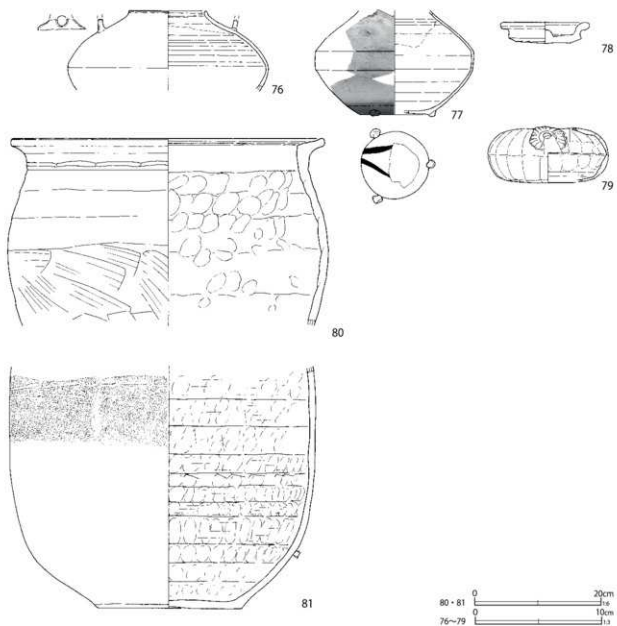
第175图 第51号土坑出土遗物(56)



第176图 第51号土壙出土遗物(57)



第177图 第51号土坑出土器物(58)



第178図 第51号土壙出土遺物(59)

第62表 第51号土壙出土遺物観察表(2) (第167~178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	陶器	碗	(9.8)	5.4	(3.8)	DK	25	普通	褐灰	瀬戸美濃系 灰軸・鉄軸拵分(腰縮碗)	135-4
2	陶器	碗	8.9	5.1	3.1	K	40	良好	灰白	京都信楽系 内外面透明軸 被熱(小杉碗)	
3	陶器	碗	(8.7)	4.9	(2.9)	K	25	良好	灰白	京都信楽系 内外面透明軸 外面鉄給 被熱(小杉碗) SK53と接合	135-5
4	陶器	碗	(9.2)	5.1	(3.1)	H	35	良好	灰白	京都信楽系 内外面透明軸(小杉碗)	135-6
5	陶器	碗	9.2	5.3	3.1	K	90	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸 口縁部緑軸流し掛け 強く被熱 し磁器片附着	135-7
6	陶器	碗	9.0	5.2	2.9	K	90	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸 口縁部緑軸流し掛け 強く被熱	135-8
7	陶器	碗	9.0	5.1	2.9	1K	55	普通	灰白	京都信楽系 内外面施軸 口縁部緑軸流し掛け 強く被熱	135-9
8	陶器	碗	8.9	5.0	3.0	K	100	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸 口縁部緑軸流し掛け 強く被熱	135-10
9	陶器	碗	9.1	5.1	2.9	K	100	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸 口縁部緑軸流し掛け 強く被熱	135-11

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
10	陶器	碗	8.8	5.1	2.9	—	80	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 口縁部緑釉流し掛け 強く被熱 (燻灰碗)	135-12
11	陶器	碗	9.1	5.1	3.1	H	80	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 口縁部緑釉流し掛け 強く被熱 (燻灰碗)	135-13
12	陶器	碗	9.0	5	3.0	I	55	良好	灰	萩焼 内外面薬灰釉 高台内溝巻状ケズリ 被熱して一部白変 (開口碗)	135-14
13	陶器	碗	9.3	4.7	3.0	HI	80	良好	灰	萩焼 内外面薬灰釉 高台内溝巻状ケズリ 被熱して一部白変 (開口碗)	135-15
14	陶器	碗	—	[2.8]	4.3	K	20	普通	灰白	肥前系 内外面灰釉 内面鉄絵 (京焼風陶器平碗)	
15	陶器	外	(7.7)	[3.3]	—	HIK	20	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 被熱 SK52 と接合	
16	陶器	灯明皿	10.1	2.3	4.6	I	80	普通	灰黄	瀬戸美濃系 内外面柿釉・直重ね焼き痕・体部下位拭き取り 被熱	136-1
17	陶器	灯明皿	7.3	1.3	2.8	DIK	100	良好	灰黄	瀬戸美濃系 内外面柿釉・内面直重ね焼き痕・底部拭き取り 被熱・黒化	136-2
18	陶器	灯明皿	7.2	1.5	3.3	DI	100	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内外面柿釉・外面拭き取り 被熱・黒化	136-3
19	陶器	灯明皿	7.0	1.5	3.2	IK	55	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 被熱・黒化	136-4
20	陶器	灯明皿	10.6	1.9	5.3	IK	75	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉・重ね焼き痕・外面下位拭き取り 至み大きい	136-5
21	陶器	灯明皿	7.4	1.7	3.7	DE	95	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉・直重ね焼き痕・外面下位拭き取り 口縁部の一部 打ち欠き	136-6
22	陶器	乗焼 (5.1)	5.9	4.5	I	90	良好	灰白	底部糸切痕 (右) 内外面鉄釉 弱く被熱 SK54 と接合	136-7	
23	陶器	乗焼 (4.0)	4.5	3.3	I	55	普通	明褐灰	底部糸切痕 (右) 内外面鉄釉 強く被熱	136-8	
24	陶器	灯火具	—	[7.4]	(7.4)	I	40	普通	赤灰	底部糸切痕 (右) 内外面柿釉 強く被熱	136-9
25	陶器	皿	36.1	7.2	14.5	EI	95	普通	白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡5 被熱	137-1
26	陶器	皿	36.0	8.7	14.0	I	95	普通	白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡5 被熱	137-2
27	陶器	片口鉢	17.0	8.6	9.0	DI	90	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3 強く被熱	137-3
28	陶器	片口鉢 (17.4)	9.0	9.0	DI	80	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡2 遺存 強く被熱	137-4	
29	陶器	片口鉢	16.2	8.4	(8.2)	IK	70	普通	黄灰	瀬戸美濃系 片口部欠失 内外面灰釉 内面目跡1 遺存 SK54 接合	
30	陶器	片口鉢	18.5	11.7	10.0	GIK	95	良好	灰黄	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡5 弱く被熱	137-5
31	陶器	片口鉢	19.0	11.7	9.8	GIK	65	良好	淡黄	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡4	
32	陶器	片口鉢	17.8	12.0	10.2	GIK	75	良好	オリーブ	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3 被熱 SK54 接合	137-6
33	陶器	片口鉢	18.2	11.6	9.4	GIK	75	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3 遺存 一部被熱 SK54 接合	137-7
34	陶器	片口鉢 (19.0)	11.8	9.4	GIK	40	普通	灰黄	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡4 一部被熱 SK166 接合		
35	陶器	片口鉢 (18.0)	[8.0]	—	GI	15	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 弱く被熱		
36	陶器	こね鉢	25.0	14.0	(14.8)	I	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡3 遺存 強く被熱 SK52 と接合	137-8
37	陶器	こね鉢 (23.8)	(15.1)	(15.0)	EIK	20	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目跡2 遺存 強く被熱		
38	陶器	擂鉢 (31.3)	[6.3]	—	DE	10	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 内面擂目		
39	陶器	擂鉢	38.8	17.4	16.0	DE	95	普通	明赤褐	堺明石系 砂目底・窯道具痕 内面擂目	137-9
40	陶器	擂鉢	38.1	17.2	16.3	DEG	95	普通	赤	堺明石系 砂目底・窯道具痕 内面擂目 被熱	137-10
41	陶器	擂鉢	40.0	15.3	19.0	DEH	55	普通	明褐	堺明石系 砂目底・窯道具痕 内面擂目 一部被熱	
42	陶器	擂鉢	36.1	15.4	16.6	DEG	100	良好	灰白	堺明石系 砂目底・窯道具痕 内面擂目 一部被熱	137-11
43	陶器	擂鉢	36.2	14.2	15.5	D	100	普通	灰白	堺明石系 底部ヘラナダ 内面擂目 被熱	
44	陶器	擂鉢	39.7	16.7	18.7	DE	95	普通	明赤褐	堺明石系 砂目底・窯道具痕 内面擂目 被熱 SK54 と接合	
45	陶器	擂鉢	35.2	14.5	15.0	DG	95	良好	赤	堺明石系 砂目底・窯道具痕 内面擂目 被熱	137-12
46	陶器	甕	20.0	16.1	12.0	K	85	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面鉄釉流し掛け 内面目跡4 強く被熱 変色 SK52 と接合	138-2
47	陶器	甕 (25.5)	21.7	17.6	K	50	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面鉄釉流し掛け 底部内面目跡4 遺存 被熱して一部変色 SK52・166 と接合		
48	陶器	甕	32.5	29.9	24.9	DE	85	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿釉 外面鉄 (黒) 釉流し掛け 内面目跡8 高台内面目跡8 被熱 高台内煤付着 SK166 と接合	138-1
49	陶器	火鉢	22.6	15.3	18.5	DI	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉緑釉流し掛け 強く被熱 変色 SK166 と接合	138-3
50	陶器	德利	2.1	18.8	5.8	GIK	90	良好	灰	底部ケズリ 外面柿釉 被熱・変色	138-4
51	陶器	德利	2.2	(18.5)	5.8	GIK	70	良好	灰	底部ケズリ 外面柿釉 被熱・変色	138-5
52	陶器	德利	2.2	20.9	6.4	IK	80	良好	灰	底部ケズリ 外面柿釉 被熱・変色	138-6
53	陶器	德利	2.5	(23.0)	7.4	GIK	70	良好	黄灰	底部ケズリ 外面柿釉 被熱・変色	138-7

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
54	陶器	徳利	2.4	23.7	7.5	G1K	75	良好	灰黄	底部ケズリ 外面締輪 底部拭き取り 体部窪み 2 被熱・変色	138-8
55	陶器	徳利	2.5	[10.0]	—	IK	25	良好	黄灰	外面灰輪 被熱・変色	138-9
56	陶器	徳利	—	[15.5]	7.0	IK	60	良好	にぶい黄	底部ケズリ 外面締輪 被熱・変色	139-1
57	陶器	徳利	(3.0)	21.3	(8.3)	DIK	35	良好	淡黄	瀬戸美濃系 外面締輪 体部に窪み 接点のない5破片から図上復元 強く被熱 SK54 と接合	139-2
58	陶器	油徳利	2.1	15.4	7.0	G1K	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 外面締輪 底部拭き取り 内面黒化	139-3
59	陶器	徳利	3.6	(24.9)	11.2	IK	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 外面灰輪 底部拭き取り	139-4
60	陶器	徳利	—	[22.7]	(11.6)	I	85	良好	灰白	瀬戸美濃系 底部糸切痕 外面灰輪 底部拭き取り 頸部に目跡3	
61	陶器	徳利	3.4	22.9	12.5	I	95	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面締輪 被熱	139-5
62	陶器	徳利	3.3	25.6	6.2	IK	85	良好	黄灰	大塚相馬系カ 外面頸部から肩部締輪(白変) 体部鉄輪 トビガンナ状陥文・カキメ状沈線 強く被熱	139-6
63	陶器	花生	6.4	14	6.0	D	95	普通	灰黄	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 灰輪・鉄輪併分 強く被熱	139-7
64	陶器	水注	(6.4)	8.7	5.4	IK	70	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面鉄輪 強く被熱・変色	139-8
65	陶器	鍋	14.6	7.9	6.0	I	95	普通	灰白	内外面締輪 被熱・変色	139-9
66	陶器	蓋	—	3.1	(8.7)	DIK	25	良好	灰黄褐色	外面鉄輪 内面灰輪 端部に白化粒 最大径(11.2) cm (水平鍋の蓋)	139-10
67	陶器	蓋	—	2.6	(4.8)	—	30	良好	灰	上面青緑輪 強く被熱・赤変(土版の蓋) 最大径(7.2) cm	139-11
68	陶器	蓋	—	3.1	(4.8)	I	35	良好	にぶい黄	上面青緑輪 強く被熱・赤変(土版の蓋) 最大径(7.2) cm	139-12
69	陶器	土瓶	6.2	10.1	5.4	H	90	良好	灰白	外面青緑輪 被熱 一部白変	140-1
70	陶器	土瓶	5.9	9.9	5.2	G1K	90	良好	淡黄	外面青緑輪 強く被熱・赤変	140-2
71	陶器	土瓶	6.2	9.9	5.6	HI	80	普通	灰黄	外面青緑輪 強く被熱・変色(赤変・白変)	140-3
72	陶器	土瓶	6.2	[7.8]	—	I	50	良好	灰白	外面青緑輪 強く被熱・変色	140-4
73	陶器	蓋	—	2.7	6.6	IK	50	普通	灰白	瀬戸美濃系カ 上面灰輪 強く被熱 最大径 9.5 cm	
74	陶器	土瓶	(8.0)	[9.8]	—	K	30	普通	灰	瀬戸美濃系カ 外面灰輪・鉄輪 被熱 SK166 と接合	
75	陶器	土瓶	6.4	[8.4]	—	K	60	良好	灰	外面灰輪 強く被熱 SK52 と接合	140-5
76	陶器	土瓶	6.0	[6.3]	—	I	35	良好	黄灰	外面灰輪 強く被熱 SK52 と接合	
77	陶器	土瓶	—	[8.4]	5.4	I	60	良好	黄灰	外面灰輪・白盛・鉄輪 強く被熱 一部変色 SK52 と接合 墨痕	140-6
78	陶器	蓋	6.6	1.6	4.3	G1	100	良好	黄灰	上面鉄輪 強く被熱・変色	
79	陶器	水漬	—	4.5	—	—	30	良好	灰白	京都信楽系カ 上下型合成形 外面灰輪 強く被熱(最大径 9.5 cm)	140-7
80	陶器	甕	(49.0)	[30.0]	—	DEGI	30	普通	にぶい黄	常滑系 外面上位陶灰 外面へラナデ SK139 と接合	
81	陶器	甕	—	[38.6]	23.0	DEIK	40	普通	赤	常滑系 砂目底 胎土小磯含む 内外面鉄泥(内面下位白化) 外面上位へラ彫り陥文 被熱(他の破片が外面に溶着) SK166 と接合	140-8

廃棄されていた状況が窺われる。図示したのは、第51号土壇の10点と、第52号土壇の4点(第196図4～7)であり、両遺構を含めた個体数は14個体と推定される。

第131・132図139～148は、外面に芦文が染付される。内面口縁部には濃塗りで太い圏線が染付され、墨弾きで木目状文とする。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壇から21点(底部破片10点)、第53号土壇から2点(底部破片無し)である。また、第51号土壇と第53・54号土壇の間で、遺構間接合が認められる。図示したのは10点で、個体数も10個体である。強く被熱した

ものが多く、147のように壁土材と思われる焼土塊と溶着したものも認められる。

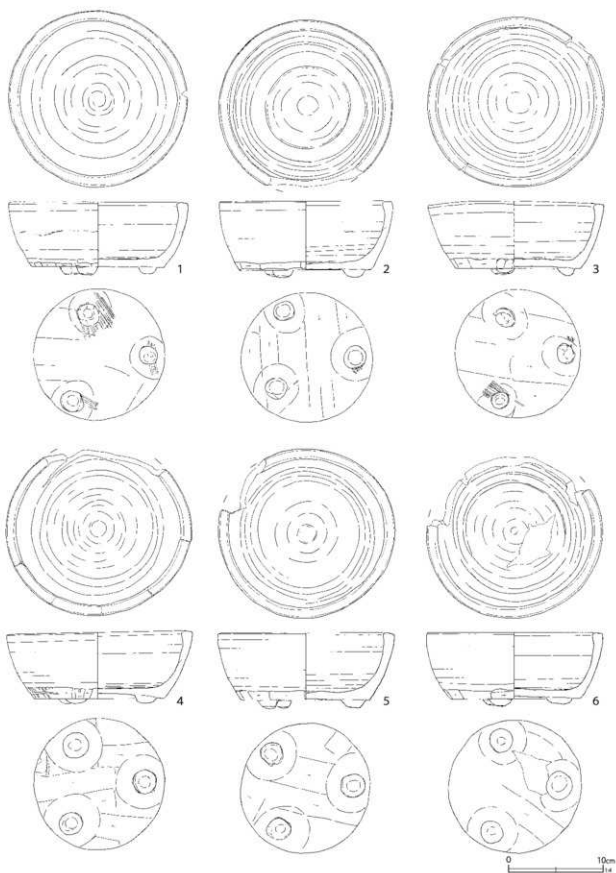
149～198は、瀬戸美濃系磁器の端反碗である。

第132図149～152は、外面に草文が染付される。口縁部の反りは大きい。図示したのは4点で、同文と考えられる全てを掲載した。個体数も同数で4個体である。

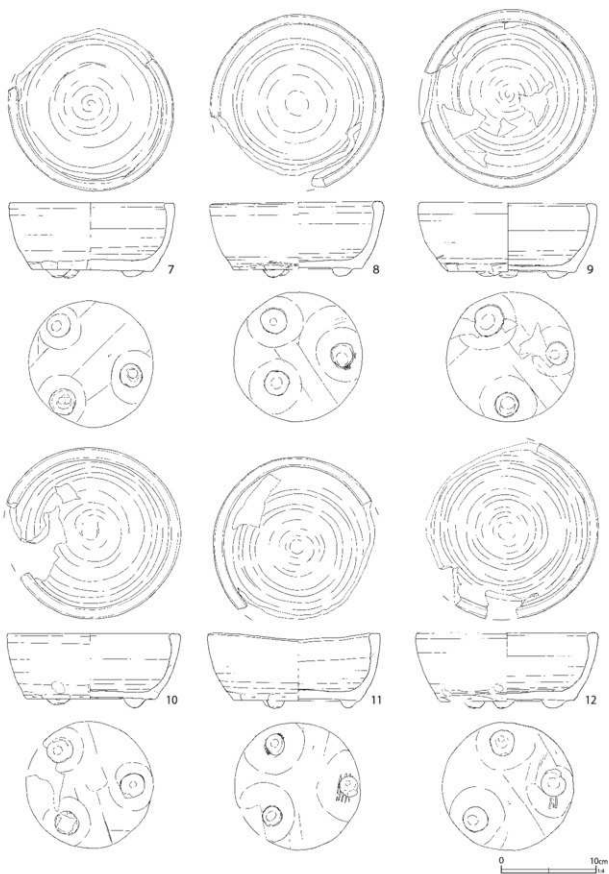
第132・133図153～156は、同文の個体が認められず、各々1個体と考えられる。

153は、外面に花文が染付される。口縁部の反りは大きい。

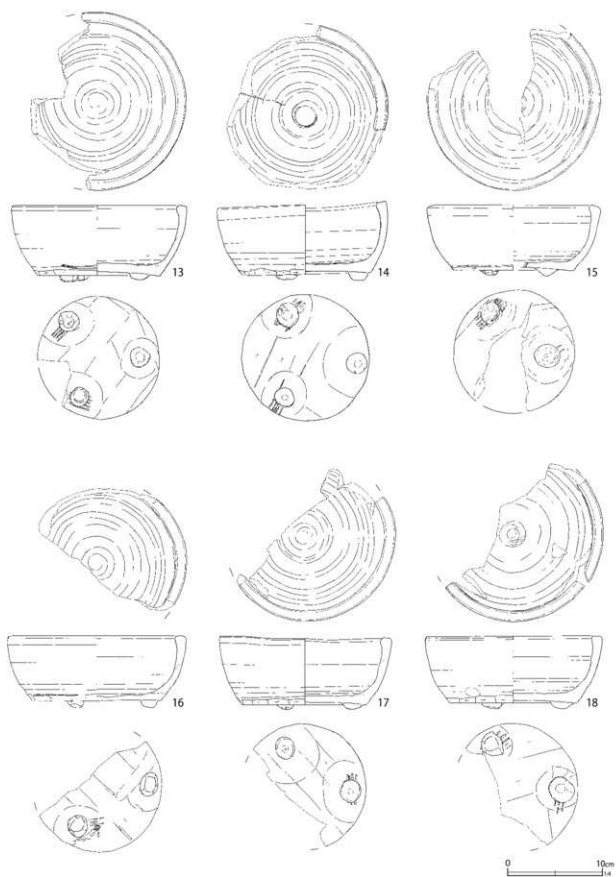
154は、竹林文が染付される。やや厚手で口縁



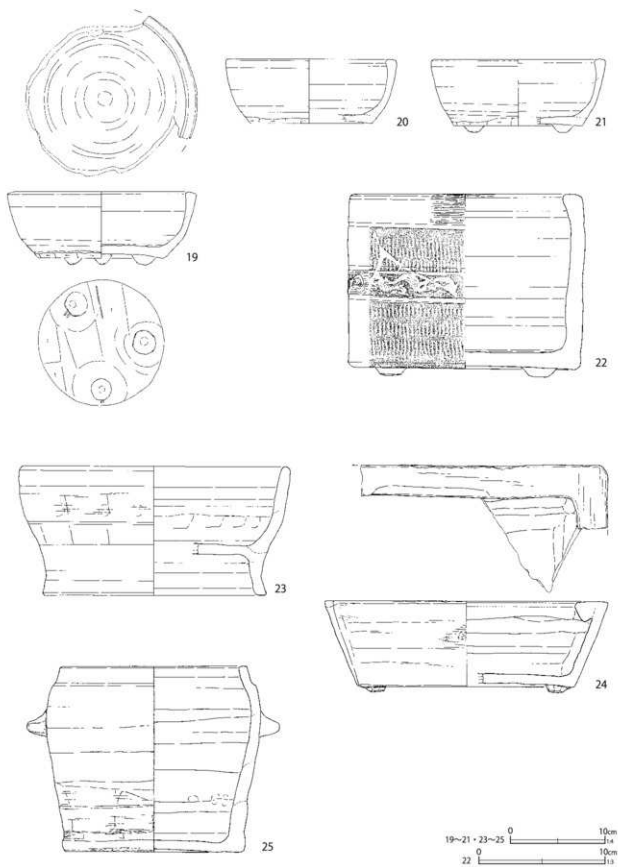
第179图 第51号土坑出土遗物(60)



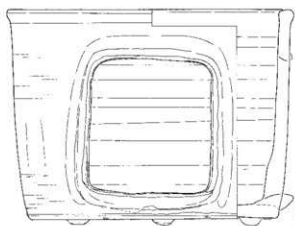
第180图 第51号土壙出土遗物(61)



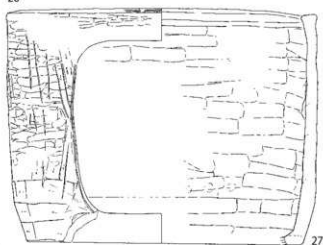
第181图 第51号土坑出土遗物(62)



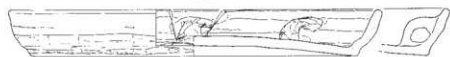
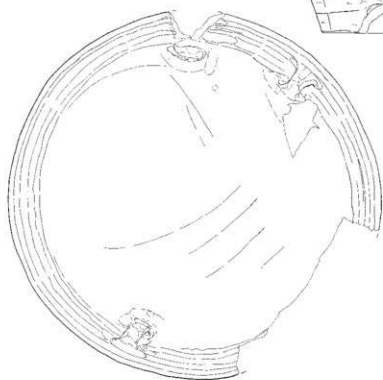
第182図 第51号土壙出土遺物 (63)



26



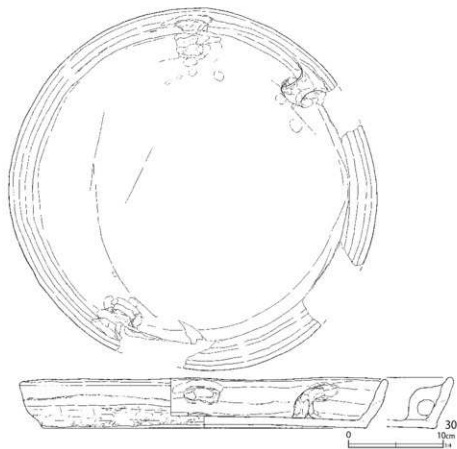
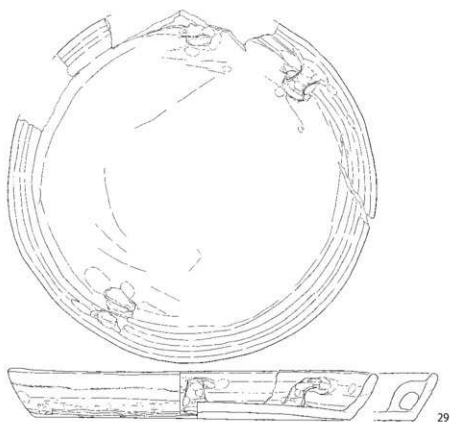
27



28



第183图 第51号土坑出土遗物(64)



第184図 第51号土壙出土遺物 (65)



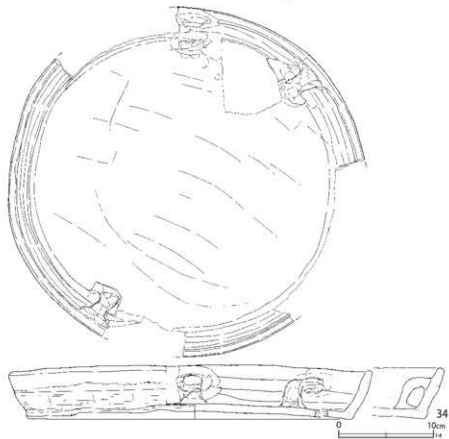
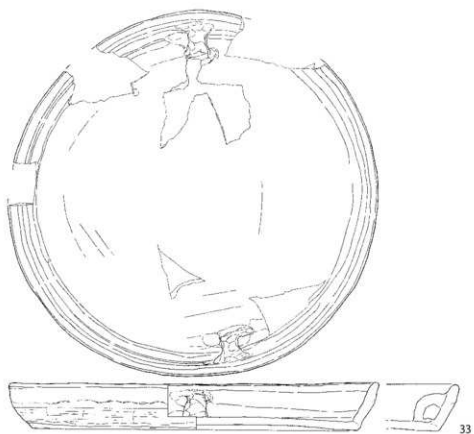
31



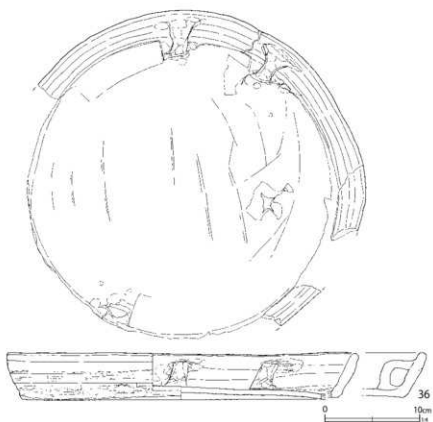
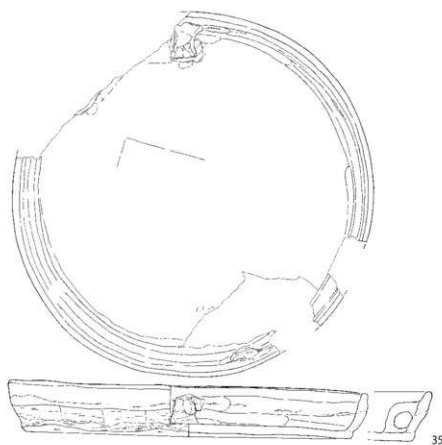
32



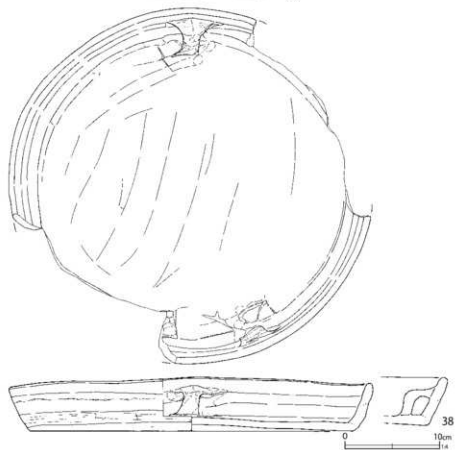
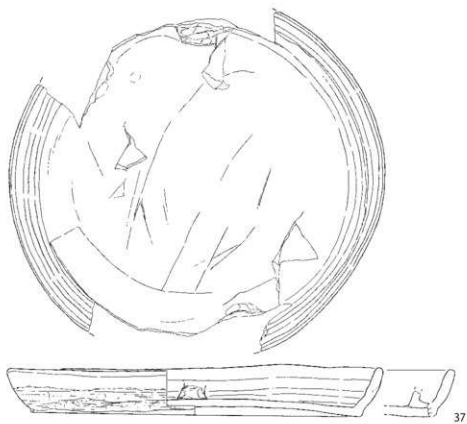
第185图 第51号土坑出土遗物(66)



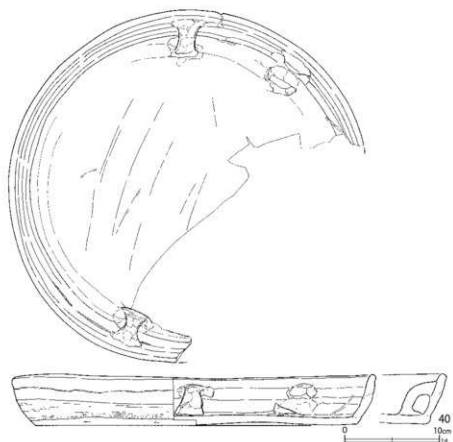
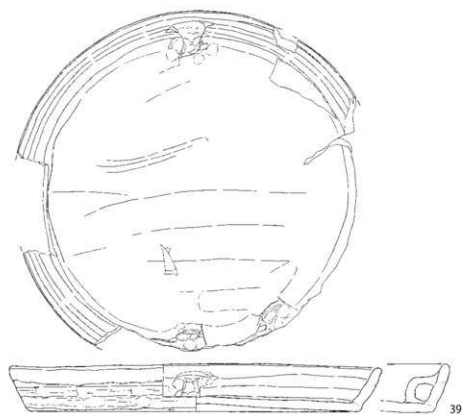
第186图 第51号土壙出土遗物(67)



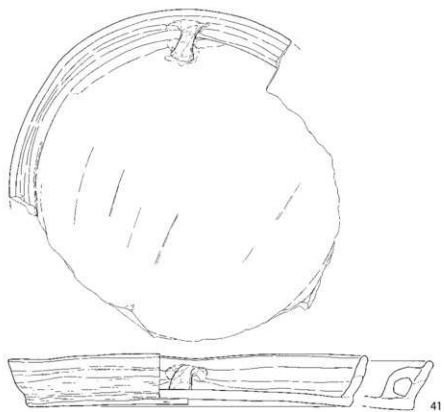
第187図 第51号土壙出土遺物(68)



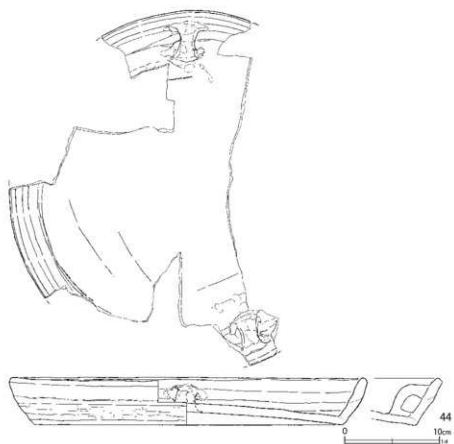
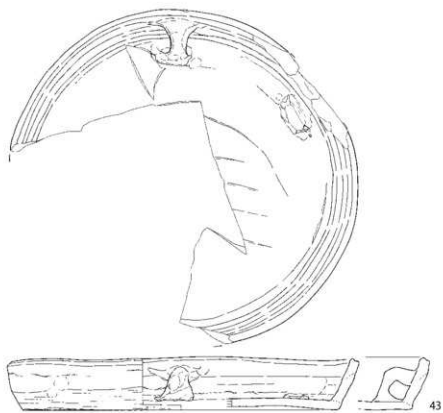
第188图 第51号土壙出土遗物 (69)



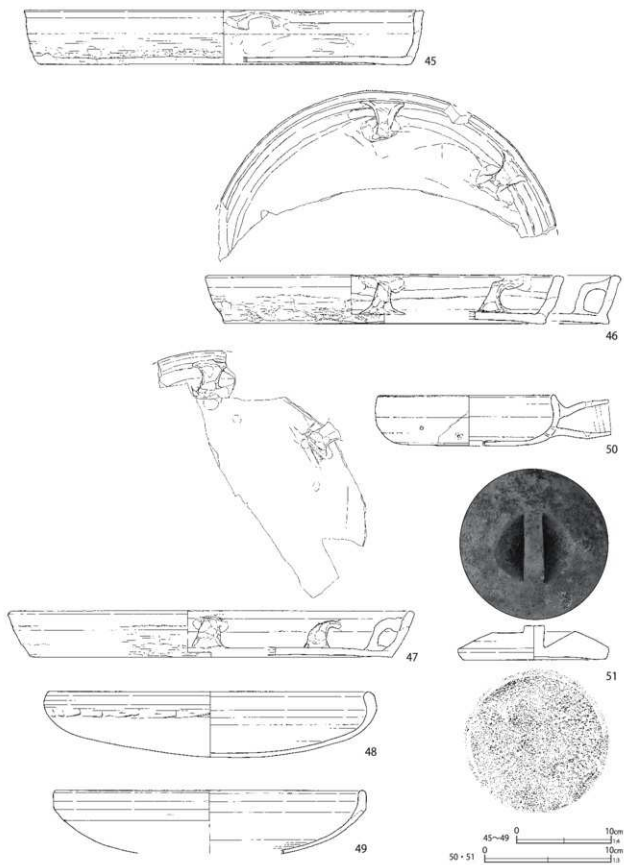
第189図 第51号土坑出土遺物(70)



第190图 第51号土壙出土遺物(71)



第191図 第51号土坑出土遺物(72)



第192図 第51号土壙出土遺物 (73)

第63表 第51号土壇出土遺物観察表(3)(第179~192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	瓦質土器	火鉢	18.6	7.7	13.9	CG5H	80	普通	にぶい褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	141-1
2	瓦質土器	火鉢	18.0	8.0	13.8	CGH	80	普通	にぶい褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 一部赤変 黒変	141-2
3	瓦質土器	火鉢	18.4	7.8	13.1	CGH	90	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	141-3
4	瓦質土器	火鉢	19.7	7.6	13.6	CHK	75	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	141-4
5	瓦質土器	火鉢	18.5	8.0	13.5	CGH	80	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 一部黒変	141-5
6	瓦質土器	火鉢	18.4	7.9	13.6	CGH	70	普通	明赤褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	141-6
7	瓦質土器	火鉢	17.3	8.0	12.8	CGH	65	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 一部黒変	
8	瓦質土器	火鉢	18.0	7.9	13.5	CGHK	70	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 一部黒変	
9	瓦質土器	火鉢	18.6	8.1	13.4	CGHK	75	普通	明赤褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 歪みあり	
10	瓦質土器	火鉢	18.0	7.8	13.5	CGH	75	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	141-7
11	瓦質土器	火鉢	18.1	8.0	13.3	CGH	65	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 口縁部歪み	
12	瓦質土器	火鉢	18.8	8.0	14.1	CGH	65	普通	にぶい褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	141-8
13	瓦質土器	火鉢	18.4	8.1	12.8	CG5H	65	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	
14	瓦質土器	火鉢	(17.6)	8.4	13.5	CGH	55	普通	にぶい褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 口縁部歪み	
15	瓦質土器	火鉢	18.2	7.5	12.7	CG5H	70	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	
16	瓦質土器	火鉢	(18.3)	7.6	13.6	CGH	40	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 強く被熱 赤変	
17	瓦質土器	火鉢	(18.0)	7.8	13.2	CGH	50	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 SK166 と接合	
18	瓦質土器	火鉢	(18.2)	7.7	13.4	CEH	50	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 一部黒変	
19	瓦質土器	火鉢	(19.9)	7.7	13.2	CG5H	40	普通	にぶい褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	
20	瓦質土器	火鉢	17.8 [6.8]	[12.8]		CGH	50	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変	
21	瓦質土器	火鉢	(18.0)	7.7	13.6	CGIK	25	普通	褐色	底部ケズリ後ナダ 被熱 赤変 SK54 と接合	
22	瓦質土器	火鉢	17.8	14.4	17.6	AI	90	普通	褐色	江戸在地系 底部シワ状痕 トビガン状陥入 一部ミガキ 被熱 赤変	142-1
23	瓦質土器	火鉢	27.7	13.7	23.4	CH	70	普通	灰白	砂目底 外面に塗布物痕跡 被熱 赤変	142-2
24	瓦質土器	火鉢	(29.7)	9.7	(22.7)	EI	20	普通	にぶい黄褐色	底部シワ状痕 被熱 赤化	
25	瓦質土器	火酒壺	19.7	19.7	18.8	CH	70	普通	褐色	底部シワ状痕 被熱 赤変してにぶい褐色 SK166 と接合	142-3
26	瓦質土器	甕	29.4	22.8	25.9	CEH	95	普通	褐色	砂目底 横す 被熱 赤変	142-4
27	瓦質土器	甕	32.5	24.9	28.9	CH	55	良好	黄灰	砂目底 外面へラナダ 横す	
28	瓦質土器	焙烙	38.7	5.0	34.0	CI	90	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変 変形	142-5
29	瓦質土器	焙烙	38.2	5.4	33.4	CFHH	95	普通	浅黄褐色	底部シワ状痕 被熱 赤変	
30	瓦質土器	焙烙	38.1	5.3	34.0	CFH	90	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変	143-1
31	瓦質土器	焙烙	36.4	6.3	34.4	CGIK	85	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変 変形	143-2
32	瓦質土器	焙烙	37.1	5.3	33.2	CFH	85	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変	143-3
33	瓦質土器	焙烙	38.3	5.2	34.2	CG5H	85	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変	143-4
34	瓦質土器	焙烙	37.7	5.4	34.0	CEI	75	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変 歪み大きい	143-5
35	瓦質土器	焙烙	37.4	5.5	34.2	CH	85	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変	143-6
36	瓦質土器	焙烙	36.5	5.0	33.2	CFI	60	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変 変形	143-7
37	瓦質土器	焙烙	39.0	5.2	34.7	CHK	70	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変	
38	瓦質土器	焙烙	37.7	5.7	33.8	CGI	80	普通	灰白	底部シワ状痕 やや酸化焼成 被熱 変色	143-8
39	瓦質土器	焙烙	38.5	5.1	34.5	CIK	70	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変	144-1
40	瓦質土器	焙烙	37.7	5.4	33.9	CGI	65	普通	にぶい褐色	底部シワ状痕 被熱 変色	144-2
41	瓦質土器	焙烙	(37.5)	5.6	(33.7)	CGI	70	普通	浅黄褐色	底部シワ状痕 被熱 変色	
42	瓦質土器	焙烙	37.3	5.6	34.1	CE	55	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 変色 底部に若干の歪み	144-3
43	瓦質土器	焙烙	35.8	5.5	33.0	CFI	55	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 変色 SK166 と接合	144-4
44	瓦質土器	焙烙	(37.0)	5.0	(32.6)	CH	45	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 変色	
45	瓦質土器	焙烙	(42.0)	5.7	(39.0)	CI	20	普通	灰白	底部シワ状痕 内面ミガキ 耳欠失 横す	
46	瓦質土器	焙烙	(18.5)	5.1	(33.6)	CEH	20	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 変色	
47	瓦質土器	焙烙	(42.5)	4.9	(38.0)	CH	10	普通	灰白	底部シワ状痕 被熱 赤変	
48	土師質土器	焙烙	33.7	7.0	(34.4)	AH	100	普通	灰白	江戸在地系 砂目底 胎土粉質	144-5
49	土師質土器	焙烙	(32.6)	[6.6]	(33.0)	AH	20	普通	にぶい褐色	江戸在地系 砂目底 胎土粉質	144-6
50	土師質土器	把手付鍋	13.7	4.0	10.3	AH	85	普通	褐色	江戸在地系 底部ケズリ 把手穿孔 被熱	144-7
51	土師質土器	甌	-	2.6	11.1	AI	100	普通	灰白	江戸在地系 胎土粉質 被熱 体部補修孔	144-8

部の反りも小さい。被熱して一部赤色化している。

155・156は、外面に山水文が染付されるもので、口縁部の反りは大きい。

157・158は、外面に畫芝文が染付される。図示したのは2点で、同文と考えられる全てを掲載した。個体数も同数で2個体である。

159・160は、内外面ともに菊花弁状の染付が施される。図示したのは2点だが、個体数は1個体と推定する。160は壁土材と思われる焼土塊と溶着した破片である。

第133・134図161～166は、外面全体に花唐草文が染付される。口縁部の反りは大きく、器壁が全体的に薄手である。非掲載資料を含めた破片数は12点（底部破片9点）で、全て第51号土壌に帰属するが、第54号土壌と遺構間接合したものもある。図示したのは6点で、個体数も6個体である。

167～172は外面に花文が染付され、内面の口縁部には濃塗りに墨弾き、内底面には岩波文が染付される。破片を含めてすべてを図示した。個体数も図示した数と同じく6個体と考えられる。全て第51号土壌に帰属する。

第135図173～177は、外面に草花や松樹・岩文が染付されるものである。内面口縁部には濃塗りに墨弾き、内底面には松樹文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は12点（底部破片3点）で、全て第51号土壌に帰属するが、176は第54号土壌のものと遺構間接合している。図示したのは5点で、個体数も5個体である。

178～180は、外面に山水文が染付される。内面口縁部は濃塗りの圏線がグラデーション状に染付される。非掲載資料を含めた破片数は11点（底部破片3点）で、全て第51号土壌に帰属するが、178は第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは3点で、個体数も3個体である。

181～186は外面に飛翔する雁が染付される。内面には絵付けは認められない。破片を含めて全て

を図示した。個体数も図示した数と同じく6個体と考えられる。全て第51号土壌に帰属するが、181は第54号土壌と遺構間接合している。

第136・137図187～198は、外面と内底面に牡丹文が、内面口縁部に濃塗りに由縁が染付される。非掲載資料を含めた破片数は15点（底部破片12点）で、全て第51号土壌に帰属し、遺構間接合も認められなかった。図示したのは底部が遺存する12点で、個体数も12個体である。

199～202は、瀬戸美濃系磁器の碗である。形態から大振りの湯呑碗として扱ったが、実態としては向付などの鉢として用いられたものであろう。

199は、外面に花唐草文が染付される。200と201は唯一、同文のもので、外面に人物文等が染付される。腰部が角ばる点も特徴的である。201は、強い被熱によって大きく変形している。202も人物文が染付されるものである。

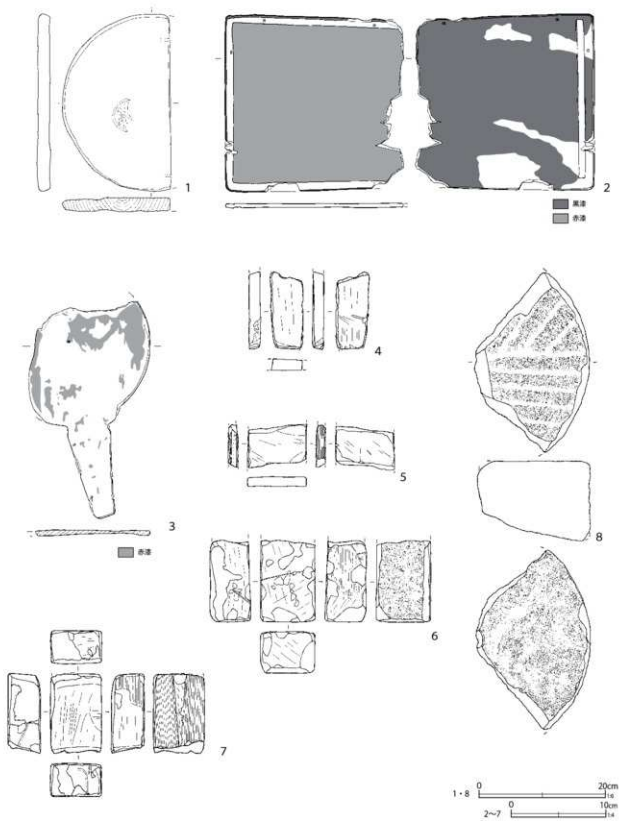
203～223は、肥前系磁器の広東碗の蓋である。

第137～139図203～215は広東碗の蓋で、第128・129図116～128に伴うものである。非掲載資料を含めた破片数は25点（つまみ破片15点）である。全て第51号土壌に帰属し、遺構間接合も認められなかった。図示したのは13点である。個体数も13個体であり、身の個体数と一致する。

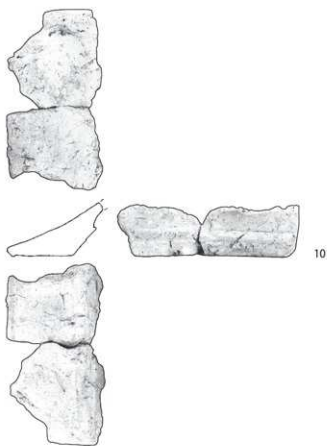
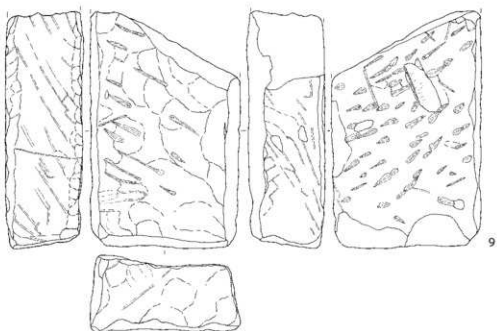
第139図216・217は、外面に山水文、つまみ内に松樹らしい樹木、内面頂部に岩波文が染付される。破片を含めて全てを図示した。個体数も図示した数と同じく2個体と考えられる。2個体とも第51号土壌に帰属する。

218は、外面に山水文が染付されるもので、第127図106の広東碗の蓋である。219は外面に蕪文等が染付されるもので、第52号土壌から出土した広東碗（第196図2）に伴う蓋である。

第139・140図220～223までは、木目状に雲文が染付されるもので、第127・128図111～115の広東碗に伴うものである。非掲載資料を含めた



第193図 第51号土壙出土遺物(74)



第194圖 第51号土壙出土遺物(75)

第64表 第51号土壌出土遺物観察表(4)(第193図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口徑/径	高さ	底径	木取り	備考	図版
1	木製品	桶	—	—	2.2	28.4	—	—	板目	蓋 木釘2 棧印「㊟」裏面炭化	
2	木製品	膳	18.7	[18.9]	0.4	—	—	—	板目	表面赤漆 裏面黒漆 木釘残 脚の痕跡 炭化	
3	木製品	鏡箱	[23.0]	[13.9]	0.5	—	—	—	板目	赤漆 木釘残 裏面炭化	

第65表 第51号土壌出土遺物観察表(5)(第193・194図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考	図版
4	石製品	砥石	[8.2]	[3.5]	1.2	62.9	ホルンフェルス	砥面2	
5	石製品	砥石	[4.5]	6.2	1.0	54.8	粘板岩	側面ノコギリ痕 砥面2	
6	石製品	砥石	[8.7]	5.8	4.4	362.3	凝灰岩	側縁部幅広工具痕 表面に刃物痕1条 砥面4	
7	石製品	砥石	8.5	5.3	3.5	285.6	流紋岩	裏・底面ノコギリ痕 側面幅広工具痕 削痕 砥面2 被熱黒色化	293-1
8	石製品	石臼	器高12.7			9140.0	安山岩	下臼 上面摺目 上・下面摩耗 被熱 芯棒孔遺存	290-3
9	石製品	切石材	[38.1]	24.1	12.5	11800.0	砂岩	上・下面サキノミ状工具痕 裏側面幅広工具痕	290-2
10	壁材	—	[7.5]	[4.2]	—	206.9	—	材質痕・2種 高さ[14.0] cm 胎土(EIK) 色調(橙)	299-5

破片数は11点(つまみ破片5点)である。全て第51号土壌に帰属するが、222は第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは4点であるが、個体数は5個体と推定され、身の個体数と一致する。

224～241は肥前系磁器の端反碗の蓋である。

第140・141図224～233は「福壽」文が染付されるもので、第129～131図129～138の碗に伴う蓋である。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌に10点(つまみ破片10点)、第52号土壌に5点(つまみ破片4点)である。図示したのは10点だが、後の挿図に第52号土壌のものも4点示した(第196図8～11)。両遺構併せた個体数は14個体であり、身の13個体より1個体多く確認される。

第141図234～241は芦文が染付されるもので、第131・132図139～148の碗に伴う蓋である。非掲載資料を含めた破片数は、10点(つまみ破片4点)である。全て第51号土壌に伴うが、238は第54号土壌と遺構間接合した。図化したのは8点、個体数も8個体であり、身よりも少ない個体数の確認に留まった。

242～278は瀬戸美濃系磁器で、端反碗の蓋である。

第142図242～245は、やや大雑把に花文が

染付されるもので、第134図167～172の碗に伴う蓋である。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌に11点(つまみ破片5点)があるほか、第52号土壌に破片1点(つまみ破片無し)が認められる。図化したのは4点、個体数も4個体であり、身よりも少ない個体数の確認に留まった。

246～250は外面全体に花唐草文が染付されるもので、第133・134図161～166の碗に伴う蓋である。破片も含めて全てを図示した。個体数も図示した数と同じく5個体と考えられ、身より1個体少ない確認に留まった。全て第51号土壌に帰属する。なお247の口縁部破片は、別文様の第144図266と溶着した状態であった。火災時の落下などによって偶然溶着した可能性もあるが、別文様の蓋同士が重ねられて保管されていた可能性を示唆する。

第143図251～258は、岩や草文が染付されたもので、第135図173～177の碗に伴う蓋である。破片を含めた全ての個体を図示した。いずれも第51号土壌に帰属するが、第52・53号土壌との遺構間接合が認められた。個体数も図示した数と同じく8個体と考えられ、身より3個体多く確認された。

259は、外面に山水文が染付されるもので、第135図178～180の碗に伴う蓋である。第51号

土壌では図示した1点のみの出土であるが、第52号土壌から破片数11点(つまみ破片7点)が出土している。第197・198図16～22に第52号土壌から出土した同文のもの7点を図示した。両遺構の遺物を併せて、個体数は8個体である。

第143～145図260～275は、外面に牡丹文が染付された蓋で、第136・137図187～198の碗に伴う蓋である。非掲載資料を含めた破片数は17点(つまみ破片15点)である。全てが第51号土壌に帰属するが、274は第54号土壌と遺構間接合している。図化したのは16点で、個体数も16個体と推定する。したがって、身より4個体多く確認されたことになる。

第145図276～278は、外面に5羽の雁が染付されるもので、第135図181～186の碗に伴う蓋である。非掲載資料を含めた破片数は4点(つまみ破片3点)で、全てが第51号土壌に帰属し、遺構間接合は確認されなかった。図化したのは3点、個体数も3個体である。

第145・146図279～313までは、肥前系磁器の坏である。

第145図279・280は、体部の器壁が薄手で、外側に開く器形のものである。内面に若松文・東屋等の染付が認められる。同形同文のものは図示した2点のみであり、他に破片も出土していない。したがって個体数も2個体である。

281も体部の器壁は薄手であるが、外面に主文様が染付される。図示した1点のみの確認である。

第145・146図282～313は、厚手の坏で、外面にワンポイントで笹文を染付するものである。第51号土壌で32点、第52号土壌で4点(第198図23～26)を図示した。311・313のように、火を受けて著しく変形しているものもみられる。笹文の形や器形からみて、複数のタイプに分類し得るが、組物を特定するには至らなかった。したがって、正確な個体数の把握も困難である。染付の笹文が半分以上残っている破片を数えると、

第51号土壌で27点、第52号土壌で4点である。詳細な分類を行ったものではないが、両遺構併せて最少で31個体と推定しておく。

第146・147図314～331は、肥前系磁器の猪口である。底部は蛇の目状高台である。

第146・147図314～323は、外面に斜格子・四方禪文が、内面の口縁部に四方禪文、内底面に火焔宝珠文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は11点(底部破片10点)である。全てが第51号土壌に帰属するが、316は第54号土壌と遺構間接合する。底部が遺存する10点を図示した。個体数も10個体と推定される。

324～331は、外面に松竹・太湖岩文、内面の口縁部に四方禪文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は13点(底部破片9点)である。全てが第51号土壌に帰属するが、327・330・331は、第54号土壌と遺構間接合する。底部が遺存する8点を図示した。個体数も8個体と推定される。

332～463までは、肥前系磁器の皿である。

第147・148図332～341は、口径10cm強の小皿で、内面全体に植物の葉文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は13点(底部破片10点)である。全てが第51号土壌に帰属するが、337・339は第54号土壌と遺構間接合する。底部が遺存する10点を図示した。個体数も10個体と推定される。

第148・149図342～351は、口径10cm強の小皿である。干し網や雁文を描いた山水文が、内面全体に染付される。また、体部内面に陽刻状の型押し文が認められる。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌で38点(底部破片15点)である。また、第54号土壌に破片1点(底部破片無し)が認められるが、遺構間接合は認められなかった。図示したのは10点、個体数も10個体と推定される。

第149図352～360は、口径10cm程度の小皿である。内面全体に山水文が染付される。前述の

皿(342～351)は、山水文の中心に干し網・雁文が描かれるが、本類は東屋が中心に描かれる点で異なる。図示したのは9点、個体数も9個体と推定される。

第149～151図361～378は蛇の目凹形高台の五寸皿で、内面に露草文等が染付される。非掲載資料を含めた破片数は第51号土壌に33点(底部破片19点)である。また、第54号土壌に破片1点(底部破片無し)が出土しており、第51・53・54号土壌の間で遺構間接合が認められる(第61表の備考欄参照)。図示したのは18点、個体数は17個体と推定される。

第151・152図379～388は、蛇の目凹形高台の五寸皿で、内面に松樹文等が染付される。破片も含めて全てを図示した。図示したのは10点であるが、個体数は8個体と推定される。

第152～154図389～408は蛇の目凹形高台の五寸皿で、内面に山水文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は23点(底部破片20点)である。全て第51号土壌に帰属するが、400・402が第54号土壌、405が第53号土壌と遺構間接合している。図示したのは20点、最少個体数も20個体と推定される。

第155図409～417は、蛇の目凹形高台の五寸皿で、内面に八卦文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は16点(底部破片12点)である。全て第51号土壌に帰属し、遺構間接合は認められない。図示したのは9点、個体数は8個体と推定される。

第156図418・419は、蛇の目凹形高台の五寸皿で、やや深身のものである。内面に蛸唐草文が染付される。このタイプは、第51～54号土壌から出土しており、第51・52号土壌間で遺構間接合が認められる。

非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌から2点(底部破片2点)、第52号土壌から6点(底部破片3点)、第54号土壌から1点(底部破片

無し)である。第51号土壌で図示したのは2点だが、第52号土壌の挿図でも3点を図示した(第199図44～46)。各遺構を併せた個体数は、4個体と推定される。

第156・157図420～429は、蛇の目状高台の五寸皿で、内面全体に山水文が描かれる。非掲載資料を含めた破片数は21点(底部破片12点)である。全て第51号土壌に帰属するが、第54号土壌と遺構間接合したものが多い。図示したのは10点、個体数も10個体と推定される。

第157・158図430～439は、蛇の目状高台の五寸皿で染付は施されていない。非掲載資料を含めた破片数は24点(底部破片12点)である。全て第51号土壌に帰属するが、434は第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは10点、個体数は9個体と推定される。

第158～160図440～451は、口径14cm前後の厚手の皿で、波佐見系の粗製五寸皿である。高台内に著しく崩れた渦福文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は18点(底部破片17点)である。全て第51号土壌に帰属するが、444は第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは12点、個体数も12個体と推定される。

452～458は、口径21cm前後の中皿である。内面の体部に墨弾きによる梅樹文、内底面に環状松竹梅文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は10点(底部破片7点)である。全て第51号土壌に帰属するが、453～456は第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは7点、個体数も7個体と推定される。

第161・162図459～463は、口径29cm前後の大皿で、内面全体に山水樓閣文が染付される。口縁部は端反りになる。破片は全てが接合し、図示した5点に還元された。したがって、個体数も5個体と考えられる。

464～475は肥前系磁器の鉢で、平面形が八角形のものである。

464・465は外面の木瓜形窓枠内に梅樹・風景文が、内面の口縁部には角渦文が、内底面には宝文が染付される。破片数は少なく、図示した2点(底部破片1点)に留まった。全て第51号土壌に帰属する。個体数も2個体である。

466・467は、内面体部に主文様を染付するもので、変形の窓枠内に山水文等が描かれる。底部は蛇の目状高台である。破片数は少なく、図示した2点(底部破片1点)に留まった。全て第51号土壌に帰属する。個体数も2個体である。

第163図468～470も内面体部に主文様が染付されたもので、四単位の窓枠内に芦文等が描かれる。出土したのは図示した3点(底部破片3点)で、他の破片は認められない。全て第51号土壌に帰属する。個体数も3個体である。

第163・164図471～475は、外面の窓枠内に主文様が染付される。内面は口縁部を濃塗り後、墨弾きで文様が入れられ、内底面には蕨文が染付される。底部は蛇の目状高台になる。出土したのは図示した5点(底部破片5点)で、他に破片も認められない。全てが第51・54号土壌で遺構間接合している。個体数も5個体と考えられる。

476～481は、肥前系磁器の蓋物類の身で、このなかでも小形の480・481は合子として扱った。

第164図476～479は、外面全体に斜格子・四方禪文が染付されるものであるが、僅かに法量差がある。476～478は、口径9cm強のものである。非掲載資料を含めた破片数は5点(底部破片3点)である。全て第51号土壌に帰属するが、476は第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは3点、個体数も3個体と推定する。

これらと染付文様が同じ479は、口径が7.7cmで少し小さい。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌で4点(底部破片1点)、第54号土壌で1点(底部破片無し)である。図示した479は第54号土壌と遺構間接合している。個体数は2個体と推定する。

480・481は、外面の窓枠内に植物・風景文が染付されるものである。非掲載資料を含めた破片数は第51号土壌で5点(底部破片2点)、第54号土壌で1点(底部破片1点)であり、遺構間接合も確認された。図示したのは2点で、他に第54号土壌のものを第209図4に示した。両遺構を含めた個体数は2個体と推定される。

第165図482～488は、肥前系磁器の蓋で、蓋物・合子に伴うものである。

482は、外面全体に斜格子・四方禪文が染付されるもので、サイズから476～478の蓋とみられる。出土したのは図示した1個体である。第54号土壌と遺構間接合している。

483・484も外面全体に斜格子・四方禪文が染付されるもので、482より小形である。サイズから479の蓋と思われる。出土したのは図示した2個体である。484は第54号土壌と遺構間接合している。

485は、外面に5単位の菊花文が染付され、その間は斜格子文で充填される。対応する身の破片は認められない。図示した1個体のみの出土である。

486・487は、外面の窓枠内に植物文・風景文が染付されるもので、480・481の蓋である。図示した2個体のみの出土である。

489～494は、肥前系磁器の仏飯器である。外面口縁部付近に斜格子文が染付される。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌に7点(底部破片5点)、第53号土壌に1点(底部破片無し)である。なお、493は第51・54号土壌で遺構間接合している。各遺構を併せた個体数は6個体と推定される。

495は、肥前系磁器の香炉で、外面に草花文が染付される。496は肥前系磁器の灰落しである。形態は筒形で、高台は幅広い輪高台である。

497・498は、肥前系磁器の水滴である。図示した2個体は同形・同文のものである。

第165・166図499～507は、肥前系磁器の瓶類である。499は、筒形の御神酒徳利で、外面に蛸唐草文が染付される。500は、やや小形の御神酒徳利である。

501～507は肥前系磁器の油壺である。

501・502は体部下位のみが残るものだが、染付は認められない。503は梅樹文が染付される。

504～507は、外面に蛸唐草文が染付される同形・同文のものである。出土したのは図示した4個体である。他の破片は認められない。

508は肥前系磁器の戸車である。第51号土壙からは大・中・小サイズが出土しており、破片数から各1個体(計3個体)と推定される。図示したのは中サイズのものである。

第167図1～14までは、陶器碗である。

1は、瀬戸美濃系陶器の腰鉢碗である。2～4は、京都信楽系陶器の小形碗で3点を図示した。非掲載の破片は細片のみで、個体数も3個体と考えられる。

5～11は京都信楽系陶器の端反碗で、口縁部に緑釉が流し掛けされる。図示したのは7個体で、他に破片は認められない。12・13は、萩焼の開口碗である。高台部は渦巻き状にケズリが施される。図示した2個体分で、他の破片は認められない。

14は肥前系陶器の平碗で、いわゆる、京焼風陶器である。肥前系陶器はほとんど出土しておらず、他に兵器手碗の破片のみみられるのみである。

15は、瀬戸美濃系陶器の坏である。灰釉が施される。図示した個体のほか、細片3片があるのみで、組物のような出土状況ではない。なお、第52号土壙からも1個体(第201図64)が出土している。

第167・168図16～21までは、瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。16～19までは、油皿である。大小のサイズ差があり、16は口径10cmほどやや大形、17～19は口径7cm強の小形のもので

ある。油受皿の大小(20・21)と対応するものであろう。個体数は図示した数と同じで、大形は1個体、小形は3個体である。このうち小形の3個体は被熱して黒化している。なお、第51～54号土壙全体での個体数は11個体と推定され、このうち6個体は被熱している。

20・21は油受皿であるが、被熱は認められない。図示したのは大小2点だが、第51号土壙の個体数は3個体と推定する。なお、第51～54号土壙全体での個体数は10個体と推定され、このうち4個体は被熱している。

22・23は陶器の乗燵で、台付たんころ形のものである。産地は不詳である。図示した2個体が確認される。24も産地不明の灯火具で、手付皿台付の乗燵である。図示した1個体のみの確認である。

25・26は瀬戸美濃系陶器の大皿で、口縁部が肥厚し、蛇の目状の幅広い高台を有す。いずれも強く被熱している。図示した2個体が出土し、いずれもほぼ完形に復元された。

第168・169図27～35は瀬戸美濃系陶器の片口鉢である。大小2タイプが認められる。

27～29は、口縁部が受け口状に窪むもので、体部の立ち上がりは、やや直線的である。内面には3箇所が目跡が認められる。非掲載資料を含めた破片数は4点(底部破片3点)である。図示したのは3点で、個体数も3個体と推定される。

第169図30～35は、口唇部が内面側に傾斜して、僅かに突出する。体部中位で大きく腰が張る。器形の類似性が強く、同時期に生産された組物の可能性が高い。非掲載資料を含めた破片数は第51号土壙で8点(底部破片5点)、第54号土壙で1点(底部破片無し)であり、遺構間接合も確認された。図示したのは6点で、個体数も6個体と推定される。

第170図36・37は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。破片数は合計で6点だが、いずれも図示し

た2点と同一個体と判断される。したがって、個体数は2個体である。

38は瀬戸美濃系陶器の播鉢で、口縁部の破片である。被熱の有無は不明確である。瀬戸美濃系陶器の播鉢はほとんど出土しておらず、この他には第52号土壌(下層)から細片2点が出土したのみである。

第170～173図39～45は、堺明石系陶器の播鉢である。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌で9点(底部破片8点)、第52号土壌で1点(底部破片無し)、第53号土壌で7点(底部破片1点)である。

なお、44は、第54号土壌と遺構間接合している。図示したのは7点で、個体数は8個体と推定する。第53号土壌にも1個体(第205図12)が認められるので、両遺構併せた個体数は9個体である。いずれも被熱している。ただし、内底面の描目パターンは「三角パターン」と「放射パターン」の二種類がある。

第174図46～48は、瀬戸美濃系陶器の柿釉甕である。大小の差がある。第51号土壌で3個体、第52号土壌に2個体を図示(第201図71・72)したほか、第54号土壌にかなり小さいもの(第209図11)がある。このほかには、第53号土壌に破片3点があるのみである。

第174図49は、瀬戸美濃系陶器の火鉢である。灰釉を地に緑釉が流し掛けされる。把手は環状で刻みを入れて装飾される。円形の低い脚が付属する。1個体のみ出土した。強く被熱している。

第175図50～56は、産地不詳の陶器徳利で、ペコかん形に体部が窪む。頭部は細い鶴首状である。胎土は妬器質、底部を一方からケズリ処理する特徴的なものである。なお、内面のロクロナデ痕から左回転のロクロ成形と考えられ、右回転を基本とする瀬戸美濃系陶器とは異なっている。第51号土壌では7点を図示したが、個体数は6個体と推定する。他に第53号土壌に1個体(第

205図10)があるので、両遺構併せた個体数は7個体である。

57は瀬戸美濃系陶器のペコかん徳利で、柿釉を施すものである。第51号土壌から出土したのは図示した1個体であるが、第52号土壌にも1個体(第201図73)あり、両遺構併せて2個体分あったものと思われる。

58は、瀬戸美濃系陶器の油徳利である。図示した1個体のみの出土である。第176図59・60は、瀬戸美濃系陶器の一升徳利で、灰釉を施す。図示した2個体分である。61は瀬戸美濃系陶器の徳利のうち、舟徳利形のものである。図示した1個体のみの出土である。

62は産地不詳の徳利で、「すず徳利」と言われるものである。形態やトビガンナ状の施文、頸部・体部間での釉の掛け分けから、大堀相馬系陶器である可能性が高い。顕著に被熱している。「すず徳利」としては比較的古い時期の例と思われる。図示した1個体のみの出土である。

第177図63は瀬戸美濃系陶器の花生で、瓶子丸耳形の仏花瓶である。灰釉・鉄釉が掛け分けされる。図示した1個体のみの出土である。

64は瀬戸美濃系陶器の水注である。注口は欠失する。体部は筒形で器壁は薄く、外面に鉄釉が施される。図示した1個体の出土で、被熱している。なお、灰釉が施された同種の水注体部が1片出土しているが、被熱は認められない。

65は、産地不詳の陶器鍋である。板状の双耳の柿釉鍋で、被熱している。66は産地不明陶器で、行平鍋の蓋である。白化粧後に鉄釉を施す。被熱は認められない。

67・68は、青緑釉土瓶の蓋である。非掲載資料を含めた破片数は4点(つまみ破片数2点)であり、個体数は2個体と考えられる。このほか、第52号土壌から1個体(第201図74)が出土しており、両遺構併せた個体数は3個体である。

69～72は、青緑釉土瓶の身である。非掲載資

料を含めた破片数は、第51号土壌で10点（底部破片4点）、第52号土壌で6点（底部破片2点）である。図示したのは、第51号土壌の4点と第52号土壌の2点（第201図81・82）であり、両遺構併せた個体数は6個体と推定される。

73・74は瀬戸美濃系陶器の土瓶で、蓋と身の組物と考えられるものである。身のほうは複数破片となっているが、同一個体と判断し、図上復元している。

第177・178図75・76は、陶器土瓶の身である。灰釉を施す薄手のもので、体部は扁平である。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌に8点（底部破片1点）、第52号土壌に6点（底部破片4点）である。図示したのは第51号土壌の2点で、個体数も同数である。ただし、第52号土壌にもう1個体分の破片が認められるので、両遺構併せた個体数は3個体とみられる。

77も陶器土瓶の身で、体部が二回屈曲しながら立ち上がる。非掲載資料を含めた破片数は3点（底部破片1点）である。図示したのは1点だが、個体数は2個体分と推定される。

78は鉄釉を施す陶器蓋で、土瓶の蓋と思われる。被熱している。

79は水滴で、京都信楽系陶器と思われる。孔（注ぎ口）の周囲は菊花状に裝飾されている。

80・81は、常滑焼の甕である。口縁部と底部であり、同一個体の可能性もある。

第179～192図1～51は土器類である。

第179～182図1～21は瓦質土器の丸火鉢で、在地系の製品である。全て被熱している。非掲載資料を含めた破片数は40点（底部破片24点）であり、全て第51号土壌に帰属するが、21は第54号土壌と遺構間接合している。図化したのは21点で、個体数も同数である。

第182図22は江戸在地系土器と考えられる火鉢で、円筒形のものである。被熱して赤変している。図示した1個体の確認である。

23は、輪高台状の脚台が付く火鉢である。これらには大小のタイプが認められる。23は大形のもので口径27.7cm、高さ13.7cmである。このほか、第54号土壌に同じサイズのものともみられる破片があり、両遺構併せて2個体分である。

第182図24の角火鉢、25の火消盎は各1個体の確認である。第183図26・27の甕は図示した2個体の確認である。

第183～192図28～47は瓦質土器の焙烙である。底部が平底になるもので、いわゆる「田舎焙烙」である。全て被熱している。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌で53点（底部破片49点）、第52号土壌で6点（底部破片4点）、第53号土壌で1点（底部破片1点）、第54号土壌で2点（底部破片無し）であり、ほとんどが第51号土壌から出土している。この4基での遺構間接合は認められず、主体的に第51号土壌に投棄されている様相である。図示したのは第51号土壌から出土した20点で、個体数は21個体と推定される。

48・49は土師質土器の焙烙で、丸底のものである。ともに江戸在地系のものである。非掲載資料を含めた破片数は、第51号土壌で13点（底部破片2点）、第52号土壌（下層）で2点（底部破片1点）である。非掲載資料は全て江戸在地系焙烙の細片であり、個体数は図示した2個体分（在地系・江戸在地系各1個体）に留まる。

50は、土師質土器の把手付鍋である。把手には上方から下方に向かって穿孔があるが、下側は貫通していない。身の部分に補修孔が認められる。51は土師質土器の蓋形土器である。詳細な用途は不明である。

第193図1～3は木製品である。1は桶の蓋である。裏面が炭化している。「㊤」の焼印がある。2は膳である。表面に赤漆、裏面に黒漆が塗布される。また、脚がついていた痕跡がある。3は鏡箱である。表面には赤漆が塗布される。裏面

は炭化している。

第193図4～8、第194図9は石製品である。

4は、ホルンフェルス製の砥石である。砥面は2面残るが、側面に砥面と思われる摩耗面が僅かに遺存している。端面は節理に沿った折損と判断した。5は、黄色味が強い灰白色の粘板岩製砥石である。側面に密なノコギリ状工具痕がみられ、左側面には段が遺存している。砥面は2面残る。

6は、硯に使われるような粗粒の凝灰岩を素材とするが、4面が平滑な長方形で、右側面に明瞭な線条痕がみえることから砥石と判断した。裏面は部分的に摩耗し、刃物の当たりと思われる断面「V」字状の傷がみられる。荒砥と思われるが、栗桶宿跡で砥石に利用される石材としては稀なものである。

7は砥石で、酸化鉄分の付着が著しく、被熱による黒化もみられる。おそらく、白色の流紋岩が用いられていると思われる。右側面と裏面にノコギリ状工具痕がみられる。裏面のノコギリ状工具痕には段が付き、中央には帯状に突出した、折断と思われる剥離痕がみられる。左側面には、チョウナと推定される刃幅の広い工具痕がみられる。砥面は2面である。

8は、安山岩製石臼の下臼である。中央の軸孔が遺存している。下面は窪み状に加工し、上面には摺目がみえる。被熱し、一部剥落している。

9は、切石材である。酸化鉄分が全面に付着し、石材の肉眼判別が難しい。砂岩と判断したが、粗粒な凝灰岩である可能性もある。上・下面に、サキノミ状工具痕が長軸に斜交するように、一方向にみられる。上面は、工具で削った際の剥離により、凸凹がある。側面には、刃幅の広い工具による削痕が一定間隔でみとめられる。下面は強く摩耗している。

第194図10は壁土（壁土）である。竹材と思われる断面円形の圧痕がみられる。また、上面にも別種の圧痕がみえる。第52号土壌から出土した

破片と接合した。

第52号土壌（第195～203図）

B5-1 7グリッドに位置する。捨て杭が打ち込まれており、重複する第12号建物跡より古い。第二面で検出された第147号土壌は、第52号土壌と位置・規模・形態が一致したことから、整理段階で同一の土壌と判断した。

平面形は長方形で、覆土は6層に分けられた。最下層は遺物を包含し、麦と思われる穀殻を主体とする褐色土（第6層）で、その上を粗砂を多量に含んだ灰褐色シルト（第5層）で埋め戻している。発掘段階ではこの二層を第147号土壌としていた。

また、第4層以上は多量の遺物と共に焼土ブロック、炭化物主体の土で埋め戻した上で、しまりの強いシルト（第1層）で覆っており、第5層以下と様相が明らかに異なっている。

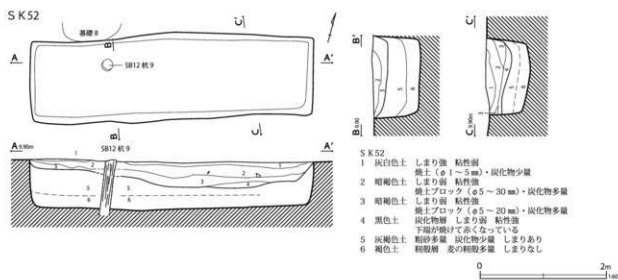
第4層以上は覆土の状況や焼け歪んだ陶磁器の出土から火災後の片付けを行ったものとみられる。出土陶磁器の様相から、19世紀第I四半期（具体的には文政五年）に位置付けられる。

一方、第5・6層の出土遺物は少ないが、肥前系磁器の粗製碗や瀬戸美濃系陶器のせんじ碗等、18世紀中葉～後半の陶磁器で占められており、明確な時期差がみえる。

したがって、第52号土壌は長期にわたって開口した状態にあり、最終的に文政五年（1822）に、火災後の片付けを行って廃絶したと考えられる。第4・5層の境が焼けて赤化しているのはその証左であろう。

挿図では第196～202図に第1～4層出土遺物、第203図に第5・6層の出土遺物を示した。

第52号土壌の陶磁器は、前述のように第51・53・54号土壌との接合が多く、同時に投棄された被熱遺物を含むものとみられる。破片数、個体数については、第51号土壌の記述も参照してほしい。



第195図 第52号土壌

第196～200図1～63までは、磁器類である。

第196図1は、肥前系磁器の小丸碗で、第51号土壌のもの(第122図36・37)と同文である。2は、肥前系磁器の広東碗である。外面に蕨文や蝶が染付される。第51号土壌のものに、組物になる蓋(第139図219)がある。3は肥前系磁器の広東碗の蓋で、草花文が染付される。

第196図4～7は、肥前系磁器の端反碗である。「福壽」文が染付されるもので、第51号土壌と同文がある(第129～131図129～138)。8～11はその蓋であり、第51号土壌の第140・141図224～233と同文である。

第197・198図12～22は、瀬戸美濃系磁器の端反碗と蓋である。12は、山水文等が染付される蓋であるが、組物になる身は確認できない。13・14は別文様の身の部分である。15は、蓮弁が染付される蓋であり、組物になる身は確認できない。16～22は同文の蓋である。第51号土壌に同文がある(第143図259)。

第198図23～29は、肥前系磁器の坏である。23～26は笹文が染付される。27～29は筒形碗を小形化した形態の坏である。27・28は同文で、他に第53号土壌からも破片が出土している。両

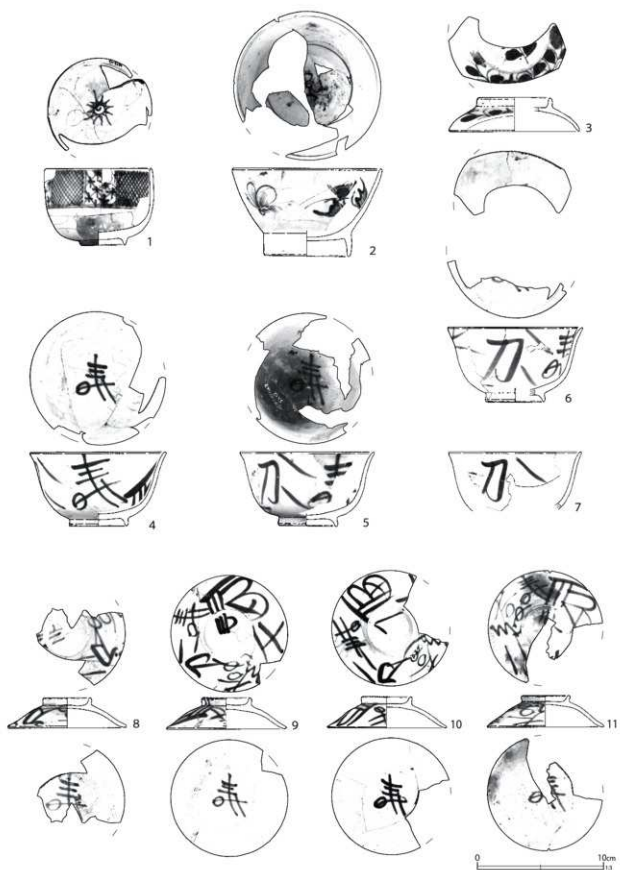
遺構併せて3個体分と推定される。

第198図30～35は肥前系磁器の猪口で、外面に山水楼閣文、内面口縁部に四方禪文、内底面に東屋状の楼閣文を染付する。非掲載資料を含めた破片数は11点(底部破片数6点)で、全て第52号土壌に帰属し、別遺構との接合も認められない。図示したのは6点、個体数は4個体である。

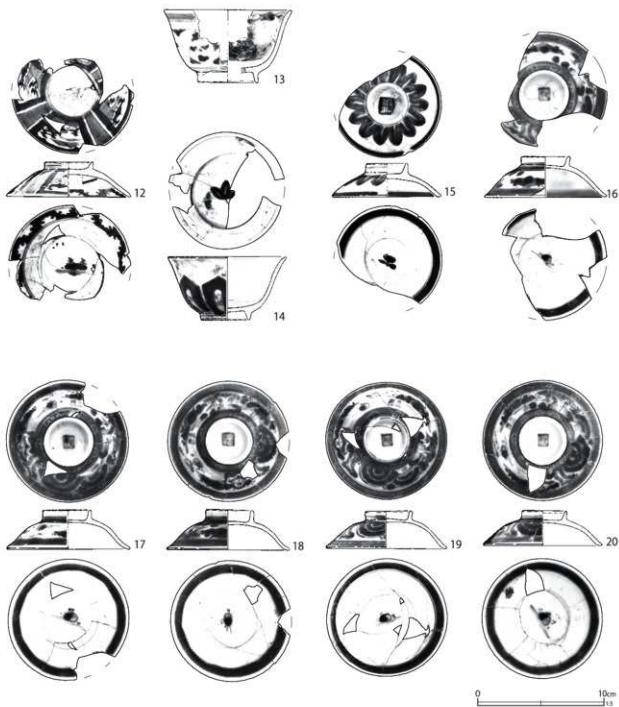
第198図36～41は、肥前系磁器の皿で、型成形のものである。内面に型紙摺絵で染付が施される。図示した6個体が確認される。全て第52号土壌に帰属し、遺構間接合は認められない。

第199図42・43は、肥前系磁器の小皿である。42は厚手・粗製のもので内面体部に鋸歯文、内底面に五弁花文が染付される。43は内面に山水文を染付するものと推定される。44～46は肥前系磁器の皿で、腰が張る形態である。第51号土壌に同文がある(第156図418・419)。

第199・200図47～50は肥前系磁器の皿で、口縁部を玉縁状に丸め、底部を蛇の目凹形高台とするものである。外面には一重の唐草文、内面には瓢箪文、内底面には環状松竹梅文が染付される。第52号土壌からは図示した4点が出土した。このほか、第53号土壌から破片2点(底部破片2点)



第196图 第52号土坑出土遗物(1)



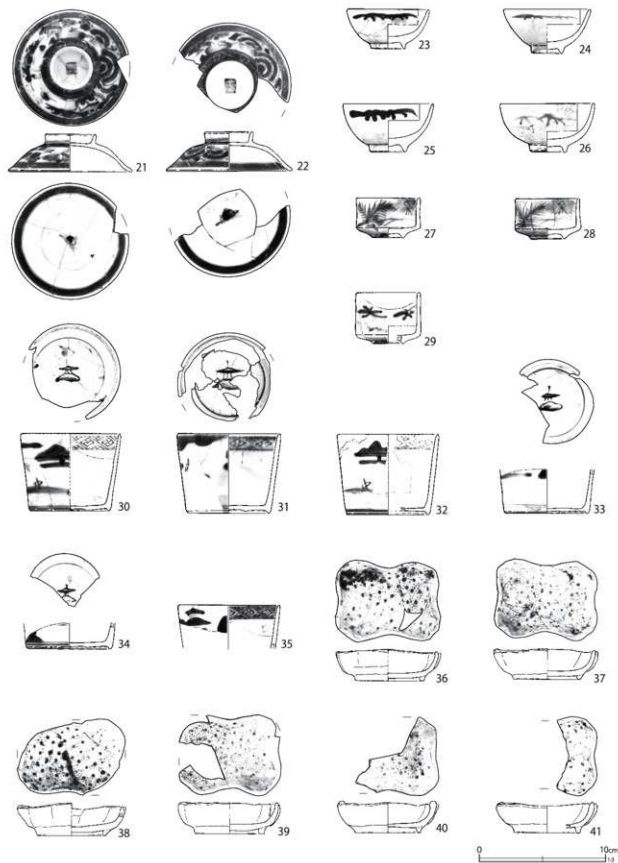
第197図 第52号土壇出土遺物(2)

が出土しているが、個体数としてはカウントし得なかった。したがって、個体数は第52号土壇から出土した4個体である。

51は肥前系磁器の鉢で、平面形が八角形のものである。52・53は肥前系磁器で、筒形の合子

の蓋・身である。54は肥前系磁器の香炉で、青磁釉が施される。

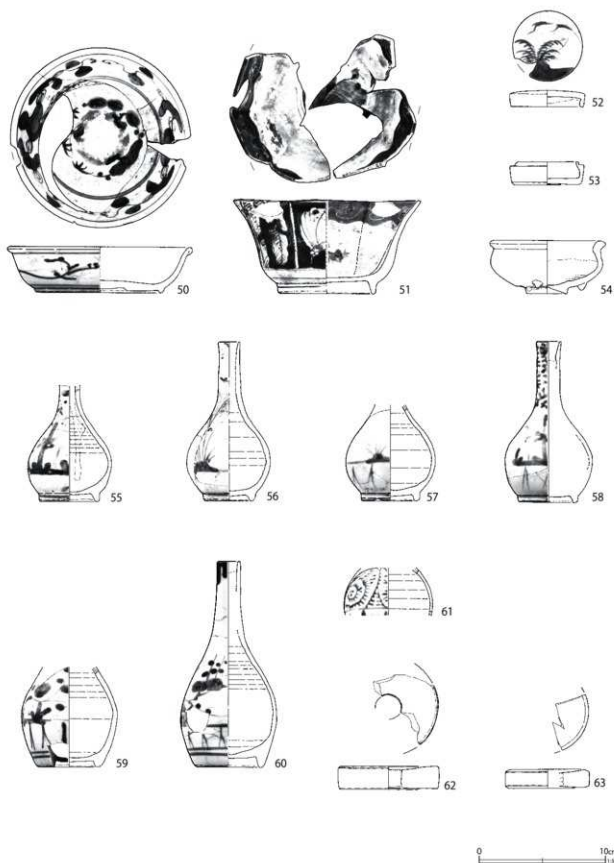
55～61は、肥前系磁器の御神酒徳利である。55と56、57と58、59と60が、各々組物と思われる。



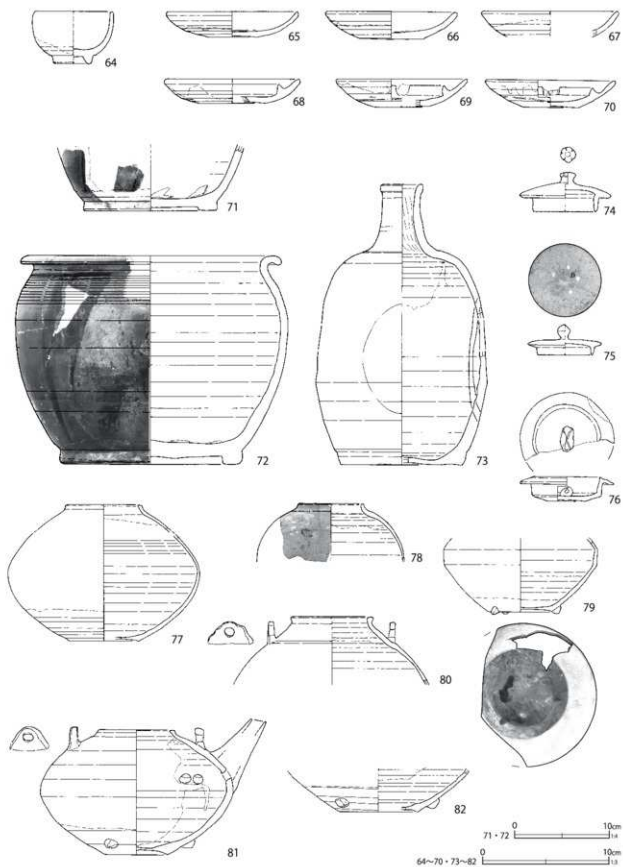
第198圖 第52号土壙出土遺物(3)



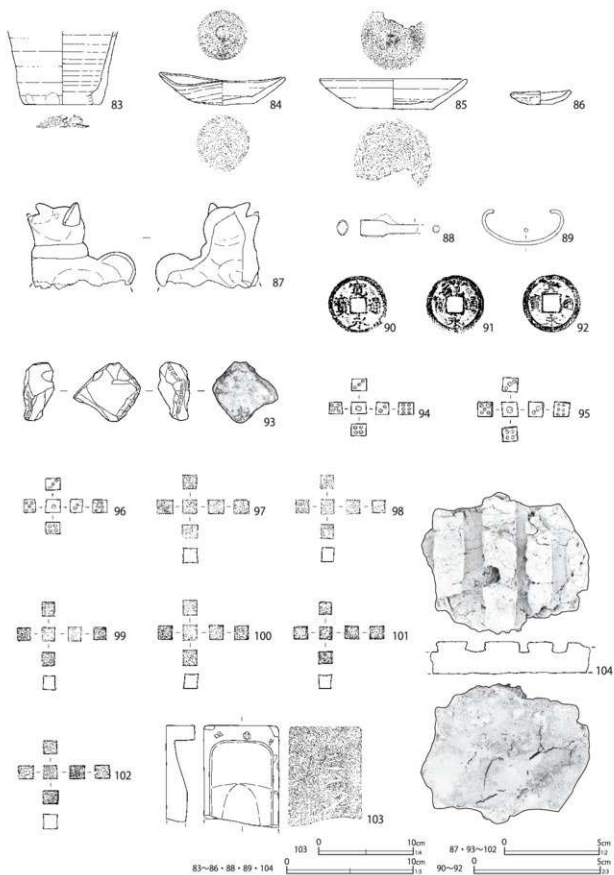
第199图 第52号土坑出土遗物(4)



第200图 第52号土坑出土遗物(5)



第201図 第52号土壇出土遺物(6)



第202图 第52号土壙出土遗物(7)

第 66 表 第 52 号土壇出土遺物観察表(1) (第 196 ~ 202 因)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	8.2	6.1	3.4	—	50	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 一部赤変 (小丸碗)	145-1
2	磁器	碗	11.7	6.9	6.5	—	75	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (広東碗)	145-3
3	磁器	蓋 (5.6)	2.7	(10.2)	—	25	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗の蓋)		
4	磁器	碗	10.6	5.8	4.4	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗)	145-2
5	磁器	碗	10.4	5.8	4.4	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱して一部黒化 (端反碗)	145-4
6	磁器	碗 (10.5)	5.9	(4.5)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗)		
7	磁器	碗 (10.4)	[4.6]	—	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱 (端反碗)		
8	磁器	蓋	3.6	2.4	(9.2)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗の蓋)	
9	磁器	蓋	3.7	2.5	9.2	—	95	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	145-5
10	磁器	蓋 (10.4)	[4.6]	—	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	145-6	
11	磁器	蓋	3.7	2.5	9.1	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱して一部黒化 (端反碗の蓋)	
12	磁器	蓋	3.7	2.7	(9.7)	—	55	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	
13	磁器	碗 (10.0)	5.7	(4.5)	—	20	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗)		
14	磁器	碗	9.2	5.0	3.7	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 強く被熱 (端反碗)	145-7
15	磁器	蓋	3.1	2.6	8.4	—	70	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	146-1
16	磁器	蓋	3.7	3.2	(9.5)	—	45	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	
17	磁器	蓋	3.6	3.1	9.5	—	90	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	
18	磁器	蓋	3.6	3.2	9.5	—	90	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	146-2
19	磁器	蓋	3.5	3.0	9.4	—	85	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	146-3
20	磁器	蓋	3.7	3.0	9.5	—	90	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗の蓋)	146-4
21	磁器	蓋	3.3	2.8	9.2	—	95	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	147-1
22	磁器	蓋	3.7	3.1	(9.6)	—	50	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (端反碗の蓋)	
23	磁器	坏	6.3	3.1	2.6	—	95	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	147-2
24	磁器	坏	6.8	3.5	2.4	—	85	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	
25	磁器	坏	7.0	3.8	2.6	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	
26	磁器	坏	7.3	3.9	2.6	—	80	普通	灰白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	147-3
27	磁器	坏	4.9	3.1	2.5	—	95	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱・煤付着	147-4
28	磁器	坏	5.0	3.2	2.5	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	147-5
29	磁器	坏 (5.0)	4.0	(2.4)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱		
30	磁器	猪口	7.7	6.1	6.1	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熱	147-6
31	磁器	猪口 (8.0)	6.3	6.2	—	55	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台		
32	磁器	猪口 (7.8)	6.4	(6.2)	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 被熱 外面割裂 煤付着		
33	磁器	猪口	—	[3.5]	6.2	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 煤付着	
34	磁器	猪口	—	[2.1]	6.2	—	15	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目状高台 弱く被熱	
35	磁器	猪口	7.8	[3.4]	—	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 煤付着	
36	磁器	皿	8.2	2.5	5.4	—	95	普通	白	肥前系 型成形 内外面施軸 内面型紙摺給染付 強く被熱	147-7
37	磁器	皿	8.2	2.5	5.4	—	100	普通	白	肥前系 型成形 内外面施軸 内面型紙摺給染付 強く被熱	148-1
38	磁器	皿 (8.4)	2.6	5.4	—	70	普通	白	肥前系 型成形 内外面施軸 内面型紙摺給染付 強く被熱		
39	磁器	皿 (7.4)	2.5	5.4	—	75	普通	白	肥前系 型成形 内外面施軸 内面型紙摺給染付 強く被熱	148-2	
40	磁器	皿 (7.4)	2.5	(5.2)	—	45	普通	白	肥前系 型成形 内外面施軸 内面型紙摺給染付 被熱		
41	磁器	皿 (7.2)	2.4	(5.2)	—	30	普通	白	肥前系 型成形 内外面施軸 内面型紙摺給染付 弱く被熱		
42	磁器	皿	9.1	2.3	4.2	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱	
43	磁器	皿	10.3	2.2	5.4	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	
44	磁器	皿	14.6	4.9	9.4	—	75	普通	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目形高台 地味煎 被熱	148-3
45	磁器	皿	15.0	4.9	9.9	—	65	良好	灰白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目形高台 地味煎 被熱	148-4
46	磁器	皿 (15.0)	5.0	(9.8)	—	5	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目形高台 強く被熱 一部赤変		
47	磁器	皿	14.0	3.4	9.6	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目形高台 被熱	148-5
48	磁器	皿 (14.3)	3.7	9.7	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目形高台 弱く被熱		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
49	磁器	皿	14.2	3.9	9.8	—	70	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
50	磁器	皿	14.2	3.6	9.8	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目回形高台 強く被熱	149-1
51	磁器	鉢 (14.4)	7.4	7.3)	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	149-2	
52	磁器	蓋	—	1.3	5.6	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱 (合子の蓋)	149-3
53	磁器	合子	4.6	1.8	5.0	—	80	普通	白	肥前系 内外面施軸 強く被熱	149-3
54	磁器	香炉	8.4	4.2	3.0	—	70	良好	灰	肥前系 内面上位から外面青緑軸 強く被熱	149-4
55	磁器	徳利	—	[9.2]	(4.4)	—	70	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	149-5
56	磁器	徳利	1.7	12.5	(3.4)	—	65	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	149-6
57	磁器	徳利	—	[7.6]	4.2	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	
58	磁器	徳利	1.8	12.7	4.2	—	90	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	149-7
59	磁器	徳利	—	[7.9]	4.7	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱	150-1
60	磁器	徳利	1.6	16.2	4.9	—	75	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 被熱	150-2
61	磁器	徳利	—	[3.7]	—	—	20	良好	白	肥前系 内外面施軸 被熱	
62	磁器	戸車 (7.7)	1.8	[7.7]	—	—	30	良好	白	肥前系 側面施軸 最大径 (8.0) cm	
63	磁器	戸車 (6.0)	1.5	[6.1]	—	—	20	普通	白	肥前系 側面施軸 強く被熱 最大径 (6.6) cm	
64	陶器	坏	5.9	4.1	2.5	IK	100	良好	にぶ黄緑	瀬戸美濃系 内外面灰軸 強く被熱	150-3
65	陶器	灯明皿	10.3	2.0	3.9	IK	75	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面下位抜き取り 内面重ね焼き	
66	陶器	灯明皿	10.2	2.2	5.0	I	80	普通	明青灰	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面下位抜き取り 内面重ね焼き 強く被熱・変色	150-4
67	陶器	灯明皿	10.6	[2.0]	—	HI	30	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面柿軸 体部下位抜き取り 強く被熱・変色	
68	陶器	灯明皿 (10.4)	1.9	(5.0)	I	40	普通	灰	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面下位抜き取り・直重ね焼き 強く被熱・変色		
69	陶器	灯明皿 (10.2)	2.2	(4.0)	I	30	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面下位抜き取り 直重ね焼き		
70	陶器	灯明皿 (10.0)	2.2	4.4	DI	70	普通	灰	瀬戸美濃系 内外面柿軸 体部下位直重ね焼き 強く被熱・変色	150-5	
71	陶器	甕	—	[7.0]	13.8	EK	20	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面鉄軸流し掛け 被熱	
72	陶器	甕	25.5	22	17.5	I	60	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面鉄軸流し掛け 内底面目跡 5 被熱・煤付着	150-6
73	陶器	徳利	3.1	22.1	(9.7)	I	50	良好	にぶ黄緑	瀬戸美濃系 内外面柿軸 体部窪み 強く被熱 上下接点ない数破片から図化	
74	陶器	蓋	—	3.1	(4.8)	I	55	普通	灰白	上面青緑軸 強く被熱 (土瓶の蓋) 最大径 (7.2) cm	150-7
75	陶器	蓋	—	2.4	4.2	I	100	普通	灰	上面灰軸・鉄給・白盛給付 強く被熱 (土瓶の蓋) 最大径 5.8 cm	150-8
76	陶器	蓋	5.3	1.9	3.0	I	50	良好	灰	上面鉄軸 強く被熱・黒化 (土瓶の蓋)	
77	陶器	土瓶 (5.4)	(10.8)	(5.4)	—	—	15	普通	灰白	京都信楽系 外面灰軸 強く被熱	
78	陶器	土瓶 (5.0)	[4.5]	—	I	10	普通	灰白	外面灰軸 鉄給・白盛給付 強く被熱	151-1	
79	陶器	土瓶	—	[6.0]	5.1	I	40	普通	灰	外面施軸 底部黒書 強く被熱・変色	151-2
80	陶器	土瓶 (6.3)	[5.3]	—	H	20	普通	灰	外面鉄軸 強く被熱	151-3	
81	陶器	土瓶	5.9	10.7	5.0	H	40	普通	淡黄	外面青緑軸 強く被熱・一部赤変	151-4
82	陶器	土瓶	—	[3.4]	(6.2)	EI	20	普通	灰白	外面青緑軸 強く被熱して赤変	
83	土師質土器	楕木鉢	—	[5.8]	(5.8)	AH	15	普通	にぶ黄緑	江戸在地系 底部赤切痕 被熱	151-5
84	かわらけ	小皿	9.6	2.6	4.0	GI	75	不良	黄灰	江戸在地系 底部赤切痕 (左) 強く被熱して黒化・歪む	151-6
85	かわらけ	小皿	11.5	2.4	6.0	AG	50	普通	黒	江戸在地系 底部赤切痕 (左) 被熱して黒化	
86	かわらけ	小皿	4.4	1.1	2.0	IK	100	普通	にぶ黄緑	非クロコ成形 被熱して一部白変	151-7

62・63は肥前系磁器の戸車で、大小、各1点が確認される。

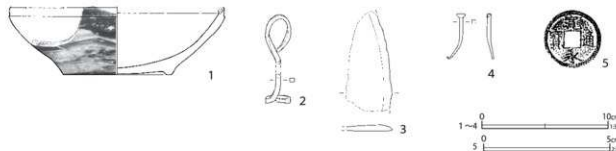
第201図は陶器である。64は瀬戸美濃系陶器の坏で、灰軸が施される。65～70は、瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿である。このうち、65～67

までは油皿で、非掲載資料を含む破片数は6点(底部破片4点)である。図化したのは3点だが、個体数は4個体と推定する。この中には被熱資料2個体が含まれる。

68～70までは油受皿で、非掲載資料を含む破

第 67 表 第 52 号土壇出土遺物観察表 (2) (第 202 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	備考	図版	
87	土製品	人形	[4.6]	5.7	1.5	14.4	AI	普通	黒褐	江戸在地系 大 前後合型成形 中空 被熱	240-9	
88	銅製品	煙管	長さ [4.7] 小口径 1.2 × 0.9 重さ 5.6								横口 口付欠損 歪みあり 寛永通寶 (古) 寛永通寶 (新) 寛永通寶 (新)	270-6
89	銅製品	把手	縦 2.8 横 6.5 厚さ 0.3 重さ 4.8									
90	銅製品	銭貨	径 23.7 厚さ 1.4 重さ 2.9									
91	銅製品	銭貨	径 23.5 厚さ 1.3 重さ 2.1									
92	銅製品	銭貨	径 23.3 厚さ 1.3 重さ 2.2									
93	石製品	火打石	3.2	3.5	1.6	13.8	-	-	-	玉軸 稜潰れ著しい 被熱 (白色化)	291-4	
94	石製品	糞子	0.7	0.8	0.7	0.8	-	-	-	白色石材 六目	291-3	
95	石製品	糞子	0.8	0.9	0.8	1.0	-	-	-	白色石材 六目	291-3	
96	石製品	糞子	0.7	0.8	0.7	0.7	-	-	-	白色石材 六目	291-3	
97	石製品	糞子	0.8	0.8	0.8	1.1	-	-	-	白色石材 目なし	291-3	
98	石製品	糞子	0.7	0.8	0.8	0.8	-	-	-	白色石材 目なし	291-3	
99	石製品	糞子	0.7	0.8	0.8	0.9	-	-	-	白色石材 目なし	291-3	
100	石製品	糞子	0.8	0.8	0.8	1.1	-	-	-	白色石材 目なし	291-3	
101	石製品	糞子	0.7	0.7	0.8	0.8	-	-	-	白色石材 目なし	291-3	
102	石製品	糞子	0.8	0.8	0.8	1.0	-	-	-	白色石材 目なし	291-3	
103	石製品	硯	長さ [10.7] 幅 7.9 器高 3.0				297.4	-	-	福徳岩 裏面刻書「三 []」	296-1	
104	壁材	-	[12.6]	-	2.5	267.5	HK	-	-	材圧痕 (1種類) 被熱 (強) 高さ [11.0] cm	299-5	



第 203 図 第 52 号土壇下層出土遺物

第 68 表 第 52 号土壇下層出土遺物観察表 (第 203 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版	
1	陶器	鉢	-	[5.4]	8.4	I	40	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面から底部拭き取り 被熱・僅付着		
2	銅製品	掻立て	高さ [2.4] 幅 0.4 厚さ 0.3 重さ 7.9									
3	鉄製品	釜か	縦 [8.0] 横 [3.7] 厚さ 0.5 重さ 36.1							罎の一部		
4	鉄製品	釘	長さ 3.6 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 1.2									
5	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.0 重さ 2.3								寛永通寶 (新)	

片数は 4 点 (底部破片 3 点) である。図化したのは 3 点だが、個体数は 4 個体と推定する。この中には被熱資料 2 個体が含まれる。なお、油皿・油受皿ともに小形のもののみみられない。

71・72 は瀬戸美濃系陶器の柿軸甕で、大小の法量差が認められる。73 は瀬戸美濃系陶器の柿軸徳利で、べこかん形のものである。

74～76 は、陶器の土瓶蓋である。74 は青緑

釉土瓶の蓋、75 は完形のもので、白盛で珠文状の絵付けが施される。76 は鉄軸のものである。

77～82 は、陶器の土瓶である。77 は光沢が強い灰軸が施される。体部に球形に近く、器高が高い。非掲載資料も含めた破片数は、第 51 号土壇に 2 点 (底部破片無し、注口部破片 1 点)、第 52 号土壇に 3 点 (底部破片 1 点) である。個体数は図示した 1 個体である。

78は鉄絵・白盛で絵付けされており、75の身と思われる。79は強く被熱しており、本来の釉薬の色は不明である。80は外面に鉄釉が施される。体部上位に段が廻るものである。81・82は青緑釉土瓶である。

第202図83は、江戸在地系土器の植木鉢である。84～86はかわらけで、84・85は江戸在地系土器、86は手づくねの製品である。

87は、犬をモチーフとした土製人形の背面である。前後合わせの二枚型成形で、中空である。

88～92は、金属製品である。88は銅製の煙管の吸口である。89は銅製の把手である。90～92は寛永通寶で、90は古寛永である。

93～103は、石製品である。93は玉髓製火打石である。稜の敲き潰れが著しく、丸みが強い。強く被熱し、マーブル模様状に白色化している。

94～102は賽子で、97～102には目がない。未成品であろうか。すべて白色の石材を用いているが、被熱により白色化している可能性もある。目のない賽子については拓本を図示した。

なお94は、被熱により脆くなっていたため、実測後に一部が破損した。

103は、やや粗粒な凝灰岩製の硯である。正面の上端部に、二次的な穿孔と思われる窪みが見られ、裏面に刻書「三[]」が見える。全面が被熱し、赤みを帯びている。

104は、壁材（壁土）である。表面は焼けて硬質化している。内面側には、平行する角材状の圧痕がみられる。

第52号土壇下層（第203図）

第203図1は柿釉が施された瀬戸美濃系陶器の鉢である。図示した1個体のみの確認である。

2～5は金属製品である。2は銅製の掻き立てであろうか。3は鉄製の釜の鐔であろうか。4は釘である。5は寛永通寶である。

第53号土壇（第204～207図）

B5-16グリッドに位置し、重複する第13・

14号建物跡より古い。

平面形は、隅丸長方形であった。覆土は、下層が焼土ブロック、炭化物を主体とした土で埋め戻し、上層をしまりが強いシルトで覆っていた。下層には特に大きい焼土ブロックがみられ、炭化材も含まれていた。被熱した陶磁器もみられるが、炭化した建築材を中心に廃棄されていた。

出土陶磁器の様相と遺構間接合の関係から、19世紀第1四半期に位置付けられ、文政五年（1822）の火災処理土壇と考えられる。

第53号土壇の陶磁器は、前述のように第51・52・54号土壇との接合が多く、同時に投棄された被熱遺物を含むものとみられる。破片数、個体数については、第51号土壇の記述も参照された。第205・206図に陶磁器・土器を示した。

第205図1は肥前系磁器の筒形碗で、菊花文が染付される。第51号土壇の第122図47～49と同文のものである。2は瀬戸美濃系磁器の蓋で、端反碗の蓋である。外面に蓮弁文を染付する。第52号土壇から出土した同文の身（第197図14）に伴うものとみられる。

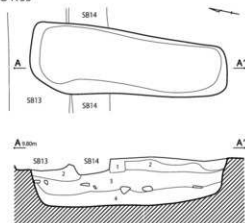
3は肥前系磁器の仏飯器で、第51号土壇の第165図489～494と同文である。

4は肥前系磁器の坏で、筒形を呈する。第52号土壇の第198図27・28と同文同形である。

5は肥前系磁器の皿で、外面に一重の唐草文、内面体部に蛸唐草文、内底面に環状松竹梅文が染付される。高台内には「角福」の染付がある。6は肥前系磁器の蓋物で、体部が丸く立ち上がる。焼継痕が認められる。

7・8は、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。7は油受皿である。非掲載資料を含む破片数は2点（底部破片2点）である。図化したのは1点だが、個体数は2個体と推定する。2個体とも被熱している。8は油皿で、非掲載資料を含む破片数は2点（底部破片1点）である。個体数は1個体と考えられる。なお、油皿・油受皿ともに小形

SK53



SK53

- | | | | | | |
|---|------|------|-----|-----------------------------|-------|
| 1 | 灰褐色土 | しまり腐 | 粘性強 | 焼土ブロック (φ5~20mm) | 炭化物少量 |
| 2 | 黒褐色土 | しまり腐 | 粘性強 | 焼土ブロック (φ5~50mm) | 炭化物多量 |
| 3 | 黒色土 | しまり腐 | 粘性強 | 焼土・炭化物層 | |
| 4 | 黒色粘土 | しまり腐 | | 焼土ブロック (φ5~100mm)・炭化物・炭化材主体 | 遺物多量 |

第204図 第53号土壌

のものはみられない。

9は産地不明の陶器で徳利と思われる。上部からうのふ軸が流し掛けされるが、他は露胎である。体部は比較的厚手、胎土は、白色・硬質で黒色粒子が多数含まれている。10は産地不詳の陶器徳利で、第51号土壌の第175図50～56と同形態のものである。

11は、瀬戸美濃系陶器の半胴甕である。図示した以外には、第51号土壌に破片3点が認められるのみで、火災関連の遺構からの出土数は少なかった。12は、堺明石系陶器の播鉢である。13は、京都信楽系陶器の水滴である。底面に円形の窯道具痕が3つ認められる。

第206図14～16は瓦質土器の火鉢で、小形の脚台付火鉢である。図示した3個体分が確認される。ほぼ同形のもので、沈線以外の施文は確認されない。

17・18は瓦質土器の蓋で、火消壺の蓋とみられる。在地系のもので、図示した2個体分が確認される。

19は瓦質土器の火消壺である。図化した1個体分が確認される。

第207図20は木製品の腰丸椀である。内面に赤漆、外面に黒漆が塗布されている。また、外面に3箇所赤漆で紋が描かれている。

第207図21～26は金属製品である。21は銅製の煙管の吸口である。刻み目のような凹凸の装飾が施されている。22は鉄製の提灯金具である。23～25は釘である。26は四文銭(11波)の寛永通寶である。

第207図27・28は石製品である。27は砥石で、流紋岩製としたが、質感は細粒で緻密な凝灰岩と大差なく判断が難しい。平ノミ状工具と思われる削痕がみられ、工具痕内は明瞭な線条痕が認められる。端面には十字の線刻がみえる。砥面は2面みられるが、出荷時の原形をよく留めており、長さは約15cmである。第207図では工具痕がみられる箇所も掲載した。

同様の砥石が、栗橋宿跡第2地点(埧埋文2019b)の遺構外出土遺物、第12号土壌にみられる。石質、工具痕、線刻等、極めて特徴的な砥石である。線刻は生産地を示すものかもしれない。

28は硯で、一部が被熱により黒化している。

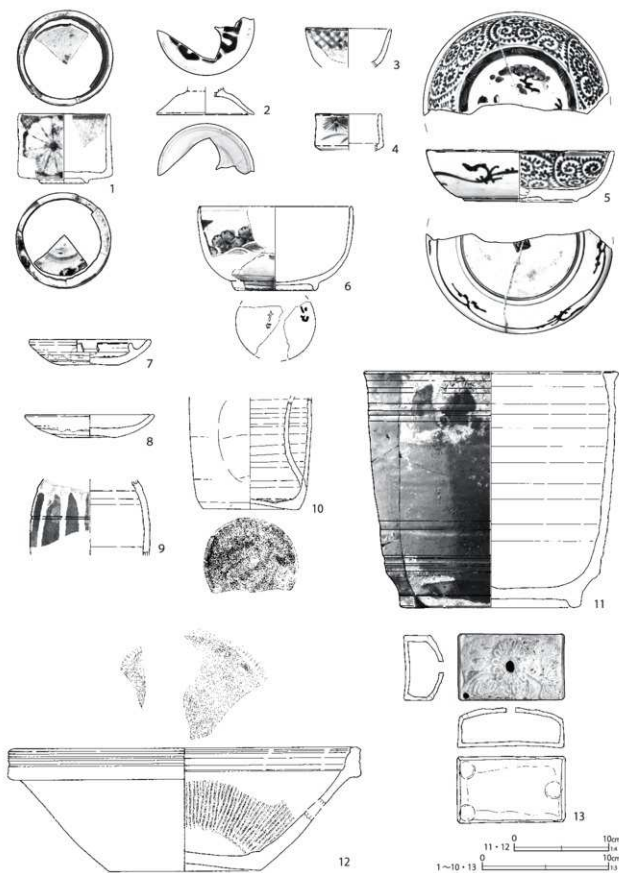
第54号土壌 (第208・209図)

B5-I7グリッドに位置し、重複する第12・13号建物跡より古い。平面形は隅丸長方形で、北側底面に段がみられた。

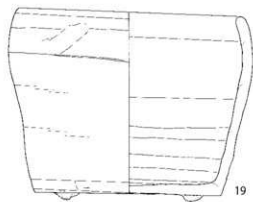
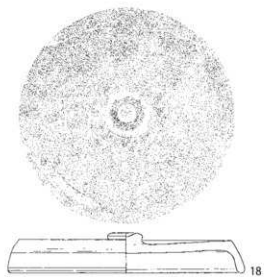
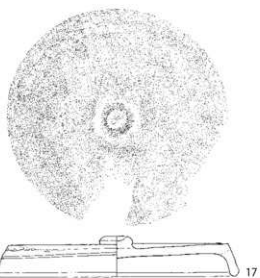
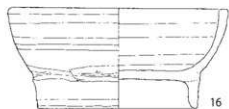
覆土は焼土ブロック、炭化物を主体とした覆土で、焼けた壁材も含まれていた。斜めに堆積しており、北方向から埋没が進んだと考えられる。

出土遺物は、炭化材や強く被熱した陶磁器類がみられ、19世紀前葉の様相である。文政五年(1822)の火災処理土壌と考えられる。

第54号土壌の陶磁器は、第51号土壌との接合が多く認められた。ただし、両遺構間で接合した資料は、原則的に第51号土壌の遺物として扱ったので、第120～192図に掲載されたものが多



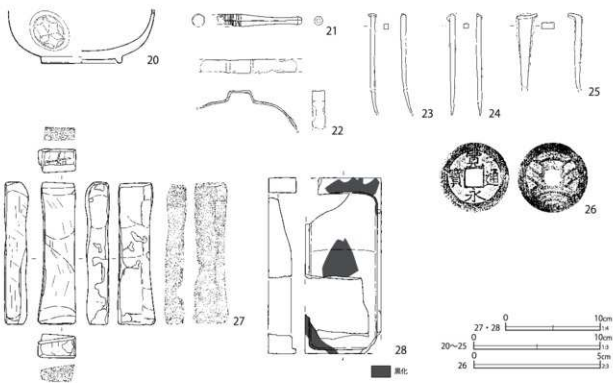
第205图 第53号土坑出土遗物(1)



第 206 图 第 53 号土坑出土遗物 (2)

第69表 第53号土壇出土遺物観察表(1) (第205・206図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	7.0	5.5	(3.6)	—	60	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 一部赤変	151-8
2	磁器	蓋	—	[2.2]	(7.6)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 (端反碗の蓋)	
3	磁器	仏飯器	(6.6)	[3.1]	—	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	
4	磁器	杯	(5.2)	[2.9]	—	—	30	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
5	磁器	皿	(14.5)	4.0	8.6	—	50	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目面形高台 焼継痕	
6	磁器	蓋物	(12.0)	6.6	(6.2)	—	40	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 焼継痕 焼継印(青・赤) 「十七」被熱 接点ない4破片から図上復元	152-1 167-9
7	陶器	灯明皿	(9.4)	2.0	4.6	HI	80	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位拭き取り 直重ね焼き 痕 強く被熱・黒化	
8	陶器	灯明皿	(10.0)	1.8	(4.2)	EI	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位拭き取り 内面直重ね焼き痕 被熱・黒化 接点ない2破片から図上復元	
9	陶器	徳利	—	[5.9]	—	EK	10	普通	灰白	上位うのふ軸流し掛け 強く被熱	152-2
10	陶器	徳利	—	[8.8]	7.5	I	25	普通	暗黄灰	底部ケズリ 外面鉄軸 体部窪まず 胎土右器質	152-3
11	陶器	半駒壺	26.4	25.0	17.4	IK	75	普通	淡黄	瀬戸美濃系 内外面施軸 一部鉄軸流し掛け 口縁部目跡6 被熱・煤付着	152-4
12	陶器	摺鉢	(36.0)	(13.0)	(16.0)	DE	20	普通	赤褐色	埋明石系 砂目底 内面窪目 被熱 接点ない数破片から図上復元 SK55・B516と接合	
13	陶器	水筒	—	3.1	—	H	100	普通	白	京都信楽系 外面施文・施軸 穿孔2 底部目跡3 被熱 長径8.4cm 短径5.3cm	152-5
14	瓦質土器	火鉢	23.2	10.9	17.8	CEHK	80	普通	橙	被熱・赤変	152-6
15	瓦質土器	火鉢	23.0	11.0	18.2	CHK	65	普通	橙	二面表採と接合 被熱・赤変	152-7
16	瓦質土器	火鉢	22.8	10.5	16.5	CK	80	普通	橙	底部ヘラナゲ 被熱・赤変	152-8
17	瓦質土器	蓋	—	4.3	25.0	CHK	85	普通	灰白	上面砂目痕・一部指圧痕・スノコ状圧痕 被熱・赤変	153-1
18	瓦質土器	蓋	—	4.2	24.6	CHK	100	普通	灰	上面砂目痕・一部指圧痕 被熱・赤変	153-2
19	瓦質土器	火消壺	23.5	20.0	19.7	GI	70	普通	灰白	砂目底 被熱・赤変	153-3

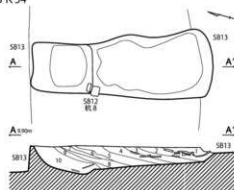


第207図 第53号土壇出土遺物(3)

第70表 第53号土壌出土遺物観察表(2)(第207図)

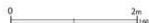
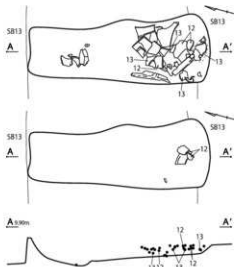
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	備考	図版
20	木製品	漆桶	—	—	—	[4.2]	6.2		機木取り	内面赤漆 外面黒漆・3箇所に紋(赤漆) 吸口 小口欠損 扉字残存	249-9
21	銅製品	煙管	長さ[6.7]	小口径0.9	口付径0.7	重さ7.8					
22	鉄製品	提灯金具	高さ[3.2]	幅1.0	横厚さ0.1	重さ4.8					
23	鉄製品	釘	長さ[7.9]	幅0.4	厚さ0.4	重さ4.2					
24	鉄製品	釘	長さ8.1	幅0.4	厚さ0.4	重さ5.1					
25	鉄製品	釘	長さ[6.0]	幅1.0	厚さ0.5	重さ9.9					
26	銅製品	銭貨	径28.4	厚さ1.3	重さ5.2						
27	石製品	砥石	長さ15.0	幅4.0	厚さ2.4	重さ203.6				寛永通寶(新)11波 流紋岩 裏・側面削痕 削痕内に線条痕 砥面2 端面に十字の線刻	281-12 292-1
28	石製品	硯	長さ18.6	幅8.0	器高2.9	重さ387.8				砂岩 被熱(一部黒化)	296-1

SK54



SK54

- SK54
 1 灰褐色土 しまり強 粘性弱 焼土ブロック(φ10~50mm)
 +焼けた土塊(φ10~50mm)少量
 2 赤褐色土 しまり強 粘性弱 焼土ブロック(φ10~50mm) 主体
 3 黒色土 しまり・粘性弱 焼土ブロック(φ10~30mm)
 +炭化物(φ10~30mm)少量
 4 赤褐色土 しまり・粘性弱 焼土ブロック(φ10~30mm) 主体
 5 黒色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ1~30mm) 主体
 6 赤褐色土 しまり・粘性弱 焼土ブロック(φ5~30mm) 主体
 7 黒色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ1~10mm) 主体
 8 赤褐色土 しまり・粘性弱 焼土ブロック(φ5~30mm) 主体
 9 黒色土 しまり・粘性弱 炭化物(φ1~5mm) 主体
 10 黒色土 しまり・粘性弱 炭化した木片(φ1~10mm) 主体 多い



第208図 第54号土壌

い。遺構間の接合関係については、遺物観察表の備考欄に記載したので、参照されたい。

第209図1は肥前系磁器の筒形碗で、第51号土壌の54~74(第123・124図)と同文のものである。2は瀬戸美濃系磁器の端反碗の口縁部である。

3・4は、肥前系磁器の合子の身である。4は、第51号土壌480・481(第164図)と同文のものである。5は肥前系磁器の坏で、体部がやや直線的に開いて立ち上がる。

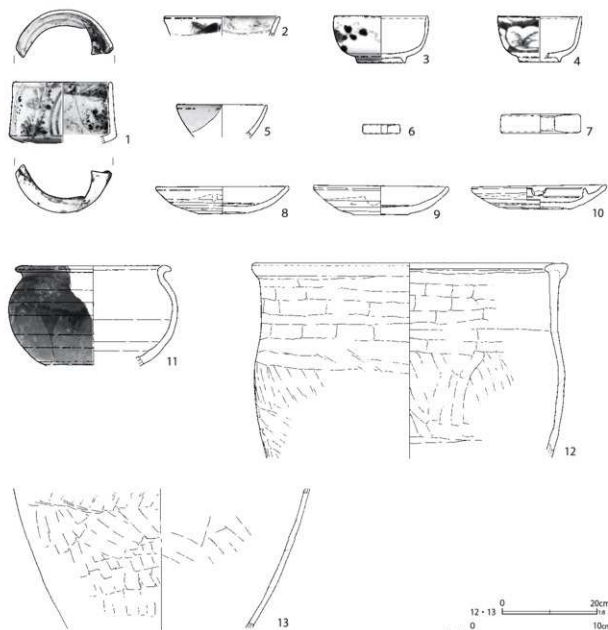
6・7は、肥前系磁器の戸車で、サイズに差

がある。

8~10は、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿である。8・9は油皿で、図示した2個体分が出土している。10は油受皿で、図示した1個体分が出土している。図示した以外の破片は出土していない。いずれも被熱は認められなかった。

11は瀬戸美濃系陶器で、小形の柿軸甕である。

12・13は真壁系土器の甕でかなり大きなサイズのものである。同一個体である可能性が高い。ただし、被熱は認められず、後世の混在の可能性もある。



第209図 第54号土壌出土遺物

第一面のその他の土壌

以上に示した4基の火災処理土壌のほかにも、特徴的な土壌がみられる。以下に、遺構は第210～215図 遺物は第216～243図に示し、概略を記述したい。

第5号土壌 (第210・216・239図)

C5-B10・C10グリッドに位置し、東側は調査区域外である。

平面形は不整形で、覆土は焼土・炭化物を主体

としていた。調査区壁際から炭化材とともに、陶磁器等が多量に出土した。

断面に示した基本土層東壁2 (第8・210図) をみると、第11層を掘り込み面とし、第8層に覆われていた。出土遺物は肥前系磁器の広東碗が最も新しく、被熱した陶磁器もみられる。出土遺物の様相は18世紀末頃で、火災処理土壌である。

第216図1～6に陶磁器、第239図1・2に金属製品を示した。

第71表 第54号土壌出土遺物観察表(第209図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(7.5)	[4.8]	—	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱・土砂付着(筒形碗)	153-4
2	磁器	碗	(9.0)	[1.6]	—	—	5	普通	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 弱く被熱(鐘反碗)	
3	磁器	合子	(7.3)	3.7	(3.7)	—	35	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
4	磁器	合子	(6.4)	3.6	(3.2)	—	20	普通	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 被熱	153-5
5	磁器	坏	(7.0)	[2.6]	—	—	10	普通	白	肥前系 内外面施軸 被熱して大きく歪む	
6	磁器	戸車	2.8	0.7	2.8	—	100	普通	白	肥前系 側面施軸 被熱 最大径 3.0 cm	153-6
7	磁器	戸車	(6.0)	1.5	(6.2)	—	45	普通	白	肥前系 側面施軸 最大径 (6.4) cm	
8	陶器	灯明皿	(10.2)	2.1	4.0	I	30	良好	褐色	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位拭き取り 内面直重ね焼き瓶	
9	陶器	灯明皿	10.4	2.3	4.3	EI	70	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位拭き取り 内面直重ね焼き瓶	
10	陶器	灯明皿	10.3	1.9	4.7	I	60	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位拭き取り・直重ね焼き瓶	153-7
11	陶器	壺	(11.0)	[7.9]	—	K	20	普通	明褐色	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面鉄線流し掛け 小形	153-8
12	土師瓦土器	甕	(65.0)	[41.5]	—	—	15	普通	にぶい黄緑	真壁系 13と同一個体カ	154-1
13	土師瓦土器	甕	—	[29.7]	—	ADE	15	普通	橙	真壁系 12と同一個体カ	154-2

第216図1は肥前系磁器の碗で、焼継印が認められる。2は肥前系磁器の粗製碗で、コンニャク印判による染付が施される。3は、肥前系磁器の蛇の目凹形高台の皿で、高台が低いものである。

4は陶器の皿で、産地不詳である。内外面とも、黒みの強い焦げ茶色の鉄軸が施される。内面の一部に、うのふ軸が掛けられる。削り出し高台である。5は瀬戸美濃系陶器の灰軸徳利で、頸部へ口縁部の破片である。一升徳利である。6は瀬戸美濃系陶器の柿軸甕で、強く被熱し、釉薬の発泡が認められる。

第239図1・2は鉄製の釘である。

第48号土壌(第210・216・234図)

本報告では土壌としたが、南壁に沿っての打ち込み杭で支えるように、丸太の横木が東西方向に組まれる。その延長線上には第6号杭列が位置していた。両者には関連があるものと思われるので、位置関係を第99図に示した。

いずれにせよ、本跡は、第6号杭列の西部によって、南側を削平された遺構とみられる。ただし、横木を押さえる杭の位置など不自然な点もあり、土壌ではなく、区画施設の一部を捉えた可能性も残る。

B5-I4グリッドに位置し、平面形は楕円形

であった。重複する第1号冊跡のピット4より新しい。また、発掘段階では第3号池跡との新旧関係を確認できていないが、第6号杭列と一連の区画施設であるとするれば、第3号池跡より古い。

覆土の下層は腐植質、木製品がみられる有機物層で、上層の暗褐色の砂と暗褐色シルト質土に覆われていた。

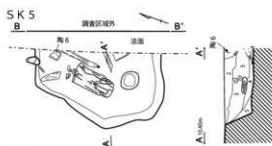
出土遺物は、横木の間から集中して出土した。陶磁器の出土は少ないが、瀬戸美濃系磁器の鐘反碗の蓋がみられ、19世紀前半頃に位置付けられよう。第3号池跡との年代観に齟齬はみられない。

第216図7～9に陶磁器・土器、第234図1～8に木製品を示した。

第216図7は瀬戸美濃系磁器の鐘反碗の蓋で、厚手のものである。8は産地不詳の陶器瓶頸で、細頸の徳利であろうか。暗いウグイス色の灰軸が掛けられる。胎土は硬質である。

9は瓦質土器の火消壺で、頸部は短い。体部の下位は、横位のケズリ痕がなで消される。全体的に丁寧にヨコナデされる。胎土には角閃石が多く含まれる。

第234図1は曲物である。底板裏面に「㊸」の焼印がみられる。2は呑口と栓が一体となったもので、樽に伴うものである。



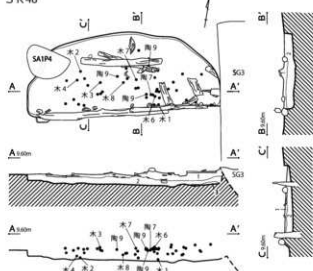
東壁 2

B 1.20m

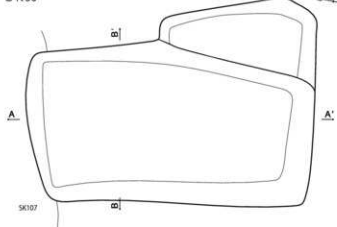


○付数字は基本土層
第6回基本土層 (4) 東壁 2 参照

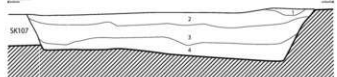
S K 48



S K 50



A 1.0m



S K 5

- 1 赤褐色土 焼土層 陶器片等多量
- 2 暗褐色土 焼土に被せた土の炭化物 (φ 8 ~ 15 mm) 多量
- 3 赤褐色土 焼土層 1層より赤化した土少量
- 4 暗灰色土 炭化物 (φ 10 ~ 30 mm)・炭化材多量
- 5 灰黄色土 粘性弱 焼土少量 ブロック状に堆積

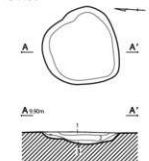
S K 48

- 1 黄褐色砂 しまり面 一部礫化
- 2 暗褐色土 しまり面 粘性強 白色粒子 (φ 1 mm程度) 多量
- 3 黒色土 下層に草などの有機物少量
- 4 黒色土 木片・有機質主体 しまり弱 粘性なし

S K 50

- 1 灰色粘土 しまり強 炭化物 (φ 5 ~ 30 mm) 多量
- 2 黄褐色砂 しまり強 灰色シルトブロック (φ 5 ~ 30 mm) 多量
- 3 黄褐色砂 しまり弱 灰色シルトブロック (φ 5 ~ 30 mm) 多量
- 4 灰褐色砂 しまり弱 灰色シルトブロック (φ 5 ~ 30 mm) 少量

S K 56



A 1.0m



S K 56

- 1 暗褐色粘土 しまり強 焼土ブロック (φ 5 ~ 10 mm)・炭化物多量
- 2 灰色土 しまり強 粘性弱 焼土ブロック (φ 5 ~ 10 mm)・炭化物多量
- 3 暗褐色土 しまり強 粘性弱 焼土ブロック (φ 5 ~ 20 mm)・炭化物多量

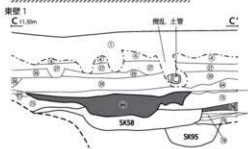
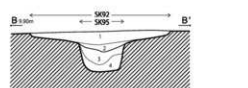
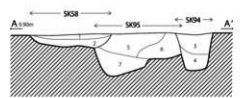
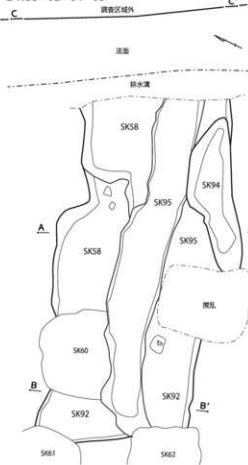
事象 2

- ① 正副時代の遺土・溝瓦
- ② ①層との境界の一部に硬化面
- ③ ②層との境界の一部に硬化面 (③層との境界の一部に焼土が伴う)
- ④ ③層との境界の一部に硬化面 (一部に焼土が伴う)
- ⑤ 暗褐色土 部分的に灰土が堆積状に入るが②・③・④層との境界に硬化面 (一部には焼土が伴う)
- ⑥ 暗褐色土 ③・④・⑤層との境界に硬化面
- ⑦ 灰褐色土 ③・④・⑤層との境界の一部に焼土が伴う
- ⑧ 暗褐色土 部分的に焼土・炭化物が入る 下部・8層との境界に硬化面 (8層との境界には焼土が伴う)
- ⑨ 黒色土 一部炭化物の堆積・堆積が上部を中心に見られる 下部・8層との境界に硬化面 (一部に焼土が伴う)



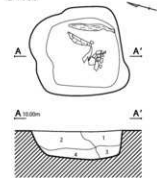
第 210 図 土壌 (1)

S K 58・92・94・95

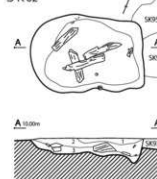


○行数字は基本土層
第7図基本土層 (3) 東壁1参照

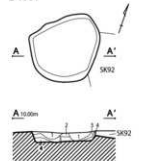
S K 60



S K 62



S K 61



- S K 60
- 1 黒褐色土 しまり・粘性強 焼土ブロック (φ 5~10mm)・炭化物多量
 - 2 黒褐色土 しまり・粘性弱 焼土ブロック (φ 5~30mm)・炭化物多量
 - 3 黒色粘土 しまり強 焼土ブロック (φ 5~30mm)・炭化物多量
 - 4 黒褐色土 しまり・粘性強
- S K 61
- 1 暗褐色土 しまり強 粘性弱 焼土ブロック (φ 5~20mm)・炭化物多量
 - 2 黒褐色砂 しまり強
 - 3 暗褐色土 しまり強 粘性弱 焼土ブロック (φ 5mm程)・炭化物多量
 - 4 黒褐色砂 しまり強 焼土ブロック (φ 5mm程)・炭化物少量
- S K 62
- 1 黒褐色土 しまり・粘性弱 焼土ブロック (φ 5~20mm)・炭化物多量
 - 2 黒褐色土 しまり・粘性弱 焼土ブロック (φ 5~50mm)・炭化物多量
 - 3 黒色土 しまり・粘性弱 焼土ブロック (φ 5~20mm)・炭化物多量

S K 58・94・95

- 1 黒褐色土 しまり・炭化物多量 しまり・粘性強 焼土ブロック (φ 5~20mm)・炭化物主体 (S K 58)
- 2 明黄褐色土 しまり・粘性強 焼土ブロック (φ 5~10mm)・炭化物少量 (S K 58)
- 3 黒色土 しまり弱 粘性弱 炭化物多量 炭化物 (φ 5~100mm)・焼土ブロック (φ 5~20mm) 主体 (S K 94)
- 4 黒色土 しまり強 粘性弱 炭化物多量 炭化物 (φ 5~100mm) 主体 (S K 94)
- 5 暗褐色土 しまり強 粘性弱 焼土ブロック (φ 5~50mm)・炭化物多量 硬化している (S K 95)
- 6 明黄褐色土 しまり・粘性強 焼土ブロック (φ 5~10mm)・炭化物少量 硬化している (S K 95)
- 7 黒色土 炭化物多量 しまり弱 粘性強 細かい筋状の炭化物主体 (S K 95)

S K 92・95

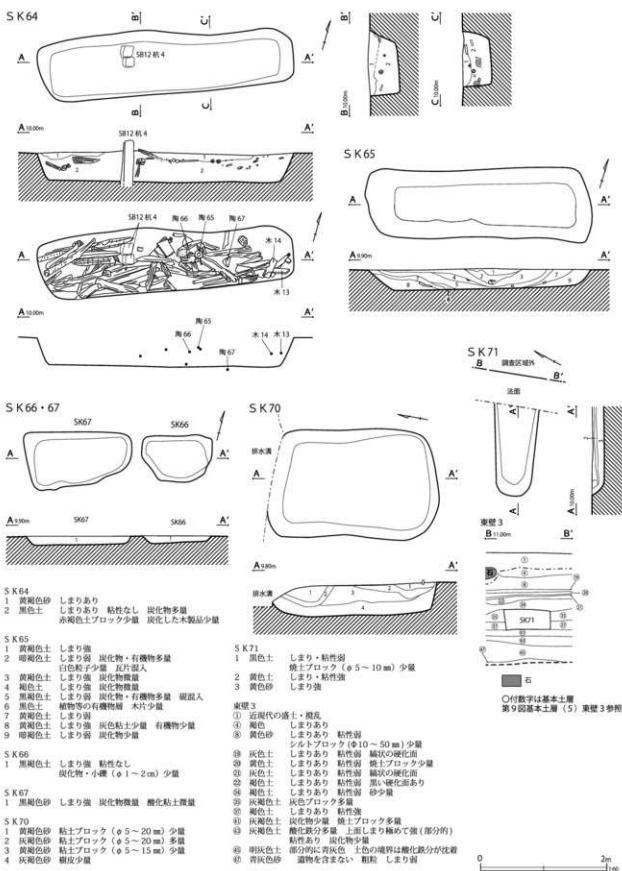
- 1 暗褐色土 しまり強 粘性弱 焼土ブロック (φ 5mm程)・炭化物多量 (S K 92)
- 2 明黄褐色土 しまり強 粘性弱 炭化物 (φ 1~3mm) 少量 (S K 95)
- 3 黒色土 炭化物多量 しまり弱 粘性強 焼土ブロック (φ 5~20mm) 多量 (S K 95)
- 4 黒色土 炭化物多量 しまり弱 粘性強 焼土ブロック (φ 5~20mm) 多量 (S K 95)

東壁 1

- ① 近現代の遺土・埋瓦
- ② 暗褐色土 しまりあり 粘性弱
- ③ 暗褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック・炭化物 (φ 5mm) 少量
- ④ 暗褐色土 粘性弱 しまり極めて強
- ⑤ 黒褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック・炭化物 (φ 5~10mm) 多量
- ⑥ 暗褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック・炭化物 (φ 5mm) 多量
- ⑦ 黒褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック・炭化物 (φ 5~10mm) 多量
- ⑧ 赤褐色土 しまり・粘性弱 焼土・炭化物多量 焼土ブロック・炭化物 (φ 5~50mm) 主体 火災処理土層 (文政5年)
- ⑨ 黒色土 粘性弱 しまり極めて強
- ⑩ 黄褐色砂 しまりあり 粘性弱 灰色シルトブロック (φ 5~30mm) 多量 洪水層か
- ⑪ 黒褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック・炭化物 (φ 5~20mm) 多量 火災層 (文化期)
- ⑫ 黒色土 粘性弱 しまり極めて強
- ⑬ 暗褐色砂 しまりあり 粘性弱
- ⑭ 暗褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土・炭化物 (φ 1~5mm) 多量



第211図 土壌 (2)



- S K 64
- 1 黄褐色砂 しまりあり
 - 2 黒色土 しまりあり 粘性なし 炭化物多量 赤褐色土ブロック少量

- S K 65
- 1 黄褐色土 しまり強
 - 2 暗褐色土 しまり弱 炭化物・有機物多量 白色粘土少量 瓦片混入
 - 3 黄褐色土 しまり強 炭化物微量
 - 4 褐色土 しまり強 炭化物微量
 - 5 黄褐色土 しまり弱 炭化物・有機物多量 炭混入
 - 6 黒色土 薪物等の有機物類 木竹少量
 - 7 黄褐色土 しまり弱
 - 8 黄褐色土 しまり強 灰色粘土少量 有機物少量
 - 9 暗褐色土 しまり弱 炭化物少量

- S K 66
- 1 黒褐色土 しまり強 粘性なし 炭化物・小礫 (φ 1 ~ 2 cm) 少量

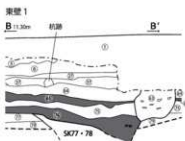
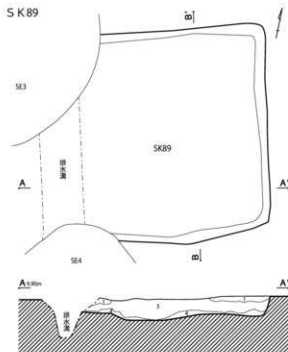
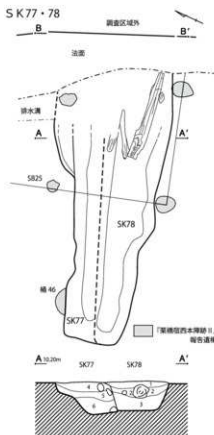
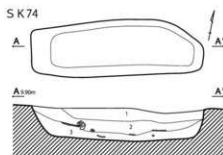
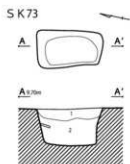
- S K 67
- 1 黒褐色砂 しまり強 炭化物微量 酸化粘土微量

- S K 70
- 1 黄褐色砂 粘土ブロック (φ 5 ~ 20 mm) 少量
 - 2 灰褐色砂 粘土ブロック (φ 5 ~ 20 mm) 多量
 - 3 黄褐色砂 粘土ブロック (φ 5 ~ 15 mm) 少量
 - 4 灰褐色砂 腐炭少量

- S K 71
- 1 黒色土 しまり・粘性弱 粘土ブロック (φ 5 ~ 10 mm) 少量
 - 2 黄褐色土 しまり・粘性強
 - 3 黄褐色砂 しまり強

- 実層 3
- ① 近現代の落土・瓶瓦
 - ② 黒色土 しまりあり
 - ③ 黄褐色土 しまりあり 粘性弱 シルトブロック (φ 10 ~ 50 mm) 少量
 - ④ 灰褐色土 しまりあり 粘性弱 腐炭の硬化面
 - ⑤ 黄褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック少量
 - ⑥ 灰褐色土 しまりあり 粘性弱 腐炭の硬化面
 - ⑦ 褐色土 しまりあり 粘性弱 高い硬化面あり
 - ⑧ 褐色土 しまりあり 粘性弱 砂少量
 - ⑨ 灰褐色土 灰色ブロック多量
 - ⑩ 褐色土 しまりあり 粘性強
 - ⑪ 灰褐色土 炭化物少量 焼土ブロック多量
 - ⑫ 灰褐色土 酸化鉄分多量 上面しまり極めて強 (部分的)
 - ⑬ 粘性あり 炭化物少量
 - ⑭ 灰褐色土 部分的に黄褐色 土色の境界は酸化鉄分が沈着
 - ⑮ 青灰色砂 炭物を含まない 粗粒 しまり弱

第 212 図 土層 (3)



○付数字は基本土層
第7図基本土層(3) 家壁1参照

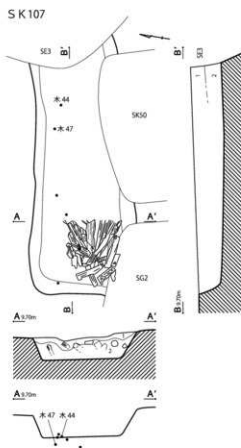
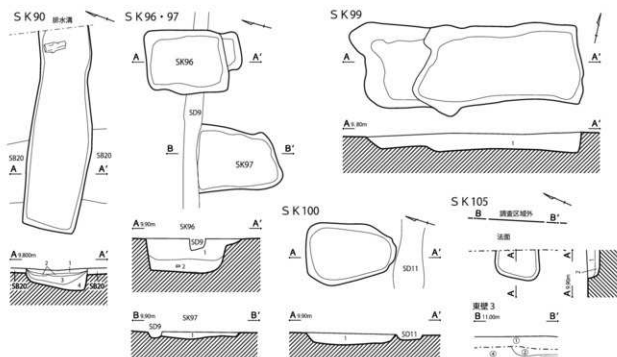
- S K 73
1 灰褐色土 しまり強 粘性弱
砂ブロック (φ10~20mm) 少量
2 灰褐色土 しまり・粘性弱 木片・枝木多量
- S K 74
1 灰褐色土 砂質 しまりあり 粘性弱 炭化炭分多量
2 暗灰色土 粘性弱 陶器片・丸太・板材多量 炭化物多量
3 暗灰色土 粘性弱 炭化物多量
- S K 77・78
1 灰褐色土 しまり強 粘性弱
焼土ブロック (φ5~10mm)・炭化物多量 (SK78)
2 赤褐色土 しまり強 粘性弱
焼土ブロック (φ5~30mm)・炭化物主体 (SK78)
3 赤褐色土 焼土層 しまり・粘性弱
焼土ブロック (φ5~50mm)・炭化物主体 (SK78)
4 黒色土 炭化物層 しまり・粘性弱
焼土ブロック (φ5~50mm) 多量 (SK77)
5 暗褐色土 しまり強 粘性弱
焼土ブロック (φ5~20mm)・炭化物多量 (SK77)
炭化物層 しまり・粘性弱
6 黒色土 焼土ブロック (φ5~30mm)・灰褐色土ブロック多量
炭化物が凝状に堆積 (SK77)

- S K 89
1 黄褐色砂 しまり強 粘性弱
灰色シルトブロック (φ5~50mm) 多量
2 暗褐色土 しまり強 粘性弱 炭化物 (φ1~5mm) 多量 黄褐色砂少量
3 黄褐色砂 しまり強 粘性弱 灰褐色土ブロック少量
4 灰褐色土 しまり強 粘性あり 炭化物 (φ1~5mm) 少量 黄褐色砂少量

- 家壁1
① 近現代の盛土・雑瓦
② 暗褐色土 粘性弱 しまり極めて強 黄褐色砂子 (φ1~5mm) 多量
③ 黒色土 粘性弱 しまり極めて強 白色砂子 (φ1mm) 多量
④ 暗褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック・炭化物 (φ5mm) 少量
⑤ 灰褐色土 粘性弱 しまり極めて強
⑥ 暗褐色土 しまり・粘性弱 瓦片多量 遺構層土
⑦ 暗褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック・炭化物 (φ5~10mm) 多量
⑧ 赤褐色土 しまり・粘性弱 焼土・炭化物層 焼土ブロック・
炭化物 (φ5~50mm) 主体 火災層
⑨ 黄褐色砂 しまりあり 粘性弱 灰色シルトブロック (φ5~30mm) 多量
洪水層か
⑩ 黒褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土ブロック・炭化物 (φ5~30mm) 多量
火災層 (文化期)
⑪ 黒色土 粘性弱 しまり極めて強
⑫ 暗褐色土 しまりあり 粘性弱 焼土粒・炭化物 (φ1~5mm) 多量



第213図 土壇(4)



- SK90
 1 黄褐色砂 しまり強 焼土・炭化物少量
 2 褐色砂 しまり強 焼土・炭化物少量
 3 黒褐色砂 しまり弱 粘土ブロック (φ5~30mm)・炭化物多量
 4 黒色土 炭化物弱 しまり・粘性強 焼土ブロック (φ5~20mm) 多量

- SK96
 1 黄色砂 しまり弱 粘土ブロック (φ20mm) 微量
 2 黄灰色砂 しまり弱

- SK97
 1 黄褐色土 しまり強 粘性なし 黒褐色土・炭化物少量
 粘土ブロック (φ30~50mm) 少量

- SK99
 1 黄褐色砂 粘土ブロック (φ5~10mm) 少量

- SK100
 1 黄褐色砂 粘土ブロック (φ5~10mm) 少量

- SK105
 1 灰色土 しまり・粘性強
 2 褐色土 しまり・粘性強

- SK107
 1 黄褐色土 しまり弱 粘土ブロック少量 一部酸化
 2 黒色土 しまり弱 炭・焼土・灰主土 木材多量

東壁3

- ① 近現代の盛土・溝瓦
 ② 暗褐色土 しまりあり 粘性弱 粘土ブロック (φ10mm) 少量
 ③ 褐色土 しまりあり
 ④ 暗褐色土 しまりあり 粘性弱 炭化物・焼土ブロック多量
 ⑤ 褐色土 しまりあり 粘性弱 灰色シルト少量
 ⑥ 暗灰色土 しまりあり 粘性弱 灰色土・焼土含む
 ⑦ 灰色土 しまりあり 粘性弱 粘土ブロック・焼土少量 埋戻し層
 ⑧ 褐色土 しまりあり 粘性弱 砂少量
 ⑨ 灰褐色土 炭化物少量 焼土ブロック多量
 ⑩ 灰褐色土 腐化炭分多量 上面しまり極めて強 (部分的) 粘性あり 炭化物少量
 ⑪ 砂質土 白色砂多量
 ⑫ 黄灰色土 部分的に青灰色 土色の境界は腐化炭分が沈着

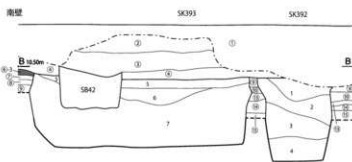
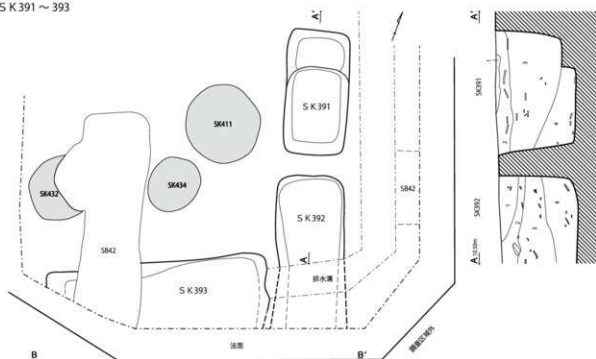
○付数字は基本土層

第9図基本土層 (5) 東壁3参照



第214図 土壌 (5)

SK391～393



- 『家屋遺構発掘調査』報告書遺構
- 火災層
- 数字は基本土層
- 第10図基本土層 (6) 南壁参照

南壁

- ① 近現代の盛土・覆瓦
- ② 灰褐色土 砂利・漆喰少量 しまり極めて強 上部は硬化面(旧地表面)
- ③ 灰褐色土 しまり弱 炭化物少量 焼土微量 砂少量 整地層
- ④ 灰褐色土 しまり弱 炭化物・シルトブロック少量 整地層 上部は硬化面(旧地表面か)
- ⑤ 暗赤褐色土 焼土(埋土含む)ブロック・炭化物(木片・繊維状)・灰褐色シルトブロック多量 しまり弱 火災後の整地層
- ⑥ 暗赤褐色土 3層に層分化される ①は⑤に類似 ②は灰褐色シルトブロックを含み、焼土・炭化物がほぼ含まれない灰褐色土
- ⑦ 暗灰褐色土 しまり極めて強 上部は硬化面(旧地表面か)
- ⑧ 暗灰褐色土 炭褐色シルトブロック多量 砂少量 しまりあり 粘性弱 整地層 上部は硬化面(旧地表面)
- ⑨ 暗灰褐色土 砂・シルトブロック多量 整地層
- ⑩ 暗灰土 炭褐色シルトブロック・炭化物多量 上部は硬化面
- ⑪ 暗褐色土 しまり弱 砂多量 炭褐色シルトブロック・砂鉄少量
- ⑫ 灰褐色土 細砂・シルトブロック少量 整地層
- ⑬ 暗灰褐色土 しまり弱 シルトブロック・砂少量 整地層 下部は硬化面

SK391

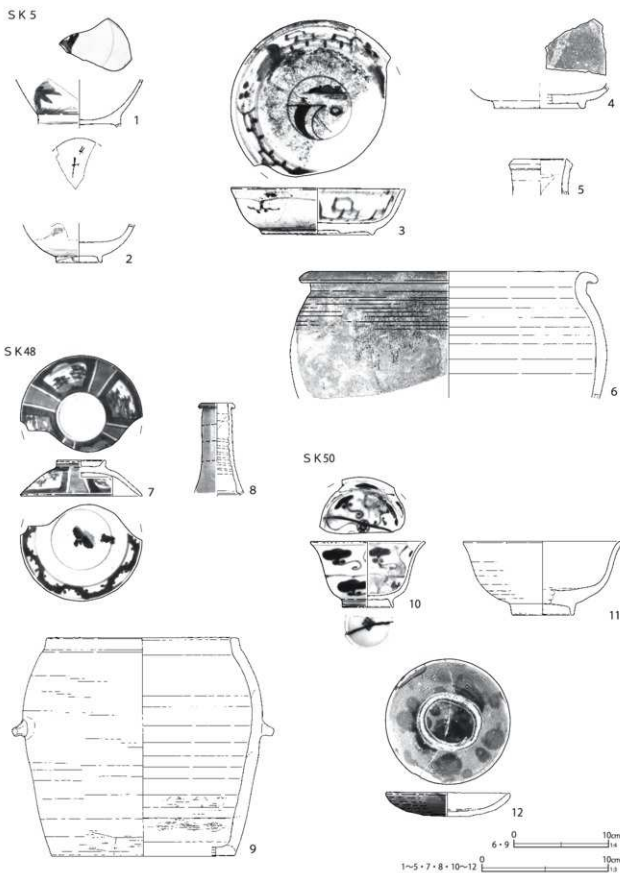
- 1 灰褐色土 炭化物少量 しまりあり 粘性あり
- 2 暗赤褐色土 焼土ブロック(φ30～50mm)(スサ入・埋土)・炭化物(φ30～50mm)多量
- 3 暗赤褐色土 焼土ブロック(φ10～20mm)(スサ入・埋土)・炭化物(φ10～20mm)多量
- 4 暗褐色土 炭化物(φ10～20mm)多量 焼土ブロック微量

SK392・393

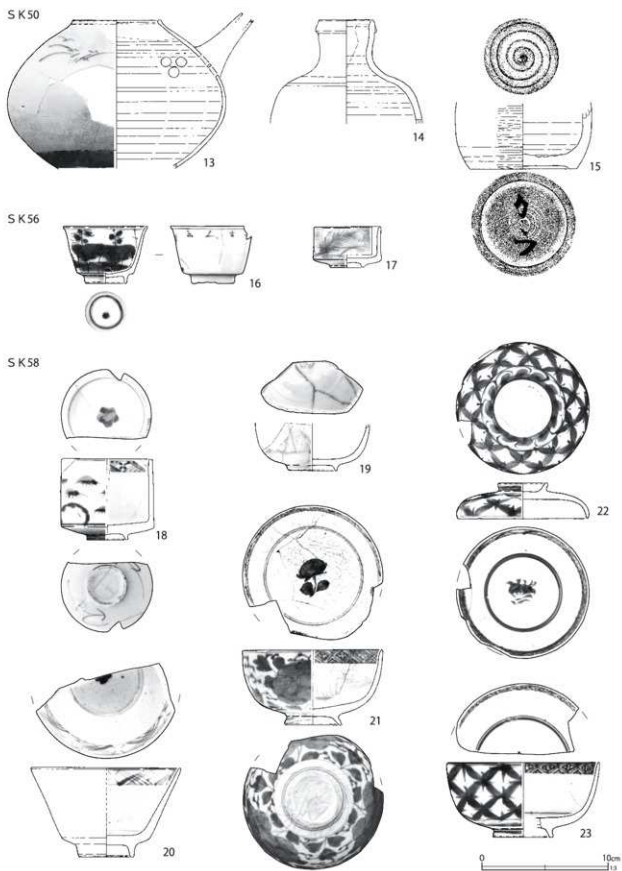
- 1 暗赤褐色土 焼土ブロック(φ30～50mm)(スサ入・埋土)・炭化物(φ30～50mm)多量 (SK392)
- 2 暗赤褐色土 炭化物(φ30～50mm)・焼土ブロック(φ10～20mm)多量 やや風色味強い (SK392)
- 3 暗赤褐色土 焼土ブロック(φ10～20mm)(スサ入・埋土)・炭化物(φ10～20mm)多量 (SK392)
- 4 暗褐色土 炭化物(φ10～20mm)多量 焼土ブロック(φ10mm)少量 (SK392)
- 5 非灰褐色土 (SK393)
- 6 灰褐色土 焼土ブロック少量 (SK393)
- 7 暗赤褐色土 焼土ブロック・炭化物多量 (SK393)



第215図 土壁(6)

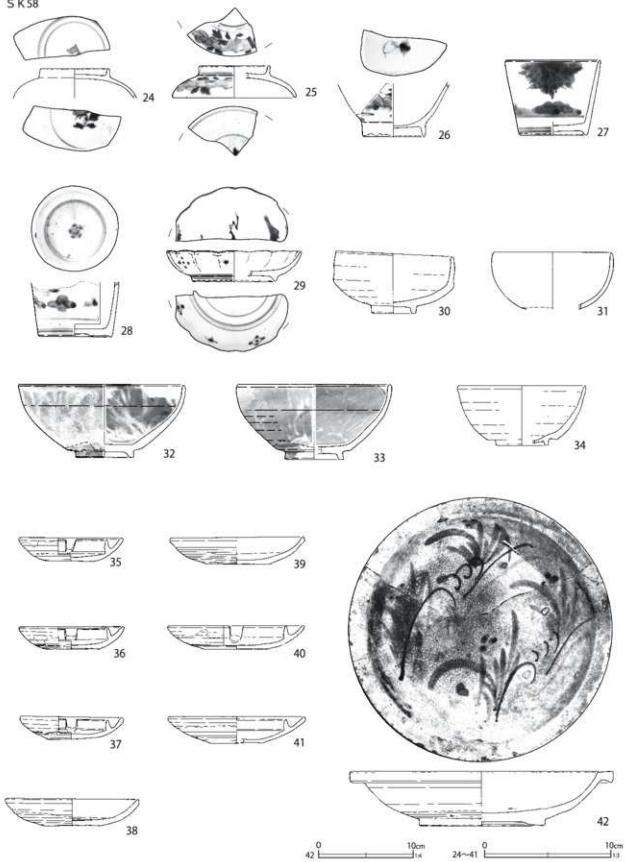


第 216 図 土壙出土遺物 (1)



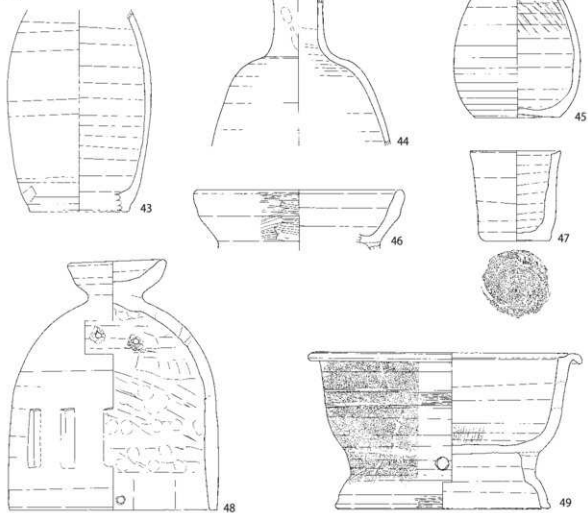
第217图 土壙出土遺物(2)

S K 58

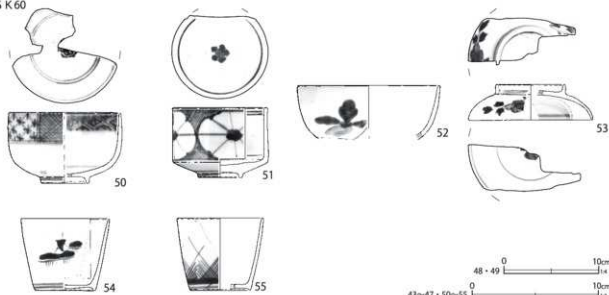


第 218 図 土壙出土遺物 (3)

SK58



SK60

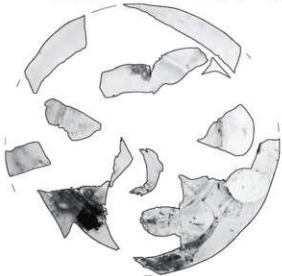


第219圖 土壙出土遺物(4)

S K 60



56



S K 65



68



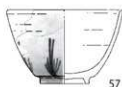
69



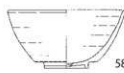
70



73



57



58



59

S K 62



60



61

S K 64



62



63



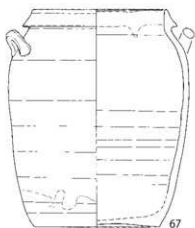
64



65



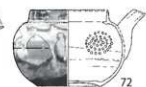
66



67



71



72



第 220 図 土壙出土遺物 (5)

S K 70

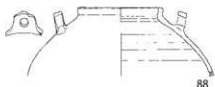


第 221 图 土壙出土遗物 (6)

SK70

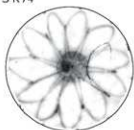


87

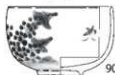


88

SK74



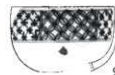
89



90



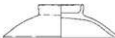
91



92



93



94



95



100



95



96



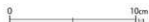
99



97

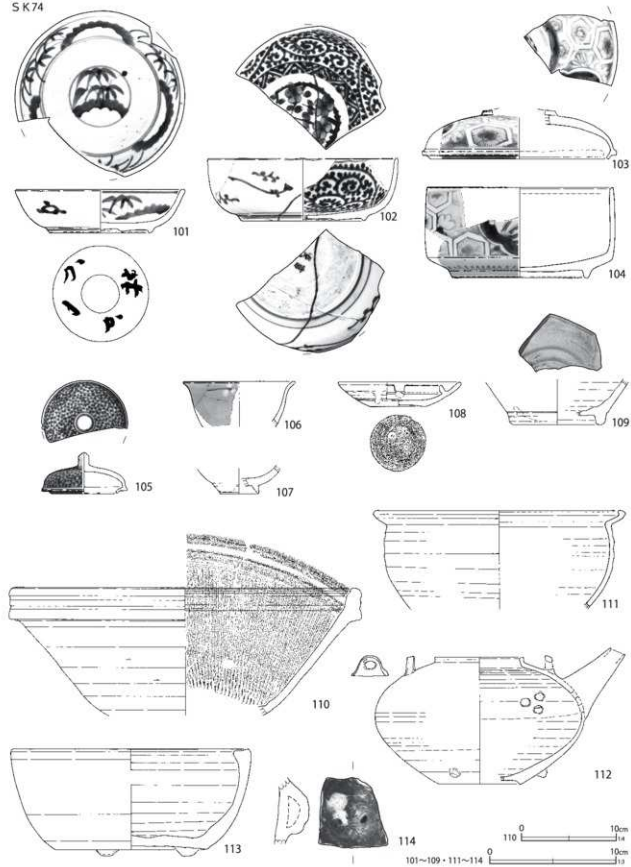


98

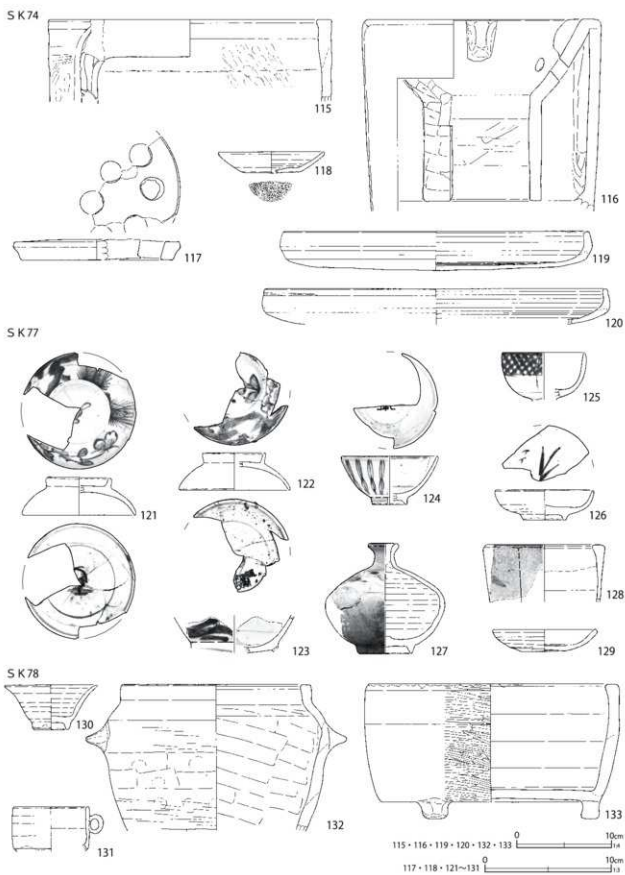


第 222 図 土壙出土遺物 (7)

SK74

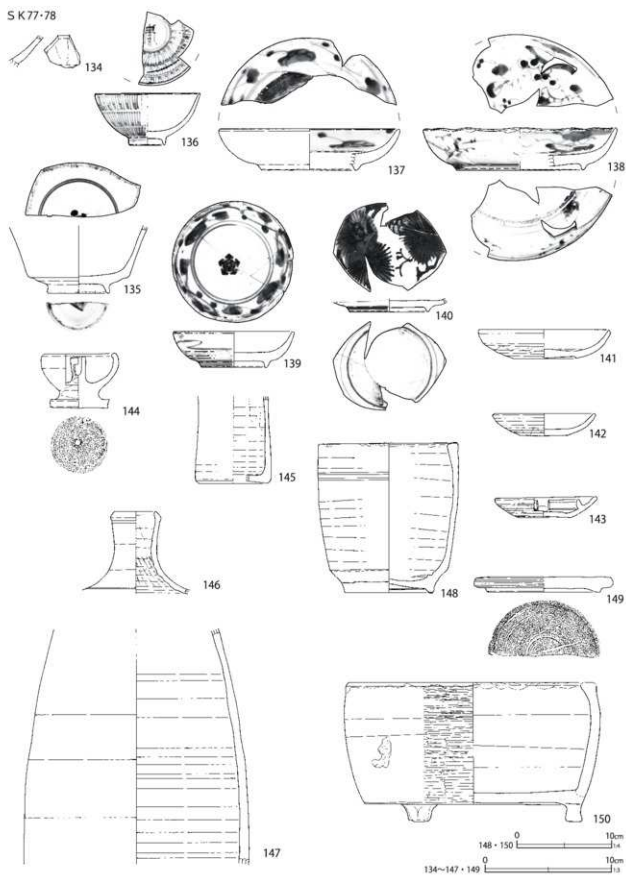


第223圖 土壙出土遺物(8)

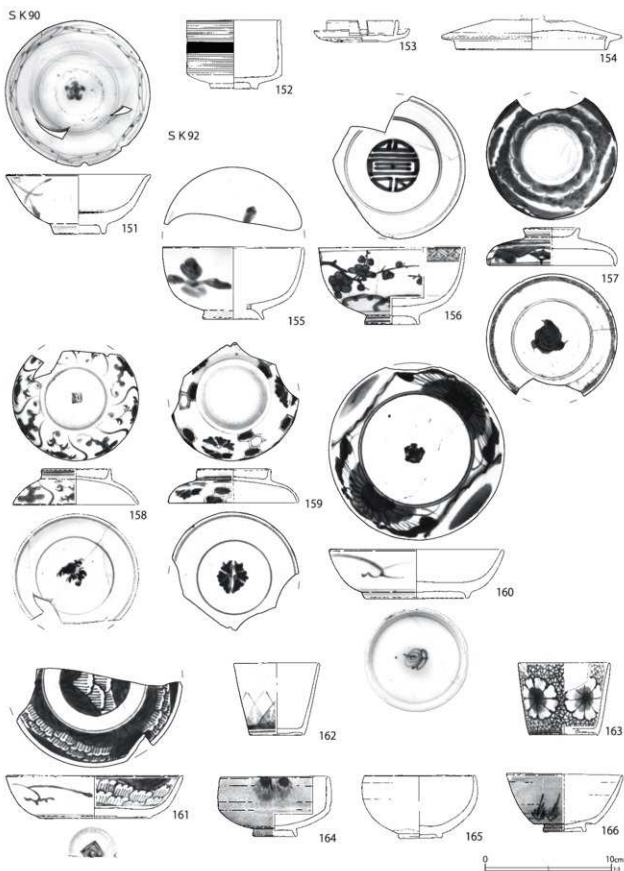


第 224 図 土壙出土遺物 (9)

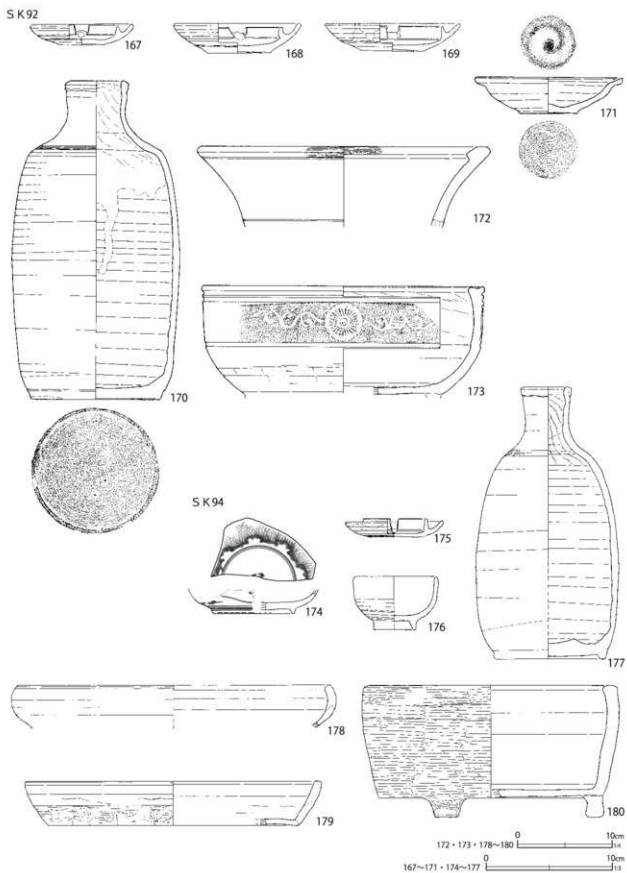
SK77-78



第225図 土壇出土遺物(10)



第 226 図 土壙出土遺物 (11)

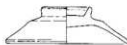


第 227 図 土壙出土遺物 (12)

S K 95



181



182



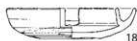
183



184



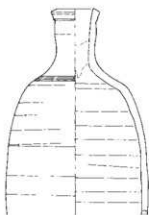
186



187



188



189

S K 99



190



191



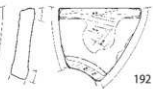
S K 107



193



194



192

S K 391



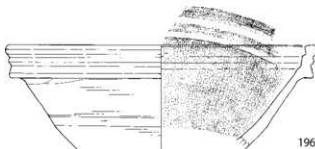
198



199



195



196



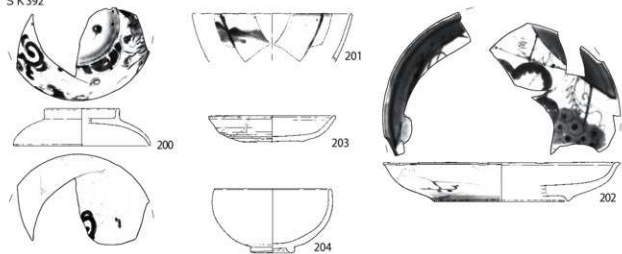
197

0 10cm
1/4

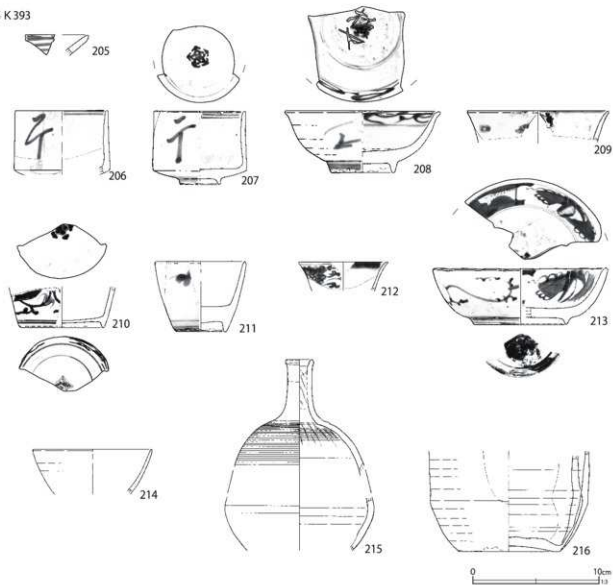
0 10cm
1/3

第228図 土城出土遺物(13)

S K 392



S K 393



第 229 図 土壙出土遺物 (14)

第72表 土城出土遺物観察表(1)(第216~229図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	—	[3.8]	—	—	15	良好	白	SK5	肥前系 内外面施軸・染付 焼罫印(赤) 強く被熱(広東碗)	167-8
2	磁器	碗	—	[3.1]	(3.6)	—	35	良好	灰白	SK5	肥前系 内外面施軸・外面染付 被熱	
3	磁器	皿	13.5	3.7	8.6	—	80	良好	白	SK5	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目形高台 被熱・煤付着	107-4
4	陶器	皿	—	[1.9]	(7.0)	BT	5	良好	灰白	SK5	内外面鉄軸 内面うのふ軸流し掛け	
5	陶器	德利	(4.2)	[2.8]	—	IK	5	良好	灰白	SK5	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
6	陶器	甕	(29.0)	[13.3]	—	EK	10	良好	褐色	SK5	瀬戸美濃系 内外面柿軸 外面鉄軸流し掛け 強く被熱	
7	磁器	蓋	3.7	2.8	9.5	—	55	良好	白	SK48	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗の蓋)	107-5
8	陶器	甕類	2.3	[7.3]	—	IK	20	良好	灰	SK48	外面灰軸 胎土硬質	107-6
9	瓦質土器	火消壺	(19.1)	23.1	(19.2)	CHK	15	普通	灰白	SK48	壺上 上下接点無い2破片から図上復元	
10	磁器	碗	(8.9)	5.2	(4.0)	—	45	良好	白	SK50	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼罫痕(端反碗)	
11	陶器	碗	(12.4)	5.8	(4.8)	—	35	良好	灰白	SK50	肥前系 内外面施軸 弱く被熱・煤付着	
12	陶器	灯明皿	9.6	1.9	3.5	I	95	良好	灰白	SK50	瀬戸美濃系 内外面柿軸・直重ね焼き痕	
13	陶器	土瓶	7.0	[11.7]	—	K	50	良好	灰白	SK50	京都信楽系 内外面透明軸 外面鉄軸・呉須絵 底部煤付着	107-7
14	陶器	德利	4.1	[8.2]	—	IK	10	良好	灰黄	SK50	瀬戸美濃系 内面上位へ外面灰軸	
15	土質瓦土器	香炉カ	—	[5.2]	8.4	AHK	20	普通	灰黄 灰褐	SK50	外面ミガキ 胎土粉質 底部墨書	107-8
16	磁器	坏	6.5	4.5	3.1	—	95	良好	白	SK56	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
17	磁器	坏	5.1	3.2	2.6	—	85	良好	灰白	SK56	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	154-3
18	磁器	碗	(6.9)	6.4	3.2	—	40	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付(筒形碗)	
19	磁器	碗	—	[3.7]	(3.8)	—	25	良好	灰白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付 焼罫痕(小丸碗)	
20	磁器	碗	(11.8)	7.0	(4.2)	—	40	良好	灰白	SK58	肥前系 内外面施軸(外面青磁軸) 内面染付	
21	磁器	碗	10.9	6.0	4.3	—	80	—	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付 SK94・95と接合	154-4
22	磁器	蓋	3.6	2.8	10.2	—	95	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付 23の蓋	
23	磁器	碗	(11.9)	5.9	(4.5)	—	30	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付 22の身	
24	磁器	蓋	(5.4)	[2.3]	—	—	15	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付(広東碗蓋)	
25	磁器	蓋	(5.4)	2.5	(9.7)	—	20	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱(広東碗蓋) 26の蓋	
26	磁器	碗	—	[4.3]	4.8	—	20	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付(広東碗) 25の身	
27	磁器	猪口	7.3	5.9	5.2	—	95	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸 外面染付	154-5
28	磁器	猪口	—	[4.3]	5.6	—	50	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目形高台	
29	磁器	皿	(10.5)	2.4	(6.4)	—	25	良好	白	SK58	肥前系 内外面施軸・染付 口紅	
30	陶器	碗	9.1	4.7	3.1	—	95	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 内外面灰軸 全体に煤付着(せんじ碗)	
31	陶器	碗	(9.2)	[4.5]	—	K	20	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 内外面灰軸	
32	陶器	碗	13.0	5.8	4.6	IK	50	良好	灰黄	SK58	瀬戸美濃系 内外面刷毛目軸 漆罫痕	154-6
33	陶器	碗	(12.0)	5.9	(4.6)	IK	40	良好	灰白 黄灰	SK58	瀬戸美濃系 内外面刷毛目軸	
34	陶器	碗	(10.0)	4.7	(4.0)	—	40	良好	灰白	SK58	京都信楽系 内外面透明軸(小杉碗) SK60と接合	
35	陶器	灯明皿	8.0	1.8	3.8	K	100	良好	灰黄	SK58	瀬戸美濃系 内外面柿軸・底部拭き取り 外面下位直重ね焼き痕	
36	陶器	灯明皿	8.1	1.7	4.2	D	100	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 内外面柿軸・底部拭き取り 外面直重ね焼き痕	
37	陶器	灯明皿	8.0	1.8	3.9	—	80	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 内外面柿軸・底部拭き取り 外面下位直重ね焼き痕	
38	陶器	灯明皿	10.3	2.2	4.4	IK	75	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 内外面柿軸・底部拭き取り 内面直重ね焼き痕	
39	陶器	灯明皿	10.4	2.1	5.1	IK	80	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 内外面柿軸・底部拭き取り 内面直重ね焼き痕	
40	陶器	灯明皿	10.6	1.8	5.0	K	90	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 内外面柿軸・底部拭き取り 外面下位直重ね焼き痕	
41	陶器	灯明皿	(10.6)	2.0	(4.2)	IK	45	良好	浅黄緑	SK58	瀬戸美濃系 内外面柿軸・体部下位拭き取り・直重ね焼き痕	
42	陶器	皿	27.8	5.7	12.9	EIK	100	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面呉須絵・鉄軸・目跡6被熱(石皿) SK94と接合	154-7

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
43	陶器	徳利	—	[15.9]	7.8	K	30	良好	灰白	SK58	瀬戸美濃系 外面灰輪・下位抜き取り 被熱	
44	陶器	徳利	—	[11.6]	—	I	30	良好	明焼灰	SK58	瀬戸美濃系 内外面結輪（ベコカン徳利）	
45	陶器	徳利	—	[9.5]	(6.6)	EK	25	良好	楊灰	SK58	瀬戸美濃系 外面結輪 底部抜き取り	
46	瓦質土器	火鉢	(16.1)	[4.7]	—	CFHI	25	普通	明焼灰 楊灰	SK58	外面ミガキ 織子	
47	土師質土器	焼塩壺	(7.1)	7.1	5.0	AI	90	普通	浅黄褐色	SK58	口クロ成形 底部糸切痕（左）胎土紛質	154-8
48	土師質土器	瓦盤	9.9	26.5	21.9	AHIK	55	普通	にじり色	SK58	江戸在地系 胎土紛質 頭頂部穿孔2・下位穿孔1 SK95-218・229 と接合	155-1
49	瓦質土器	火鉢	27.2	16.8	22.2	CI	70	普通	橙	SK58	底部シワ状痕 体部外面一部ミガキ・トビガンナ状施文 内面火箸状痕 脚部孔1 強く被熱して赤変	155-2
50	磁器	碗	(8.9)	5.6	3.6	—	45	良好	灰白	SK60	肥前系 内外面施輪・染付（小丸輪）	
51	磁器	碗	7.2	5.6	3.5	—	75	良好	白	SK60	肥前系 内外面施輪・染付（筒形碗）	155-3
52	磁器	碗	(11.2)	[4.2]	—	—	20	良好	白	SK60	肥前系 内外面施輪 外面染付	
53	磁器	蓋	(5.4)	2.8	(9.7)	—	30	良好	白	SK60	肥前系 内外面施輪・染付（広東碗の蓋）	
54	磁器	猪口	(7.0)	5.7	(4.6)	—	45	良好	白	SK60	肥前系 内外面施輪 外面染付 SK92 と接合	
55	磁器	猪口	(6.8)	5.7	(4.8)	—	25	良好	灰白	SK60	肥前系 内外面施輪 外面染付 同文別個体1あり	
56	磁器	皿	(21.6)	2.7	(13.2)	—	30	良好	白	SK60	肥前系 内外面施輪 内面染付 強く被熱して別個体の皿が溶着	155-4
57	陶器	碗	8.9	5.8	3.8	I	75	良好	灰白	SK60	京都信楽系 内外面透明輪 外面鉄絵（小杉輪）	155-5
58	陶器	碗	(9.2)	4.6	(3.4)	K	40	良好	灰白	SK60	京都信楽系 内外面透明輪（小杉輪）	
59	陶器	灯明皿	9.6	2.5	5.2	EK	80	良好	灰白	SK60	瀬戸美濃系 内外面灰輪 内面目跡4 割り疵	
60	陶器	灯明皿	(9.6)	1.9	(4.2)	IK	40	良好	灰白	SK62	瀬戸美濃系 内外面結輪 外面下位抜き取り	
61	陶器	灯明皿	10.3	2.3	(4.2)	IK	65	良好	灰白	SK62	瀬戸美濃系 内外面結輪・外面下位抜き取り 内面直重ね焼き痕	
62	磁器	碗	11.2	[3.4]	—	—	25	良好	白	SK64	肥前系 内外面施輪・染付（広東碗）	
63	磁器	皿	12.0	3.7	4.2	—	65	良好	白	SK64	肥前系 内外面施輪 内面蛇の目状鉄絵	
64	陶器	缸	(7.0)	[3.2]	—	K	5	良好	灰白	SK64	瀬戸美濃系 内外面透明輪 外面上絵付（緑）	155-6
65	陶器	灯明皿	9.9	1.9	5.2	I	100	良好	灰白	SK64	瀬戸美濃系 内外面結輪 内面直重ね焼き痕	155-7
66	陶器	灯明皿	10.0	2.2	4.7	IK	80	良好	灰白	SK64	瀬戸美濃系 内外面結輪・底部抜き取り・直重ね焼き痕 若干煤付着	
67	陶器	有耳壺	10.4	17.2	9.8	IK	95	良好	灰白	SK64	瀬戸美濃系 外面灰輪 内面下位に薄く煤付着	156-1
68	陶器	坏	7.9	4.6	4.2	—	100	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面銅板彫り染付	
69	陶器	坏	7.6	4.2	3.8	—	95	良好	白	SK65	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面銅板彫り染付	
70	陶器	蓋	—	2.0	5.9	—	100	良好	明赤灰	SK65	萬古系 上面一部施輪・金彩（急須蓋）	
71	陶器	急須	6.0	6.7	5.7	—	70	良好	明赤灰	SK65	萬古系 口唇部と外面の一部施輪・金彩 外底面布目痕・墨書 把手に穿孔（花文状）・注口欠欠	167-10
72	陶器	急須	6.0	6.0	4.9	B	85	良好	明赤褐	SK65	胎土妬器質 外面施輪 外底面布目痕・墨書「七」 把手欠欠	167-11
73	土師質土器	焙烙	(21.6)	[3.0]	—	AHIK	15	普通	にじり色	SK65	江戸在地系 底部砂目 胎土紛質 小形	
74	磁器	蓋	3.8	2.6	8.4	—	100	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 内外面施輪・染付（燗碗の蓋）	
75	磁器	碗	10.6	5.8	4.0	—	90	良好	白	SK70	肥前系 内外面施輪・染付（燗碗） 同文別個体1あり	
76	磁器	碗	7.6	4.2	3.2	—	80	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 内外面施輪・染付（燗碗）	156-2
77	磁器	碗	6.5	[5.5]	—	—	45	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 内外面施輪 外面染付（湯呑碗）	
78	磁器	猪口	7.1	5.5	5.2	—	100	良好	白	SK70	肥前系 内外面施輪・染付 蛇の目状高台	156-3
79	磁器	坏	6.0	2.6	2.6	—	90	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 内外面施輪 内面染付（御殿手酒杯）	
80	磁器	坏	6.8	3.3	2.9	—	75	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 内外面施輪 内面上絵付（青・金）（御殿手酒杯）	156-4
81	磁器	坏	(6.1)	2.9	(2.7)	—	30	良好	白	SK70	瀬戸美濃系 内外面施輪 内面上絵付（御殿手酒杯）	
82	磁器	鉢	12.5	5.1	6.8	—	95	良好	白	SK70	肥前系 内外面施輪 高台内露胎	156-5
83	磁器	皿	22.4	3.5	12.7	—	95	良好	灰白	SK70	肥前系 内外面施輪 内面染付	
84	磁器	徳利	1.5	16.6	4.5	—	100	良好	白	SK70	肥前系 外面施輪・染付	156-6
85	陶器	槌木鉢	8.9	5.2	3.7	BI	95	良好	灰白	SK70	瀬戸美濃系 内面上位・外面灰輪 變成前穿孔	157-1
86	陶器	蓋	—	2.9	4.6	IK	75	良好	灰白	SK70	松岡系々 内外面漆状塗布物・一部金彩塗布物遺存 最大径6.8 cm	157-2
87	陶器	土瓶	7.4	14.0	9.0	IK	70	良好	灰白	SK70	外面灰輪・白土・白盛・鉄絵で絵付	157-3

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
88	陶器	土瓶	6.6	[5.4]	—	IK	10	良好	白	SK70	松岡系 外面陶風輪	157-4
89	磁器	碗	9.7	4.6	3.1	—	100	良好	白	SK74	肥前系 内外面施軸・染付	
90	磁器	碗	8.0	5.5	3.4	—	60	良好	白	SK74	肥前系 内外面施軸・染付 (小丸碗)	
91	磁器	碗	8.3	5.4	3.5	—	60	良好	白	SK74	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕・焼継印(赤) (小丸碗)	
92	磁器	碗	(8.2)	[5.1]	—	—	15	良好	白	SK74	肥前系 内外面施軸 外面染付 (小丸碗)	
93	磁器	碗	(7.0)	5.4	(3.9)	—	35	良好	白	SK74	肥前系 内外面施軸・染付 (筒形碗)	
94	磁器	蓋	3.4	2.6	(9.0)	—	45	良好	白	SK74	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 (端反碗の蓋)	
95	磁器	碗	(10.8)	6.4	(4.5)	—	15	良好	白	SK74	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼継痕 (端反碗)	
96	磁器	碗	(10.5)	5.6	5.7	—	55	良好	白	SK74	肥前系 内外面施軸・染付 (広東碗)	
97	磁器	碗	(9.4)	[4.3]	—	—	20	良好	白	SK74	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 (端反碗)	
98	磁器	碗	(6.6)	5.1	3.0	—	60	良好	白	SK74	瀬戸美濃系 内外面施軸 木型打ち込み施文・染付 (湯呑碗)	157-5
99	磁器	坏	(6.6)	3.2	(2.8)	—	40	良好	白	SK74	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
100	磁器	皿	(10.9)	2.3	(5.2)	—	45	良好	灰白	SK74	瀬戸美濃系 内外面施軸	
101	磁器	皿	13.1	3.4	8.0	—	85	良好	白	SK74	肥前系 内外面施軸・染付 蛇の目回形高台部に墨書	157-6 167-12
102	磁器	皿	(14.8)	4.9	(9.6)	—	35	良好	白	SK74	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕 蛇の目回形高台	
103	磁器	蓋	—	[3.9]	(14.0)	—	10	良好	灰白	SK74	肥前系 内外面施軸 外面染付 色絵(赤青) 最大径 15.4 cm 104と組物	158-1
104	磁器	蓋物	(14.6)	7.1	(10.4)	—	30	良好	灰白	SK74	肥前系 内外面施軸 外面染付 色絵 103と組物	158-2
105	磁器	蓋	—	3.2	5.2	—	65	良好	灰白	SK74	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径6.8 cm	158-3
106	陶器	碗	(8.6)	[3.6]	—	—	20	良好	灰白	SK74	瀬戸美濃系 内面白化粧 外面面施軸 外面鉄絵・白盛 絵付	
107	陶器	碗	—	[2.2]	(3.0)	I	25	良好	灰白	SK74	大塚相馬系 内外面施軸	
108	陶器	灯明皿	9.6	1.9	4.5	IK	80	良好	灰白	SK74	瀬戸美濃系 底部糸切痕(右) 内外面施軸・底部拭 き取り 外面下位置重ね焼き痕	
109	陶器	瓶類	—	[3.6]	(7.0)	I	15	良好	灰白	SK74	内外面施軸 胎土硬質	
110	陶器	摺鉢	(36.0)	[13.5]	—	DEIK	35	良好	橙	SK74	堺明石系 内面黒目	
111	陶器	鍋	(19.6)	[7.9]	—	IK	10	良好	褐灰	SK74	内外面鉄軸	
112	陶器	土瓶	(6.8)	10.7	(6.4)	K	40	良好	灰白	SK74	外面青緑軸	
113	瓦質土器	火鉢	(18.6)	8.5	11.9	CHI	70	普通	橙	SK74	底部一方方向工具ナゲ やや酸化変焼成	158-4
114	瓦質土器	火鉢	縦5.4 横5.3 厚さ2.4	—	—	CHIK	5	普通	明焼灰 褐灰	SK74	内外面僅十	
115	瓦質土器	甕	(29.8)	[8.6]	—	CHIK	5	普通	橙	SK74	やや酸化変焼成 口縁部煤付着 窓部幅は任意値で固 化	
116	土師質土器	燈付	(24.4)	[20.2]	—	AIK	40	普通	白	SK74	三河産 外面丁寧なミガキ	
117	土師質土器	目皿	(13.0)	1.6	(12.0)	CEIK	20	普通	白	SK74	下面砂目痕をヘラナゲで消す 上面被熱による白化	
118	かわらけ	小皿	(8.3)	1.6	(4.1)	HI	40	普通	橙	SK74	江戸在地系 底部糸切痕 胎土鈔質	
119	土師質土器	焙塔	(32.0)	4.1	(31.8)	CHIK	35	普通	灰白	SK74	砂目底 外面煤付着	
120	土師質土器	焙塔	(35.9)	[3.7]	(36.1)	CIK	15	普通	灰白	SK74	砂目底 外面煤付着	
121	磁器	蓋	4.8	3.0	8.8	—	70	良好	灰白	SK77	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗の蓋)	158-5
122	磁器	蓋	(5.0)	2.9	(8.7)	—	30	良好	白	SK77	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗の蓋) SK77-78と接合	158-6
123	磁器	碗	—	[3.0]	—	—	15	良好	白	SK77	肥前系 内外面施軸・染付 強く被熱 (広東碗)	
124	磁器	碗	(7.6)	3.8	(2.7)	—	40	良好	白	SK77	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱 (小広東碗)	
125	磁器	仏飯器	6.4	[3.7]	—	—	55	良好	白	SK77	肥前系 内外面施軸 外面染付 強く被熱	
126	磁器	皿	(7.6)	2.3	(3.4)	—	25	良好	白	SK77	肥前系 内外面施軸 内面染付 煤付着	
127	磁器	油壺	2.2	8.7	4.2	—	75	良好	灰白	SK77	肥前系 内面頸部→外面施軸 外面染付 強く被熱 SK77-78と接合	158-7
128	陶器	香炉	(9.0)	[4.5]	—	IK	15	良好	灰白	SK77	瀬戸美濃系か、内面上位→外面施軸 外面呉須絵 強く 被熱 口縁部に歪みあり 最大径10.2 cm	
129	陶器	灯明皿	8.0	1.7	3.5	I	100	良好	灰白	SK77	瀬戸美濃系 内外面施軸・底部拭き取り 内面と外底 面に直重ね焼き痕	
130	磁器	坏	(7.1)	3.5	2.2	—	60	良好	灰白	SK78	肥前系 内外面施軸	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
131	陶器	個人入れ	(5.8)	[3.5]	—	K	35	良好	楊灰	SK78	瀬戸美濃系 内外面灰釉 弱く被熱・煤付着	
132	瓦質土器	火消壺	(19.8)	[15.5]	—	CDHK	15	普通	灰白	SK78	部分的に僅し	
133	瓦質土器	火鉢	26.1	14.3	23.2	CHK	70	普通	橙	SK78	底部シワ状痕 外面ミガキ 被熱・赤化 口縁部二次敲打痕 SK58 SK77-78 SK95 SK98 SK218と接合	158-8
134	磁器	碗	—	[2.5]	—	EK	5	良好	灰白	SK77-78	中国龍泉系 内外面青磁釉 外面蓮弁文	159-1
135	磁器	碗	—	[5.3]	(4.8)	—	25	良好	白	SK77-78	肥前系 内外面施釉 (外面青磁釉)・染付	
136	磁器	碗	(4.2)	4.1	2.7	—	20	良好	白	SK77-78	肥前系 内外面施釉・染付 (小広東碗) SK214と接合	
137	磁器	皿	(14.1)	3.2	(7.5)	K	15	良好	白	SK77-78	肥前系 内外面施釉 内面蛇の目状釉 外面染付 弱く被熱 SK95と接合	
138	磁器	皿	(15.0)	3.3	(10.0)	—	25	良好	白	SK77-78	肥前系 内外面施釉・染付 弱く被熱 SK272と接合	
139	磁器	皿	9.3	2.8	5.2	—	95	良好	白	SK77-78	肥前系 内外面施釉・染付 被熱・煤付着	
140	磁器	皿	—	[1.0]	6.1	—	20	良好	白	SK77-78	肥前系 内外面施釉・染付 SK95と接合	
141	陶器	灯明皿	10.3	2.3	4.9	IK	95	良好	灰白	SK77-78	瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面ビ皿3 被熱	
142	陶器	灯明皿	(7.9)	1.7	(3.8)	I	45	良好	灰白	SK77-78	瀬戸美濃系 内外面柿釉・底部拭き取り	
143	陶器	灯明皿	7.8	1.6	4.1	DK	100	良好	灰白	SK77-78	瀬戸美濃系 内外面柿釉・底部拭き取り 外面直重ね焼き痕 弱く被熱	
144	陶器	束燭	5.4	4.3	4.5	IK	100	良好	灰白	SK77-78	瀬戸美濃系 底部離糸切痕 内外面鉄釉 被熱	159-2
145	陶器	灰落し	—	[6.9]	(5.4)	K	15	良好	灰白	SK77-78	瀬戸美濃系 外面緑釉 口縁部二次的な敲打跡4・高台登付部目跡 口唇部二次敲打痕 SK94と接合	
146	陶器	徳利	(3.2)	[6.4]	—	EK	15	良好	灰白	SK77-78	瀬戸美濃系 外面灰釉 被熱	
147	陶器	徳利	—	[18.6]	—	IK	20	良好	楊灰	SK77-78	瀬戸美濃系 外面灰釉 SK95・05J8と接合	
148	陶器	平胴壺	14.7	15.8	9.3	I	95	良好	灰白	SK77-78	瀬戸美濃系 内外面柿釉 鉄釉泥し掛け 口縁上端目跡4・高台登付部目跡 口唇部二次敲打痕 SK94と接合	159-3
149	土質土器	蓋	10.6	1.2	9.0	HK	50	普通	橙	SK77-78	上面ミガキ 下面ヘラ記号状肌 被熱・赤化	159-4
150	瓦質土器	火鉢	25.8	14.8	22.8	CHK	65	普通	橙	SK77-78	底部シワ状痕 外面ミガキ 口縁部二次敲打痕 体部上鉄釘付着 強く被熱・赤化 SK95・217・218と接合	159-5
151	磁器	碗	11.3	4.7	3.9	—	90	良好	白	SK90	肥前系 内外面施釉・染付 内底面蛇の目状釉 口縁	
152	磁器	碗	7.4	5.5	3.7	—	70	良好	白	SK90	肥前系 内外面施釉 体部に横帯状に鉄釉 (筒形碗)	159-6
153	陶器	灯明皿	5.5	1.7	4.0	IK	100	良好	二色濁	SK90	瀬戸美濃系 内外面柿釉 底部拭き取り・直重ね焼き痕 最大径7.6 cm	
154	陶器	蓋	—	[2.4]	11.7	IK	80	良好	灰白	SK90	瀬戸美濃系 上面灰釉 つまみ欠失 最大径14.2 cm	
155	磁器	碗	(11.0)	5.7	(4.8)	—	40	良好	白	SK92	肥前系 内外面施釉・染付 同文別個体1あり	
156	磁器	碗	(11.6)	6.1	(4.2)	—	60	良好	灰白	SK92	肥前系 内外面施釉・染付	159-7
157	磁器	蓋	4.3	3.0	9.9	—	80	良好	白	SK92	肥前系 内外面施釉・染付 被熱	159-8
158	磁器	蓋	5.3	2.9	9.8	—	80	良好	白	SK92	肥前系 内外面施釉・染付 (広東碗の蓋)	
159	磁器	蓋	5.7	2.7	(10.2)	—	65	良好	白	SK92	肥前系 内外面施釉・染付 (広東碗の蓋)	
160	磁器	皿	13.8	3.9	8.0	—	95	良好	白	SK92	肥前系 内外面施釉・染付	160-1
161	磁器	皿	(13.9)	3.4	8.4	—	45	良好	灰白	SK92	肥前系 内外面施釉・染付 蛇の目形回高台 弱く被熱	
162	磁器	猪口	(6.8)	5.7	4.3	—	60	良好	灰白	SK92	肥前系 内外面施釉 外面染付	
163	磁器	猪口	(7.2)	5.7	(5.3)	—	40	良好	白	SK92	肥前系 内外面施釉 外面染付 被熱 SK94-95に同一個体あり	
164	陶器	碗	8.4	4.7	3.1	BK	95	良好	灰白	SK92	瀬戸美濃系 内外面灰釉 外面鉄絵状の斑 (せんじ碗)	160-2
165	陶器	碗	8.6	5.0	3.2	EIK	100	良好	灰白	SK92	瀬戸美濃系 内外面灰釉	
166	陶器	碗	9.1	4.6	3.2	K	55	良好	灰白	SK92	京都信楽系 内外面透明釉 外面鉄絵 (小杉碗)	160-3
167	陶器	灯明皿	7.8	1.6	3.4	K	100	良好	黄灰	SK92	瀬戸美濃系 内外面柿釉・底部拭き取り 外面下位直重ね焼き痕	
168	陶器	灯明皿	9.8	2.3	5.0	IK	100	良好	灰白	SK92	瀬戸美濃系 内外面柿釉・底部拭き取り 外面下位直重ね焼き痕	
169	陶器	灯明皿	10.5	2.2	4.8	IK	80	良好	楊灰	SK92	瀬戸美濃系 内外面柿釉・底部拭き取り 外面下位直重ね焼き痕	
170	陶器	徳利	4.0	25.1	10.0	K	65	良好	淡黄	SK92	瀬戸美濃系 外面灰釉 底部拭き取り SK95と接合	160-4
171	陶器	蓋	—	2.8	4.5	IK	90	普通	淡黄橙	SK92	底部糸切痕 (右) 最大径11.4 cm	
172	瓦質土器	火鉢	(30.2)	[8.5]	—	AHK	20	普通	淡黄	SK92	江戸在地系 口縁部・外面沈凹区画内ミガキ 胎土粉質 煤す	
173	瓦質土器	火鉢	(29.5)	[11.4]	—	CFHK	30	普通	灰白	SK92	酸化炭焼成済み 外面菊花・唐草文施文 脚部欠失	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
174	磁器	皿	—	[1.9]	(6.2)	—	15	良好	白	SK94	肥前系 内外面施軸・染付 同文別個体1あり	
175	陶器	灯明皿	5.0	1.4	3.6	1K	100	良好	灰白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施軸・外面下位拭き取り・直重ね焼き痕 最大径7.7cm	
176	陶器	坪	(6.4)	4.2	3.3	I	65	良好	灰白	SK94	瀬戸美濃系 内外面施軸	
177	陶器	德利	3.1	21.4	(8.7)	HIK	90	良好	灰白	SK94	瀬戸美濃系 内面上へ外面施軸・底部拭き取り 被熱	160-5
178	土師瓦土器	塔塔	(33.0)	[4.5]	—	AI	10	普通	橙	SK94	江戸在地系 砂土胎 胎土粉質 外面煤付着	
179	瓦質土器	塔塔	(29.8)	4.7	(26.4)	CEHK	15	普通	に5色	SK94	底部シワ状痕 外面煤付着 内底黒化 空や酸化炎焼成	
180	瓦質土器	火鉢	(25.3)	14.0	(23.5)	EHK	65	普通	に5色	SK94	底部シワ状痕 外面ミガキ 被熱 SK59 SK77-78 SK95 SK218 と接合	160-6
181	磁器	碗	(7.2)	6.1	3.5	—	60	良好	白	SK95	肥前系 内外面施軸・染付 (筒形碗)	
182	磁器	蓋	3.6	2.9	9.5	—	90	普通	白	SK95	肥前系 内外面施軸 (外面青磁軸) 内面染付 被熱・煤付着	
183	磁器	紅皿	4.5	1.5	1.4	—	65	良好	白	SK95	肥前系 型成形 内外面施軸 外面錆状施文 煤付着	160-7
184	磁器	香伊	—	[5.1]	4.4	—	70	普通	白	SK95	肥前系 外面施軸・染付 弱く被熱	
185	磁器	德利	—	[6.4]	—	—	45	良好	白	SK95	肥前系 外面施軸・染付 被熱 SK58 と接合	
186	陶器	碗	(7.8)	[5.0]	—	K	15	普通	灰白	SK95	京都信楽系 内外面施軸 鉄蝕	161-1
187	陶器	灯明皿	10.0	2.4	4.8	1K	95	良好	褐灰	SK95	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面下位拭き取り	
188	陶器	皿	10.9	2.9	6.6	HK	95	良好	灰白	SK95	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面摺目・目跡3	
189	陶器	德利	2.8	[16.2]	—	IK	35	良好	灰白	SK95	瀬戸美濃系 外面施軸	
190	磁器	蓋	(3.7)	2.8	(9.4)	—	40	良好	白	SK99	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 (端反碗の蓋)	
191	陶器	碗	(9.5)	4.8	3.1	K	75	良好	淡黄	SK99	瀬戸美濃系 内面白化粒後施軸 外面施軸・白磁・鉄粒	161-2
192	瓦質土器	燈舂	—	[5.6]	—	CH	5	普通	に5色	SK99	酸化炎焼成済み 体部に孔あり 断面等二次使用 (転用磁具)	161-3
193	磁器	水漬	縦 [5.2]	幅 [2.2]	高 2.2	—	20	良好	白	SK107	肥前系 外面施軸 上面型押施文・染付 被熱	
194	陶器	碗	(10.7)	[6.0]	—	I	10	普通	灰黄	SK107	大塚相馬系 (相馬駒埴) 内外面施軸・鉄蝕	161-4
195	陶器	皿	(31.1)	6.7	17.0	GIK	15	良好	灰白	SK107	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面目跡3遺存 弱く被熱	
196	陶器	楕鉢	(32.2)	[11.0]	—	DEIK	25	良好	に5色	SK107	堺明石系 内面摺目 被熱	
197	陶器	蓋	—	1.5	3.0	1K	60	良好	褐灰	SK107	上面施軸 下面墨書・煤付着 (土瓶の蓋) 最大径 [5.0]cm	
198	磁器	碗	—	[1.5]	(5.2)	—	5	普通	白	SK391	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕・焼印(赤) [口三]	167-13
199	磁器	仏飯器	6.8	6.5	4.0	—	80	普通	白	SK391	肥前系 内外面施軸 外面染付 弱く被熱か少量煤付着	161-5
200	磁器	蓋	(5.7)	2.9	(10.6)	—	25	良好	白	SK392	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (広東碗蓋) SK393 と接合	
201	磁器	碗	(12.4)	[3.8]	—	—	15	良好	白	SK392	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕 強く被熱 (広東碗)	
202	磁器	皿	(18.5)	3.0	(10.5)	—	30	良好	白	SK392	肥前系 内外面施軸・染付	
203	陶器	灯明皿	9.8	2.0	4.8	BI	75	良好	明褐灰	SK392	瀬戸美濃系 内外面施軸・直重ね焼き痕 被熱	
204	陶器	碗	(9.0)	5.1	(2.7)	EK	35	良好	褐灰	SK392	瀬戸美濃系 内外面施軸 被熱・変色	
205	磁器	皿	—	[1.6]	—	HI	5	良好	橙	SK393	中国漳州窯系 内外面施軸 内面色絵(赤)	
206	磁器	碗	(7.2)	[5.0]	—	—	35	良好	白	SK393	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (筒形碗)	161-7
207	磁器	碗	(7.0)	5.7	3.0	—	45	良好	白	SK393	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (筒形碗)	161-8
208	磁器	碗	(12.0)	4.8	(4.8)	—	45	良好	灰白	SK393	肥前系 内外面施軸・染付 内面蛇の目状輪割・釘書き 煤少量付着	167-14
209	磁器	碗	(11.0)	[2.5]	—	—	15	良好	白	SK393	肥前系 内外面施軸・染付 被熱 (端反碗)	
210	磁器	楕口	—	[3.2]	(6.5)	—	15	良好	白	SK393	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱	
211	磁器	楕口	(6.9)	5.5	3.8	—	35	良好	白	SK393	肥前系 内外面施軸 外面染付	
212	磁器	坪	(7.0)	[2.3]	—	—	15	良好	白	SK393	中国景德鎮窯系 内外面施軸・染付	161-6
213	磁器	皿	(13.5)	[4.4]	(7.2)	—	20	良好	灰白	SK393	肥前系 内外面施軸・染付 弱く被熱・煤付着	
214	陶器	碗	(9.4)	[3.5]	—	K	15	良好	灰白	SK393	京都信楽系 内外面透明軸 (小杉碗)	
215	陶器	德利	(1.9)	[15.0]	—	IK	25	良好	に5色	SK393	肥前系 外面染付 被熱 上下接点無い2破片	162-1
216	陶器	德利	—	[7.9]	(7.8)	K	20	良好	に5色	SK393	瀬戸美濃系 外面施軸 底部拭き取り (<こかん)德利)	

3・4は木札である。両者とも表面に墨書がみられるが、判読できない。3は「卯年改」と読める焼印がみられる。

5は器種不詳で、直方体のものである。上部に向かってやや薄くなる。上端部がホソ状に加工され、穿孔がみられる。何らかの部材と思われる。

6は連歯下駄である。裏面には、わずかに黒漆が残存している。7は陰卵下駄である。図には掲載していないが鼻緒が残存していた。歯は片方のみ遺存する。8は無眼下駄である。

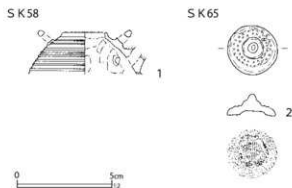
第 50 号 土 壙 (第 210・216・217・231・232・235・239・243 図)

B 5-1 5・J 5 グリッドに位置し、第 107 号土壙より新しい。

平面形は長方形で、南東部にテラス状の段がみられた。覆土は灰色シルトブロックを含んだ砂で埋め戻されていた。第 1 層は炭化物を多量に含んだ粘土で、本跡とは別の遺構覆土と思われる。

陶磁器の出土は少ないが、瀬戸美濃系磁器の端反碗や京都信楽系の土瓶が出土していることから、推定廃絶時期は 19 世紀前半頃である。

第 216・217 図 10～15 に陶磁器・土器、第 231 図 1 に土製品、第 232 図 1 に瓦、第 235 図 9～12 に木製品、第 239 図 3～8 に金属製品、第



第 230 図 土壙出土遺物 (15)

243 図 1・2 に石製品を示した。

第 216 図 10 は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。口縁部の反りは大きく、薄手で高台の作りが薄い。墨芝文が染付される。焼継痕が明瞭である。

11 は、内面を蛇の目状軸刺ぎする碗である。胎質は粗雑で、遺存部に染付はみられない。全体に煤が付着し、被熱しているとみられる。

12 は、瀬戸美濃系陶器の柿輪灯明皿である。油皿であるが、内面に明瞭な環状の直重ね焼き痕が残る (径 4.3～4.8 cm)。外面底部付近にも径 3.7 cm 程の重ね焼き痕がある。軸葉は全体的に薄く掛けられる。

第 217 図 13 は京都信楽系陶器の土瓶で、大形・薄手のものである。外面は施釉、鉄絵・呉須絵で花文が描かれる。内面にも、全体に軸が薄く掛けられている。

14 は瀬戸美濃系陶器の一升徳利で、灰軸が掛けられる。頸部の稜はほとんど確認できず、軸下に沈線状の幅狭いケズリ痕が僅かに認められる。口縁部の玉縁は、折り返しの痕跡が明瞭である。

15 は、土師質土器の香炉ないし鉢類であろうか。外面は全面的にヨコミガキされる。内底面には、時計回りの渦巻き状ナデが明瞭にみられる。底部は削り込みと思われ、墨書が認められる。胎土は軟質で粉っぽく、雲母微細粒を含むので、江戸在地系土器の可能性が高い。

第 231 図 1 は、弧をモチーフとした人形である。胎土の特徴から江戸在地系と考えられる。前後合わせの二枚型成形で、底部は開口している。

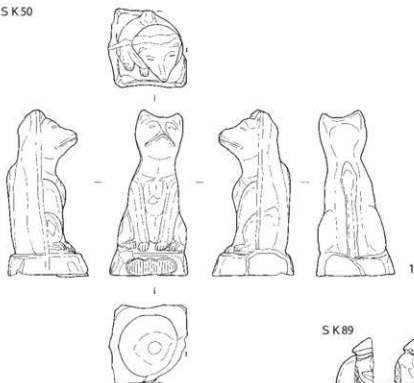
第 232 図 1 は丸瓦である。凹面にはゴザメがみられる。

第 235 図 9 は箱の底板で、木釘が遺存している。上面に赤漆が塗布され、被熱している。

第 73 表 土壙出土遺物観察表 (2) (第 230 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	施釉土器	ミニチュア	(2.3)	[2.2]	—	6.5	AK	良好	暗褐色	SK58	江戸在地系 土瓶 型成形 縁軸 (銀色化)	240-10
2	土製品	ミニチュア	2.6	1.2	—	3.8	ADG	普通	橙	SK65	蓋 上面緑色釉 下面に布目圧痕	240-11

SK50



第 231 図 土壌出土遺物 (16)

第 74 表 土壌出土遺物観察表 (3) (第 231 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	人形	8.9	4.2	4.3	50.1	AE	普通	にぶい橙	SK50	江戸在地系 狐 前後合二枚型成形 中空	240-8
2	土製品	人形	4.6	3.5	1.8	2.1	AE	普通	にぶい黄橙	SK89	江戸在地系 大黒 前面欠失 前後合型成形 中空	240-12

10～12は木札である。10は表裏面に墨書がみられるが、判読できない。

11は表面に「[] □問屋源右衛門殿」、「万 □ □」の墨書がみられる。関連する資料として、「栗橋 / 源右衛門」の墨書が書かれた荷札が栗橋宿跡第2地点の第19号土壌から出土している(埴埋文 2019b)。12は表面に「[] 右衛門殿行」、「[] ばし源八」の墨書がある。

第239図3・4は銅製の煙管の吸口である。そのうち3は、2個体が入り子状になっている。5は器種不詳の金属製品である。6～8は銅製の針金である。

第243図1は砥石である。流紋岩ないし凝灰

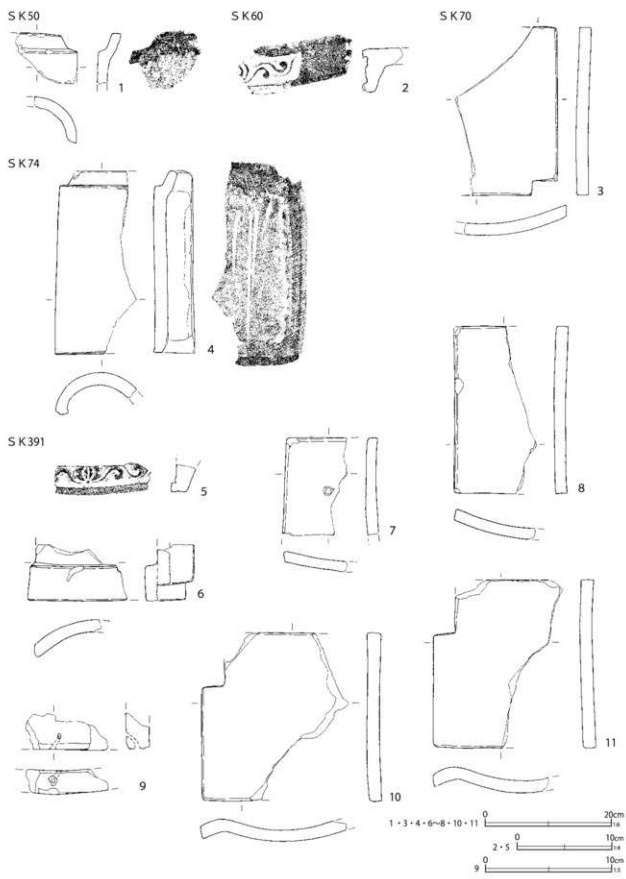
岩に類似する石材だが、風化した角閃石のような光沢のない黒色柱状鉱物が多く含まれる。裏面にはノミ状工具による削痕がみられ、砥面は1面遺存している。

2は多孔質の角閃石安山岩転石を素材とした磨石である。下面は擦り面となっており、明瞭な線条痕がみえる。

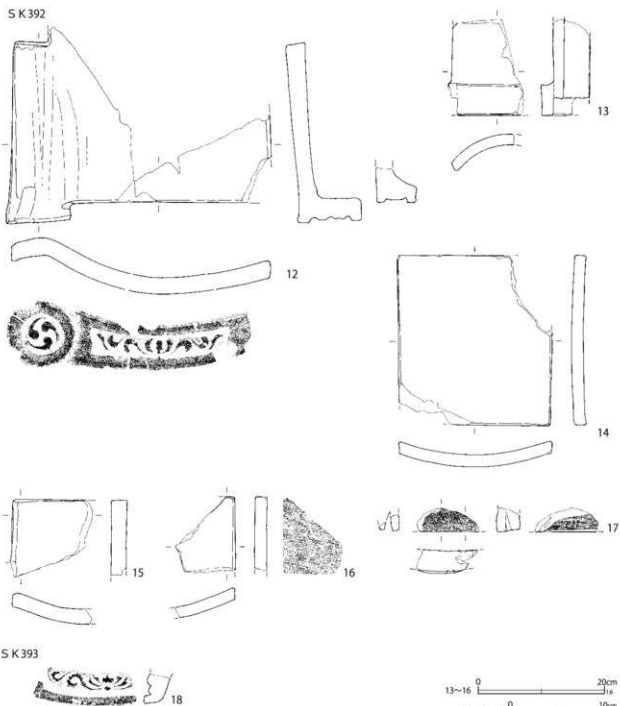
第56号土壌 (第210・217・239図)

B5-17グリッドに位置する。平面形は楕円形で、覆土は焼土ブロック、炭化物を多量に含んでいた。出土遺物は少ない。

第217図16・17に陶磁器、第239図9～11に金属製品を示した。



第232圖 土壤出土遺物 (17)



第 233 図 土壙出土遺物 (18)

第 217 図 16 は瀬戸美濃系磁器の坏で、酸化コバルト染付が認められる。17 は肥前系磁器の坏で、筒形碗の形態である。強く被熱している。このほかに、瀬戸美濃系磁器の端反碗（厚手）、真壁系土器の甕、陶器の白土染付土瓶がみられる。近代の硬質陶器も含まれるが、混入である。推定

廃絶時期は 19 世紀後半である。

第 239 図 9 は銅製の煙管の吸口である。10・11 は鉄釘である。

第 58・92・94・95 号土壙（第 211 図）

焼土・炭化物を主体とする土壙が、密に重複していた。文化・文政期の火災に関わる火災処理土

第75表 土壌出土遺物観察表(4)(第232～233図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	丸瓦	[7.0]	[10.0]	1.7	7.4	—	ACIK	普通	褐灰	SK50	欠け口まで被熱	245-10
2	瓦	軒枝瓦	[4.3]	[12.6]	2.0	[5.5]	—	AIK	普通	灰白	SK60		245-9
3	瓦	枝瓦	27.0	[16.5]	2.0	[4.8]	—	AIK	普通	灰白	SK70		
4	瓦	丸瓦	29.3	[13.0]	2.0	6.7	—	AIK	普通	灰	SK74		245-11
5	瓦	軒枝瓦	[2.0]	[9.7]	2.0	[3.5]	—	AIK	普通	灰白	SK301	粗化	245-13
6	瓦	道具瓦	[9.0]	[16.0]	5.5	7.8	—	AIK	普通	灰白	SK301	粗化少しあり SK392と接合	245-12
7	瓦	平瓦	10.0	[15.9]	1.7	—	—	AIK	普通	灰	SK301	刻印「〇」	246-1
8	瓦	平瓦	27.0	[13.2]	1.9	[4.8]	—	HIK	普通	灰	SK301		
9	瓦	平瓦	[2.8]	[6.5]	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SK301	下側面から凹面へ二次穿孔	246-2
10	瓦	枝瓦	27.1	[23.5]	2.1	3.5	—	AIK	普通	灰白	SK301	被熱	246-3
11	瓦	枝瓦	27.1	[20.9]	2.0	4.1	—	AIK	普通	灰白	SK301	被熱	
12	瓦	軒枝瓦	[20.9]	27.9	1.8	8.0	6.5	AIK	普通	灰	SK392	左巻き SK393と接合	246-4
13	瓦	道具瓦	15.5	[12.0]	3.7	7.9	—	AHK	普通	灰白	SK392	被熱	
14	瓦	平瓦	27.5	24.8	4.1	2.0	—	AIK	普通	灰	SK392		246-5
15	瓦	枝瓦	[12.5]	[13.3]	2.5	[4.9]	—	AIK	普通	灰白	SK392	被熱	
16	瓦	平瓦	[2.3]	[9.7]	2.0	[4.8]	—	AIK	普通	灰白	SK392	裏面にへら書きカ被熱	246-6
17	瓦	不明	2.5	[6.6]	2.3	—	—	AIK	普通	灰白	SK392	V字状の焼成顔切り込み	246-7
18	瓦	軒枝瓦	[2.5]	[11.0]	2.3	[3.8]	—	AIK	普通	灰黄	SK393		246-8

壊であるため、一括して報告する。挿図では基本土層東壁の一部を図示した。

第58号土壌はB5-J8グリッド、第92・94・95号土壌はB5-J8、C5-A8グリッドに位置する。

第58・95号土壌は、調査区域外へ延びていた。重複関係は第95号土壌が最も古い、第58・92・94号土壌の新旧関係は不詳である。

基本土層東壁1(第7・211図)をみると、第95号土壌は直上を四枚の整地層(第76～79層)に覆われていた。四枚の土層のうち、最上部の第76層は焼土ブロック・炭化物を多量に含む、火災直後の整地層と考えられる。この整地層は、第77・78号土壌の直上を覆っていたことが確認された(第7・213図)。

東壁にみえる第58号土壌の覆土は、第76層とほぼ同質であり、火災で生じた焼土や炭化物で埋め戻した後に、整地したと思われる。

さらにその直上には、第75層のシルトブロックに富んだ砂層が厚く堆積し、その上を炭化物層のようにみえる第67層が覆っていた。第67層を南へ追っていくと、第65層(第7図)の赤化

した焼土層へと続いていた。

また、第58号土壌を若干掘り込むように、焼土・炭化物を主体とする火災処理土壌と思われる遺構(第7図)がみられた。第64層を掘り込み面とする。第一面の遺構確認面より高い位置にあったため未検出である。

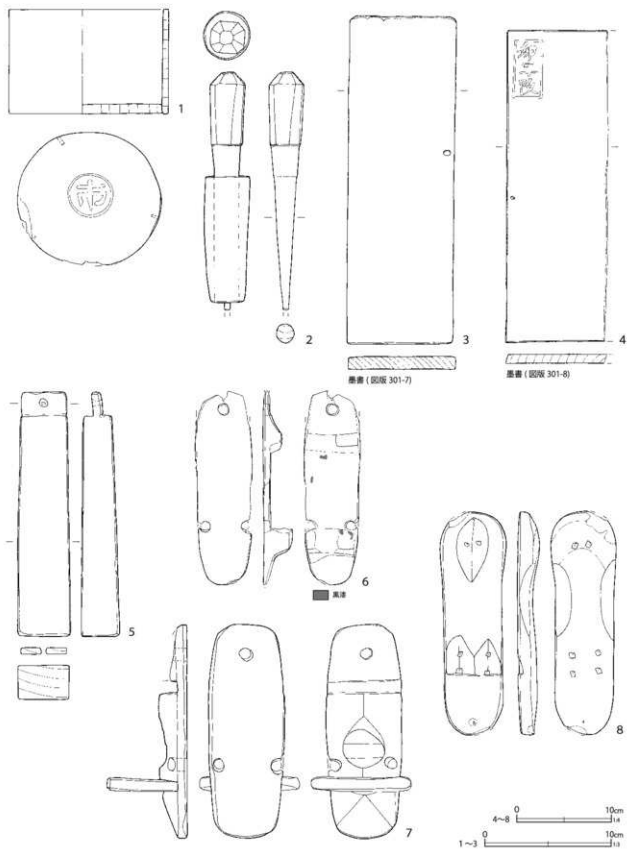
以上のことから、平面調査では確認できなかった未検出遺構を含め三時期にわたる火災処理が行われていたと考えられる。また、二枚の火災層が認識されよう。

以上の情報を踏まえて、各土壌の出土遺物の様相をみていきたい。

最も古い第95号土壌の出土遺物は、肥前系磁器で、外面に青磁釉が施された蓋(朝顔形に開く碗に伴う)・鎚文紅皿等を最新とする。18世紀後葉～末頃に位置付けられる。陶磁器には、被熱や煤が付着するものがみられる。

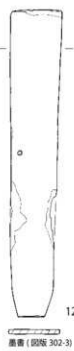
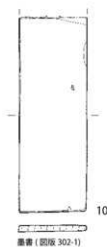
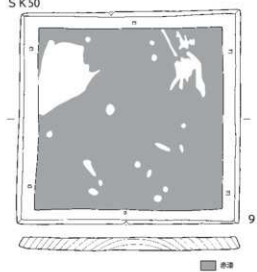
第58号土壌の出土遺物は、肥前系磁器の広東碗とその蓋を最新とする。このほかに、瀬戸美濃系陶器の石皿等がみられ、18世紀末頃の様相である。陶磁器には、被熱がみられる。また、下層の第95号土壌とは若干の年代差が認められる。

SK 48

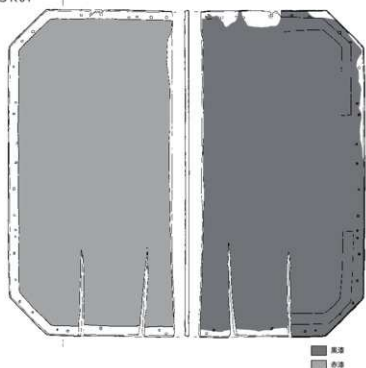


第 234 図 土壙出土遺物 (19)

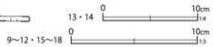
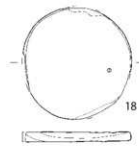
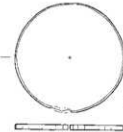
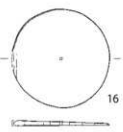
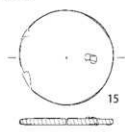
SK50



SK64

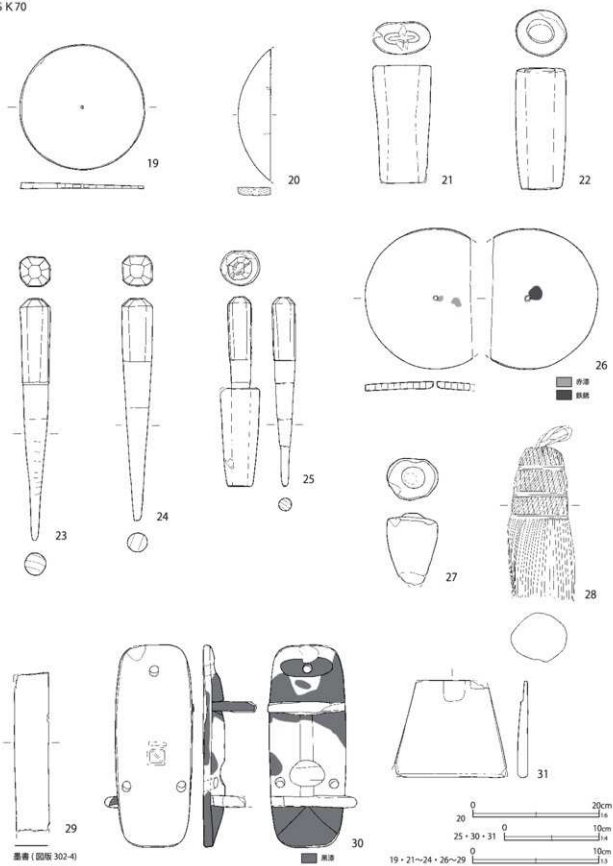


SK70



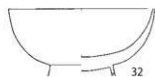
第235圖 土壙出土遺物(20)

S K 70



第 236 図 土曜出土遺物 (21)

SK 74



32



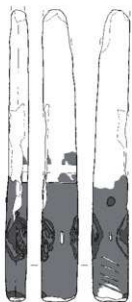
33



34



36



37



35



漆



■ 黒漆
■ 黄土色塗布物



38



39



漆 (図版 302-5)

SK 107



43



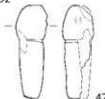
漆 (図版 302-6)



44



SK 92



42



41



0 10cm 1/4

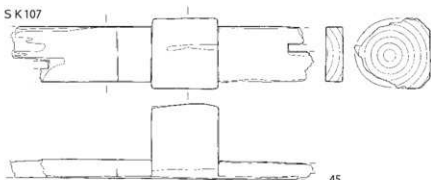
40・41・44

0 10cm 1/3

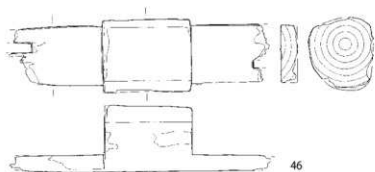
32-39・42・43

第 237 図 土壇出土遺物 (22)

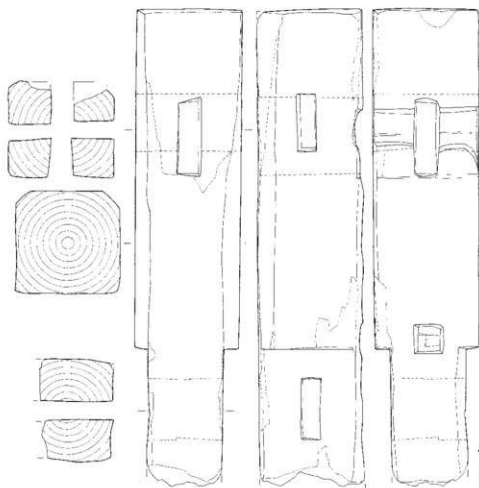
SK107



45



46



47

0 20cm
1/4

第 238 図 土壙出土遺物 (23)

第76表 土壇出土遺物観察表(5)(第234~238図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	曲物	—	—	—	(10.8)	8.2	11.0	榎目	SK48	木釘孔3 側板歪み大 底板裏面焼印「㊀」	
2	木製品	呑口 栓	10.0 [18.8]	3.5 2.7	0.7 2.6	—	—	—	榎目 榎目	SK48 SK48		
3	木製品	木札	25.9	8.5	1.0	—	—	—	板目	SK48	孔1 表面墨書(文字資料14)	
4	木製品	木札	33.0	[10.8]	1.0	—	—	—	板目	SK48	孔1 焼印「卯年改々」 墨書(文字資料15)	
5	木製品	不明	25.9	5.5	4.0	—	—	—	板目	SK48	上端ホゾ状加工・孔1	
6	木製品	下駄	[20.5]	5.9	—	—	3.1	—	榎目	SK48	連歯下駄 黒漆	249-7
7	木製品	下駄	22.6	8.1	—	—	8.5	—	板目	SK48	陰印下駄 鼻緒残存	
8	木製品	下駄	23.6	6.9	—	—	2.2	—	板目	SK48	無眼下駄 木釘6 前後に釘孔2	
9	木製品	箱	16.9	17.5	1.0	—	—	—	板目	SK50	底板赤漆 木釘残6 被熱	249-8
10	木製品	木札	[15.4]	3.4	0.5	—	—	—	榎目	SK50	孔1 表裏面墨書(文字資料17)	
11	木製品	木札	19.7	4.1	0.9	—	—	—	板目	SK50	孔1 表面墨書(文字資料18)	
12	木製品	木札	24.2	4.0	0.4	—	—	—	板目	SK50	底板 孔1 表面墨書(文字資料19)	
13	木製品	膳	34.4	[17.6]	0.4	—	—	—	板目	SK64	底板 表面赤漆 裏面黒漆 脚と側板嵌跡 木釘・木釘孔多数 14と同一個体	
14	木製品	膳	—	—	0.8	—	—	—	板目	SK64	側板 表面赤漆 裏・上面黒漆 木釘残 炭化 13と同一個体	
15	木製品	曲物	—	—	0.5	7.5	—	—	板目	SK70	蓋 歯板紐残存	
16	木製品	曲物	—	—	0.4	7.7	—	—	榎目	SK70	底板 中央に木釘1	
17	木製品	曲物	—	—	0.4	8.7	—	—	榎目	SK70	底板 中央に孔1	
18	木製品	曲物	[8.8]	[8.6]	0.8	—	—	—	板目	SK70	中央に孔1 全面炭化	
19	木製品	曲物	—	—	0.5	9.8	—	—	榎目	SK70	底板 中央に木釘1	
20	木製品	樽	[20.8]	[5.1]	1.2	—	—	—	板目	SK70	蓋 木釘残 表面墨書	
21	木製品	呑口	9.3	4.6	2.5	—	—	—	芯持材	SK70	歪み大	
22	木製品	呑口	9.6	4.0	3.6	—	—	—	芯持材	SK70		
23	木製品	栓	19.0	2.4	2.3	—	—	—	板目	SK70	下部加工痕多数	
24	木製品	栓	17.5	2.4	2.4	—	—	—	板目	SK70		
25	木製品	呑口 栓	10.0 20.0	4.2 2.5	3.3 2.5	—	—	—	榎目 榎目	SK70 SK70		
26	木製品	灯火具	—	—	0.6	11.1	—	—	榎目	SK70	赤漆 中央に孔1 鉄跡 炭化	
27	木製品	不明	[5.7]	4.0	3.3	—	—	—	板目	SK70	脚々	
28	木製品	筥	13.9	5.2	3.9	—	—	—	—	SK70	銅線の痕跡3段 錆残存	
29	木製品	椀木	[12.5]	2.7	0.06	—	—	—	榎目	SK70	表面墨書「三入」(文字資料20)	
30	木製品	下駄	21.4	8.2	—	—	5.1	—	板目	SK70	陰印下駄 黒漆 焼印「㊀」	249-10
31	木製品	下駄	10.2	[11.8]	1.1	—	—	—	板目	SK70	陰印下駄 歯	
32	木製品	漆椀	—	—	—	(11.5)	[5.3]	—	横木取り	SK74	内面赤漆 外面黒漆	
33	木製品	曲物	—	—	0.3	5.4	—	—	榎目	SK74	底板 焼印	
34	木製品	櫛	[3.6]	2.8	0.4	—	—	—	不明	SK74	漆下地残存	
35	木製品	杓子	[15.0]	(7.2)	0.7	—	—	—	榎目	SK74	赤漆	249-11
36	木製品	包丁	9.5	2.5	1.7	—	—	—	板目	SK74	柄2枚合わせ 木釘3 鉄釘1 釘孔2 炭化	
37	木製品	木刀	[23.1]	2.9	1.7	—	—	—	板目	SK74	黒漆 持手部分に裝飾接着の痕跡	249-12
38	木製品	浮子	2.1	—	—	1.3	—	—	不明	SK74	下部黒漆 上部赤漆	250-1
39	木製品	木札	21.4	5.0	0.6	—	—	—	板目	SK74	桶側板転用 孔1 表裏面墨書(文字資料21)	
40	木製品	下駄	13.4	7.3	—	—	[1.8]	—	板目	SK74	陰印下駄 全面黒漆	250-2
41	木製品	不明	33.7	2.4	2.4	—	—	—	板目	SK74		
42	木製品	隔物	7.5	2.5	2.4	—	—	—	芯持材	SK92		
43	木製品	木札	20.1	6.7	0.9	—	—	—	板目	SK107	孔1 表面墨書(文字資料22)	
44	木製品	鋤	[60.8]	10.4	2.8	—	—	—	板目	SK107	焼印「全」 柄部炭化 柄幅3.9cm 厚2.8cm	250-3
45	木製品	建築材	11.3	[48.5]	12.2	—	—	—	芯持材	SK107	46・47と同一	
46	木製品	建築材	10.8	[41.8]	10.3	—	—	—	芯持材	SK107	45・47と同一	
47	木製品	建築材	[76.3]	17.0	17.0	—	—	—	芯持材	SK107	炭化 45・46と同一	

第92号土壌の出土遺物は、肥前系磁器の広東碗を最新とする18世紀末頃の様相で、同じく陶磁器には被熱がみられる。

第94号土壌は、出土遺物がそれほど多くはないが、瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿がみられ、18世紀後半の様相である。陶磁器には、被熱がみられるものがある。

以上に挙げた出土陶磁器の様相と基本土層から、遺構構築面、火災層の関係を整理したい。

火災直後の整地層と思われる第76層に覆われていた第58号土壌は、出土陶磁器の年代に最も近い文化期(1804～1818)の火災に関わる火災処理土壌の可能性が有る。第92・94号土壌も同様の可能性を指摘したい。

また、第58号土壌を若干掘り込む未検出の遺構は、調査区南部で確認された火災層(第10図)との関係から文政五年(1822)の火災に関わるかもしれない。

第95号土壌は他の土壌より検出された層位、出土した陶磁器の年代が古く、文化・文政期より前の火災に関わると考えられる。

文化・文政期の火災関係遺構については「VI 調査のまとめ」を参照していただきたい。

各土壌の出土遺物は、以下に別途項目を立てて記載する。

第58号土壌出土遺物(第217～219・230・239・242図)

第217～219図18～49は陶磁器・土器である。このうち、18～29は肥前系磁器である。第217図18は筒形碗で、厚手のものである。内底面に染付された五弁花文は、潰れて表現される。19は半菊文が染付される小丸碗で、焼継痕がみられる。20は体部が朝顔形に開く碗で、外面は青磁軸である。21～23は高台が「ハ」字状に開き、腰が張る碗と、その蓋である。22・23がセット関係である。

第218図24・25は広東碗の蓋で、24は特に薄手である。26は広東碗だが、口縁部が僅かに外

反して開くようである。

27・28は猪口で、28は蛇の目凹形高台である。

30は、瀬戸美濃系陶器のせんじ碗である。全体に煤が付着する。31は瀬戸美濃系陶器の灰軸丸碗、32・33は瀬戸美濃系陶器の刷毛目碗、34は京都信楽系陶器の小杉碗である。

35～41までは瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、柿軸が施される。

このうち、35～37までは、径8cm程度の油受皿である。いずれも受部は高く、受部の切り込みも方形に近い形状である。体部下位の重ね焼き痕と受部上端径は、35が5.7-5.6cm、36が5.5-5.9cm、37が6.0-5.7cmである。

38・39は径10cm強の油皿で、内面の重ね焼き痕は38が径3.5cm、39が径4.2cmほどである。39が薄手で、底部の軸葉も一方向に拭き取れるのに対し、38は少し厚手で、底部の軸葉は回転して拭き取られる。

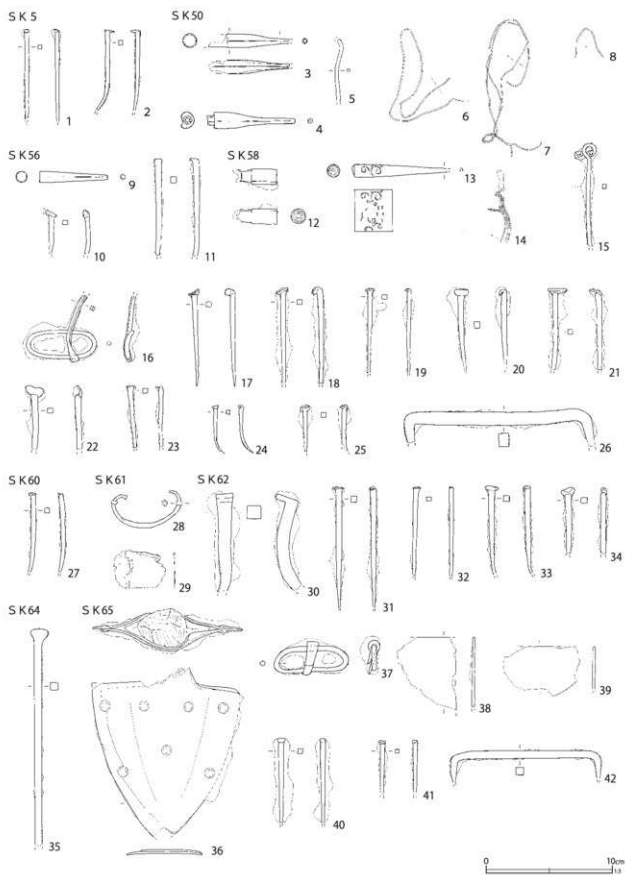
40・41は径10.6cmの油受皿で、薄手である。柿軸がやや暗色で、灰軸状の白く濁った斑が散っている。また、軸葉の拭き取りは体部を中心に回転して拭き取るもので、底面の拭き取りが甘い点も両者に共通する。40の体部下位の重ね焼き痕と受部上端径は、7.7cmである。

42は、瀬戸美濃系陶器の石皿である。被熱が認められる。

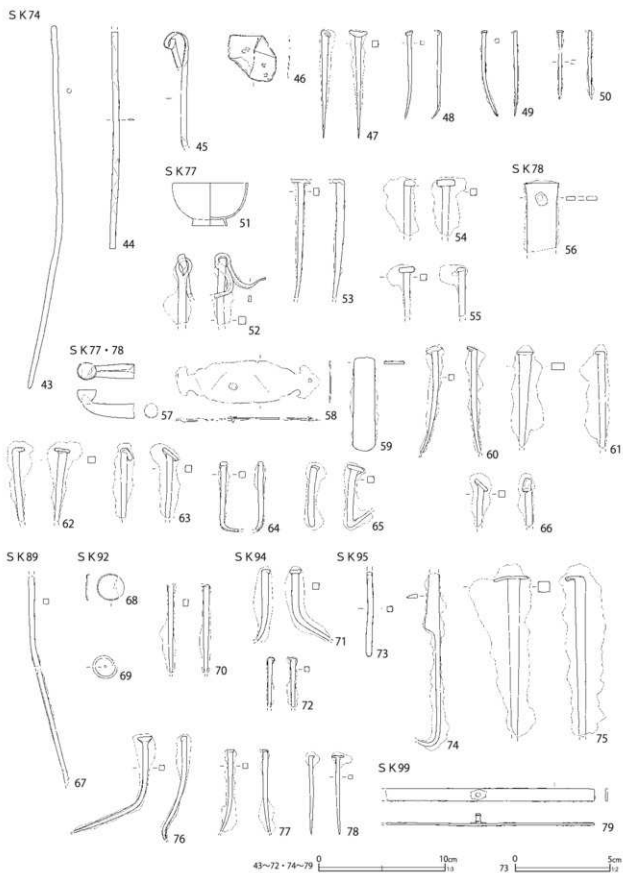
第219図43～45は瀬戸美濃系陶器の徳利で、43は灰軸、44・45は柿軸である。44は拓器質で硬質、45も硬質な胎土だが、やや粗雑な印象である。45の底部は回転ケズリが施され、軸は拭き取られる。

46は、瓦質土器の火鉢である。輪高台状の脚がつくものだが、小形である。胎土は酸化炎焼成気味であるが、断面中心は部分的に暗色になり、表裏も弱く燻される。外面はヨコケズリ後にミガキが施される。

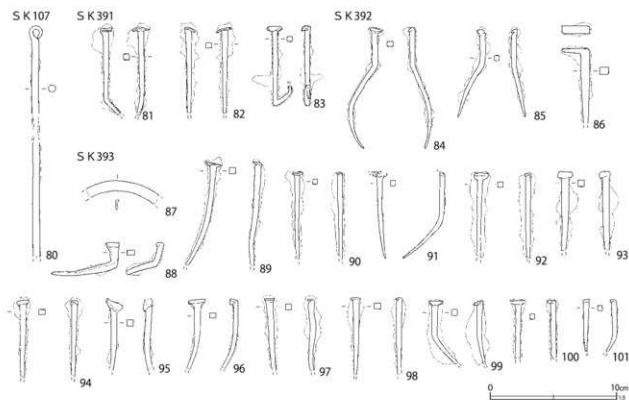
48は、土師質土器の瓦橙である。雲母を含む



第 239 圖 土壙出土遺物 (24)



第240図 土壌出土遺物 (25)



第241図 土壇出土遺物(26)

胎土で、江戸在地系と判断される。窓部は縦格子状とみられるが、全体の破片と接点のみられないため、図上復元した。

49は、輪高台状の脚を有す火鉢である。在地系の瓦質土器であるが、強く被熱して橙～赤色に変色する。外面には不鮮明ながらトビガンナ状の施文が、口縁部下と脚部の一部にみられる。内面には、火箸状の使用痕が顕著に見られる。脚の穿孔は1箇所である。

このほか、非掲載遺物に瀬戸美濃系陶器の五合徳利が3個あり、うち2個は被熱していた。

第230図1は施軸土器製の玩具類で、土瓶のミニチュアである。上下合わせの二枚型成形で、内面には指頭痕がみえる。強い被熱により、外面の軸が銀色を帯びるが、僅かな色素の遺存から緑釉であったとみられる。

金属製品は、釘が多い。

第239図12は銅製の煙管の雁首である。継ぎ目がずれていることから、2個体入れ子状のもの

と思われる。13は銅製の煙管の吸口で、蹴彫り状の唐草文が入る。

14は銅製の針金で一部被熱している。15は連結金具のついた火箸である。16は吊金具である。

17～25は釘である。26は錠である。

第242図1は寛永通寶である。

第92号土壇出土遺物(第226・227・237・240・242図)

第226・227図155～173は、陶磁器・土器である。

第226図155～163は肥前系磁器である。

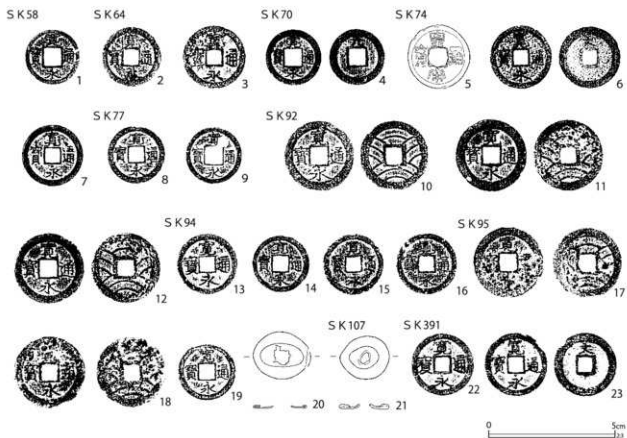
155・156は碗で、高台が「ハ」字状に開き、腰の張るものである。157は同じタイプの碗の蓋であるが、より厚手のものである。157は被熱している。

158・159は広東碗の蓋で、いずれも薄手でつまみ径が大きい。160は粗製の皿である。内底面には崩れた五弁花文、高台内に「満福」文が染付される。161は蛇の目凹形高台の皿である。弱く被熱している。

第77表 土壇出土遺物観察表(6) (第239～241図)

番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ[7.7] 幅0.3 厚さ0.3 重さ5.6	SK5		
2	鉄製品	釘	長さ[6.4] 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.5	SK5		
3	銅製品	煙管	長さ[6.5] 小口径1.1 口付径0.4 重さ5.8	SK50	吸口 2個体入れ子状	
4	銅製品	煙管	長さ6.4 小口径1.3×0.8 口付径0.4 重さ7.7	SK50	吸口 羅字残存	279-2
5	銅製品	不明	長さ[4.9] 厚さ0.2 重さ2.2	SK50	簪の一部か	
6	銅製品	針金	縦7.4 横6.3 厚さ0.1 重さ1.5	SK50		
7	銅製品	針金	縦10.6 横4.7 厚さ0.1 重さ2.0	SK50		
8	銅製品	針金	縦2.9 横2.4 厚さ0.1 重さ0.2	SK50		
9	銅製品	煙管	長さ5.4 小口径0.9 口付径0.4 重さ4.9	SK56	吸口	279-2
10	鉄製品	釘	長さ[3.5] 幅0.4 厚さ0.4 重さ1.4	SK56		
11	鉄製品	釘	長さ[7.6] 幅0.5 厚さ0.5 重さ7.6	SK56		
12	銅製品	煙管	長さ[3.5] 小口径1.2 重さ4.8	SK58	雁首 火皿欠失 内部に羅字残存	
13	銅製品	煙管	長さ[7.3] 小口径1.0 口付径0.3 重さ8.8	SK58	吸口 戴彫り状に唐草文	279-2
14	銅製品	針金	縦5.7 横1.9 厚さ0.1 重さ2.7	SK58	一部被熱	
15	鉄製品	火箸	長さ[8.2] 厚さ0.3 重さ9.1	SK58	持ち込 著頭環状 連結金具あり	
16	鉄製品	吊金具	径5.5×2.3 縦5.1 厚さ0.3 重さ17.2	SK58		281-5
17	鉄製品	釘	長さ7.7 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.3	SK58		
18	鉄製品	釘	長さ[7.6] 幅0.4 厚さ0.4 重さ11.0	SK58		
19	鉄製品	釘	長さ[6.6] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.0	SK58		
20	鉄製品	釘	長さ[6.6] 幅0.5 厚さ0.5 重さ6.3	SK58		
21	鉄製品	釘	長さ[6.4] 幅0.4 厚さ0.4 重さ8.6	SK58		
22	鉄製品	釘	長さ[5.1] 幅0.5 厚さ0.4 重さ5.0	SK58		
23	鉄製品	釘	長さ[4.9] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.6	SK58		
24	鉄製品	釘	長さ[3.6] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.3	SK58		
25	鉄製品	釘	長さ[3.6] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.0	SK58		
26	鉄製品	鍔	長さ[15.1] 幅1.0 厚さ0.8 重さ58.8	SK58		
27	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.7	SK60		
28	銅製品	把手	縦3.0 横5.6 厚さ0.3 重さ4.5	SK61	両端(外に出る境目)に小環付	279-6
29	銅製品	螺番カ	縦[3.0] 横[4.1] 厚さ0.03 重さ2.0	SK61		
30	鉄製品	釘	長さ[7.8] 幅1.1 厚さ1.0 重さ49.4	SK62		
31	鉄製品	釘	長さ[9.5] 幅0.5 厚さ0.5 重さ9.4	SK62		
32	鉄製品	釘	長さ[7.1] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.5	SK62		
33	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.5 厚さ0.5 重さ6.9	SK62		
34	鉄製品	釘	長さ[5.2] 幅0.5 厚さ0.4 重さ4.3	SK62		
35	鉄製品	不明	長さ[17.2] 幅0.6 厚さ0.6 重さ32.5	SK64		
36	鉄製品	不明	縦[13.4] 横[12.0] 厚さ0.3 重さ176.3	SK65	木柄付さ 2枚組留め スコップの類か	281-7
37	鉄製品	吊金具	径5.9×2.2 縦2.7 厚さ0.4 重さ17.4	SK65		281-5
38	鉄製品	不明	縦[5.7] 横[4.7] 厚さ0.2 重さ18.5	SK65		
39	銅製品	不明	縦[3.9] 横[6.1] 厚さ0.2 重さ16.0	SK65		
40	鉄製品	釘	長さ[6.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ10.3	SK65		
41	鉄製品	釘	長さ4.3 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.7	SK65		
42	鉄製品	鍔	長さ[11.9] 幅0.6 厚さ0.6 重さ18.9	SK65		
43	銅製品	火箸	長さ28.8 厚さ0.4 重さ30.9	SK74	中実	
44	銅製品	不明	長さ[17.2] 幅0.5 厚さ0.1 重さ3.7	SK74	断面薄い歯斜状	
45	銅製品	不明	長さ[9.1] 幅0.5 厚さ0.1 重さ3.7	SK74	断面薄い歯斜状 同一個体か	
46	銅製品	不明	縦3.7 横3.8 厚さ0.05 重さ2.4	SK74	小孔4 対角折りたたむ	
47	鉄製品	釘	長さ8.6 幅0.5 厚さ0.5 重さ12.0	SK74		
48	鉄製品	釘	長さ[6.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.7	SK74		
49	鉄製品	釘	長さ6.8 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.4	SK74		
50	鉄製品	釘	長さ6.5 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.5	SK74		

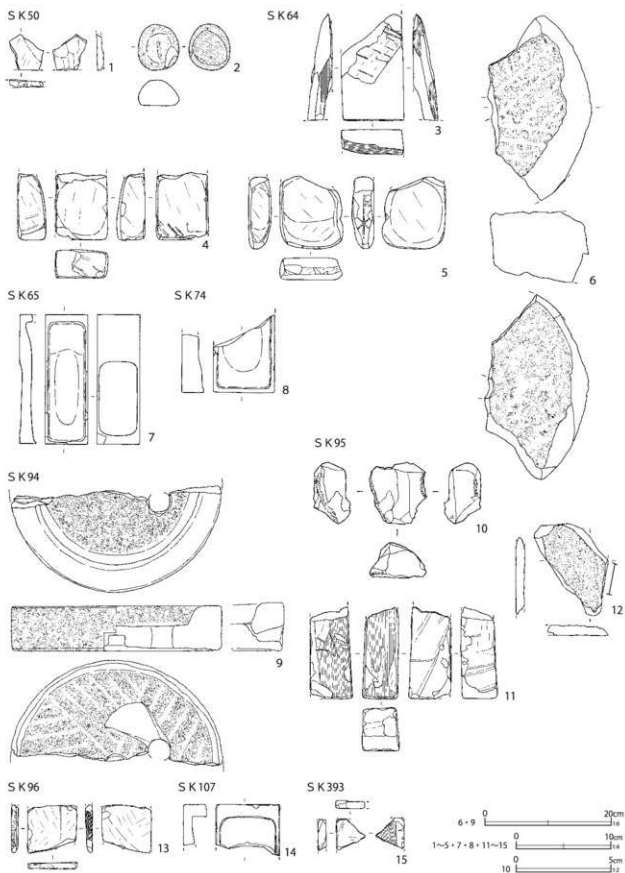
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
51	銅製品	鉤	口径(6.0) 器高(3.4) 底径2.8 重さ27.2	SK77	高台付	
52	鉄製品	環釘	長さ[5.2] 幅(0.6) 厚さ(0.6) 長さ[3.5] 幅0.5 厚さ0.2 重さ23.4	SK77	2点連結	
53	鉄製品	釘	長さ[9.9] 幅0.4 厚さ0.6 重さ14.0	SK77		
54	鉄製品	釘	長さ[4.5] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ22.2	SK77		
55	鉄製品	釘	長さ[4.0] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ6.2	SK77		
56	鉄製品	不明	縦[5.5] 横2.7 厚さ0.3 重さ19.9	SK78		
57	銅製品	煙管	長さ4.5 火皿径1.5×1.4 小口径1.1 重さ4.6	SK77-78	雁首 火皿欠損	
58	銅製品	飾金具	縦3.3 横[11.4] 厚さ0.08 重さ12.7	SK77-78	2箇所残留残存	
59	鉄製品	不明	縦7.4 横1.8 厚さ0.2 重さ17.1	SK77-78		
60	鉄製品	釘	長さ[8.6] 幅(0.4) 厚さ(0.5) 重さ9.2	SK77-78		
61	鉄製品	釘	長さ[7.5] 幅(0.9) 厚さ(0.6) 重さ30.9	SK77-78		
62	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅(0.6) 厚さ(0.5) 重さ13.3	SK77-78		
63	鉄製品	釘	長さ[5.6] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ12.5	SK77-78		
64	鉄製品	釘	長さ[5.6] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ4.8	SK77-78		
65	鉄製品	釘	長さ[4.9] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ9.9	SK77-78		
66	鉄製品	釘	長さ[3.8] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ6.2	SK77-78		
67	鉄製品	火箸カ	長さ[16.6] 幅0.4 厚さ0.4 重さ13.0	SK89		
68	銅製品	不明	径2.1 厚さ0.05 重さ1.2	SK92	線折れ	
69	銅製品	環金具	径(1.9)×1.8 厚さ0.2 重さ1.0	SK92		
70	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.4 厚さ0.5 重さ10.6	SK92		
71	鉄製品	釘	長さ[5.6] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ16.5	SK94		
72	鉄製品	釘	長さ[3.9] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.1	SK94		
73	銅製品	簪カ	長さ[4.5] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.1	SK95		
74	鉄製品	握鉄	長さ13.7 刃幅0.9 背幅0.3 重さ27.1	SK95	片半欠損	
75	鉄製品	釘	長さ[12.5] 幅(0.9) 厚さ(0.8) 重さ109.2	SK95		
76	鉄製品	釘	長さ[7.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ15.7	SK95		
77	鉄製品	釘	長さ[6.5] 幅0.4 厚さ0.4 重さ8.6	SK95		
78	鉄製品	釘	長さ6.2 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.6	SK95		
79	銅製品	文鎮	長さ[16.6] 高さ1.0 幅1.0 厚さ0.2 重さ27.7	SK99		280-3
80	鉄製品	火箸	長さ[18.4] 厚さ0.6 重さ35.9	SK107		280-2
81	鉄製品	釘	長さ[6.9] 幅0.5 厚さ0.5 重さ11.2	SK391		
82	鉄製品	釘	長さ[6.8] 幅0.5 厚さ0.5 重さ10.5	SK391		
83	鉄製品	釘	長さ6.3 幅0.4 厚さ0.4 重さ9.5	SK391		
84	鉄製品	釘	長さ9.6 幅0.5 厚さ0.4 重さ8.4	SK392		
85	鉄製品	釘	長さ7.2 幅0.4 厚さ0.4 重さ6.5	SK392		
86	鉄製品	釘	長さ[6.2] 幅0.7 厚さ0.6 重さ12.8	SK392		
87	銅製品	不明	縦[1.9] 横[5.8] 厚さ0.2 重さ6.6	SK393		
88	鉄製品	釘	長さ2.6 幅0.6 厚さ0.4 重さ7.3	SK393		
89	鉄製品	釘	長さ[8.2] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ8.8	SK393		
90	鉄製品	釘	長さ[6.9] 幅(0.4) 厚さ(0.4) 重さ8.6	SK393		
91	鉄製品	釘	長さ6.9 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.4	SK393		
92	鉄製品	釘	長さ[6.7] 幅(0.4) 厚さ(0.4) 重さ11.6	SK393		
93	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.5 厚さ0.5 重さ11.6	SK393		
94	鉄製品	釘	長さ[6.2] 幅(0.5) 厚さ(0.4) 重さ6.3	SK393		
95	鉄製品	釘	長さ[5.8] 幅0.5 厚さ0.5 重さ9.1	SK393		
96	鉄製品	釘	長さ[5.6] 幅0.5 厚さ0.4 重さ4.5	SK393		
97	鉄製品	釘	長さ[6.2] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ7.8	SK393		
98	鉄製品	釘	長さ[6.1] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ6.5	SK393		
99	鉄製品	釘	長さ[5.0] 幅(0.5) 厚さ(0.5) 重さ10.0	SK393		
100	鉄製品	釘	長さ[4.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.0	SK393		
101	鉄製品	釘	長さ[4.2] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.0	SK393		



第242図 土壌出土遺物 (27)

第78表 土壌出土遺物観察表(7) (第242図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径22.0 厚さ1.3 重さ2.1	SK58	寛永通寶(新)	281-10
2	銅製品	銭貨	径24.0 厚さ1.0 重さ2.3	SK64	寛永通寶(新)	
3	銅製品	銭貨	径25.2 厚さ1.3 重さ3.0	SK64	寛永通寶(新古不明)	
4	銅製品	銭貨	径22.4 厚さ0.9 重さ1.6	SK70	寛永通寶(新)背元	
5	銅製品	銭貨	径24.3 厚さ0.9 重さ2.6	SK74	皇宋通寶	
6	銅製品	銭貨	径24.9 厚さ1.3 重さ3.4	SK74	寛永通寶(新)背文	
7	銅製品	銭貨	径24.6 厚さ1.2 重さ3.1	SK74	寛永通寶(新)	
8	銅製品	銭貨	径23.1 厚さ1.1 重さ2.3	SK77	寛永通寶(新)	
9	銅製品	銭貨	径22.7 厚さ0.9 重さ1.9	SK77	寛永通寶(新)孔あり	
10	銅製品	銭貨	径27.8 厚さ1.2 重さ3.8	SK92	寛永通寶(新)11波	
11	銅製品	銭貨	径28.3 厚さ1.2 重さ4.2	SK92	寛永通寶(新)11波	
12	銅製品	銭貨	径28.1 厚さ1.2 重さ3.7	SK92	寛永通寶(新)11波	
13	銅製品	銭貨	径23.3 厚さ1.0 重さ2.5	SK94	寛永通寶(古)	
14	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ1.0 重さ1.8	SK94	寛永通寶(新)	
15	銅製品	銭貨	径24.5 厚さ1.3 重さ2.7	SK94	寛永通寶(新)	
16	銅製品	銭貨	径24.6 厚さ1.2 重さ2.4	SK94	寛永通寶(新)	
17	銅製品	銭貨	径28.0 厚さ1.1 重さ3.0	SK95	寛永通寶(新)11波	
18	銅製品	銭貨	径27.3 厚さ1.4 重さ3.5	SK95	寛永通寶(新)11波	
19	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.2 重さ2.2	SK95	寛永通寶(新)	
20	銅製品	雁首銭	径21.0×18.0 厚さ1.4 重さ1.3	SK95		281-13
21	銅製品	雁首銭	径19.4×17.0 厚さ2.1 重さ3.1	SK107		281-13
22	銅製品	銭貨	径25.0 厚さ1.1 重さ3.3	SK391	寛永通寶(古)	
23	銅製品	銭貨	径25.4 厚さ1.2 重さ2.7	SK391	寛永通寶(新)背文	



第 243 圖 土壙出土遺物 (28)

第79表 土壌出土遺物観察表(8) (第243図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[3.8]	[3.6]	0.8	10.7	角閃石安山岩カ	SK50	裏面削痕 砥面1 黒色柱状鉱物多量 風化カ	
2	石製品	磨石	4.9	4.3	2.7	33.3	角閃石安山岩	SK50	多孔質 自然面遺存 使用面1 線条痕あり	295-2
3	石製品	砥石	[11.3]	6.6	[2.6]	170.7	粘板岩	SK64	側面ノコギリ痕 表面サキノミ状工具痕カ 表面削痕 砥面1 全面に酸化鉄の付着著しい	293-1
4	石製品	砥石	[7.1]	5.5	3.0	209.2	流紋岩	SK64	側・裏面幅広工具痕カ 砥面4 被熱(一部黒化)	
5	石製品	砥石	[7.6]	6.6	2.4	180.7	流紋岩	SK64	右側面刃物痕多数 砥面4 被熱(一部黒化)	293-1
6	石製品	石臼	[29.6]	[15.7]	[1.3]	7460.0	安山岩	SK64	下臼 上面摺目 下面サキノミ状工具痕 棒棒孔遺存 被熱(脱落・一部黒化)	290-4
7	石製品	硯	13.7	4.5	1.7	210.4	粘板岩	SK65	黒色塗布物あり	296-1
8	石製品	硯	8.2	6.5	2.3	154.3	凝灰岩	SK74	内面摺り回み 墨付着	296-1
9	石製品	石臼	径(33.6)	器高7.7		4500.0	安山岩	SK94	上臼 下面摺目 内側面サキノミ状工具痕 外面下位 ビンヤン仕上げ状の凹凸 下面芯棒受穴・供給孔 側面貫通孔 内面・口唇部摩耗 被熱(下面黒化)	290-5
10	石製品	火打石	3.2	3.0	1.9	17.0	玉髓	SK95	稜の潰れ著しい 被熱(白色化・黒色マーブル状)	291-4
11	石製品	砥石	[9.7]	3.9	4.0	273.8	流紋岩	SK95	表・側面ノコギリ痕 裏・側面幅広工具痕 側面削痕 砥面1	293-1
12	石製品	板碑カ	[7.8]	[9.7]	1.1	101.3	緑泥片岩	SK95	側縁部二次利用	
13	石製品	砥石	[5.1]	5.2	0.7	26.1	粘板岩	SK96	側面ノコギリ痕 砥面3 線条痕あり	
14	石製品	硯	[5.5]	6.7	2.4	85.1	凝灰岩	SK107	強く被熱	296-1
15	石製品	砥石	[3.3]	[3.1]	0.9	9.7	流紋岩	SK303	裏面ノコギリ痕 側面削痕 砥面1 被熱(一部黒化)	

162・163は肥前系磁器の猪口で、163は被熱している。

164・165は瀬戸美濃系陶器の碗で、164はせんじ碗、165は強く内湾する半球形の丸碗である。166は京都信楽系陶器の小杉碗で、内底面が大きく窪むのが特徴的である。

第227図167～169は瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、油受皿である。

167はやや小形で、僅かに紫色味を帯びた柿釉が施される。受部の切り込みは、方形に近い「U」字形である。外面の重ね焼き痕は径5.9cm、受部上端の重ね焼き痕は径5.7cmである。

168は、作りのしっかりした印象のものであるが、受部の切り込みは形が崩れる。外面の重ね焼き痕は径6.8cm、受部上端の重ね焼き痕の径は6.9cmである。

169の受部の切り込みは方形に近い「U」字形である。外面の重ね焼き痕は径8.1cm、受部上端の重ね焼き痕の径は7.9cmである。

170は、瀬戸美濃系陶器の一升徳利である。光沢が強く、やや緑色味を帯びた灰釉が外面に掛けられる。底面は回転ケズリで、軸葉は拭き取られ

る。

171は、産地不詳陶器の蓋である。下面は右回転の糸切痕が残される。全体を露胎とするが、上面に僅かに釉が散る。

172は、瓦質土器の火鉢(ないしは根付)である。胎土に細かな雲母が多く含まれる。口縁部は肥厚し、ミガキが施される。体部中位に沈線区画があり、その中にミガキが施されるものと考えられる。江戸在地系土器である。

173は、瓦質土器の火鉢である。本来は輪高台状の脚が付くものだが、欠失している。口縁部は、二次的な敲打の痕跡が目立つ。体部の上位は横位の沈線によって区画され、その中に菊花文と唐草文が施文される。菊花文の花弁は26枚である。体部の下位はケズリを施すが、上位はヨコナデで消される。胎土は酸化炎焼成済みだが、断面の中心は灰色味を帯びる。角閃石が含まれる。

第237図42は、木製品の陽物である。

第240図68～70、第242図10～12は金属製品である。

68は用途不明の銅製品である。69は銅製の環金具である。70は釘である。

第242図10～12は寛永通寶である。

第94号土壇出土遺物 (第227・240・242・243図)

第227図174～180に陶磁器・土器を示した。

174は肥前系磁器の小形の皿で、内面中心には五弁花文が染付される。外面の唐草文は輪郭の無い一本描きである。

175は瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿で、油受皿である。最大径7.7cm、受部径5.0cmと少し小形である。赤味が強い柿軸が施されるが、部分的に白く変色した軸葉が散る。体部の低い位置に、重ね焼き痕(径4.8cm)がみられる。

176は瀬戸美濃系陶器の坏である。僅かに緑色味を帯びる灰白色の灰軸が施され、光沢がある。体部の下位は、幅の狭い回転ケズリで処理される。177は瀬戸美濃系陶器の徳利で、やや色調の暗い黄褐色の灰軸が掛けられる。体部下位～底部の軸葉が拭き取られるが、底部の中心には軸が残っている。被熱して器面がザラついている。

178は江戸在地系土器の焙烙である。外面の体部下位にケズリが二段施されるが、上段のケズリはその後、ヨコナデで消される。下段のケズリも、弱くヨコナデされているようである。

179は在地系土器の焙烙で、復元口径30cmに満たない、やや小形のものである。全体的に酸化炎焼成きみで、胎土にはぶい橙色を帯びる。白色粒子の混入が目立ち、角閃石・赤色粒子もやや多く含まれる。体部の下位はケズリによってシワ状の痕跡が消されるが、強い指圧痕がある部分は消し切れていない。ケズリの上位部分(体部中位)は、粗くヨコナデされる。外面に煤が付着するほか、内底面が広く黒化している。

180は瓦質土器の火鉢である。外面全面がミガキで調整されるが、先行してケズリを行っているらしい。断面の中心は黄灰色を帯び、周囲・表裏面は、被熱によってぶい橙色に変色する。

第240図71・72、第242図13～16は金属製品である。第240図71・72は釘である。

第242図13～16は寛永通寶である。そのうち13は古寛永である。

第243図9は、安山岩製石臼の上臼である。内底面及び、外面下位を中心にピシャン仕上げ状の凹凸がみられる。内側面には、斜方向にサキノミ状工具による削痕が部分的に遺存する。側面から内底面際にかけて、貫通孔がみられる。下面には摩耗した摺目、軸受けの窪みがみられる。下面を中心に被熱(黒化)している。

第95号土壇出土遺物 (第228・240・242・243図)

第228図181～189は陶磁器である。このうち、181～185は肥前系磁器である。181は筒形碗で、内面には五弁花文、口縁部に四方捲文を廻らす。外面に草花文が染付される。

182は蓋で、外面は青磁軸が施される。内面は中心に五弁花文、周縁に四方捲文を廻らす、いずれも崩れている。被熱し、全体に煤けている。

183は、紅皿である。型成形で外面に細かい竊状の型押文がある。内外面に煤が多く付着する。184は、香炉と思われる。高台は低い蛇の目状である。若干、煤が付着する。185は、徳利である。

186は、京都信楽系陶器の筒形碗である。口縁部は薄手で、口唇部に口錆が施される。外面には鉄絵で文字が書かれる。

187は、瀬戸美濃系陶器の灯明皿で、油受皿である。やや光沢の強い柿軸が薄く掛けられるが、ムラが多い。受部は直径7.2～7.4cmで高く、方形の切り込みが入る。外面底部～下位は回転ケズリが施される。重ね焼き痕はみられない。

188は瀬戸美濃系陶器の摺絵皿で、小形・厚手のものである。内面に3箇所の目跡がある。

189は瀬戸美濃系陶器の灰軸徳利で、外面に褐色を帯びたウグイス色の灰軸が施される。頸部の沈線は明瞭である。

第240図73～78と第242図17～20は金属製品である。第240図73は銅製の簪であろうか。74は鉄製の握鉄である。75～78は釘である。

第242図17～20は銭貨である。17～19は寛永通寶である。20は雁首銭である。

第243図10～12は石製品である。10は玉髓製の火打石で、左右の側縁に使用痕がみられる。

11は白色の流紋岩製砥石で表面、左側面にノコギリ状工具痕がみられる。右側面、裏面には刃幅の広い工具痕がみられ、工具痕が全面に残る。それほど使わずに廃棄されたものだろう。

12は緑泥片岩で、左側縁に敲打状の成形がみられることから板碑の一部であろうか。成形部は摩耗しており、二次利用が示唆される。

第60号土壙 (第211・219・220・232・239図)

B5-J8、C5-A8グリッドに位置する。第58・92・95号土壙と重複していたが、新旧関係は不詳である。

平面形は隅丸方形で、覆土は焼土ブロック、炭化物が主体であった。出土遺物は、炭化した杭・柱材等を中心に廃棄されていた。広東碗が出土しているので18世紀末以降であり、肥前志田窯産とみられる被熱した磁器皿があることから、19世紀前葉に廃絶したと考えられる。

第219・220図50～61に陶磁器を示した。50～56は肥前系磁器である。50は小丸碗で、口縁部内面には四方標文を廻らす。外面上位は斜め格子・市松文を区画内に交互に染付し、下位には井桁文が僅かに散らされる。内底面には崩れた五弁花文がみられる。

51は筒形碗で、菊文の間を斜格子文で充填している。内面の五弁花文は、コンニャク印判とみられる。52はやや大振りの丸碗で、外面に崩れた蕪文が配される。53は、広東碗の蓋である。薄手で、外面に牡丹文が染付される。

54は猪口である。釉葉がやや黄色味を帯びる質の悪いものであるが、器壁は薄手で、特に底部では薄く作られる。外面に帆掛け舟文とみられる文様が染付される。55も猪口で、外面下位に草文が染付される。

56は口縁部が反る皿で、内面縁部に墨弾きを用いた染付が施される。志田窯産の可能性はある。強く被熱し、別の皿の破片が容着している。

57・58は京都信楽系陶器の小杉碗である。57は外面に鉄絵で若杉文が2本絵付けされる。全体に厚手で重厚感がある。

58はやや背が低いものである。外面下位の釉葉下に筋が巡っており、ケズリ整形の痕跡とみられる。いずれも胎質は緻密である。59は瀬戸美濃系陶器の灰釉皿で、灯明皿としての用途が想定されるものである。内面にはビン痕状の目跡が4箇所見られる。釉は黄色味の強い灰釉である。

第232図2は軒棧瓦である。江戸式に類似する瓦当文様である。第239図27は鉄釘である。

第61号土壙 (第211・239図)

B5-J7・8、C5-A8グリッドに位置し、第92号土壙より新しい。平面形は楕円形である。

覆土は焼土・炭化物を多量に含むシルトと、砂の互層であった。

出土遺物は少なく、陶磁器は陶器の鉄釉土瓶が最新で、全体の50%以上が残る広東碗の蓋等が出土した。推定廃絶時期は重複関係から18世紀末から19世紀前葉であろうか。

第239図に金属製品を示した。28は鋼製の把手である。29は鋼製の蝶番であろうか。

第62号土壙 (第211・220・239図)

C5-A8グリッドに位置し、第92・95号土壙と重複していたが、新旧関係は不詳であった。平面形は隅丸長方形で、覆土は焼土ブロック、炭化物を主体としていた。炭化した杭等が出土した。

出土した陶磁器は少ないが、全体の20%程度が遺存する肥前系磁器の筒形碗、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿がみられる。遺構の時期は絞り込みがないが、18世紀後半以降とみられる。

第220図60・61は、瀬戸美濃系陶器の柿釉灯明皿(油皿)である。このほか、全体の50%以上を遺存する破片がもう1点認められた。

60は、全体に薄く柿軸が施されたもので、口縁部が少し端反りぎみになる。

61は、光沢がある濃い色調の柿軸が施されたもので、内底面に環状の重ね焼き痕がみられる。黒色みが強く、被熱していると考えられる。

第239図30～34は鉄製の釘である。

第64号土壙 (第212・220・235・239・242・243図)

B5-17グリッドに位置し、重複する第12号建物跡より古い。平面形は隅丸長方形であった。覆土下層は、焼土ブロック、炭化物を主体とし、上層は砂に覆われていた。炭化した木製品や炭化材が多量に出土し、火災処理土壙と考えられる。

出土した陶磁器は、肥前系磁器の広東碗が最新期である。推定廃絶時期は、18世紀末である。

第220図62～67に陶磁器を示した。62は肥前系磁器の広東碗で、やや薄手である。外面の染付は、枠内に花卉文が六単位展開するものである。

63は肥前系磁器の皿で、内面は蛇の目状軸剥ぎされる。高台は、墨付を除き施軸される。

64は瀬戸美濃系陶器の坏で、外面に緑で上絵付けがされる。「紅・浅」と上絵付けされるタイプのもので、紅坏として用いられたと考えられる。

65は瀬戸美濃系の灯明皿(油皿)で、やや淡い色調の柿軸が掛けられる。内底面に径4.3cmほどの環状の重ね焼き痕が残る。底面は回転ケズリ後に一方のナデが施される。底径はほぼ一致するサイズの重ね焼き痕が認められる。

66も瀬戸美濃系灯明皿(油受皿)で、濃く柿軸が掛けられている。体部下半の軸が拭き取られるが、同心円状に拭き取っているため、底面の軸はほとんど拭き取れていない。外面下位の重ね焼き痕は、径7.7cm、受部上端径は7.3cmである。

67は、瀬戸美濃系陶器の灰軸有耳壺である。光沢の強い灰軸が施される。口縁部は軸剥ぎされる。底面は回転ケズリ、体部下位も回転ケズリで整形される。内底面直上に薄く煤が付着する。

第235図13・14は木製品である。13は膳の底

板で、表面に赤漆、裏面に黒漆が塗布される。脚と側板の痕跡がある。

14は、膳の側板である。13と同一個体で、木釘で固定されていた。表面に赤漆、裏面に黒漆が塗布される。被熱し、炭化している。

第242図2・3は、寛永通寶である。

第243図3は、粘板岩製の砥石である。側面に、密なノコギリ状工具痕が遺存する。砥面は1面残り、同一方向に平行した刃物傷がみえる。

4・5は、白色の流紋岩製砥石である。4は工具痕が僅かに遺存し、5の側面には「V」字状刃物痕がみえる。

6は、安山岩製の石臼の下臼である。上面に摺目がみられ、下面は窪むような加工が施されている。軸棒を通す孔が遺存している。

第65号土壙 (第212・220・230・239・243図)

B5-J6グリッドに位置し、平面形は隅丸長方形であった。覆土は、炭化物を含むシルトを主体に埋め戻されるが、途中で木片主体の有機物層が形成されていた。

出土した陶磁器には、銅版転写染付の磁器や酸化クロム青磁軸の坏がみられる。また、酸化コバルト染付の磁器がみられる。型紙摺染付の磁器はみられないが、ほぼ成形の銅版転写染付の磁器が2個体あり、混入とは考え難い。推定廃絶時期は19世紀末以降である。

第220図68・69は瀬戸美濃系磁器の坏で、蛇の目状高台を有する。高台内は露胎とする。銅版転写染付が認められる。

70・71は、萬古系陶器で、急須の蓋・身である。いずれも一部に軸が掛けられ、それ以外の露胎部に金彩で絵付けを施す。71の下面に墨書が認められる。72も陶器の急須で、器壁は薄く拓器質である。緑色の軸葉を基調に、複雑に鉄軸が掛けられる。底部に墨書「七」が認められる。

73は江戸在地系土器の焙烙だが、復元した口径は22cm弱と小形である。

第230図2は土製玩具類で、蓋のミニチュアである。型成形で、上面に緑釉、下面に布目圧痕がみられる。

第239図36～42は金属製品である。

第239図36は器種不詳だが、木柄がついており、2枚の鉄板が鋸留めされている。スコップの類であろうか。37は吊り金具である。40・41は釘である。42は錠である。両端が欠損している。

第243図7は粘板岩製の硯である。墨堂は擦り減り、窪んでいる。下面には挟りが入り、上げ底状になっている。

第66・67号土壙 (第212図)

C5-A6グリッドに位置する。深さ約15cmと浅く、遺構の最下部を検出したと思われる。平面形は楕円形と隅丸長方形である。

第66号土壙の覆土は小礫を含んだしまりの強いシルトであった。一方、第67号土壙の覆土はしまりの強い砂であった。配置と覆土の状況から、近代の地業の最下面である可能性もあるが、判然としない。出土遺物は僅かな陶磁器と瓦に限られ、時期を絞り込めるものはなかった。

第70号土壙 (第212・221・222・232・235・236・242図)

B5-I6グリッドに位置し、平面形は隅丸長方形であった。覆土は砂で構成されており、下層は樹皮等の植物質や炭化材がみられた。その上は粘土ブロックを含んだ砂で埋め戻されていた。

他の土壙と比べると、木製品の出土が多い。瀬戸美濃系磁器の湯呑碗が複数個体出土しており、推定廃絶時期は19世紀中葉である。

第221・222図74～88は陶磁器である。74は瀬戸美濃系磁器の端反碗の蓋で、器壁は厚手である。山水楼閣文が染付される。75は肥前系磁器の端反碗で、同文の個体が他に1点出土している。76は瀬戸美濃系磁器で、小法量の端反碗である。外面には同心円状の横縞文が3条染付される。

77は瀬戸美濃系磁器の湯呑碗で、外面に草花文が染付される。78は肥前系磁器の猪口で、蛇

の目状高台のものである。体部が外反して開く点特徴的である。格子文が染付される。

79～81は、瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒杯である。内面に、79は染付、80・81は上絵付けが施される。

82は肥前系磁器の鉢で、小形のものである。高台部は施釉、高台内の底面のみ全面を露胎とする。83は肥前系磁器の皿で、内面に葦と鴛鴦が染付で描かれる。84は肥前系磁器の御神酒徳利で、頸部に蛸唐草文、体部に梅樹文が染付される。

85は瀬戸美濃系陶器で、灰釉が掛けられた小形の植木鉢である。86は陶器土瓶の蓋だが、明瞭な施釉は認められない。その代わり漆状の塗布物がみられ、一部には金箔とみられる物質の遺存が確認される。つまみは花弁状に成形される。

第222図87・88は、陶器の土瓶である。87は薄手で背が高いもので、外面には白土・鉄絵で絵付けがされる。88は、海鼠釉が施軸される松岡系のものである。

このほか、全体の50%以上が遺存する肥前系磁器の端反碗1点と、肥前系磁器広東碗の蓋、瀬戸美濃系陶器灰軸有耳壺の比較的大きな破片が出土している。

第232図3は椀である。隅切りが遺存し、凹面、側面に銀化光沢がみられる。胎土は黒色粒子が顕著に含まれる。

第235図15～18、第236図は木製品である。

第235図15～18と第236図19は曲物である。15は蓋で、樹皮紐がみられる。16・17・19は底板で、19には木釘が遺存する。18は厚手で、全面が炭化している。

第236図20は樽の蓋である。表面に墨書がみられるが判読できない。21・22は呑口で、23・24は呑口の栓である。25は呑口と栓が一体となっている。

26は灯火具の底板である。中央に孔があり、赤漆が残存している。また、鉄錆が付着しており、

炭化している。27は脚と思われるもので、何らかの調度品の部材である。28は箸である。

29は経木で、表面に墨書「三入」がみえる。30は陰卯下駄である。裏面に黒漆が塗布されており、「𠄎」の焼印がみられる。31は陰卯下駄の歯である。

第242図4は寛永通寶である。裏面に「元」の背文字がある。

第71号土壙（第212図）

C5-E10、C6-E1グリッドに位置し、東部は調査区域外である。挿図には、基本土層東壁3（第9・212図）の一部も示した。本跡は第35層を掘り込み面とし、第34層に覆われていた。掘り込み面の関係から第105号土壙より古く、文化・文政期以降と考えられる。遺物は出土しなかった。

第73号土壙（第213図）

B5-I5グリッドに位置し、平面形は隅丸長方形である。覆土下層に、木片や枝等の植物質が多量に含まれ、上層はブロック状の砂を含んだシルトに覆われていた。上層のしまりは強かった。

遺物は図示しなかったが、陶磁器、瓦、木製品が少量出土した。陶磁器には瀬戸美濃系磁器の爛徳利、肥前系磁器の大振りの湯呑碗がみられる。また、肥前系磁器の蛇の目凹形高台の猪口、香炉が完形で出土した。

推定廃絶時期は19世紀中葉であろう。

第74号土壙（第213・222～224・232・237・240・242・243図）

C5-A5グリッドに位置し、平面形は隅丸長方形であった。覆土は下層に樹皮、中層に陶磁器片、丸太や板等が多量に含まれ、ともに炭化物が多量に含まれていた。上層は砂質土であった。

出土遺物が多く、陶磁器は瀬戸美濃系磁器の湯呑形碗・土瓶がみられ、卵殻手酒杯の細片が出土している。また、産地不詳陶器の三彩土瓶がみられる。推定廃絶時期は19世紀中葉である。

第222～224図89～120に陶磁器・土器を示した。

第222図89～93・96は、肥前系磁器の碗である。89は、二重網目文が染付された粗製の碗で、腰が張りやや扁平な形態である。

90～92は小丸碗で薄手のものである。91には焼継痕がみられ、高台内に赤の焼継印があるようだが、ほとんど消えている。

93は半菊文が染付される筒形碗である。高台内は軸ムラがあり、一部が露胎となっている。

94・95・97・98は瀬戸美濃系磁器の碗類、99は坏である。94は端反碗の蓋で、つまみ内に「大明年製」銘が染付される。絵付けが比較的丁寧である。95・97は端反碗で、いずれも厚手で釉薬の光沢が強い。95には焼継痕が認められる。

98は小形の湯呑碗である。外面に木型打ち込みによるとと思われる文様が施され、その部分が染付されている。

100は瀬戸美濃系磁器の皿、101・102は肥前系磁器の皿である。

第223図101は蛇の目凹形高台の皿で、高台部に墨書があるが判読できない。102は口縁部が輪花状になる深手の皿である。内面体部に蛸唐草文、内底面には梅樹文が染付されている。外面は、外線を描いてから濃塗りする技法で、唐草文が染付される。蛇の目凹形高台を有し、その内側に「富貴長春」銘を染付する。焼継痕が顕著に確認される。

103・104は、セット関係にある肥前系磁器蓋物の蓋と身で、段重の可能性もある。外面に染付と色絵が施される。105は肥前系磁器の蓋である。

106は瀬戸美濃系、107は大塚相馬系陶器の碗である。108は瀬戸美濃系陶器の灯明皿（油受皿）、109は産地不詳陶器の瓶類である。110は堺明石系陶器の播鉢である。

111は陶器の鍋で、鉄軸はこげ茶色味を帯びている。112は、陶器の青緑釉土瓶である。高台は

比較的深く削り込まれる。

113は瓦質土器の丸形火鉢で、底部は一方からの工具ナデで処理される。体部の下位はケズリ後に、それをなで消している。胎土に大粒の角閃石が多量に含まれる。酸化炎焼成済みで、断面は黒色だが、表裏面は橙色になる。

114は、瓦質土器火鉢の獣面把手である。内外面は燻されて黒くなる。胎土に角閃石が含まれる。

第224図115は瓦質土器の竈で、断面の中心は黄灰色になるが、全体的に酸化炎焼成済みで、表裏面は橙色である。外面は僅かにミガキが施される。指圧痕と、その後のナデ消し痕跡が残っている。内面は、斜方向に連続する指圧痕の上から、弱いナデを加えている。破片のため、窓部幅は任意値で図化した。胎土に角閃石が多く含まれる。

116は三河産土器の方形焔炉で、外面は丁寧ミガキが施される。中筒部の外面は斜方向にヘラナデされる。また、型成形に伴うらしい、縦のバリ状の痕跡が2箇所に見られる。中筒部内面はヘラナデ後にヨコナデされる。上位は被熱により白化している。胎土に雲母が多量に含まれる。

117は土師質土器の皿で、胎土に角閃石が含まれる。上面は白化している。118は江戸在地系のかわらけ小皿である。

119・120は土師質土器の焙烙で、在地系のものである。いずれも灰白色を帯び、胎土に角閃石を含むが、120の方が角閃石の量が多い。

第232図4は丸瓦である。

第237図32～41は木製品で、32は漆椀である。厚手の腰丸椀で、高台は「ハ」字状に開く。内面に赤漆、外面に黒漆が塗布される。33は曲物の底板で、焼印がみえるが判読できない。34は楯である。

35は杓子で、表・裏・側面に赤漆が塗布されている。36は包丁の柄で、二枚を合わせた構造のものである。被熱し、炭化している。

37は木刀で、柄から刀身にかかる部分である。

黒漆が塗布されており、装飾を接着していた痕跡が認められる。38は浮子である。長さが短く、下部は黒漆、上部は赤漆が塗布されている。

39は木札で、表裏面に墨書がみえるが、表面の判読はできない。裏面は「[今] 伊勢屋 []」と判読できる。本陣跡区画Aの『絵図』にみえる「賢や 年寄 長次郎」を指し示すのであろう。

40は陰卯下駄で、全面に黒漆が塗布されている。41は器種不明の棒状木製品で、先端がヘラ状で、把手に釘穴がみられる。

第240図43～50、第242図5～7は金属製品である。第240図43は火箸である。44～46は用途不明の銅製品である。47～50は釘である。

第242図5～7は銭貨である。5は皇宋通寶である。6・7は寛永通寶で、6は「文」の背文字が入っている。

第243図8は凝灰岩製の硯である。中央は擦り減って窪んでおり、墨が付着している。

第77・78号土壇 (第213・224・225・240・242図)

第77・78号土壇はC5-A8グリッド位置し、東部は調査区域外であった。発掘段階では新旧関係がある2基の土壇と認識していたが、同一の土壇であった可能性もある。文化・文政期の火災処理土壇と考えられる。挿図では基本土層東壁1(第7・213図)の一部を図示し、火災層と掘り込み面の関係に留意した。

覆土は焼土ブロック、炭化物が主体で、炭化材や被熱遺物が多く出土した。基本土層東壁をみると、第77層が掘り込み面であった。第65層は火災層で、直下にシルトブロックを多量に含む砂(第75層)が堆積していた。さらにその下に、焼土ブロックと炭化物を主体とした第76層がみられ、第77・78号土壇上層に流れ込むように堆積していた。

第58・92・94・95号土壇で述べたように、第76層は火災に関わる整地土と考えられ、火災処

理後に整地が行われたことを示す。

また、第77・78号土壇から出土した陶磁器は、被熱して碎片化したものが多い。肥前系磁器の広東碗が最新の陶磁器であり、18世紀末の様相を示している。

したがって、本遺構及び直上の整地層は18世紀末～19世紀初頭に起きた火災に関わると捉えることができよう。最も近い年代の火災は文化期(1804～1818)で、本遺構が文化期の火災に関わる可能性は高い。

また、第76層が文化期の火災に関わる整地層であれば、第65層が文政五年(1822)の火災層の可能性も指摘できよう。

文化・文政期の火災関係遺構については「VI調査のまとめ」を参照されたい。

帰属遺構に分けて取り上げることができなかった出土遺物については、第77・78号土壇一括として掲載した。

第224図121～129(第77号土壇)、130～133(第78号土壇)、第225図134～150(第77・78号土壇)に陶磁器・土器を示した。

第224図121～127までは、肥前系磁器である。121・122は広東碗の蓋で、強く被熱する。123は広東碗の身で、やはり強く被熱する。124は小広東碗で、弱く被熱している。

125は脚部を欠失する仏飯器で、強く被熱する。126は小形の皿である。明確な被熱痕は認められないが、全体に薄く煤が付着している。127は梅樹文が染付される油壺で、強く被熱する。

128・129は陶器である。128は灰釉に呉須絵が描かれた香炉で、平面形は八角形になるものらしい。強く被熱する。129は瀬戸美濃系の灯明皿(油皿)で、橙色味を帯びた光沢の強い柿釉が施される。内底面と外底面に重ね焼き痕がある。内底面の重ね焼き痕は、径3.9～4.4cmの楕円形である。口縁部に歪みがあり、口径は8.0～8.4cmである。

130は粗雑な肥前系磁器で、口縁部が大きく広がる形態の坏である。

131は瀬戸美濃系陶器の餌入れで、灰白色の光沢が強い灰釉が施される。

132は瓦質土器の火消壺で、取っ手は板状である。弱く燻されており、表裏面が斑状に灰色を帯びる。胎土には角閃石が多く含まれる。

133は瓦質土器の火鉢である。外面は全面にミガキが施され、下半部にはミガキに先行する斜方向のケズリ痕跡が認められる。口縁部に、二次的な敲打による剥離が少し認められる。内面に、火箸状の痕跡はみられない。被熱し、赤く変色する。

第225図134は中国龍泉窯系磁器の青磁蓮弁文碗で、13～14世紀の所産である。

135は肥前系磁器の碗で、朝顔形に開く器形である。体部外面は青磁釉、高台内は渦福文の銘款、内底面は崩れた五弁花文の染付が施される。136は、肥前系磁器の小広東碗である。

137～140までは肥前系磁器の皿で、137～139までは厚手・粗製のものである。137は、内底面に蛇の目状釉剥ぎが施される。いずれも被熱している。140はやや薄手で、腰が張って立ち上がるものと思われる。

141～148までは瀬戸美濃系陶器で、141～143までは灯明皿である。

141は割り底の油皿で、黄色味の強い灰釉が掛けられる。内面に窯道具痕と思われる3つのピン痕がある。142・143は柿釉の油皿で、径8cm弱と小形のものである。143の油受皿は、外面の体部中位に径5.3cmの重ね焼き痕がある。受部上端の重ね焼き痕は、径5.1cmである。

144も灯火具で、乗燭である。被熱し、釉がざらついている。145は筒形の灰落しで、緑釉が掛けられる。口縁部は打ち割られていると考えられる。底部や打ち割りに煤が付着する。

146は一升徳利の口縁部で、被熱している。147は灰釉徳利で、サイズが非常に大きい。体部

の破片であるため、遺物の上下に疑問もあるが、肩部に向かって窄まる形態と想定して図化した。灰軸は、光沢のあるウグイス色に発色する。

148 は柿柚半胴型で、やや小形のものである。口唇部と高台畳付部に、窯詰めの際の目跡がある。各4箇所と思われるが、高台部の目跡の痕跡は判然としない部分もある。体部の下位はケズリ後に施軸され、露胎部となる腰の部分はナデ調整される。高台内は反時計回りの回転ケズリ後に、ナデ消しが施される。口縁部の一部に、細かい二次的な敲打痕がある。

149・150 は土器で、149 は硬質な土師質土器の蓋である。上面は、全面的に丁寧なミガキが施され、平滑になる。下面にヘラ記号状の刻みがみられる。被熱している。

150 は、瓦質土器の火鉢である。外面の全面にミガキが施されるが、下半部にはミガキに先行する斜方向のケズリ痕跡が認められる。外面2箇所に、釘とみられる鉄製品が付着する。口唇部には、二次的な敲打による剥離が目立つが、内面に火箸状の痕跡がみられない。被熱し、赤く変色する。第224図133、第227図180がこの火鉢とほぼ同タイプのもので、いずれも強く被熱している。

第240図51～55（第77号土壙）、56（第78号土壙）、57～66（第77・78土壙）に銭貨以外の金属製品を示した。

第240図51は高台付きの坏である。52は2点が連結した環釘である。53～55・60～66は釘である。57は煙管の雁首である。58は飾金具である。2箇所を鉋留めている。56・59は用途不明の鉄製品である。

第242図8・9（第77号土壙）は寛永通寶である。9は表面の1箇所孔がある。

第89号土壙（第213・231・240図）

B5-16グリッドに位置し、第3・4号井戸跡より古い。方形の土壙で、覆土は砂とシルトで交互に埋め戻されていた。

炭化材が出土したほか、少量の陶磁器、土製品、鉄製品がみられた。陶磁器は、肥前系磁器の広東碗の蓋らしきものがみられる以外には、肥前系磁器の筒形碗が最も新しい時期のものである。推定廃絶時期は18世紀後半以降である。

第231図2は江戸在地系の土製人形で、大黒をモチーフとしている。中空の前後合わせ二枚型成形である。前面が欠失している。

第240図67は鉄製品で、形態から火箸かもしれない。

第90号土壙（第214・226図）

B5-J7・8グリッドに位置し、第20号建物跡より新しい。東部は調査区域外である。検出された部分の形状から、平面形は長方形と推定される。覆土の下層は焼土ブロック、炭化物を主体とし、上層は砂で埋め戻されていた。

陶磁器の出土量は少ない。瀬戸美濃系磁器の端反碗が含まれており、推定廃絶時期は19世紀初頭～前葉である。

第226図151は、肥前系磁器の粗製の碗である。口縁部は端反になり、内底面に蛇の目状軸刺ぎが施される。152は肥前系磁器の筒形碗で、外面の体部には条線状の密な沈線が施される。中位には横帯状に鉄軸が施される。

153は瀬戸美濃系陶器の灯明皿（油受皿）である。小形で、受部の突出が大きい。受部の切り込みは方形である。軸葉は薄く施軸される。154は瀬戸美濃系陶器の大形の蓋である。上面は回転ケズリ整形後、光沢のある白っぽい灰軸が施される。

第96号土壙（第214・243図）

B5-J6・7グリッドに位置し、第9号溝跡より古い。平面形は隅丸長方形で、南部にテラス状の段がみられた。覆土の下層は砂で、上層は砂に少量の粘土ブロックが含まれていた。

下層で杭、板等が出土したほか、わずかに磁器と瓦、石製品が出土した。磁器は肥前系の筒形碗である。遺構の帰属時期は不明である。

第 243 図 13 は、黄灰色を帯びた粘板岩製の砥石である。右側面に、密なノコギリ状工具痕がみられる。砥面は 3 面である。

第 97 号土壌 (第 214 図)

B5-J6 グリッドに位置し、第 9 号溝跡より古い。平面形は隅丸長方形と思われる。覆土は単層で、粘土ブロックを含んだ砂であった。出土遺物はわずかな量の陶磁器と瓦で、瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿 2 個体が含まれる。遺構の帰属時期は不明である。

第 99 号土壌 (第 214・228・240 図)

B5-J6・7 グリッドに位置する。第 20 号建物跡と隣接していた。平面形は隅丸長方形で、西部は一段高く、テラス状になっていた。覆土は単一層で粘土ブロックを含んだ砂であった。

少量の陶磁器と銅製品が出土した。瀬戸美濃系磁器の端反碗蓋がみられ、19 世紀以降の遺構である。廃絶時期は 19 世紀前半であろう。

第 228 図 190～192 は陶磁器・土器で、190 は瀬戸美濃系磁器の端反碗の蓋である。反りあまり明瞭ではない。

191 は、瀬戸美濃系陶器の端反碗である。内面を白化粧後に施釉し、外面に折枝梅樹文が鉄絵・白盛で描かれる。

192 は瓦質土器の埴戸類で、口縁部と窓部(縁部)は突帯があつて肥厚する。この部分は欠損後に二次的に研磨されている。断面も二次的な研磨痕が顕著で砥具に再利用されている。にぶい褐色を帯びる酸化炭焼成みもののだが、被熱による変色の可能性もある。胎土には角閃石が含まれる。

第 240 図 79 は金属製品で、文鎮である。

第 100 号土壌 (第 214 図)

B5-J7 グリッドに位置し、平面形は楕円形である。覆土は粘土ブロックを含んだ砂であった。

出土遺物は極めて少なく、図示し得るものがなかった。肥前系磁器の小広東碗と京都信楽系陶器の小杉碗が出土しているため、廃絶時期は 18 世

紀後葉であろう。

第 105 号土壌 (第 214 図)

C6-F1 グリッドに位置し、東部は調査区域外である。挿図では、基本土層東壁 3 (第 9・214 図)の一部を図示した。東壁では第 32 層の途中で遺構の覆土が途切れていたが、傾斜をつけた法面での観察であり、遺構の掘り込み面を検出できなかったものと考えられる。少なくとも第 32 層以上が掘り込み面と考えられる。遺物は出土しなかった。遺構の帰属時期は不明である。

第 107 号土壌 (第 214・228・237・238・241～243 図)

B5-I5 グリッドに位置し、重複する第 3 号井戸跡、第 2 号池跡、第 50 号土壌より古い。残存部分から、平面形は隅丸長方形と思われる。

覆土の下層は焼土、炭化物、灰が主体で、杭、建築材等が出土した。上層は砂に覆われていた。

出土した陶磁器は 18 世紀代のものが主体である。小破片で図示し得なかったが、肥前系磁器の蛸唐草文御神酒徳利が含まれる。遺構の重複関係から、推定廃絶時期は 18 世紀後葉から 19 世紀前葉頃である。

第 228 図 193～197 に陶磁器を示した。193 は肥前系磁器の水滴で、上面に型押し施文と染付が施される。内面には指圧痕が残る。下面は露胎とする。被熱している。

194 は陶器の大振りの碗で、相馬駒焼と考えられる。断面は口縁部が少し肥厚きみになり、腰部の器厚は薄くなる。内外面は筋状の細かいナデが観察されるが、外面の下位はケズリで処理される。ややくすんだ卵色の灰釉が施され、外面に走馬とおもわれる鉄絵の一部が残る。胎土はざっくりした土に長石の細粒が多量に含まれ、「砂焼」の特徴を示す。

195 は瀬戸美濃系陶器の皿で、口縁部が肥厚し、蛇の目状高台を持つ。釉薬は透明感のある黄色で、貫入が多い。内面に目跡がみられる。196 は堺明

石系陶器の挿鉢で、内面には一単位8条の挿目がみられる。外面体部はケズリ後にヨコナデが施される。197は陶器の土瓶の蓋で、上面に淡い緑色の灰釉が施され、底面に墨書がある。

第237・238図43～47は木製品である。43は木札である。中央右側に方形の孔が認められる。表面に墨書がみえるが、判読できない。44は鋤である。柄部が炭化し、「全」の焼印が認められる。

第238図45～47は建築材である。45～47は同一個体である。47は炭化している。

第241図80は鉄製の火箸である。第242図21は鋼製の雁首銭である。

第243図14は凝灰岩製の硯である。側面が黒く塗られている。

第391号土壙 (第215・228・232・241・242図)

C6-H2・I2グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、底面の北部にテラス状の段が付いていた。覆土は炭化物、焼土ブロック、焼けた壁土、被熱した瓦が多量にみられた。

出土遺物は瓦が主体であり、140,415g出土した。陶磁器の出土は極めて少なく、廃絶時代の絞り込みは難しい。ただし、第392号土壙と瓦の接合関係が認められることから、第392・393号土壙と同時期の火災処理土壙と考えられる。

第228図198・199に陶磁器、第232図5～11に瓦、第241図81～83に金属製品、第242図22・23に銭貨を示した。

第228図198は肥前系磁器の碗である。焼継痕と高台内の焼継印がみられる。199は肥前系磁器の仏飯器で、外面に半菊文が染付される。底部は弱く抉るように窪み、外周は面取りされる。

第232図5は軒棧瓦である。江戸式文様で、表面は銀化光沢がみられる。

6は道具瓦で、銀化状の光沢が少しみられる。第392号土壙から出土した瓦と接合した。

7～9は平瓦で、7は凹面に「〇」の刻印が認められる。9は端面から凹面へ向かって二次穿孔

がみられる。10・11は棧瓦で、被熱している。

第241図81～83は鉄製の頭巻釘である。

第242図22・23は寛永通寶で、22は古寛永である。

第392号土壙 (第215・229・233・241図)

C6-I2グリッドに位置し、南部は調査区域外であった。挿鉢では基本土層南壁(第10・215図)を示し、火災層と掘り込み面の関係に留意した。平面形は隅丸長方形と推定される。

覆土は焼土ブロック、炭化物、焼けた壁土、被熱した瓦を主体とし、第391・393号土壙とほぼ同時期の火災処理土壙である。少なくとも第393号土壙とは掘り込み面が同一である。

瓦を中心に廃棄され、総重量は136,345gである。陶磁器は磁器が主体である。被災した建物の解体に伴う一括廃棄と考えられる。

肥前系磁器の広東碗が最も新しい陶磁器で、図示した陶磁器は明確に被熱している。18世紀末の様相であり、第393号土壙と同じく文化期(1804～1818)の火災によるものと考えられる。

第229図200～204に陶磁器、第233図12～17に瓦、第241図84～86に金属製品を示した。

第229図200・201は、肥前系磁器の広東碗の蓋・身である。202は肥前系磁器の皿で、口縁部が端反になる厚手のものである。

203は瀬戸美濃系陶器の柿軸灯明皿で、内面に径4.3～4.5cmの重ね焼き痕がある。底面にも重ね焼きの痕跡がある。

204は瀬戸美濃系陶器の灰釉丸碗と思われるが、被熱して鼠色に変色する。軸葉には大きな貫入があるが、これも被熱によるものであろう。

第233図12は軒棧瓦である。江戸式文様で軒丸部瓦当面は左巻きの巴文である。被熱し、一部が酸化している。

13は熨斗瓦である。外面に雲母(キラ粉)が付着している。

14は平瓦で、被熱し、煤が付着する。15は棧

瓦で、隅切りが僅かに遺存している。16は平瓦ないし棧瓦で、凸面にヘラ書きと思われる刻書がみられるが、判読できない。

17は器種不詳の瓦で、焼成前の穿孔がみられる。表面は無調整と思われる。

第241図84～86は釘である。

第393号土壇（第215・229・233・241・243図）

C6-I1・2グリッドに位置し、南部は調査区域外であった。挿図では基本土層南壁（第10・215図）を示し、火災層との掘り込み面の関係に留意した。基本土層から、南壁第4層を構築面とする第42号建物跡より古いことがわかる。平面形は、隅丸長方形と思われる。

覆土は焼土ブロックと炭化物が多量に含まれる。第391・392号土壇から出土した瓦の接合関係、第392号土壇とは掘り込み面が同一であることから、同時期の火災処理土壇と考えられる。

出土遺物には釘が多くみられるほか、瓦が50,781g出土した。被災した建物を解体した際に、生じたものと思われる。

また、出土した陶磁器には被熱しているものが多く、肥前系磁器の端反碗を最新のものとす。18世紀末から19世紀初頭頃の様相を示している。

基本土層南壁の第6～3層は焼土ブロックと炭化物が多量に含まれ、火災層と考えられる。本跡はこの層の上面が掘り込み面だが、遺構覆土の第5・7層から第6～3層への変化は漸移的であった。

また、類似する土層が基本土層東壁1（第7図）の第76層にみられ、第58号土壇（文化期の火災処理土壇と推定）の掘り込み面であった。

したがって、本跡は文化期（1804～1818）の火災に伴う火災処理土壇と判断される。なお、享和年間（1801～1804）に生産が始まるとされる瀬戸美濃系磁器は出土しなかった。

第229図205～216に陶磁器、第233図18に瓦、第241図87～101に金属製品、第243図15に

石製品を示した。

第229図205は、中国漳州窯系磁器の口縁部破片である。厚く灰白色の釉が掛けられ、赤絵の一部が残る。

206・207は肥前系磁器の筒形碗で、同文である。207の内底面には、コンニャク印判でやや崩れた五弁花文が染付される。2点とも被熱する。

208は肥前系磁器の碗で、内面は蛇の目状釉刺ぎされる。見込み部分に釘書き「板ヤ」が認められる。『絵図』にみえる「年寄 庄兵衛」の屋号「板屋」を示す資料である（埋理文2019a）。

209は肥前系磁器の端反碗で、被熱する。210・211は、肥前系磁器の猪口である。

210は大振りのもので、内底面に五弁花文、高台内に渦福文が染付される。弱く被熱し、僅かに煤が付着する。211は厚手・粗製のもので、特に底部が厚い。

212は中国景德鎮窯系磁器の坏である。薄手で釉薬は僅かに青みを帯びる。

213は肥前系磁器の粗製の皿で、煤が多量に付着する。

214は、京都信楽系陶器の小杉碗である。体部の開きが浅く、薄手である。被熱は認められない。

215は備前系陶器の徳利で、被熱する。上・下部の破片は、接点がないが同一個体と判断される。

216は瀬戸美濃系陶器のいわゆるべこかん徳利である。胎土は灰白色で、拓器質ではない。外面に柿釉が施され、内面にも大きく流れ込む。外底面は一方から釉が拭き取られる。

第233図18は軒棧瓦である。栗宿宿では稀な瓦当文様である。

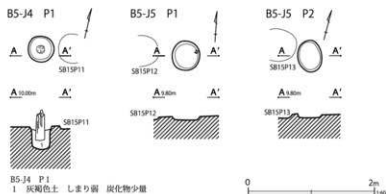
第241図87は用途不明の銅製品、88～101は釘である。

第243図15は砥石である。被熱し、黒化しているが、石材は白色の流紋岩と思われる。裏面に、段が付くノコギリ状工具痕がみられる。左側面に、刃幅の広い工具によると思われる段がみえる。

第80表 第一面ビット一覧表

単位：m

グリッド	番号	区画	形態	長軸	短軸	深さ	備考
B5-J4	1	3	円形	0.41	0.40	0.32	SB15と重複
B5-J5	1	3	円形	0.45	0.43	0.06	SB15と重複
	2	3	楕円形	0.48	0.38	0.06	SB15と重複



第244図 ビット



第245図 ビット出土遺物

第81表 ビット出土遺物観察表 (第245図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	蓋	3.6	[1.9]	—	IK	20	良好	こげ	B5J4内外面鉄軸上面トビガンナ状施文-P1の蓋)	つまみは裏筋(鍋)	

(11) ビット

本書掲載分の第一面のビットは3基である。いずれも建物跡や柵跡等は想定できない。第244図に遺構を、第245図にB5-J4グリッドのビット1から出土した行平鍋の蓋を示した。

(12) 遺物包含層

遺物包含層は2箇所あり、第一面では1箇所検出された。調査区北西部、区画1～3の裏手に位置し、第1号柵跡で区画されていた。

発掘段階では第1号池跡として扱われたが、土地造成による遺物包含層と判明した。なお、第二面の調査では、遺物包含層がさらに東部へ続くことが確認された。出土した遺物が、遺物包含層1より古いため、古い時期の土地造成と判断し、遺物包含層2として第二面の項で報告する。

第246図には、遺物包含層と遺構確認面の模式図を示した。第一面では、遺物包含層の傾斜に従って、表土掘削を行った。

遺構は第246・247図、遺物は第248～262図に一括して掲載した。また、北に隣接する北2丁目陣屋跡(埴埋文2021a)で検出された遺物包含層と関連性が窺われることから、第247図には両者の位置関係を示した。

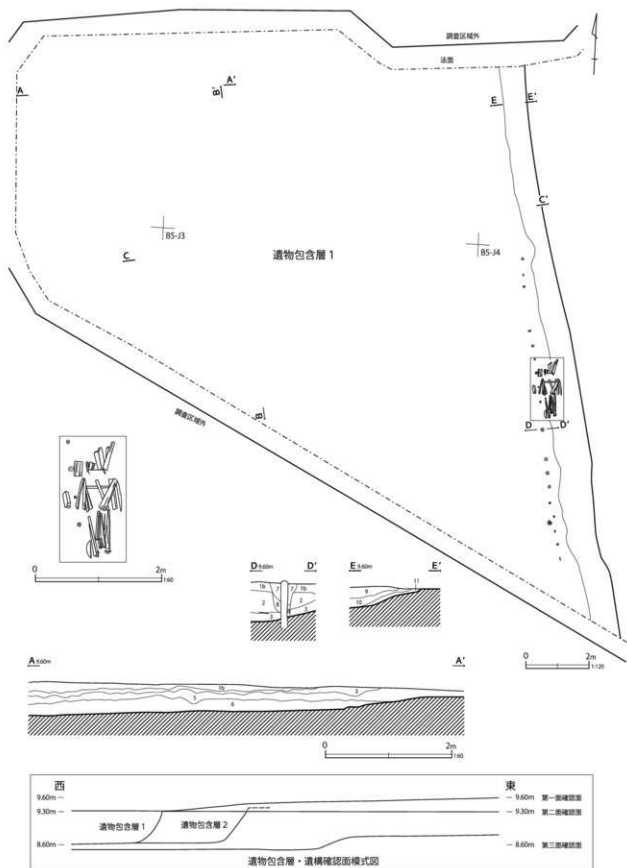
遺物包含層1 (第246～262図)

B5-1 2～4、J2～4、C5-A4グリッドに位置し、第2～4号溝跡より古い。

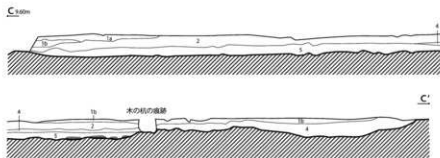
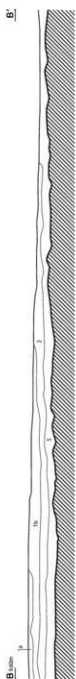
B5-1 4、J4グリッドから南西部へ向かって、緩やかに下がっており、その自然地形上に包含層は形成されていた。自然地形の堆積土を分析にかけた結果、池沼湿地帯の可能性が示された(V自然科学分析3・4)。

包含層自体が整地土と考えられ、整地後に溝跡が構築されていた。東部の際は、土留めが行われており、南北方向に設置された横位の板材が打ち込み杭で押えられていた。

建築材を中心とした木製品や陶磁器が多量に出

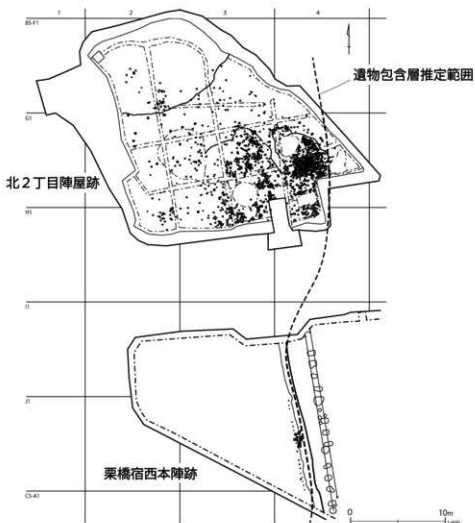


第 246 図 遺物包含層 1 (1)

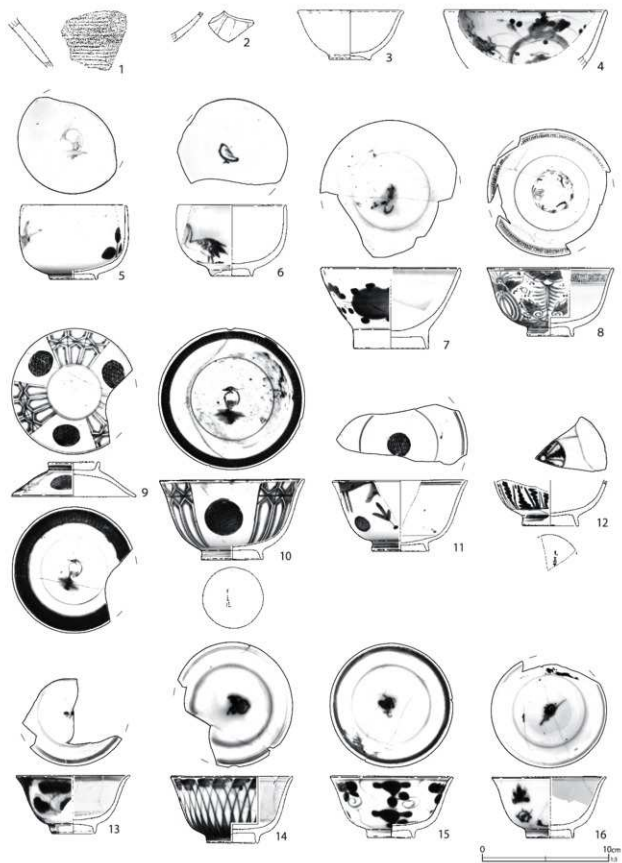


遺物包含層 1			
1a 赤褐色土	しまり強 粘性弱	酸化鉄分・白色粒子 (φ1mm)・炭化物 (φ1~10mm) 多量	7 暗黄褐色土
1b 暗褐色土	しまり強 粘性弱	白色粒子 (φ1mm)・炭化物 (φ1~10mm) 多量	8 暗褐色土
2 暗褐色砂	しまり強 粘性弱	白色粒子 (φ1mm) 多量 砂多量	9 暗褐色土
3 黒褐色土	しまり・粘性強	炭化物 (φ1mm) 多量 砂多量	10 暗褐色土
4 暗灰褐色粘土	しまり強	炭化物 (φ1mm) 多量 砂少量	11 暗褐色土
5 暗灰褐色粘土	しまり強	砂少量 灰色砂がブロック状に堆積	
6 灰色粘土	しまり強		

しまり強 粘性弱
 白色粒子 (φ1mm) 少量
 しまり強 粘性あり 木材・遺物少量
 しまり極めて強 粘性弱
 白色粒子 (φ1mm) 少量
 しまり弱 粘性あり 木材・遺物多量
 しまりあり 粘性あり
 10 層より材木・遺物少量 砂多量



第247図 遺物包含層1 (2)



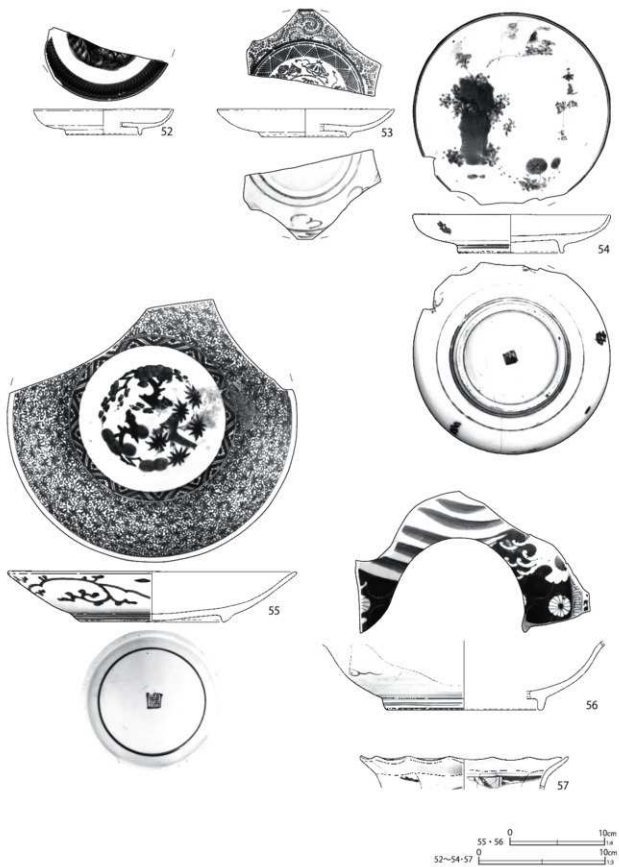
第248图 遺物包含層1出土遺物(1)



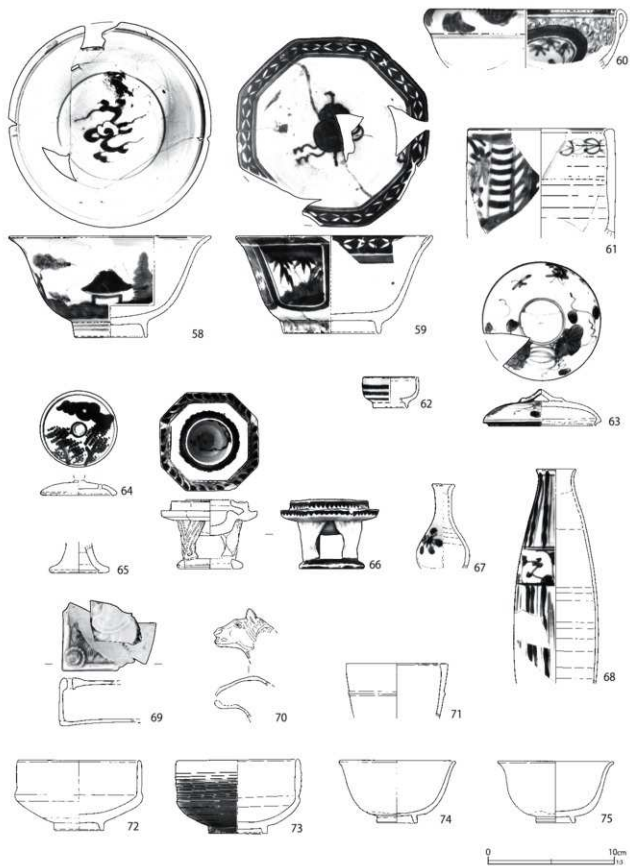
第 249 图 遺物包含層 1 出土遺物 (2)



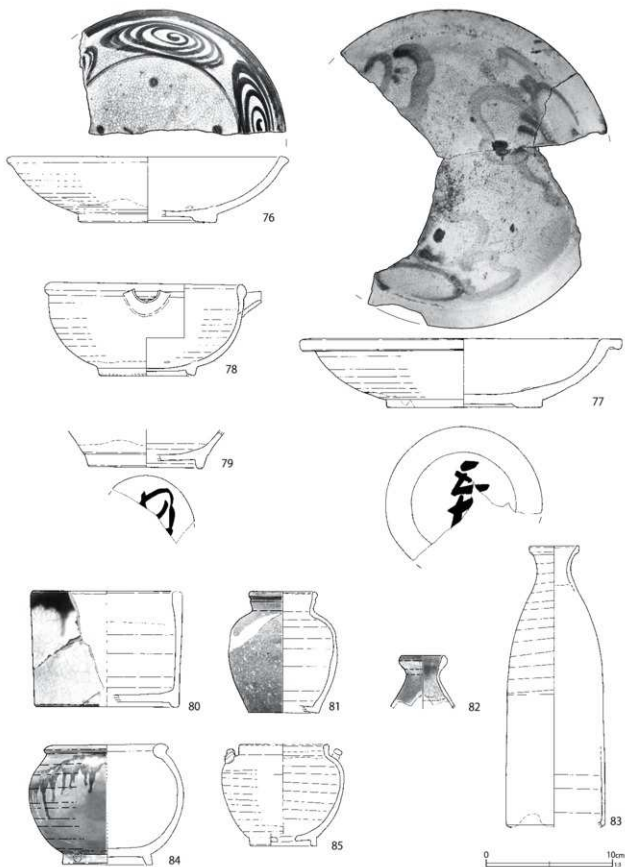
第250图 遺物包含層1出土遺物(3)



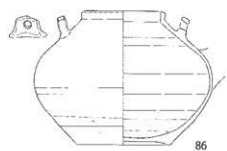
第 251 図 遺物包含層 1 出土遺物 (4)



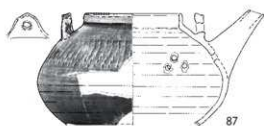
第252图 遺物包含層1出土遺物(5)



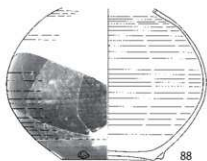
第 253 图 遺物包含層 1 出土遺物 (6)



86



87



88



89



90



91



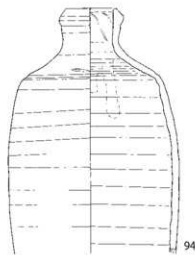
92



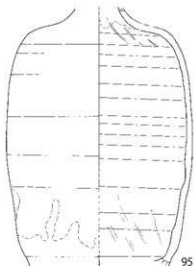
刷印部分
5=1/1



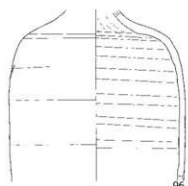
93



94



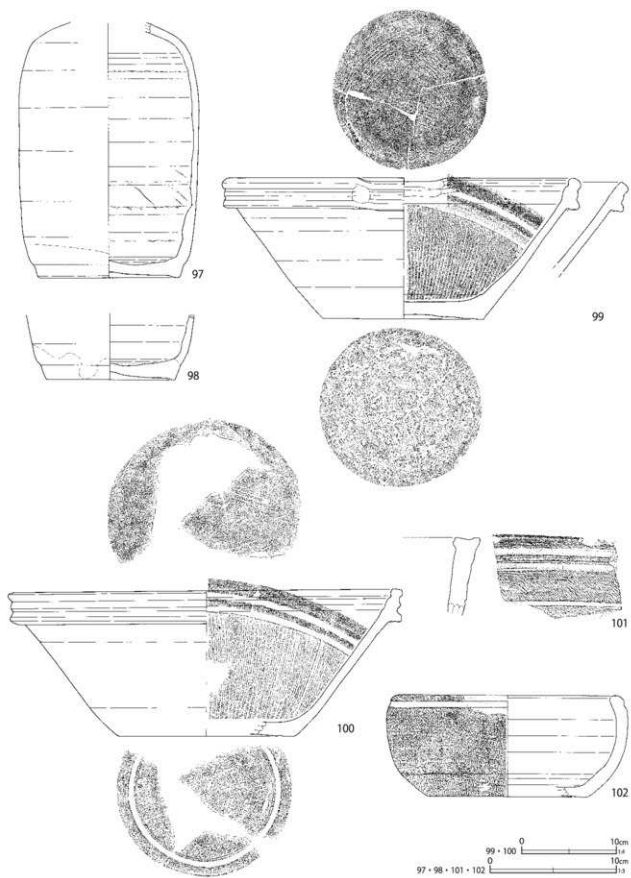
95



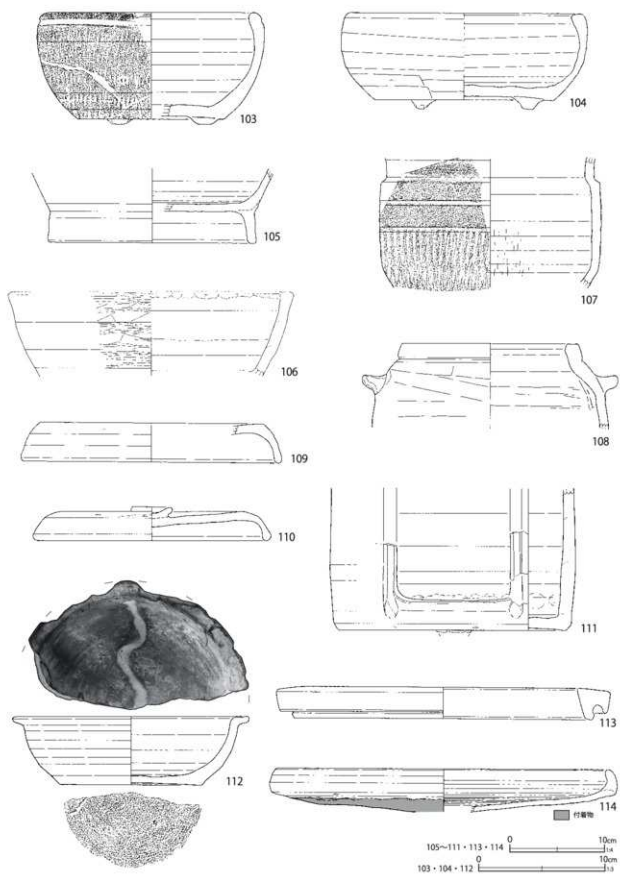
96



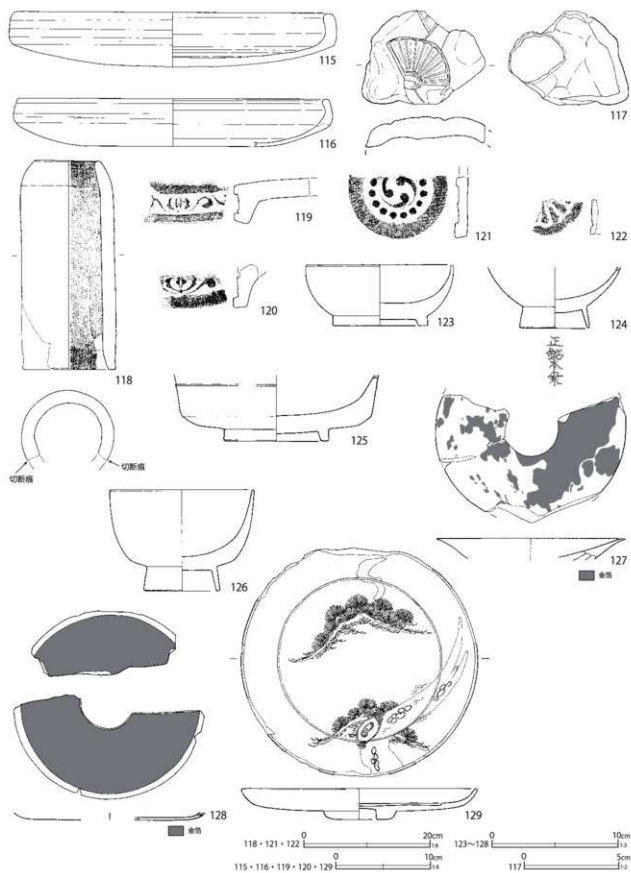
第254図 遺物包含層1出土遺物(7)



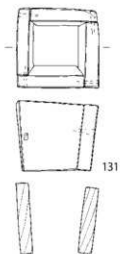
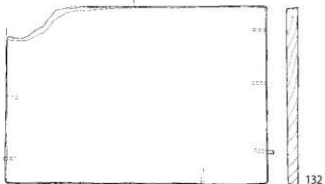
第 255 図 遺物包含層 1 出土遺物 (8)



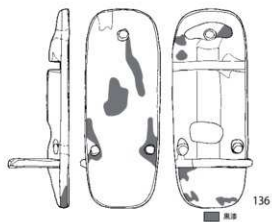
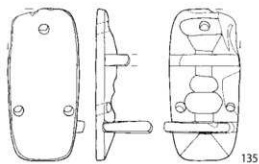
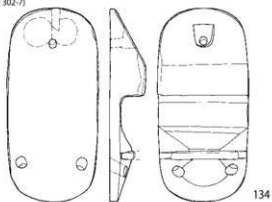
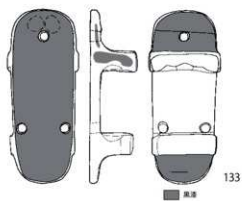
第256図 遺物包含層1出土遺物(9)



第 257 图 遺物包含層 1 出土遺物 (10)

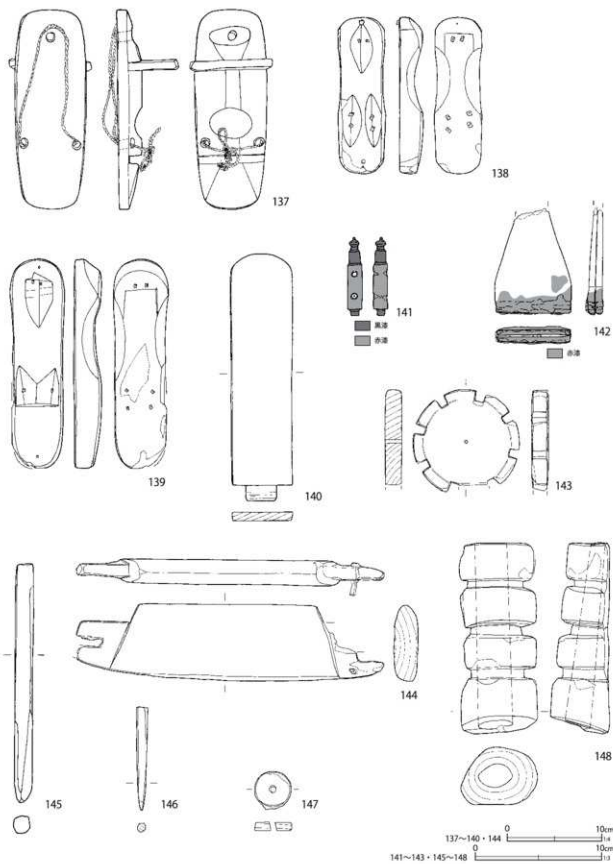


原形 (BON 302-7)

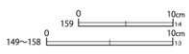
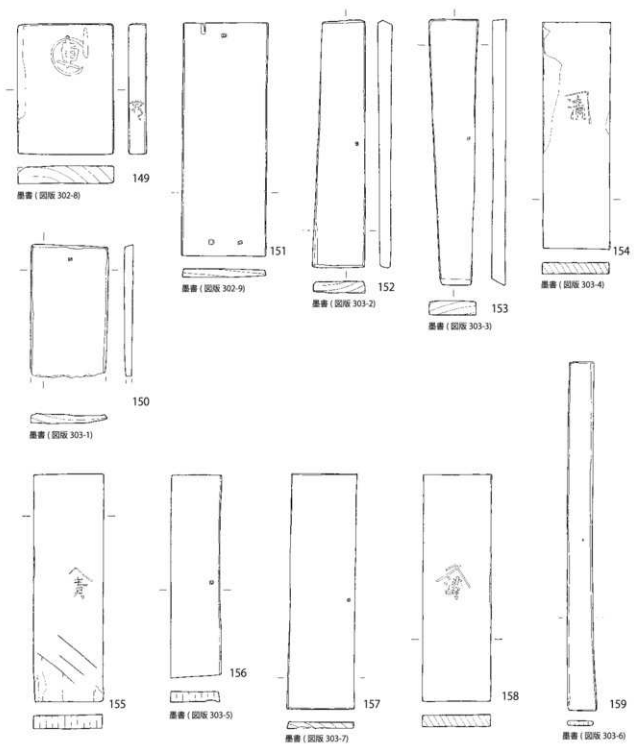


0 10cm 133~136 0 10cm 130~132

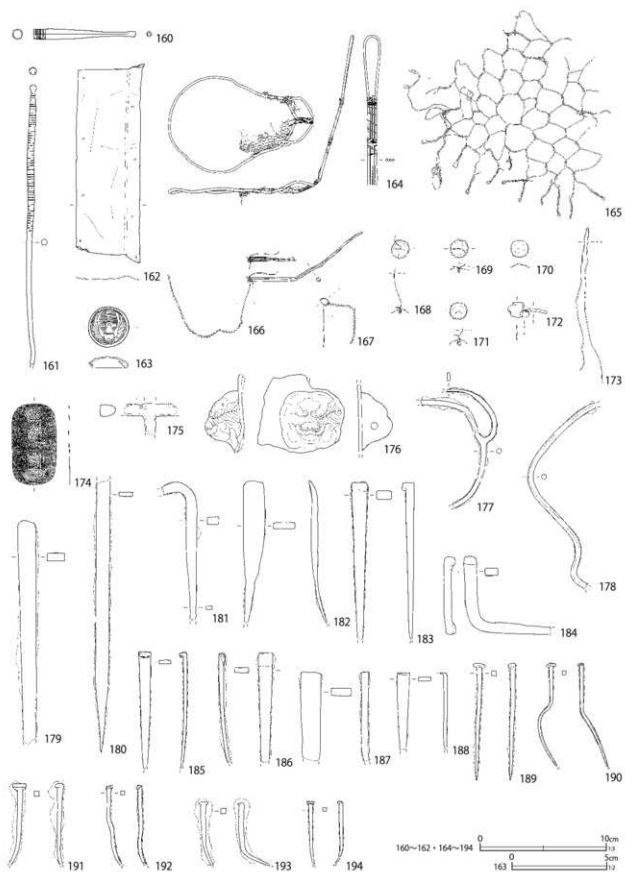
第258图 遺物包含層1出土遺物(11)



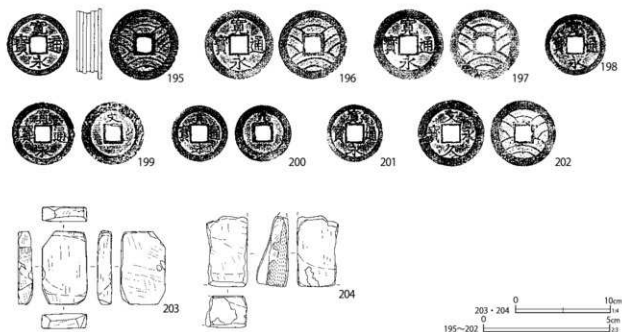
第 259 図 遺物包含層 1 出土遺物 (12)



第 260 図 遺物包含層 1 出土遺物 (13)



第261圖 遺物包含層1出土遺物(14)



第262図 遺物包含層1出土遺物(15)

土しており、造成工事の前に、湿地へ一括投棄したものと考えられる。

出土した磁器類をみると、酸化コバルト染付までの時期を主体とする。型紙摺絵染付の製品は図示したものが全てで、少量に留まる。銅版転写染付の爛徳利と、ゴム印染付の製品（第249図27）が各1点あるが、全体の組成から混入と考えられる。

したがって、埋め立てが行われた時期は、明治時代前半にあたる19世紀後半頃と考えられる。

出土遺物の様相や遺物包含層の位置、遺物の出土標高からみて、北2丁目陣屋跡で検出された遺物包含層と一連のものと考えられる。しかし、北2丁目陣屋跡では埋め立てが行われた様子はみられなかった（埴埋文2021a）。一方で、本地点では埋め立てが行われており、造成範囲は両遺跡の調査区の間まで広がっていたと考えられる。

第248～262図に出土遺物を示した。第248・257図1～116は陶磁器・土器である。

第248図1は、須恵器の甕である。白色雲母を多量に含むもので、茨城県新治窯跡群の製品で

ある。

2は中国龍泉窯系磁器で、蓮弁文碗である。外面に片切彫りの蓮弁文が施される。3は中国徳化窯系磁器の碗と考えられるが、軸は灰オリーブ色に発色している。口唇部と底部高台内は露胎とし、高台外面には顕著に細かい砂が付着する。

4～6は肥前系磁器の碗で、4は雪輪草花文碗、5・6は小丸碗である。7は瀬戸美濃系磁器の広東碗である。栗橋宿跡では出土量が少ない。

8・10・11は、肥前系磁器の端反碗である。10は焼継痕と焼継印が認められる。11は体部下位から底部が極めて薄手になるもので、同文の別個体がもう1点認められる。9は10の蓋で、同文の別個体が1点認められる。

第248・249図12～18は瀬戸美濃系磁器の端反碗である。12は焼継痕、焼継印が認められる。13～17までは小法量の碗である。13の外表面には煤状の黒色物質が付着するが、被熱痕は認め難い。14には同文の別個体が他に1点ある。

第249図19は瀬戸美濃系磁器で、端反碗の蓋である。20は瀬戸美濃系磁器の端反碗だが、よ

第82表 遺物包含層1出土遺物観察表(1) (第248～257図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	甕	—	[3.9]	—	AEK	5	良好	黄灰	新治郡群青 外面叩き目 内面ナゲ 8-9c	
2	磁器	碗	—	[2.4]	—	—	5	良好	灰	中国龍泉窯系 内外面青磁軸 外面還元文 13c中-14c前	162-2
3	磁器	碗	(8.1)	3.9	3.0	—	30	良好	灰	中国徳化窯系 内外面施軸・口唇部輪割ぎ 粗施	162-3
4	磁器	碗	(12.7)	[4.6]	—	—	25	良好	灰白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
5	磁器	碗	(8.2)	5.9	3.7	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付(小丸碗)	
6	磁器	碗	(8.4)	5.6	(3.2)	—	55	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付(小丸碗)	
7	磁器	碗	(10.8)	6.4	5.8	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(広東碗)	
8	磁器	碗	(8.2)	5.4	3.5	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付(端反碗)	
9	磁器	蓋	3.9	2.7	9.7	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付(端反碗の蓋)	162-4
10	磁器	碗	11.3	6.3	4.7	—	100	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕・焼継印(赤)(端反碗)	162-5 167-15
11	磁器	碗	(10.6)	5.6	4.4	—	30	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 同文別個体1あり(端反碗)	
12	磁器	碗	—	[3.6]	(4.4)	—	10	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼継痕・焼継印(赤)(端反碗)	167-16
13	磁器	碗	(9.0)	4.6	3.3	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗)	
14	磁器	碗	9.4	5.3	4.0	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 同文別個体1あり(端反碗)	
15	磁器	碗	9.5	4.9	3.6	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗)	
16	磁器	碗	8.9	4.8	3.6	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗)	
17	磁器	碗	9.2	4.9	3.6	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗)	162-6
18	磁器	碗	11.4	6.0	5.0	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗)	
19	磁器	蓋	3.7	3.1	9.4	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(端反碗の蓋)	
20	磁器	碗	8.2	4.2	3.2	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸(外面酸化クロム青磁軸) 内面刻印 口紅 高台内露胎	163-1
21	磁器	碗	7.1	6.0	4.0	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面陰刻文・染付 内面煤付着(湯呑碗)	
22	磁器	碗	7.2	6.3	3.8	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付(湯呑碗)	
23	磁器	碗	7.3	5.5	3.2	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面上絵付(青)(湯呑碗)	162-7
24	磁器	碗	(7.4)	5.5	(3.8)	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 焼継痕・焼継印(赤) 同文別個体1あり(湯呑碗)	
25	磁器	碗	(7.4)	4.7	(3.4)	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付(湯呑碗)	
26	磁器	碗	(10.0)	4.6	3.6	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・紙摺痕染付	
27	磁器	碗	—	[4.8]	(4.2)	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・ゴム印判染付	
28	磁器	坏	6.0	2.8	2.4	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
29	磁器	坏	6.5	3.2	2.5	—	95	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 同文別個体1あり	
30	磁器	坏	6.6	2.9	2.0	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
31	磁器	坏	6.9	3.7	2.2	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付	
32	磁器	坏	5.6	3.3	2.1	—	60	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
33	磁器	坏	6.2	4.1	2.6	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
34	磁器	坏	—	[2.0]	2.6	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)	163-3
35	磁器	坏	5.8	2.8	2.8	—	85	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付(御般手酒杯)	
36	磁器	坏	5.9	2.7	2.5	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)(御般手酒杯)	163-4
37	磁器	坏	6.6	2.8	2.4	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付「クリハシ」ヤ〇「酒場/支店」(青) 金線 同文別個体1あり(御般手酒杯)	163-5
38	磁器	紅皿	6.0	1.5	1.9	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 内面～外面上位施軸 外面型押施文 高台内露胎刻印	164-1
39	磁器	坏	(6.9)	5.0	2.6	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 高台内露胎・回転ケズリ痕	
40	磁器	坏	6.1	5.0	3.2	—	70	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
41	磁器	坏	6.4	4.3	3.1	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	
42	磁器	坏	6.3	4.6	2.6	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 体部面取り状	
43	磁器	坏	6.5	4.7	3.0	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化クロム青磁軸・上絵付(黒・茶) 高台内酸化コバルト染付 同文別個体1あり	
44	磁器	坏	6.4	3.0	3.0	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面突起帯有	
45	磁器	坏	—	[1.9]	(1.6)	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面上絵付(金)	
46	磁器	坏	(5.5)	6.0	3.7	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
47	磁器	坏	(6.1)	[5.2]	—	—	40	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化クロム青磁軸・上絵付(緑・茶)	
48	磁器	皿	(8.2)	2.0 (4.9)	—	—	40	良好	灰白	肥前系 内外面施軸 口紅	
49	磁器	皿	10.0	2.6 6.1	—	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅	
50	磁器	皿	14.6	4.5 8.6	—	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸(軸ムラ多い) 内面染付 口紅 焼継痕・焼継印(赤)	164-2
51	磁器	皿	(18.0)	3.1 8.7	—	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面酸化クロム青磁軸・一部酸化コバルト染付 内面上絵付(緑・茶・白)	164-3
52	磁器	皿	(10.9)	2.0 (5.8)	—	—	35	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 口紅 内面捺刷状施文・染付	
53	磁器	皿	(13.8)	2.2 (6.8)	—	—	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型紙捺染付 外面酸化コバルト染付	
54	磁器	皿	15.4	3.1 8.2	—	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	164-4
55	磁器	皿	30.3	5.3 15.2	—	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 高台内ハリ支取1	165-1
56	磁器	皿	—	[7.3]	16.2	—	10	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付	
57	磁器	鉢	(16.4)	[2.6]	—	—	10	良好	白	肥前系 口縁部青磁軸 内外面施軸・染付	
58	磁器	鉢	15.8	8.0 5.6	—	—	90	良好	灰白	肥前系 内外面施軸・染付	
59	磁器	鉢	15.3	7.7 7.5	—	—	80	良好	白	肥前系 内外面施軸・染付 捺刷・焼継痕	
60	磁器	鉢	(15.0)	[4.6]	—	—	15	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付	
61	磁器	香炉	(11.0)	[8.6]	—	—	15	良好	白	瀬戸美濃系 内面上位～外面施軸・染付	
62	磁器	蓋物	(4.2)	2.4 (2.6)	—	—	40	良好	白	肥前系 内外面施軸 口唇部軸割ぎ 外面染付 小形	
63	磁器	蓋	—	2.9 8.4	—	—	90	良好	白	肥前系 内外面施軸 外面染付 最大径9.3cm	
64	磁器	蓋	—	[1.2]	(5.6)	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 穿孔1(急須)	
65	磁器	仏飯器	—	[2.4]	(3.8)	—	20	良好	白	瀬戸美濃系 外面瑠璃軸	
66	磁器	盃台	3.6	5.4 4.9	—	—	100	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付・色絵(赤・緑) 最大径7.6cm	163-2
67	磁器	徳利	1.6	[6.6]	—	—	60	良好	白	肥前系 外面施軸・染付 小形	
68	磁器	燗徳利	3.0	[16.9]	—	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内面上位～外面施軸 外面酸化コバルト染付 同支別個体1以上あり	165-2
69	磁器	水漬	器高3.8 口径[6.0] 横[6.8]	—	—	—	35	良好	白	肥前系 外面施軸・上面染付 底部布目痕	
70	磁器	水漬	器高[4.0] 口径[4.8] 横[4.4]	—	—	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 外面施軸	
71	磁器	鉢	(8.0)	[4.3]	—	I	20	良好	白	淡路張平系 内外面黄色釉	165-3
72	陶器	碗	(9.6)	5.5 3.8	K	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸(せんじ焼)		
73	陶器	碗	9.4	5.9 4.5	IK	90	良好	黄灰	瀬戸美濃系 内面施軸 外面灰軸・鉄軸拵分(腰錆軸)		
74	陶器	碗	8.9	4.9 3.1	EK	80	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸(貫入多い) 端反碗		
75	陶器	碗	(9.0)	4.8 3.0	K	50	良好	灰白	京都信楽系 内外面施軸(貫入多い) 端反碗		
76	陶器	皿	(21.0)	5.2 (10.0)	EIK	35	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面鉄軸・目跡3遺存(馬目皿)		
77	陶器	皿	22.8	5.4 12.0	EI	60	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面鉄軸・須貝絵・目跡2遺存 底部墨書(石皿)	167-17	
78	陶器	片口鉢	(15.0)	7.3 7.4	I	65	良好	灰	内外面灰軸 内面目跡5		
79	陶器	徳利カ	—	[3.0] (9.0)	IK	10	良好	灰	外面灰軸 高台型付茶湯具 高台内墨書	167-18	
80	陶器	香炉	11.6	9.1 (11.2)	IK	55	良好	灰黄緑	京都信楽系 内面上位～外面白化粧・施軸 外面上位緑釉 口唇部軸割拵		
81	陶器	壺	(5.0)	9.6 (5.4)	DEX	25	良好	灰白	信楽系 長石粒目立つ	165-4	
82	陶器	燗徳利	(3.2)	[4.2]	—	K	5	良好	灰白	内面上位～外面灰軸	
83	陶器	燗徳利	3.8	[22.2]	—	K	85	良好	灰白	内面上位～外面灰軸	
84	陶器	壺	8.5	9.5 7.0	DI	80	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面鉄軸し掛け		
85	陶器	双耳壺	6.9	8.0 5.2	K	75	良好	灰白	瀬戸美濃系 内面上位～外面灰軸 口唇部軸割拵 底部二次穿孔(榎木鉢転用) 内面付着物あり	165-5	
86	陶器	土瓶	(6.0)	10.5 7.4	DIJK	70	良好	灰白	松原系 外面南鼠釉	165-6	
87	陶器	土瓶	(7.4)	[9.1]	—	IK	45	良好	灰白	内面上位～外面灰軸 外面上位トビガンナ状施文 SG2と接合	166-1
88	陶器	土瓶	—	[11.9]	7.3	—	35	良好	黄灰	外面灰軸 上位うのふ軸流し掛け	
89	陶器	急須	8.1	7.3 7.5	K	75	良好	白	内外面施軸・白土染付 底部と蓋受部のみ磨蝕 底部墨書	167-19	
90	陶器	急須	—	2.6 1.8	IK	100	良好	灰黄緑	上面施文・白化粧・施軸 つまみに鉄軸 最大径3.8cm	166-2	
91	陶器	蓋	—	1.7 4.4	I	45	良好	灰白	瀬戸美濃系 下面糸切痕(右) 上面灰軸 最大径9.8cm		
92	陶器	蓋	—	3.0 3.2	IK	80	良好	灰白	京都産(三代目清水六兵衛) 上面灰軸 下面磨糸切後穿孔・銅印(印) つまみ中空・上端に小孔 最大径7.5cm	166-3	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
93	陶器	蓋	—	3.3	7.8	K	95	良好	灰白	外面白土染付 ビン散ら 最大径 9.8 cm	
94	陶器	徳利	3.8	[19.4]	—	EK	55	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉 唇部塗道具痕	
95	陶器	徳利	—	[20.5]	—	K	45	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉 体部に若干の虫み	
96	陶器	徳利	—	[13.5]	—	I	35	良好	淡黄	瀬戸美濃系 外面灰釉	
97	陶器	徳利	—	[20.1]	11.0	EIK	55	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉 底部拭き取り	
98	陶器	徳利	—	[5.2]	10.0	EIK	10	良好	灰白	瀬戸美濃系 外面灰釉 底部拭き取り	
99	陶器	擂鉢	36.0	15.0	17.0	EHK	85	良好	赤褐	堺明石系 砂目底 内面擂目 煤付着	
100	陶器	擂鉢	39.7	15.8	18.5	IK	70	普通	赤褐	堺明石系 砂目底 内面擂目	
101	瓦質土器	火鉢	—	[6.2]	—	CIK	5	普通	にぶい焼	外面施文 内面薄く煤付着	
102	瓦質土器	火鉢	(17.0)	8.0	(12.5)	CHK	20	普通	にぶい焼	外面トビガンナ状施文 弱く煤す 口縁部二次的な敲打痕	
103	瓦質土器	火鉢	(16.0)	8.8	(11.3)	CHK	60	普通	明楊灰	底部一方向工具ナゲ 外面トビガンナ状施文・口縁部ニガキ 煤す	
104	瓦質土器	火鉢	(18.2)	7.6	14.0	CHK	60	普通	明赤楊灰	底部一方向からケズリ・体部下位ケズリ やや酸化炎焼成 口縁部の一部に煤付着	166-4
105	瓦質土器	火鉢	—	[7.9]	(21.5)	CHK	15	普通	にぶい焼	底部一方向ケズリ やや酸化炎焼成	
106	瓦質土器	火鉢	—	[8.9]	—	CI	15	普通	灰白	外面ケズリ後ミガキ 煤す 口唇部内側に二次敲打痕	
107	瓦質土器	火鉢	—	[13.9]	—	CHK	25	普通	灰白	外面下位トビガンナ状施文・中位細網波状文・上位花文(スタンブ文) 煤す 内面下位火箸状痕跡	
108	瓦質土器	火消壺	18.5	[9.0]	—	CHK	20	良好	楊灰	煤す	
109	瓦質土器	蓋	(23.6)	4.1	(27.2)	ACHK	25	普通	黒	上面砂目 内面黒化 弱く煤す(火消壺の蓋)	
110	瓦質土器	蓋	—	3.6	(24.3)	IK	25	普通	黒	上面シワ状痕をナゲ消し 内面黒化 煤す(火消壺の蓋)	
111	瓦質土器	壺	—	[15.0]	(24.0)	CIK	30	普通	にぶい焼	やや酸化炎焼成 砂目 内面煤少量付着 脚欠失	166-5
112	瓦質土器	仕切壺	(18.2)	5.4	(11.2)	I	45	普通	灰白	底部糸切痕 内面に間仕切りの割離痕 煤す	166-7
113	瓦質土器	壺	(28.7)	3.3	(31.6)	CHK	25	良好	にぶい焼	やや酸化炎焼成 上面煤付着	
114	土質土器	焙烙	(34.8)	[4.5]	(36.4)	CHK	45	普通	灰白	砂目底 底外面付着物	
115	土質土器	焙烙	32.8	5.7	34.0	AHK	100	普通	橙	底部シワ状痕 厚手	166-6
116	土質土器	焙烙	(32.6)	5.0	(33.8)	CHK	20	普通	にぶい焼	底部に付着物	

第 83 表 遺物包含層 1 出土遺物観察表 (2) (第 257 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	地成	色調	備考	図版
117	土製品	人形	蓋 [5.0]	横 [6.5]	厚さ [1.4]	—	—	AE	普通	浅黄	江戸在地系 前後合型成形 中空 重さ 27.8g	240-13
118	瓦	瓦	33.5	15.0	2.1	—	—	AIK	普通	灰白	半截・欠失部に割痕	242-14
119	瓦	軒椀瓦	[7.9]	[9.0]	1.9	[4.9]	—	AIK	普通	灰白		246-9
120	瓦	軒椀瓦	[2.0]	[8.0]	[2.2]	[4.8]	—	AIK	普通	灰白		246-10
121	瓦	軒丸瓦	—	—	2.0	—	15.2	AIK	普通	灰白	左帯き	246-11
122	瓦	椀込瓦	—	—	[1.0]	—	(14.0)	AIK	普通	灰白		246-12

第 84 表 遺物包含層 1 出土遺物観察表 (3) (第 257 ~ 260 図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	備考	図版
123	木製品	漆椀	—	—	—	11.5	4.8	7.2	横木取り	内面赤漆 外面黒漆	250-5
124	木製品	漆椀	—	—	—	[4.9]	(5.5)	横木取り	内外面黒漆	高台内に文字(金)「正銘木業」	250-4
125	木製品	漆鉢	—	—	—	[5.3]	8.1	横木取り	内外面黒漆		250-6
126	木製品	漆椀	—	—	—	(11.3)	8.0	5.7	横木取り	内外面赤漆	250-7
127	木製品	漆高杯	—	—	—	15.0	[1.7]	—	横木取り	内面赤漆・金箔付着 外面黒漆 中央円形に欠失	
128	木製品	漆高杯	—	—	—	[0.6]	13.0	—	横木取り	内面金箔 外面黒漆 中央円形に欠失	
129	木製品	漆高杯	—	—	—	24.8	3.3	7.7	横木取り	内外面黒漆 高台内は漆なし 内面文様(濃淡の金) 内面有段 底部孔径 3.6 cm	250-8
130	木製品	箱	4.3	14.2	0.6	—	—	—	—	側板表・裏・側面赤漆 上面黒漆 文様(黒漆) 木釘 2	250-9
131	木製品	箱カ	6.3	6.5	—	—	5.4	—	板目	木釘 4	
132	木製品	箱	14.0	20.8	0.9	—	—	—	板目	側板 木釘 7 焼印「全致」「本銘/粘産/久助」(文字資料 23)	
133	木製品	下駄	18.4	6.8	—	—	5.0	—	板目	連歯下駄 黒漆	250-10

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	備考	図版
134	木製品	下駄	20.4	9.6	—	—	3.8	—	板目	切り下駄	250-11
135	木製品	下駄	16.0	7.5	—	—	6.0	—	板目	陰仰下駄 表面炭化	
136	木製品	下駄	21.0	7.9	—	—	6.5	—	板目	陰仰下駄 全面黒漆	
137	木製品	下駄	21.1	7.6	—	—	6.4	—	台板目 歯柱目	陰仰下駄 漆縁残存	
138	木製品	下駄	16.5	5.0	—	—	2.5	—	板目	無眼下駄 木釘 6 鉄釘 2	251-1
139	木製品	下駄	22.1	5.3	—	—	2.4	—	板目	無眼下駄 木釘 5 釘 1	
140	木製品	位牌カ	26.1	6.5	0.9	—	—	—	—	—	251-2
141	木製品	ミニチュア	6.3	1.2	1.2	—	—	—	—	欄干の擬宝珠 赤・黒漆 孔径 0.4 cm	
142	木製品	刷毛	[8.3]	6.1	1.4	—	—	—	板目	先端部に赤漆が固着	251-3
143	木製品	不明	—	—	1.3	8.4	—	—	板目	表裏面に墨で円形の印 木釘 1	
144	木製品	不明	8.1	[32.6]	2.6	—	—	—	板目	鉄釘 1	
145	木製品	不明	18.9	1.4	1.4	—	—	—	削出	—	
146	木製品	釘	8.2	0.9	0.7	—	—	—	削出	—	251-4
147	木製品	不明	—	—	0.7	2.9	—	—	板目	中央に孔 1 孔径 0.5 cm	
148	木製品	不明	15.1	6.0	4.6	—	—	—	芯持材	—	
149	木製品	木札	10.3	7.6	1.4	—	—	—	板目	孔 1 焼印(表面 1・側面 1)「㊦」表裏面・右側面墨書(文字資料 24)	
150	木製品	木札	[10.5]	6.1	0.7	—	—	—	板目	桶側板用 孔 1 表面墨書(文字資料 25)	251-4
151	木製品	木札	18.4	6.7	0.6	—	—	—	板目	孔 3 表面墨書(文字資料 26)	
152	木製品	木札	19.3	4.2	1.1	—	—	—	板目	桶側板用 孔 1 表面墨書(文字資料 27)	251-4
153	木製品	木札	21.0	3.9	1.1	—	—	—	板目	桶側板用 木釘 1 表面墨書(文字資料 28)	
154	木製品	木札	18.0	5.4	0.9	—	—	—	板目	焼印「口」表面墨書(文字資料 29)	251-4
155	木製品	木札	18.0	5.5	1.1	—	—	—	板目	工具痕 焼印「㊦」	
156	木製品	木札	16.0	4.0	0.8	—	—	—	板目	孔 1 表面墨書(文字資料 30)	251-4
157	木製品	木札	18.6	5.4	0.5	—	—	—	板目	孔 1 表面墨書(文字資料 31)	
158	木製品	木札	17.9	5.4	1.0	—	—	—	板目	焼印「㊦」	251-4
159	木製品	木札	36.8	3.0	0.5	—	—	—	板目	孔 1 表面墨書(文字資料 32)	

第 85 表 遺物包含層 1 出土遺物観察表(4)(第 261・262 図)

番号	種別	器種	法量					備考	図版
160	銅製品	煙管	長さ 8.1	小口径 0.8	口付径 0.4	高さ 7.2	吸口	279-2	
161	銅製品	火箸	長さ [22.2]	厚さ 0.5	重さ 31.3	箸頭に玉星形の面取り 持ち代に刻み	280-2		
162	銅製品	不明	縦 15.8	横 5.3	厚さ 0.03	重さ 21.6		側面に小孔 4	280-7
163	銅製品カ	ボタン	径 2.1	厚さ 0.08	重さ 2.2	—	279-3		
164	銅製品	口すくい	縦 8.7	横 14.7	高さ 13.6	重さ 19.5		280-5	
165	銅製品	金網	縦 16.5	横 16.5	厚さ 0.1	重さ 9.5	281-2		
166	銅製品	柄 針金	長さ 8.9	幅 0.3	厚さ 0.03	重さ 0.8		中空 内部に針金束	
167	銅製品	針金	縦 5.3	横 10.1	厚さ 0.06	重さ 0.9	280-5		
168	銅製品	針金	縦 3.9	横 2.9	厚さ 0.06	重さ 0.4		環付	
169	銅製品	飾金具	縦 1.5	横 1.4	厚さ 0.02	重さ 0.3	針金連結	280-5	
170	銅製品	飾金具	縦 1.5	横 1.5	厚さ 0.02	重さ 0.2	針金連結		
171	銅製品	飾金具	縦 [1.4]	横 1.4	厚さ 0.02	重さ 0.2	280-5		
172	銅製品	飾金具	縦 1.4	横 1.4	厚さ 0.02	重さ 0.3		針金連結 同一具	
173	銅製品	飾金具	縦 1.2	横 3.1	厚さ 0.02	重さ 0.2	薄板が環で連結	280-5	
174	銅製品	針金	縦 12.4	横 2.2	厚さ 0.1	重さ 0.7	小判 宝珠と「壽」裏面平滑		
175	銅製品	模造銭	縦 6.5	横 3.6	厚さ 0.04	重さ 7.5	281-2		
176	鉄製品	火格子	縦 [2.5]	横 [4.2]	厚さ 1.2	重さ 18.6		断面把手	
177	鉄製品	火鉢	縦 [6.3]	横 [6.9]	厚さ 0.3	重さ 198.6	281-2		
178	鉄製品	不明	縦 [9.4]	横 [6.0]	厚さ 0.4	重さ 13.5			
179	鉄製品	不明	長さ [14.7]	厚さ 0.4	重さ 19.0	281-2			
178	鉄製品	不明	長さ [17.8]	幅 1.4	厚さ 0.6		重さ 88.8		

番号	種別	器種	法量	備考	図版
180	鉄製品	不明	長さ [21.5] 幅 1.1 厚さ 0.3 重さ 42.8		
181	鉄製品	不明	長さ [10.9] 幅 0.9 厚さ 0.6 重さ 32.4		
182	鉄製品	楔	長さ [11.4] 幅 1.7 厚さ 0.5 重さ 41.8		
183	鉄製品	釘	長さ [12.5] 幅 1.2 厚さ 0.7 重さ 37.6		
184	鉄製品	釘	長さ [6.2] 幅 1.0 厚さ 0.6 重さ 26.5		
185	鉄製品	釘	長さ [9.3] 幅 0.9 厚さ 0.3 重さ 11.9		
186	鉄製品	釘	長さ [8.8] 幅 1.1 厚さ 0.4 重さ 17.7		
187	鉄製品	楔	長さ [7.1] 幅 1.6 厚さ 0.6 重さ 34.5		
188	鉄製品	釘	長さ [6.1] 幅 1.0 厚さ 0.3 重さ 9.0		
189	鉄製品	釘	長さ 9.3 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.4		
190	鉄製品	釘	長さ [8.2] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.9		
191	鉄製品	釘	長さ [6.4] 幅 [0.4] 厚さ [0.4] 重さ 8.0		
192	鉄製品	釘	長さ [6.4] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 3.2		
193	鉄製品	釘	長さ [5.1] 幅 [0.4] 厚さ [0.4] 重さ 7.4		
194	鉄製品	釘	長さ [5.0] 幅 0.3 厚さ 0.3 重さ 2.5		
195	銅製品	銭貨	径 24.0 (古寛永) 28.0 (11波) 厚さ 10.0 重さ 23.6	7枚付着 寛永通寶 (古)・11波含む	
196	銅製品	銭貨	径 27.7 厚さ 1.1 重さ 4.1	寛永通寶 (新) 11波	
197	銅製品	銭貨	径 28.3 厚さ 1.3 重さ 4.8	寛永通寶 (新) 11波	
198	銅製品	銭貨	径 24.5 厚さ 1.1 重さ 2.8	寛永通寶 (新)	
199	銅製品	銭貨	径 25.3 厚さ 1.6 重さ 3.5	寛永通寶 (新) 背文	281-11
200	銅製品	銭貨	径 22.7 厚さ 1.0 重さ 2.3	寛永通寶 (新) 背文	
201	銅製品	銭貨	径 23.0 厚さ 1.1 重さ 2.4	寛永通寶 (新)	
202	銅製品	銭貨	径 26.4 厚さ 1.1 重さ 3.2	文久永寶	
203	石製品	砥石	長さ 7.7 幅 4.7 厚さ 1.5 重さ 148.7	流紋岩 砥面 6	292-3
204	石製品	砥石	長さ [7.4] 幅 [4.3] 厚さ 3.3 重さ 100.1	流紋岩 側面ノコギリ痕 側面削痕 砥面 3	

り小形で坏とすべきかもしれない。外面は酸化クロム青磁軸、口唇部は口紅状に橙色に彩色され、内底面に篆刻状文がスタンプされる。高台内は露胎とする。

21・22は瀬戸美濃系磁器の湯呑碗で、小形のものである。21は、やや高台皿付の幅が広いものである。内面に顕著に煤が付着するが、被熱は認められない。廃棄後に付着したものであろう。

23～25は瀬戸美濃系磁器の湯呑碗である。23は、外面に青の上絵付け（江戸絵付け）が認められる。24には焼継痕と焼継印が認められる。同文の別個体が1点認められる。

26・27は瀬戸美濃系磁器の丸碗で、26は型紙摺絵染付、27はゴム印判で染付される。

28～32は肥前系磁器の坏である。32には唐の詩人・銭起による漢詩、「掃雁」が染付される。

33・34は瀬戸美濃系磁器の坏で、34は内面に江戸絵付けが施される。

第249・250図35～37は、瀬戸美濃系磁器の卵殻手酒坏である。36・37は内面に江戸絵付けが施される。37は、内面の口縁部に沿って「クリハシ [] ヤ〇」・内底面に「酒場支店」銘が上絵付けされる。「酒場支店」は、幸手の酒場亭（明治九年には存在）の支店の可能性がある（埴埋文 2022b）。38は瀬戸美濃系磁器の紅血で、型成形のものである。

第250図39・41～43は瀬戸美濃系磁器の坏で、口縁部が端反になるものである。41～43は酸化コバルト染付が施される。このうち、43は酸化クロム青磁軸を施軸後に、黒で上絵付けされる。同文の別個体が1点認められる。

44は瀬戸美濃系磁器の坏で、外面中位に突帯が一条廻る。45は肥前系磁器の極めて小さな坏であり、玩具類の可能性もある。

46・47は瀬戸美濃系磁器の坏で、筒形のものである。46の外面には、酸化コバルト染付が施

される。体部下位に、凹状の鑄が入られる。

47はやや大振りで、長筒形の碗とするべきかもしれない。外面に、酸化クロム青磁釉と上絵付けが施される。

48・49は、径10cm以下の肥前系磁器小皿である。48は、内面は菊花状の鑄が入るが、染付はみられない。49は、内面に山水文が一枚絵で描かれる。50は肥前系磁器の皿で、蛇の目状高台を有する。内面は釉葉のまわりが悪くムラがあり、釉葉が厚く掛かる部分は青味を帯びる。やや粗雑に見えるが、焼継が行われている。

51は瀬戸美濃系磁器の皿で、全体に酸化クロム釉が施される。内面に染付・白盛と、緑・茶の上絵付けを組み合わせて草花文と銘を入れる。高台は蛇の目状である。

第251図52～54は瀬戸美濃系磁器の皿である。53は型紙摺絵染付が施され、蛇の目状高台を持つ。54は酸化コバルト染付が施される。55・56は、肥前系磁器の大皿である。

第251図57、第252図58・59は、肥前系磁器の鉢である。58は大碗形の鉢で、外面に崩れた山水文が描かれる。59は大振りの八角鉢で、被熱によるコゲがみられる。焼継痕がある。

60・61は瀬戸美濃系磁器で、60は鉢、61は香炉である。62・63は肥前系磁器の蓋物と、蓋物の蓋である。62は小形である。

64・65は瀬戸美濃系磁器で、64は急須の蓋である。外面は酸化コバルト染付が施される。65は仏飯器の脚部で、瑠璃釉が施軸される。

66は、瀬戸美濃系磁器の盃台と考えられる。口縁部(盃を受ける部分)と台部分に染付、鐙状の張り出し部分に色絵が施される。脚部は、陰刻状の装飾を施した後に、施軸される。67は肥前系磁器の徳利で、小形のものである

68は瀬戸美濃系磁器の燗徳利で、外面に酸化コバルト染付が施される。同文・同形の資料が別に1個体以上出土している。

69は肥前系磁器の水滴である。同一個体が4破片あるが、接合しなかった。底部には、内外面とも布目痕が顕著である。

70は瀬戸美濃系磁器の水滴で、馬を象り、口の部分が孔になる。体部の左右で型合せ成形する。

71は淡路珉平系の磁器で、通常よりやや小形の鉢である。胎土は緻密・硬質で、混入物がほとんど見られない。黄色の釉葉が施軸される。

72・73は瀬戸美濃系陶器で、72はせんじ碗、73は腰鑄碗である。

74・75は、京都信楽系陶器の端反碗である。内外面とも少し緑色味がかつた透明釉が施される。釉には大きな貫入が入る。

第253図76は、瀬戸美濃系陶器のいわゆる「馬目皿」である。内面には目跡が3つ遺存する。

77は、瀬戸美濃系陶器のいわゆる「石皿」である。灰釉が施され、内面に鉄絵・呉須絵が施される。内底面に径1cm前後の目跡が2箇所残る。高台内に墨書があるが、痕跡的で字画が追えない。

78は産地不詳陶器の片口鉢で、地方窯系とおもわれる。胎土は灰色で緻密である。釉葉は鈍いウグイス色に発色し、細かい貫入が入る。内底面に窯道具痕(5箇所目跡)がみられる。高台は削り出しと考えられる。

79も産地不詳陶器で、瓶類(徳利)の底部と推定した。ウグイス色の灰釉が施軸される。胎土はやや淡い灰色で緻密である。高台内に墨書が認められる。また、高台畳付部に窯道具(焼台か)の剥がれた痕跡がみられる。

80は京都信楽系陶器の香炉である。81は信楽系陶器の小形壺で、胎土に長石の発泡が顕著に認められる。

82・83は産地不詳陶器の燗徳利である。82の口縁部から外面に灰釉が施されるが、混ざりが多いようで、白い班を含んだ緑釉状に発色する。うのふに近い軸調である。83は胎土の赤味が強く、やや緑色味を帯びた灰釉が施される。体部下半は

ケズリ整形される。

84は瀬戸美濃系陶器で、小形の柿杓張である。外面下位の露胎部に薄く煤が付着する。

85は、瀬戸美濃系陶器の双耳壺である。光沢のある灰釉が施されるが、口唇部は露胎とする。底部に穿孔があり、植木鉢に転用されている。

第254図86は、松岡系陶器の土瓶である。外面に濃い青色に発色する海鼠釉が掛けられる。口縁部の開口部分に対応して、内底面にも海鼠釉が溜まっている。内底面は、時計回りの渦巻き状に幅広いナデが施され、工具ナデの可能性もある。体部外面は、幅広くケズリが施される。底部も回転ケズリ痕を残すが、痕跡は不明瞭である。

87・88は産地不詳陶器の土瓶である。87の器壁はやや厚手で、胎土はクリーム色で硬質である。明るい黄土色の釉が掛けられる。体部上面は、トビガンナによる施文、下位はケズリ整形と考えられる。第2号池跡と接合関係が認められる。88の器壁は薄手に作られる。胎土は僅かに赤みを帯びた灰色で緻密、外面に濃いウグイス色の灰釉が施され、上部にうのふ軸が流し掛けされる。

89は、白土染付が施された陶器の急須である。底部に墨書が認められる。

90は産地不詳陶器の蓋である。胎土はやや赤みを帯びており、上面は白化粧後に施釉されている。上面に、光沢の強い灰釉が施される。91は瀬戸美濃系陶器の蓋である。

92は、京都産陶器の蓋である。上面に光沢の強い黄土色の灰釉が施される。つまみの中は中空で、下面から三角形に抉られた孔に、別作りで中空洞のつまみが貼り付けられる。つまみ上端に小孔を穿ち、上下で空洞部が貫通するように作られている。下面に「徳」の刻印が認められ、清水焼の三代目清水六兵衛の作品と考えられる。

93は産地不詳陶器の土瓶蓋で、上面は白土染付が施される。上面外周に窯道具痕（ピン痕5箇所）が認められる。

第254・255図94～98は瀬戸美濃系陶器の一升徳利で、灰釉が施される。99・100は堺明石系陶器の挿鉢である。

101は輪高台状の脚部を有すと思われる瓦質土器の火鉢で、口縁部の破片である。外面の沈線2条の間を文様帯とする。胎土に角閃石が含まれる。

第255・256図102～104は瓦質土器の丸火鉢である。102の胎土は硬質だが焼成は甘い。糠しも弱く、表裏面は黄灰色を帯びる。全面にトビガンナ状の施文が施され、体部下位はケズリ後に施文される。胎土に角閃石が多く含まれる。

103も102と胎土の特徴が一致するが、より強く焼される。口縁部には、横位のミガキが施される。外面はトビガンナ状の施文が施され、施文前に体部下位にケズリが施されているらしい。底部は、一方向からの工具ナデである。

104は表裏面全体が明赤褐色を帯び、土師質に近いものである。ただし、断面は還元している。胎土に角閃石が含まれる。体部のナデは強く、内底面も幅広く回転ナデが施される。外面の体部下端は、幅広くケズリが施され、外底面も一方向からのケズリで処理される。

105は瓦質土器で、輪高台状の脚部を有す火鉢だが、やや酸化炎焼成されている。断面中心のみ黄灰色を帯びる。外底面は脚部の周囲を広く回転ナデするが、中心部は一方向からのケズリで処理される。胎土に角閃石・赤色粒子が多く含まれる。

106は瓦質土器火鉢で、外面はケズリ後にミガキが加えられる。体部下位のみ、ヨコナデを最終調整とする。内面は強いヨコナデが加えられ、工具ナデの可能性もある。内外面ともに焼されている。口唇部の内面に二次的な敲打痕が顕著である。胎土に角閃石が含まれる。

107は、器高が高い瓦質土器の火鉢である。胎土に角閃石が含まれ、全体が弱く焼される。外面文様は、上部2段の文様帯と、下位のトビガンナ状施文で構成される。

上位には、花文のスタンプ文が施され、隙間は魚々子状の点文で充填される。中位には櫛歯波状文が施される。彩色痕跡は認められない。

108は瓦質土器で、火消蓋である。取っ手は板状である。外面は弱い工具ナデ、内面は強いヨコナデが施される。胎土に多量の角閃石が含まれる。

109・110は瓦質土器の火消蓋である。109は外面上位・中位に二段のケズリを施すが、中位のケズリはその後にナデで消される。

110は上位に強いケズリが施される。上面は109が細かい砂目痕、110では、シワ状痕跡が回転ナデで消されている。109の胎土には角閃石が多いが、110にはほとんど含まれていない。

111は瓦質土器の甕である。やや酸化炎焼成だが、胎土の中心部は、暗色の褐灰色を帯びる。少量の角閃石が含まれる。体部はヘラナデ後に、全面がヨコナデされる。体部下端にケズリが残る。

112は、瓦質土器の仕切盤である。強く燻され、硬質・瓦質である。胎土の混入物は少なく、江戸在地系の可能性がある。内面に、蛇行する間仕切りの剥離痕がある。

113は瓦質土器の電鑊としたが、焼成は酸化炎焼成気味である。胎土の中心部は黒化し、褐灰色を帯びる。厚手で、形態も独特のものである。

第256・257図114～116は土師質土器の焙烙である。114の胎土は硬質で、少量の角閃石が含まれる。底外面に広く、黒色・油脂状の付着物があり、その表層部のみ白化している。

115は極めて厚手で、重量感がある焙烙である。胎土は硬質で、少量ながら輝石状の黒色鉱物及び、銅色の強い雲母細粒が含まれる。外面下位には明瞭なケズリが入られる。

116も硬質の胎土で、胎土に角閃石が多く含まれる。外面の体部下位のケズリ痕跡は、ナデで消されている。底部の外面全体に付着物がある。

第257図117は土製品で、人形の胸部から右

腕の前面である。前後合わせの二枚型成形で、中空である。内外面に雲母が付着する。内面側の胎土は還元している。

第257図118～122は瓦で、このうち118は瓦樋である。122は棟込瓦で、屋根の棟に一定間隔で飾り付けられたものである。栗橋宿跡では出土例が少なく、北2丁目陣屋跡の遺物包含層に類例がみられる(埴埋文2021a)。

第257～260図123～159は木製品である。

第257図123・124・126は漆桶で、125は漆鉢である。127～129は漆高杯である。第258図130・132は箱である。131は枡と思われる。第258・259図133～139は下駄である。140は位牌と思われる。141はミニチュアである。142は刷毛である。143～145・147・148は器種不詳のものである。146は釘である。第260図149～159は木札である。

第261図160～174は銅製品、175～194は鉄製品である。

第261図160は煙管、161は火箸である。162の器種は不明である。163はボタンである。164は口すくいである。165は金網である。166は柄と針金である。

167は針金である。168～172は飾金具である。173は針金である。

174は模造銭である。175は火格子である。176は火鉢である。177～181の器種は不明である。182・187は榎である。183～186・188～194は釘である。

第262図195～202は銭貨である。195～201は寛永通寶で、195は7枚が付着する。202は文久永寶である。

第262図203・204は白色の流紋岩製砥石である。204は、側面に段が付くノコギリ状工具痕が認められる。

報告書抄録

ふりがな	くりはししゆくにしほんじんあと							
書名	栗橋宿西本陣跡1							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第479集							
編著者名	水村雄功・古間果那子・矢部諭							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2023(令和5)年2月20日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° / ′	東経 ° / ′	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
栗橋宿西本陣跡	埼玉県久喜市栗橋北二丁目3422-2他	11231	011	36° 00′ 00″	138° 50′ 00″	20150801～ 20160331 20160401～ 20170331 20170401～ 20180331 20180401～ 20180930	3,830	堤防強化記録保存調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
栗橋宿西本陣跡	宿場跡	江戸時代	建物跡 13棟 基礎状遺構 3基 胎衣埋納遺構 1基 埋設桶 24基 井戸跡 13基 池跡 2箇所 杭列 1条 溝跡 19条 樫跡 5条 区画施設 1条 埴土遺構 5基 土壇 133基 樹皮堆積層 1箇所 ピット 26基 遺物包含層 2箇所	13棟 3基 1基 24基 13基 2箇所 1条 19条 5条 1条 5基 133基 1箇所 26基	陶磁器 土師質土器 瓦質土器 土製玩具 土製人形 瓦 木製品 金属製品 石製品 貝製品(貝杓子) 硝子製品(筭) 布製品	近世町屋跡の調査 本書には栗橋宿西本陣跡のうち北側の調査成果を収録		
要約								
<p>栗橋宿西本陣跡は利根川右岸に立地する日光道中7番目の宿場「栗橋宿」の町屋跡である。本書ではこのうち調査区北側の調査成果を収録した。</p> <p>栗橋宿西本陣跡の発掘調査は、19世紀前葉以降を中心とする第一面、18世紀中～後葉を中心とする第二、三面に分けられる。調査の結果、第一面では堅固な基礎構造を持つ建物跡群と、それらに平行する敷地境と考えられる溝跡、杭列等が検出された。第二、三面では明確な区画施設が検出されず、19世紀前半に区画施設の整備が行われた可能性が窺われた。検出された土壌には、火災に関わる廃棄物を処理したものがみられ、栗橋宿西本陣跡でも検出された火災処理土壇との同時性が見出された。この火災は、史料にみえる文政五年(1822)の栗橋宿大火と推定され、火災の広がりやを明らかにすると共に、栗橋宿の変遷を考えるうえで定点資料と位置付けられる。宅地裏手から多量の陶磁器等が出土した。こは、もともと地形は池沼湿地であったが、19世紀前～中葉頃の土地造成により埋められたことが明らかとなった。</p> <p>遺物は、少量の中国産磁器のほか、国産陶磁器が多量に出土し、組物も多く検出された。土器類では江戸で出土する製品とは異なる在地の製品が多く認められた。土壇を中心に出土した多種多様な一括遺物は、近世における地方宿場町の実態を示す良好な資料に位置付けられる。</p>								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第479集

栗橋宿西本陣跡 I

首都圏氾濫区域堤防強化対策における

埋蔵文化財発掘調査報告

(第1分冊)

令和5年1月31日 印刷

令和5年2月20日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493 (39) 3955

<https://www.saimibun.or.jp>

印刷／関東図書株式会社